

# 麗澤大学年報 2016

Reitaku University Annual Report



## 平成 28 年度 麗澤大学年報を刊行するにあたって

高等教育と学術研究という国家と国民の将来にかかわる重要な任務と責任を持つ大学は、その任務を遂行するにあたって、常に自己点検を行い、また第三者の客観的な立場からの厳しい評価を受けて、独善を排し、教育と研究の質を保持し、教育内容をさらに向上させるための努力をすることは当然の責務であると考えます。

本学は、昭和 10 年の道徳科学専攻塾の開塾以来、一貫して創立者・廣池千九郎が提唱したモラロジーに基づく「知徳一体」の教育という基本理念を堅持し、教育・研究の場で、理念の具体的な達成に努めてきました。そして、その理念をさらに着実に達成するべく、学長を委員長とする自己点検委員会を設置し、PDCA サイクルが機能するように、自己点検・評価に努めています。

旧来の大学の学びは、いわゆる「講義」科目を中心とする知識伝達型の学びを中心に行われてきましたが、将来の予測が困難な複雑で変化の激しい社会の中では、学生の能動的な学び、主体的な学びが求められています。そのような学生基点の学びを活性化するため、学長裁量経費を用いて、PBL 型学習を支援してきました。一例をあげますと、28 年度に、学生の能動的・主体的な学びを進めるきっかけとして、柏市の課題という地域資源に係る問題と大学の「資源」を活用するプログラムを検討し、29 年度より柏市と共に「麗澤・地域連携実習」を開講いたしました。

外国語学部では、英語 2 専攻はもとより、英語コミュニケーション能力の向上と iLounge の教育活動の充実を全学的に図ることを目指し、29 年度に英語コミュニケーションセンター（Center for English Communication）を開設いたしました。

経済学部においては、経済専攻、グローバル人材育成専攻、経営専攻、会計ファイナンス専攻の 4 専攻制がスタートしました。本学の倫理・道徳関連科目の必修科目である「道徳科学 A・B」の履修年次が 1 年から 2 年に変更されたことに伴い、「現代社会と道徳科学 A・B」を 1 年次の必修科目としました。さらに、学部の特別コースとして、道徳的な視点から経済をより深く学べるよう道経一体コースを設けました。

大学院においては、多様な日本語能力をもつ外国人留学生の修士論文執筆を支援するため、29 年度より「アカデミック・ライティング」というプログラムを開講いたしました。言語教育研究科は、学部生が大学院の学修学習環境に触れる機会を増やす方策の一つとして、学部と連携してカリキュラムの関係性を見直し、29 年度から学部と大学院の連携科目を開講いたしました。経済研究科は、税務分野の基礎知識の充実を目的に「租税法基礎」を開講し、当該分野の学生の修士論文の質の改善を図り、International Program においては、基礎専門科目として「Research Methodology for Social Science」を開講し、論文指導体制を充実しました。

このような取り組みは、全学的な教育・研究体制を構築する視点から、本学の三つのポリシーに照らし、継続的な自己点検を通して次の計画に改善、継続されていきます。本年報に掲げられている各学部・研究科等の目的・目標が、本学の建学の精神を具現化するにふさわしいものであるかどうか、さらに平成 28 年度の教育・研究活動がその目的・目標に沿って展開されたものであったかどうか、学内外の読者からの忌憚のないご意見とご批判をいただければ幸いです。

平成 29 年 8 月

学 長

自己点検委員会 委員長

中 山 理

## 目次

平成 28 年度麗澤大学年報を刊行するにあたって	1
目次	2
<b>1. 本学の理念と方針</b>	<b>4</b>
1-1 創立者生誕 150 年記念事業	8
1-2 ISO26000 の活用	9
<b>2. 教育活動</b>	
2-1 全学共通事項	15
2-1-1 建学の精神に関する教育	15
2-1-2 日本語教育	17
2-1-3 教職課程	19
2-1-4 高大連携教育	23
2-1-5 ファカルティ・ディベロップメント	25
2-1-6 初年次教育	37
2-1-7 キャリア教育	40
2-2 外国語学部	41
2-3 経済学部	55
2-4 言語教育研究科	61
2-5 経済研究科・国際経済研究科	65
2-6 別科日本語研修課程	68
2-7 情報教育センター	70
2-8 学修支援センター	72
2-9 図書館	73
2-10 麗澤オープンカレッジ	76
2-11 地域連携センター	81
<b>3. 研究活動</b>	
3-1 全学共通事項	84
3-2 外国語学部	90
3-3 経済学部	94
3-4 言語教育研究科	96
3-5 経済研究科	97
3-6 別科日本語研修課程	98
3-7 経済社会総合研究センター	99
3-8 比較文明文化研究センター	102
3-9 企業倫理研究センター	103
3-10 言語研究センター	105
3-11 日本語教育センター	106
3-12 道徳科学教育センター	107

<b>4. 学生受入れ</b>	
4-1 外国語学部	111
4-2 経済学部	114
4-3 言語教育研究科	118
4-4 経済研究科	119
4-5 別科日本語研修課程	121
4-6 募集広報活動	122
4-7 入学前教育	125
<b>5. 学生支援</b>	
5-1 学修支援	126
5-2 学生生活支援	127
5-3 寮生活支援	131
5-4 学生相談	133
5-5 キャリア形成支援	136
5-6 外国人留学生支援	139
5-7 課外活動支援	140
<b>6. 国際交流活動</b>	144
<b>7. 社会的活動</b>	156
<b>8. 管理運営</b>	
8-1 事務組織	158
8-2 学内委員会	159
8-2-1 学内管理運営機構	
8-2-2 全学委員会	
8-2-3 臨時委員会	
8-2-4 プロジェクト	
8-2-5 附属機関等運営委員会	
8-2-6 外国語学部委員会	
8-2-7 経済学部委員会	
8-2-8 言語教育研究科委員会	
8-2-9 経済研究科委員会	
8-3 財務	164
<b>資料編</b>	
1. 教員の構成	168
2. 学生の構成	171
3. 施設・設備	179
4. 平成 29 年度入試結果及び入学状況	184
5. 就職支援	200
6. 学内会議記録	204

## 1. 本学の理念と方針

麗澤大学は、法学博士・廣池千九郎が昭和10（1935）年4月に開設した道徳科学専攻塾を出発点としている。廣池千九郎は、世界の諸聖人の思想を中心とする道徳の科学的研究を行い、世界の平和と人類の幸福に貢献する総合的人間学として、モラロジー（Morality, 道徳科学）を創建した。その研究を基礎とし、「人類間における最も有用な人間」を育成することを目的として「モラロジー大学」の設立を目指した。そこでの教育・研究の根本精神は、「大学の道は明徳を明らかにするに在り」とされた。その意味するところは「人間の最高品性の完成は、純粹正統の学問と正統の教育によってのみ達せられる。すべての人類に普遍的な道徳の最高原理に基づいた教育を行い、その精神の上に現代の科学と知識を十分に修得させる知徳一体の人材の養成を使命とする」というものである。

すなわち麗澤大学は、創立者廣池千九郎が提唱したモラロジーに基づく知徳一体の教育を基本理念とし、学生の心に仁愛の精神を培い、その上に現代の科学、技術、知識を修得させ、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人物を育成することを目的としている。

この教育理念に基づき、本学は開学以来、次の2点を教育の柱としてきた。

- ①品性教育・人格教育に重点を置いた知徳一体の教育
- ②実生活に益する学問、実際的な専門技能の尊重

品性教育・人格教育の面では、「師弟同行同学」による人格的感化を目指し、広大な自然環境の中での全寮制、教職員の学園内共住などの方法を採用してきた。また、実学及び専門技能の尊重という面では、外国語教育に特に重点を置き、独自の集中的少人数教育を進めてきた。これは、職業活動に直接役立つという実践的な観点並びに人間を偏狭な知識や独善的な文化観から解放するという観点から、外国語を学ぶことが極めて有効であると考えた創立者の理念のあらわれでもある。このように麗澤大学が目指してきた人間像を一言で言い表すならば「高い専門性と道徳性を有し、自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる国際的教養人」といえよう。

この理念とそれを実現するための実践は、現在も本学に引き継がれており、麗澤大学学則第1条には「麗澤大学は、廣池千九郎の教学の精神に基づき、教育基本法に則り大学教育を通じて世界の平和と人類の幸福の実現に貢献するため、この学則の定めるところによって研究・教授を行い、円満な知徳と精深な学芸、特に世界的・国際的識見を備えた有能な人材を養成することを目的とする」と定められている。

さらに、平成12年4月には「麗澤教育のめざす人間像」を次の通り制定した。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1. 大きな志をもって真理を探求し、高い品性と深い英知を備えた人物</li><li>1. 自然の恵みと先人の恩恵に感謝し、万物を慈しみ育てる心を有する人物</li><li>1. 自ら進んで義務と責任を果たし、国際社会に貢献できる人物</li></ol> |
|--|

以上の理念に基づき、本学は、学部・研究科の増設など、表2に示すような発展を遂げてきた。現在の教員数、学生数、役職者及び組織概要は、表3、表4及び図4の通りである。さらに、第207回協議会（平成21年5月）において、学士課程教育における方針を次の通り策定した。

## (1) 学位授与方針

「麗澤教育の目指す人間像」は、学士課程教育の立場から、①物事を公平にみる力、②つながる力、③実行する力と表現することができる。

本学の学位は、基本的に、これら3つの力を備えた学生に対し授与される。その具体的内容は、学部によって異なるが、両学部に通ずるものを、a.知識・理解、b.能力・技能、c.態度・倫理性、d.創造性の4つの観点から整理すれば、次表ようになる。本学では、今後、この表を用いて、各授業科目の展開方法や学士課程学生に期待する教育水準などを継続的に確認していく。また、この表に示された能力・資質・姿勢などを単位認定における判断基準の大枠としていく。よって、本学における学位は、かかる判断基準に沿って認定された単位を、卒業要件を満たす形で取得した学生に対し与えるものとする。

	a.知識・理解	b.能力・技能	c.態度・倫理性	d.創造性
①物事を公平にみる力	バランスのとれた幅広い教養	物事の本質を見極める能力	文化と歴史の尊重	物事の展開を予想できる能力
	文化・社会・経済を理解する能力	物事の背景を理解する能力	公共性と調和の尊重	物事を総合的に把握する能力
	問題を発見・分析する能力	数量的な処理能力	自由と責任の自覚	既知を異なった形で分ける能力
	論理を統合する構想力	情報リテラシーを活用する力	社会的責任の自覚	異なったものを統合する能力
②つながる力	多様性に関する理解	他者の立場を理解する能力	協調性と創発的意義の自覚	異なる意見をまとめる能力
	異文化・異世代に関する理解	異文化・異世代との対話能力	長期的視点に立った態度	長期視点から現状を改善できる能力
	多言語・多文化社会に関する理解	コミュニケーション能力	地球市民としての自覚	立場の異なる人とつながる能力
	自然と社会に関する知識	感性と情緒的能力	共生を尊重する姿勢	他者の可能性を活かす能力
③実行する力	他者の立場と痛みを感じる力	交渉と仲介ができる能力	教養を深めようとする姿勢	自己の主張や考え方を昇華させる姿勢
	問題を解決する能力	自己を律する能力	誠実さと正義を大切にする姿勢	真理を追究する姿勢
	意志や情報を発信する能力	目標を掲げる能力	ミッションを尊重する姿勢	元に戻って考える能力
	コミットする能力	プロセスを管理する能力	全体を活かそうとする姿勢	動きを起こす能力

## (2) 教育課程編成・実施の方針

本学では、倫理教育を核として教養全般の教育を行う。また、その教養教育を前提として専門教育の充実を図っている。その意味で、本学では、倫理教育が教育の根幹を成すことになる。倫理教育に関しては、1年次に必修科目として「道徳科学」の履修が義務づけられるが、その理解を深め、実践を促すには、道徳や倫理の問題を、社会的、国際的、経済的、経営的な脈絡の中で具体的に考えていく必要がある。そこで、本学の学生たちは、それぞれの分野において、倫理的な理想や理念をどのように展開するか、正義・公正・効率などの価値をどのように実現するか、多様性をどのように受け止めるかなどを学び、その経験を通じて、学位授与方針に定める3つの力（物事を公平にみる力、つながる力、実行する力）を育むよう期待されている。かかる方向へと導くため、本学は教育課程編成・実施の方針を次の通り定め、各科目の教育内容の充実を図ることとする。

①物事を公平にみる力

- ・幅広い教養を身につけ、多様な見方を学ぶ
- ・分析手法を理解すると同時に、その限界も学ぶ
- ・なぜ自由が責任を伴うのかなどを学ぶ
- ・部分を詳細に学ぶとともに、部分を全体の中で位置づける必要性を学ぶ

②つながる力

- ・社会の恩恵に感謝するとともに、よき伝統を受け継ぐ必要性を学ぶ
- ・地球と自然の持続可能性を実現するための具体的方法を学ぶ
- ・倫理的自覚を促すとともに、社会や未来世代に対する責任の重さを学ぶ
- ・新たな知恵は他者に共感し他者を理解するところから生まれることを学ぶ

③実行する力

- ・他者や社会のために、率先して行動することの意義と必要性を学ぶ
- ・理想を社会の中で実現するための具体的方法や技能を身につける
- ・グループ・ワークなどを通じて、リーダーシップを身につける
- ・異なる発想や意見に耳を傾け、当初の理想を昇華させる知恵を学ぶ

(3) 入学者受入れの方針

本学における入学者受入れの方針は、次の5つの要件から成る。

- ①本学が掲げる教育理念に賛同できること
- ②高等学校の教育課程（又はそれに相応する教育課程）を通して得られる知識や理解を有していること
- ③高等学校の教育課程（又はそれに相応する教育課程）を通して得られる能力や技能を有していること
- ④社会生活を行っていく上で必要とされる基礎的な態度や倫理性を有していること
- ⑤新たな課題の発見や新たな解決法の提案などを行い得るだけの創造性を有していること

以上の5要件のうち、最も重要なものは第1の要件である。すなわち、学位授与方針に定める3つの力（①物事を公平にみる力、②つながる力、③実行する力）を備えた人物に共感を覚え、そのような人物になりたいと欲する学生であることが根本的な受入条件となる。

その上で、a.知識・理解、b.能力・技能、c.態度・倫理性、d.創造性の4つの能力や資質に関し、以下の事項のいずれかを満たすことを要件とする。

a. 知識・理解

- ・日本や世界の歴史・文化に関し、基礎的な知識を有していること
- ・社会や自然の現象に関し、基礎的な知識を有していること
- ・数学の基本的な概念、原理・法則などに関し基礎的な知識を有していること
- ・日本語や英語などの言語に関し、基礎的な知識を有していること
- ・政治や経済に関し、基礎的・基本的な知識を有していること

b. 能力・技能

- ・日本語を適切に表現し、的確に理解する能力を有していること
- ・英語などの外国語を用いて、基礎的なコミュニケーションができること
- ・情報機器やソフトウェアを用いて、基礎的な情報処理ができること
- ・簿記などの会計に関する基礎的な知識や技能を有していること

c. 態度・倫理性

- ・平和で民主的な国家・社会を形成する市民としての権利と義務を自覚していること
- ・社会やグループの一員として協調性をもって行動できること
- ・一貫した正義観や倫理観をもって、自律的に行動できること
- ・他言語や異文化に対して高い関心を持っていること
- ・コミュニケーションを積極的に図ろうとする姿勢を有していること

d. 創造性

- ・自ら課題を見つけ、主体的に問題解決を図る資質を有していること
- ・他人と協力し課題を見つけ、力を合わせて問題解決にあたる資質を有していること
- ・物事の良き側面に目を向け、これを活かそうとする姿勢を有していること
- ・自分の考え方を、論理的に整理し、分かりやすく伝える能力を有していること

(4) 本学における修士課程・博士課程教育における3つの方針

①学位授与方針

博士前期課程・修士課程においては、修士の学位授与要件を満たすとともに、専攻分野における研究能力または高度の専門性を有する職業等に必要な能力を有し、かつ、そうした能力にふさわしい高い品性を備えていることとする。

また、博士後期課程・博士課程においては、博士の学位授与要件を満たすとともに、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行える能力または高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養い、かつ、そうした能力にふさわしい高い品性を備えていることとする。

②教育課程編成・実施の方針

博士前期課程・修士課程においては、研究者や高度職業人の養成、生涯学習への需要等に対応するため、専攻分野における高度な知識・技能を修得させるべく、カリキュラム内容の充実をはかるとともに、国際社会に貢献しようとする高い品性の涵養に資する研究指導を実施する。

博士後期課程・博士課程においては、自立した研究者や高度に専門的な業務に従事する人材の育成等に対応するため、専攻分野におけるより高度な知識・技能を習得させるべく、カリキュラム内容の充実をはかるとともに、国際社会で指導的な役割を果たそうとする高い品性の涵養に資する研究指導を実施する。

③入学者受入れの方針

a. 言語教育研究科

言語教育研究科は、高度な専門性を身につけた研究者・実務家を養成することを目的としている。

- 1) 日本語教育学専攻（博士前期・後期課程）は、普遍的な言語理論と日本語学の成果とを踏まえ、それらの深化及び日本語教育学の理論的・実践的展開を図ることによって、日本語教育機関で活躍できる人材の育成及び研究者の養成を目的としている。
- 2) 比較文明文化専攻（博士前期・後期課程）は、世界の諸文明と世界各地の文化を比較の観点から探究し、文明圏の交流や多様な文化に関する理解と認識を深めます。地球と人類の未来を開拓する新たな文明の創造を志向しつつ、世界の平和と文化の保持・発展のため、教育研究職、国際機関等で貢献できる広い視野を備えた人材の育成を目的としている。
- 3) 英語教育専攻（修士課程）は、高度な英語力をもとに、英語学・英語教育学・異文化コミュニケーションという学問を探究し、専門領域の英知と英語力を駆使できる英語教員・研究者・企業等で活躍する人材の育成を目的としている。

上記のような方針に基づいて入学試験科目を設定し、社会人や外国人留学生も含め入学者選抜を行う。



## b. 経済研究科

経済研究科は、経済学及び経営学における研究者及び専門家の育成を目的としている。博士課程において経済学・経営学専攻は、経済学及び経営学の理論研究及び実証研究の深化を通して、先進的な研究を指導できる研究者及び専門家の養成を目的としている。修士課程において経済学専攻及び経営学専攻は、各領域において、先導的な研究を推進できる研究者及び実務専門家の養成を目的とし、内外の公的機関において求められる公共政策を担う人材となることが期待されている。

上記のような方針に基づいて入学試験科目を設定し、社会人や外国人留学生も含め入学者選抜を行う。

## 1-1 創立者生誕 150 年記念事業

### 1-1-1 目的・目標

平成 28 年(2016)は、本学創立者廣池千九郎(1866－1938)の生誕 150 年にあたる。廣池は明治維新の 2 年前にあたる慶應 2 年に現在の大分県中津市に生まれ、昭和 13 年に亡くなるまで、日本の近代化という激動の時代において、学者・教育者・救済者としての道を歩みながら、個人として、また国家として取るべき道を求め続けてきた。そして長年にわたる努力の結果、道徳こそが人類の安心・平和・幸福の基盤であるとの認識に立ち、道徳実行の効果を科学的に研究する新たな学問としてのモラロジーを創建した。

本事業の目的は、創立者廣池千九郎の生誕 150 年にあたり、廣池の業績と思想を再確認するとともに、現代社会が抱える諸問題に対する道徳的解決に取り組むことである。

### 1-1-2 本年度の活動

上記の目的を達成するため、本学では以下の事業に取り組んだ。

- (1)海外の学会誌に、廣池千九郎の教育思想、麗澤大学における道徳教育の教授法およびインパクト測定法を紹介した。
- (2)海外提携校との交流記念に併せてシンポジウムを開催し、廣池千九郎の教育思想等を紹介した。
  - ①マレーシアのサラワク大学にて、「道徳と経済」をメインにすえたシンポジウムを開催
  - ②インドのタゴール国際大学にて、8月にシンポジウムを開催
- (3)海外提携校であるベトナム国家大学における道徳研究センターの活動を支援した。
  - ①27年に開催した共同シンポジウム「日本とベトナムの文化、融合と発展」の書籍化
  - ②創立者の人となりを紹介する書籍や道徳科学を体系的に紹介する書籍等のベトナム語訳出版
- (4)学生主体のPBL型グローバル教育のシンポジウムを大学祭期間中に開催した。
- (5)廣池千九郎生誕 150 年記念スカラシップ入試を実施した。
- (6)1年から4年までの全学年で「道徳科学」を順次に学べる新カリキュラムを整備した。
- (7)経済学部で「道経一体コース」を開始した。
- (8)ROCK 開校 10 周年を記念し、麗澤中学・高等学校と共に「ノーベル物理学賞受者・梶田隆章教授による特別講演会」を開催した。
- (9)各学会等の開催を支援した。
  - ①日本人口学会 第 68 回大会 (6 月 11 日 (土) から 12 日 (日))
  - ②生と死を考える会 第 52 回全国大会 (9 月 24 日 (土) から 25 日 (日))
  - ③地球システム・倫理学会 第 12 回学術大会 (11 月 12 日 (土))
  - ④国際人口学会 歴史人口学セミナー (12 月 9 日 (金) から 10 日 (土))
- (10)『麗澤大学紀要』第 100 巻で、通常原稿に加えて生誕記念の特集号としての原稿も募集した。
- (11)図書館にて廣池千九郎の人と業績を紹介する展示を企画実施した。

## 1-2 ISO26000 の活用

### 1-2-1 目的・目標

グローバル化の時代を迎え、大学の自己評価も国際的な基準に基づいて実施していく必要があり、本学は自己評価の国際的通用性を確保するための第一歩として、2010年9月にISO26000（社会的責任に関する国際規格）の活用を宣言した。ISO26000に示されている社会的責任の包括的な目的は、持続可能な発展に貢献することであり、これは、本学の建学の精神に通じるものである。建学の精神である「知徳一体」では、知識をどのように社会に役立てるかということを重要視している。本学は、そのような人物を育成するという教育機関としての責任、しかも国際規格に合わせて実現していくことを重視し、社会的責任を組織の行動パターンに落とし込むためのマニュアルを『ISO26000 管理一覧』として作成（2011年3月）し、以下の5項目を麗澤課題と定め、それぞれ具体的な取り組みを行っている。

- 麗澤課題 1 学生基点に立った教育を推進し学生の成長を助けること
- 麗澤課題 2 学生基点に立った窓口業務・対応に徹すること
- 麗澤課題 3 温室効果ガスの削減を図ること
- 麗澤課題 4 環境美化・保全に努めること
- 麗澤課題 5 コミュニティ貢献を持続的に実施すること

23年度から25年度の3年間は、本取り組み状況を『麗澤大学 社会的責任への挑戦～ISO26000 活用報告書～』として毎年作成し公表してきた。特別な活動として取り組む期間を終えた26年度からは、数値指標を持つ麗澤課題1から3を中心に、本年報で公表することとしている。

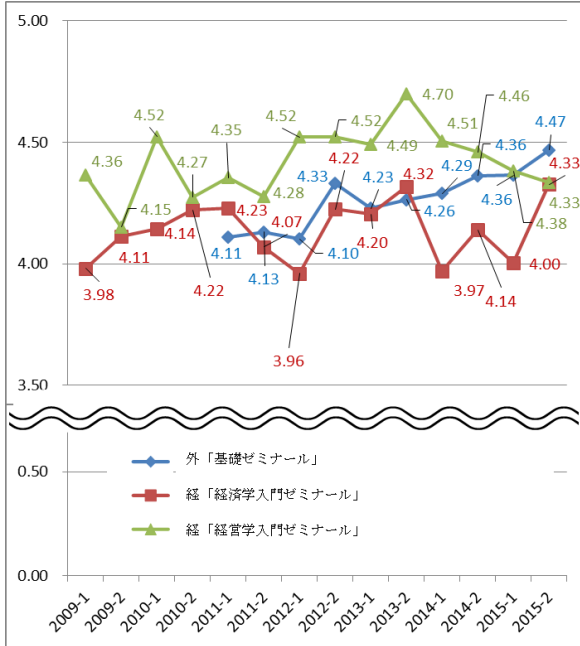
### 1-2-2 本年度の活動

#### (1) 麗澤課題 1

本課題は、「授業評価アンケート」の結果を利用して初年次教育の評価の推移を数値指標としている。授業評価アンケートの評価は5.0を満点とし、4.0以上の評価を目指している。

外国語学部及び経済学部は、1年次生を対象とした「初年次教育」を重視している。中でも外国語学部・経済学部共に「基礎ゼミナール」に力を入れている（経済学部は27年度まで「経済学入門ゼミナール」「経営学入門ゼミナール」としていたが、28年度より「基礎ゼミナール」に統合）。図1に示す折れ線グラフは、これらの科目に関する質問項目のうち「全体としての評価」の推移を示している。外国語学部では、23年度に授業評価を開始して以降、一貫して目標水準とする4.0を超えている。28年度は、1学期4.21、2学期4.34であった。経済学部では、28年度は、1学期4.25、2学期4.38であった。

【27年度まで】



【28年度以降】

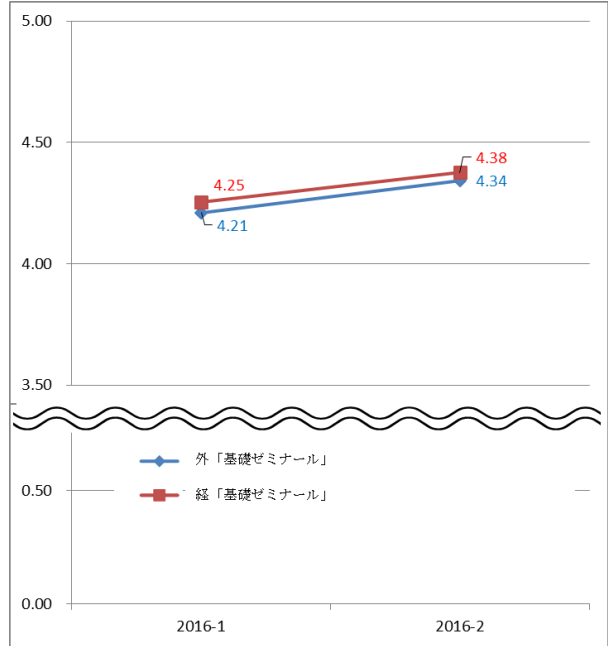


図1 (左) 27年度までの「基礎ゼミナール」「経済学入門ゼミナール」「経営学入門ゼミナール」の授業評価アンケート (右) 28年度以降の両学部「基礎ゼミナール」の授業評価アンケート

(2) 麗澤課題2

本課題は、3年次生を対象とした「学生満足度調査」を利用して、窓口業務・対応のパフォーマンスの現状把握と向上に努めるために、「学生窓口に関する評価」の推移を数値指標としている。

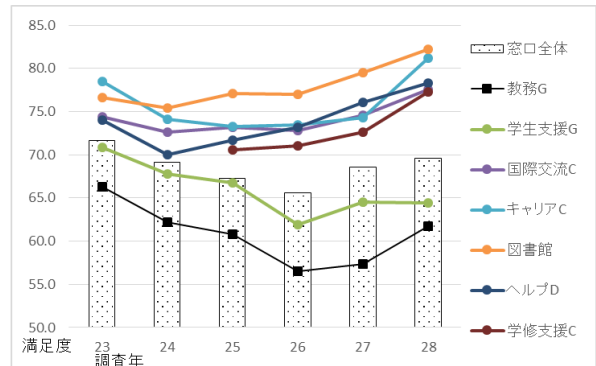
28年度は、窓口全体を一括した評価と、23年度から行っている窓口ごとの評価を継続して行った。対象窓口は、授業全般に関する「教務グループ」、大学生生活全般に関する「学生支援グループ」、留学全般に関する「国際交流センター」、キャリア形成全般に関する「キャリアセンター」、自修活動の要である「図書館」、コンピュータに関する窓口である「ヘルプデスク」、そして学生の主体的な学修を支援する「学修支援センター」の7つの窓口である。

表1、図2は、窓口全体と7つの個別窓口の満足度の推移である。28年度の窓口全体の満足度は前年に比べると約1ポイント向上した。また、「学生支援グループ」は横ばいであるが、その他窓口の満足度は27年度に比べて全て向上している。

表1 窓口全体と7つの個別窓口の満足度の推移と利用率

	23	24	25	26	27	28
窓口全体	71.6	69.1	67.3	65.6	68.5	69.6
教務G	66.3	62.2	60.8	56.5	57.4	61.8
学生支援G	96.2%	97.8%	98.2%	98.7%	98.7%	91.9%
国際交流C	74.4	72.6	73.2	72.9	74.6	77.5
キャリアC	78.5	74.1	73.3	73.4	74.3	81.2
図書館	80.7%	92.1%	85.7%	84.9%	92.6%	89.3%
ヘルプD	74.0	70.0	71.7	73.2	76.0	78.3
学修支援C	—	82.5%	66.6%	71.2%	86.5%	84.1%
	—	—	70.6	71.1	72.6	77.3
	—	—	55.1%	51.8%	78.2%	77.4%

図2 窓口全体と個別窓口の満足度の推移



表中の上段は満足度、下段は利用率\*。

\*25から28年は「利用経験無し」を除いた利用率。

23、24年は「無回答」を除いた利用率。

(3) 麗澤課題3 地球温暖化防止に向けた温室効果ガス（CO2）の削減

環境問題への取り組みの第一歩として、CO2の削減について、目標値を定めて取り組んでいる。

- |                         |
|-------------------------|
| 第1段階（18～22年）：18年比で5%削減  |
| 第2段階（23～27年）：18年比で10%削減 |
| 第3段階（28～32年）：18年比で18%削減 |

28年からは上表の通り、第3段階へ移行した。28年のCO2の排出量は1,570トンとなり、前年比約102%であった。昨年と比べて微増の結果となってしまったが、18年比で約21%の削減となっているため、目標値はクリアしている。

18年から28年までの建屋ごとの排出量の推移を示すと、図3のとおりとなる。

麗澤大学建屋毎Co2排出量[t-Co2]

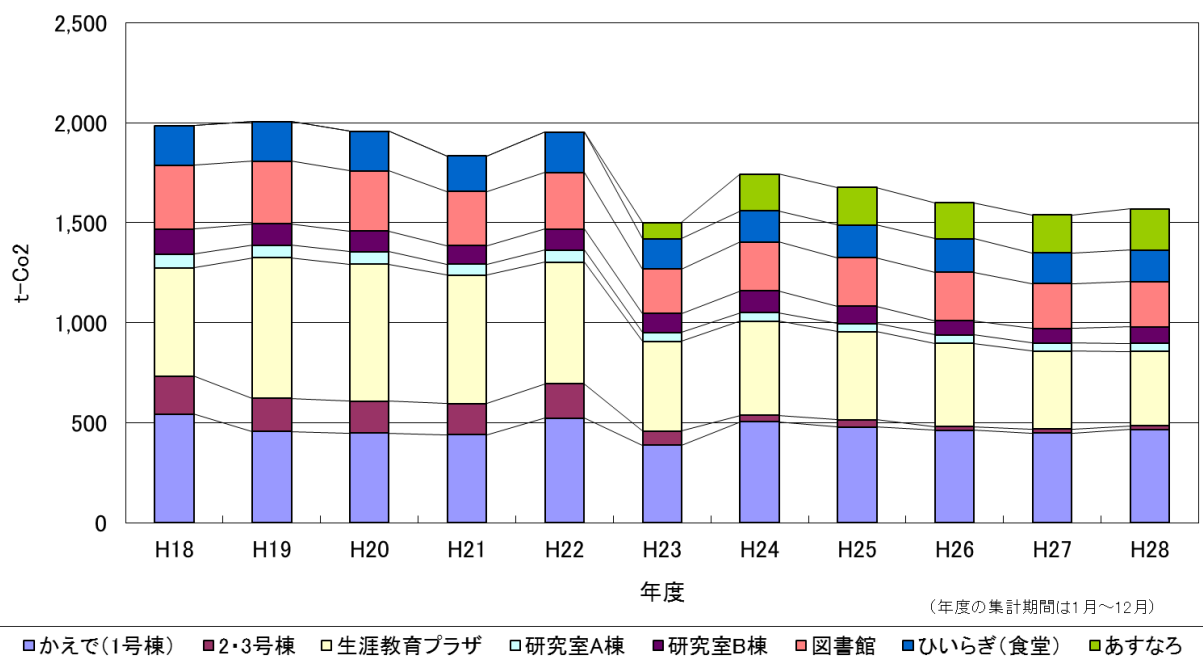


図3 18年から28年までの建物ごとの排出量の推移

### 1-2-3 課題及び改善・向上方策

課題 2 において、教務グループ及び学生支援グループの満足度が他の部署よりも低い。この 2 つの窓口は、多様な対応が求められていることが原因と考えられるのではないかと。利用率からみて分かるように、ほぼ全員の学生が利用している。利用率・満足度ともに高い図書館窓口と比較すると、扱う案件が複雑かつ多く、学生とのコミュニケーションが不足しているとも考えられる。

この 2 つの窓口は、前年と比べると満足度が不変または若干向上しているものの、依然として低い数値であることに変わりない。これを踏まえ、学生の意見に対して丁寧に説明したり、ミスに対しては謝罪したり、協力を呼び掛けたりする内容の回答を、学生へのフィードバックとして公開した。

今後も学生とのコミュニケーションを大切に、学生からの“生の声”をしっかり受け止め、各担当部署で改善の意識を向上させることを SD のテーマとして取り組み続ける必要がある。

課題 3 において、電力不足の報道がほとんどなされなかった 28 年においても目標を達成できたのは、本学において節電への取り組みが着実に積み重ねられてきたこと、併せて、より節電効果の高い空調設備等への更新が進められてきた結果である。今後も設備等を計画的に更新し、環境問題への積極的な対応姿勢を示すと共に、一人ひとりの節電意識の浸透にも力を入れて取り組みたい。

表 2 沿革

昭和 10 (1935) 年	道徳科学専攻塾 開塾
昭和 17 (1942) 年	東亜専門学校 開校
昭和 19 (1944) 年	東亜外事専門学校に改称
昭和 22 (1947) 年	千葉外事専門学校に改称
昭和 25 (1950) 年	麗澤短期大学 (英語科) 開学
昭和 34 (1959) 年	麗澤大学 (外国語学部イギリス語学科、ドイツ語学科) 開学
昭和 35 (1960) 年	中国語学科 設置
昭和 47 (1972) 年	麗澤日本語学校 開校
昭和 51 (1976) 年	別科日本語研修課程 設置
昭和 61 (1986) 年	イギリス語学科を英語学科に改称
昭和 63 (1988) 年	日本語学科 設置
平成 4 (1992) 年	国際経済学部 (国際経済学科、国際経営学科) 設置
平成 8 (1996) 年	大学院 設置 (言語教育研究科日本語教育学専攻 [博士課程(前期)] (国際経済研究科経済管理専攻、政策管理専攻 [修士課程])
平成 10 (1998) 年	大学院博士課程 設置 (言語教育研究科日本語教育学専攻[博士課程(後期)] (国際経済研究科経済・政策管理専攻[博士課程])
平成 11 (1999) 年	国際経済学部国際産業情報学科 設置
平成 13 (2001) 年	言語教育研究科比較文明文化専攻 [博士課程(前期・後期)] 設置
平成 18 (2006) 年	言語教育研究科英語教育専攻 [修士課程] 設置、麗澤オープンカレッジ開校
平成 20 (2008) 年	外国語学部英語学科、ドイツ語学科、中国語学科、日本語学科を外国語学科に改組、 国際経済学部 (国際経済学科、国際経営学科、国際産業情報学科) を経済学部 (経済学科、経営学科) に改組
平成 24 (2012) 年	国際経済研究科 (経済管理専攻 [修士課程]、政策管理専攻 [修士課程]、経済・政策管理専攻 [博士課程]) を経済研究科 (経済学専攻 [修士課程]、経営学専攻 [修士課程]、経済学・経営学専攻 [博士課程]) に改組

表 3 教員数・学生数

(平成 28 年 5 月 1 日現在)

研究科・学部等名	専任教員数	収容定員数	在籍学生数
言語教育研究科	0(26)	54	37
経済研究科	2(30)	39	26
外国語学部	60	1,200	1,334
経済学部	51	1,200	1,114
別科日本語研修課程	0(5)	60	43
計	113	2,553	2,554

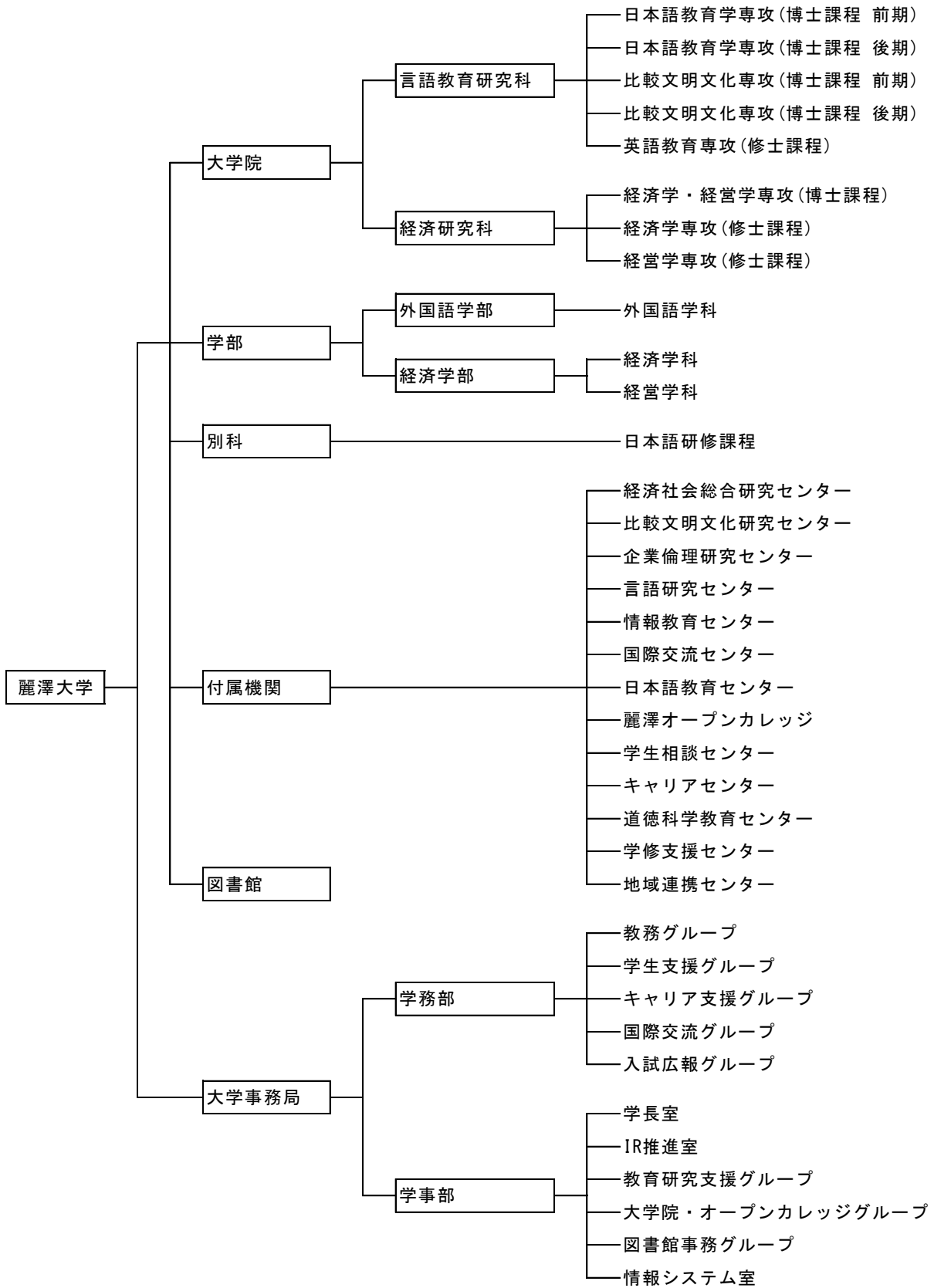
※( )内は兼任教員数。

表4 役職者一覧

職名	任期	氏名	就任年月日	期
学長	4年	中山 理	平成 19年 4月 1日	3
副学長 (教育研究担当)	4年	小野 宏哉	平成 27年 4月 1日	1
副学長 (学生担当)	4年	井出 元	平成 27年 4月 1日	1
学長補佐	2年	佐藤 仁志	平成 27年 4月 1日	1
言語教育研究科長	2年	黒須 里美	平成 24年 4月 1日	3
経済研究科長	2年	中野 千秋	平成 26年 4月 1日	2
外国語学部長	2年	渡邊 信	平成 24年 4月 1日	3
経済学部長	2年	下田 健人	平成 25年 4月 1日	3*
別科長	2年	正宗 鈴香	平成 25年 4月 1日	3*
経済社会総合研究センター長	2年	長谷川泰隆	平成 26年 4月 1日	2
比較文明文化研究センター長	2年	立木 教夫	平成 25年 4月 1日	2
企業倫理研究センター長	2年	中野 千秋	平成 25年 4月 1日	2
言語研究センター長	2年	井上 優	平成 24年 4月 1日	3
情報教育センター長	2年	長谷川教佐	平成 27年 4月 1日	1
国際交流センター長	2年	犬飼 孝夫	平成 26年 4月 1日	2
日本語教育センター長	2年	正宗 鈴香	平成 25年 4月 1日	3*
麗澤オープンカレッジ長	2年	岩澤 知子	平成 28年 4月 1日	1
学生相談センター長	2年	中道 嘉彦	平成 26年 4月 1日	2
キャリアセンター長	2年	中川 敏彰	平成 26年 4月 1日	2
道徳科学教育センター長	2年	中山 理	平成 20年 4月 1日	5
学修支援センター長	2年	籠 義樹	平成 27年 4月 1日	1
地域連携センター長	2年	成相 修	平成 27年 4月 1日	1
図書館長	2年	高辻 秀興	平成 27年 4月 1日	2*
大学事務局長	—	上平 光孝	平成 27年 4月 1日	—

\*任期途中等の就任。

図4 組織図



## 2. 教育活動

### 2-1 全学共通事項

#### 2-1-1 建学の精神に関する教育

##### 2-1-1-1 目的・目標

建学の精神に関する教育の中核である道徳科学教育は、本学の創立者・廣池千九郎が確立しようと試みた学問体系としての道徳科学（モラロジー）を共通の基盤として、「知徳一体」の教育理念に基づき、大学で修得する専門的な知識や技能を社会生活において有効に活用しうる豊かな道徳性を備えた人材を育成することを目的としている。この目的を実現するため、「道徳科学 A・B」（各 2 単位）を 1 年次必修科目としてきたが、28 年度(2016)よりカリキュラム改訂を行い、全学年で“道徳科学”を複数年で順次に学べる新カリキュラムを整備し、「道徳科学 A・B」（各 2 単位）は 2 年次必修科目として配置した。なお、1 年次には、外国語学部では「基礎ゼミナール A・B」、経済学部では「現代社会と道徳科学 A・B」を必修科目として開設し、2 年次の「道徳科学 A・B」につながる学びを行った。

以上の目的を達成するため、「基礎ゼミナール A・B」および「現代社会と道徳科学 A・B」では、次の事項に重点を置いて、授業展開を図っている。

#### 「基礎ゼミナール A」

##### 【到達目標】

##### (1) スチューデントスキルの学習

大学生・社会人としての意識と態度を身につける

##### (2) スタディスキルの学習

大学生・社会人として学んでいくために必要な知的技術を身につける

##### (3) 自校の学習

麗澤大学の建学の精神、歴史、現在、特色、社会的使命について学ぶ

##### 【講義内容】

##### 【全クラス共通の内容】

##### (1) スチューデントスキルの学習

- ・全クラス共通で用いるテキスト『大学生学びのハンドブック』と副教材『新入生へのメッセージ』を通して、大学生としての意識(主体性、責任意識)と態度(常識、マナー)を学ぶ。
- ・学生相談センターの合同授業が、曜日毎の合同授業形式で 1 回開催される。(5 月)

##### (2) スタディスキルの学習

- ・全クラス共通テキスト『大学生 学びのハンドブック』を使って、①ノートのととり方、②テキストの読み方、③レポートの書き方、④資料の探し方、⑤大学図書館の使い方、⑥ゼミ発表の仕方について学ぶ。
- ・受講生は、レポート作成(③)とゼミ発表(⑥)を最低限 1 回は行うことが予定されている。また⑤については、図書館員による特別授業(2～3 クラス合同)が実施される。(6 月の予定)

##### (3) 2 年次以降の学びの導入(専門分野と倫理道徳の学習)

- ・各クラス固有のテーマ(下記を参照)について学ぶ

##### (4) 自校の学習

- ・専門の教員(道徳科学教育センター員)による合同授業が 1 回行われる。(7 月の予定)

##### 【各クラスのテーマ】

1 学期はテキストに基づいて進め、授業後半より各自の発表とレポートの練習をする。自分の興味や関心を掘り下げて発信する練習である。また、麗澤大学の建学の精神や特色についても随時紹介していく。



## 「基礎ゼミナール B」

### 【到達目標】

#### (1) スチューデントスキルの学習

大学生・社会人としての意識と態度を身につける

#### (2) スタディスキルの学習

大学生・社会人として学んでいくために必要な知的技術を身につける

#### (3) 2年次以降の学びの導入

各クラス固有のテーマを学ぶと同時に、そのテーマを倫理道德と結びつけて探究する視点を学ぶ

#### (4) 自校の学習

麗澤大学の建学の精神、歴史、現在、特色、社会的使命について学ぶ

### 【講義内容】

#### 【全クラス共通の内容】

##### (1) スチューデントスキルの学習

全クラス共通で用いるテキスト『大学生 学びのハンドブック』と副教材『新入生へのメッセージ』を通して、大学生としての意識（主体性、責任意識）と態度（常識、マナー）を学ぶ。

キャリアセンターの特別授業（11月）を、それぞれ1回、曜日毎の合同授業で開催する。

##### (2) スタディスキルの学習

全クラス共通テキスト『大学生 学びのハンドブック』を使って、①ノートのとり方、②テキストの読み方、③レポートの書き方、④資料の探し方、⑤大学図書館の使い方、⑥ゼミ発表の仕方について学ぶ。受講生は、レポート作成（③）とゼミ発表（⑥）を最低限1回は行うことが予定されている。

##### (3) 2年次以降の学びの導入（専門分野と倫理道德の学習）

各クラス固有のテーマ（下記を参照）について学ぶと同時に、そのテーマと関連する倫理道德問題について学ぶ授業が1回分設けられる。ただしクラスによっては、倫理道德問題との関連に主眼を置いた授業が複数回実施されることもある。

##### (4) 自校の学習

小冊子とDVDを用いて、クラスごとの授業が1回行われる。

※以上に加え、副専攻オリエンテーション（12月）が1回実施される（副専攻は2年次より履修）。

### 【各クラスのテーマ】

2学期も中心となるのはプレゼンテーションとレポートの練習です。1学期の内容をステップアップした課題で実践します。随時、麗澤大学についての自校学習も行ないます。

## 「現代社会と道德科学 A」

### 【到達目標】

麗澤大学創業者廣池千九郎博士の理念を理解するとともに、彼の説いた道德科学の基本を学び、現代社会における有用性を確認する。麗澤大学の学生であることを自覚し、大学で何を学ぶかを確認する。

### 【講義内容】

講義は大きく4つのユニットに分かれる。第一ユニットは、廣池千九郎博士の5大原理について。第二ユニットは、麗澤の言葉の意味、校歌など麗澤にまつわる基本知識について。第三ユニットは、知徳一体に根ざした礼儀、学生スキルの基本について。第四ユニットは、日本(人)のアイデンティティ及び、廣池千九郎博士が生きた時代と麗澤大学の誕生について。

## 「現代社会と道徳科学 B」

### 【到達目標】

麗澤大学創立者廣池千九郎博士が説いた最高道徳が、現代社会においてどのような意味をもつかについて、それぞれの専門領域から接近する。

### 【講義内容】

講義は大きく 5 つのユニットに分かれる。第一ユニットは、経済倫理及び経営倫理の基本について。第二ユニットは、道徳と現代経済について。第三ユニットは、社会哲学と企業の社会的責任について。第四ユニットは、企業における倫理的意志決定について。第五ユニットは、環境と道徳について。

## 2-1-1-2 本年度の活動

28年度は外国語学部の「基礎ゼミナール A・B」では 17 クラスを 15 名の教員、経済学部の「現代社会と道徳科学 A・B」では 1 年次生全員が 1 クラスを 9 名の教員がオムニバスで授業が行われた。

28年度は、両学部とも新教育課程の実施に伴い、「道徳科学 A・B」は 2 年次配当科目となったため、1 年次に共通した活動は行われなかった。ただし、外国語学部では新入生オリエンテーションキャンプ、経済学部では新入生導入授業のなかで、建学の精神や麗澤大学の歴史を学ぶ自校学習などが行われた。また、「基礎ゼミナール A・B」（外国語学部の 1 年次必修科目）、「現代社会と道徳科学 A・B」（経済学部の 1 年次必修科目）においても 2 年次の「道徳科学 A・B」の学びに繋がる建学の精神、麗澤大学の歴史、倫理・道徳の課題などを学ぶ機会を提供した。

外国語学部では、新入生を対象としたオリエンテーションキャンプの中で、創立者の廣池千九郎記念館の見学とともに、「道徳科学」担当教員と自校学習スタッフによる「自校学習プログラム」が行われた。

経済学部では、オリエンテーション期間中に 3 日間の集中形式で行われる導入授業「社会科学分析入門」の冒頭で、「道徳科学」担当教員による「自校史」と「建学の精神」についての講義が行われるとともに、廣池千九郎記念館見学や自校学習スタッフによる「自校学習プログラム」が行われた。

この「自校学習プログラム」の企画・運営は、公募によって選抜された上級生の組織（自校学習スタッフ）によって行われ、その指導は、「道徳科学」担当教員が当たった。

## 2-1-1-3 課題及び改善・向上方策

1 年次配当の（外）「基礎ゼミナール A・B」、（経）「現代社会と道徳科学 A・B」における建学の精神、麗澤大学の歴史、倫理・道徳の課題などの学習量の配分が異なることが、2 年次の配当の「道徳科学 A・B」の学び方に影響することが懸念される。できれば、1 年次において両学部の学生に対して同じ学びが提供できるような改善を検討したい。

## 2-1-2 日本語教育

### 2-1-2-1 目的・目標

日本語教育センターは、外国人留学生に対し日本語教育を一元的に提供し、個々の目的に沿った日本語運用が可能となる日本語力を養成することを目的としている。そのために、日本語教育、多様化する社会で必要となるコミュニケーション教育、日本文化・事情理解教育の 3 つの側面からの多面的な教育により総合的な力を身に付けさせることを目標としている。日本語教育においては、技能別コース、基本コース、特設コースの 3 コースを設置し、異なる学習目的をもつ留学生の要望に応える体制を整えている。この他、留学生と日本人の合同クラス「多文化共存・共動／多文化共生 A」、「日本文化・事情」、「異文化研究 B」、「異文化研究 E」を開講し、留学生と日本人が対等な立場で互いに学ぶ実践的教育を提供している。

## 2-1-2-2 本年度の活動

- (1)日本語教育センターの年度課題を「日本語教育の質の向上：学習成果が実感できる日本語教育の実施－学びを意識させる工夫－」とし、各授業において学習者に合わせた更なる工夫を重ねることを日本語教育センター全教員（専任、非常勤）で確認した。
- (2)新年度打ち合わせ（クラス分け会議、分科会）、学期末全体会議（成績承認会議、分科会）を計5回開催し、専任5名、非常勤13名で学期の振り返りと次学期・次年度に向けての課題等の確認、検討を行った。
- (3)特設コースでN3レベルの学生が学ぶことになったため、新しいシラバスを作成して授業を実施した。
- (4)特設コースでは、メインテキストだけでは不足しがちな読解力を身につけるため、多読教材に取り組んだ。
- (5)「日本語文章表現演習」では、細やかな段階を踏んで、より完成度の高いレポート作成を目指し、課題設定、課題数について検討した。
- (6)「日本語文章表現演習」の学修支援であるライティング支援室の来室実績が年間1,131セッション（2015年度1,075）となった。利用した学生数は外国語学部、経済学部合わせて1学期112名（履修者数132名）、2学期91名（履修者数126名）で、1学期85%、2学期72%の利用率となった。昨年度から利用率が上がってきておりライティング支援の利用が学生の間で定着してきていることが窺える結果となった。1学期13名、2学期12名の地域ボランティアTAの協力を得た。
- (7)「日本語口頭表現演習」では、大学の学部授業で必要とされるディスカッション、口頭発表、プレゼンテーションに関する口頭表現能力について、学生一人一人に対して、カリキュラムに沿って、到達目標に至る段階を明示し、学生が自身の口頭表現能力に関して、より正確に自己評価、改善が行えるよう支援する授業展開を行った。
- (8)ホーチミン市国家大学人文社会科学大学にて「日本語教員研修：効果的な授業をするには－聴解編－」を3月22日～24日に開催した。人文社会科学大学日本語学部、人文社会科学大学人材促進センター、麗澤大学日本語教育センターの共催で、本学教員2名が講師を担当した（講師：正宗鈴香、家田章子）。受講者は、大学教員、日本語学校教師、企業の日本語教師など35名で3日間とも受講した者には両大学大学長のサインが入った修了書を授与した。
- (9)経済学部の日本語初級レベルの留学生に対し、レベルに即しながらも、次年度以降の学部授業でも使える学習内容や学習方法に留意し授業を行った。また、学習成果の可視化、積極的なフィードバックを通して、このレベルに共通して見られる低い学習意欲の改善を図った。
- (10)各学期の日本語教育センター留学生受入れ実績は以下の通りである。

1学期	別科生43名、外国語学部1年次生16名、経済学部生1年次生及び再履修者70名、学部特別聴講生48名、大学院生7名、研究生4名（計188名）
2学期	別科生52名、外国語学部1年次生15名、経済学部生1年次生及び再履修者67名、学部特別聴講生46名、大学院生3名、研究生3名（計186名）

### 日本語教育センターコース別履修者数

#### 【第1学期】

コース別		別科生	外国語学部生	経済学部生	学部特別聴講生	大学院生 研究生	合計
基本 コース	初級Ⅱ	11	1	0	4	0	16
	初中級Ⅱ	14	0	0	1	0	15
	中上級	17	2	0	2	0	21
	超級Ⅰ	1	0	0	0	0	1
技能別コース		18	15	70	38	10	151
特設コース		0	0	0	5	1	6
合計		61 (43)	18 (16)	70	50 (48)	11	210 (188)

## 【第2学期】

コース別		別科生	外国語学部生	経済学部生	学部 特別聴講生	大学院生 研究生	合 計
基本 コース	初中級 I	13	0	0	3	0	16
	中級	19	0	0	0	0	19
	上級	19	2	0	0	0	21
	超級	1	0	0	0	0	1
技能別コース		19	13	67	37	4	140
特設コース		0	0	0	6	2	8
合 計		71 (52)	15	67	46	6	205 (186)

※重複履修者がいるため合計欄のみ（ ）内に実数を示した。

### 2-1-2-3 課題及び改善・向上方策

- (1)日本語力の低い経済学部留学生に対し、学部授業に対応できる日本語力および学習習慣を身につけさせる。そのために、日本語演習科目5科目に加え、新設した特別演習科目4コマ、計9コマでの効果的な日本語学習の内容、方法を検討する。
- (2)「日本語聴解演習」において、効率的に小テストの改善を行うため、長期休暇中に授業担当者全員で検討を行う。
- (3)「日本語文法演習」において、クラス間のレベル差に対応できるよう、シラバス、教材、教授方法、テストの改善、変更を検討する。
- (4)クラスサイズが小さい特設コースにおいて、レベルの差や学習スタイルの違いが大きい場合、どのように対応をしていくか引き続き検討する。
- (5)「日本語読解演習」において、多岐のトピックを扱うことで語彙の学習の一助となるようにする。

### 2-1-3 教職課程

#### 2-1-3-1 目的・目標

教職課程の目的は、本学の建学の精神に基づき、仁愛の精神の上に、教育についての見識と各専門教科の知識・技術をもって、我が国の学校教育に貢献できる人材を育成することにある。

この目的を実現するために、教職課程では次のような目標を設定している。

- (1)教職の意義及び教育の基礎理論に関する科目を教授することによって、教職についての理解と教育についての見識を深めさせる。
- (2)教育課程及び指導法に関する科目を教授すると共に、各学部・研究科の協力を得て教科に関する科目を教授することによって、高い授業実践能力をもった教員の卵を育成する。
- (3)生徒指導及び教育相談に関する科目を教授することによって、仁愛の精神をもって生徒の生活上の諸問題に対応できる教員を育成する。
- (4)本学の創立者である廣池千九郎が提唱した「道徳科学」をもとに、生徒に対する道徳教授法を展開する「道徳教育の研究Ⅰ」「道徳教育の研究Ⅱ」を設置し、本学教職課程履修者全てに修得を義務付け、道徳教育推進教師や道徳主任を将来的に担える教員の育成をめざす。
- (5)教育実習について、事前・事後指導及び訪問指導を含め円滑に実施することによって、総合的な教育実践能力を高めさせる。
- (6)教育実習を終えた者が履修する「教職実践演習」において、在学中の教職課程での学びを振り返り、成果と課題を明らかにしたうえで、学級経営を土台にした生徒の人間形成に資する教育実践力の実力を診断させる。
- (7)教員免許状の授与は大学による単位認定であることを踏まえ、学生指導及び単位認定を厳格に行うことによって、本学における教員免許状取得者の質を高める。

## 2-1-3-2 本年度の活動

本学には、昭和34年の開学以来、教職課程が設置されている。取得可能な免許状の種類（教科）は、当初は中学校教諭一級普通免許状（英語・ドイツ語）、高等学校教諭二級普通免許状（英語・ドイツ語）のみであったが、その後、中国語学科（昭和35年）、日本語学科（昭和63年）、国際経済学部（平成4年）の設置に伴い、中国語、国語、社会・公民の免許状が取得可能となった。さらに、平成8年(1996)の大学院設置に伴い、修士課程において専修免許状が取得可能となった。また、平成13(2001)年からは、高等学校の教科「情報」新設に伴い、国際産業情報学科を基礎として、高等学校教諭一種免許状（情報）が取得可能となり、学部改組により経営学科に引きつがれたが、24年度カリキュラム改定によって廃止された。

28年度現在、本学教職課程の基礎となる学部（研究科）・学科（専攻）及び免許状の種類・教科は下記の通りである。なお、下記の免許状を取得した者で、司書教諭に関する科目について所定の単位を修得した者に対しては、学校図書館司書教諭講習修了証書（司書教諭免許状）が授与される。

基礎となる学部(研究科)・学科(専攻)		教育職員免許状の種類	免許教科
外国語学部	外国語学科	高等学校教諭一種免許状	英語、ドイツ語、中国語、国語
		中学校教諭一種免許状	英語、ドイツ語、中国語、国語
経済学部	経済学科	高等学校教諭一種免許状	公民
		中学校教諭一種免許状	社会
	経営学科	高等学校教諭一種免許状	公民
		中学校教諭一種免許状	社会
言語教育研究科	日本語教育学専攻	高等学校教諭専修免許状	国語
		中学校教諭専修免許状	国語
	英語教育専攻	高等学校教諭専修免許状	英語
		中学校教諭専修免許状	英語
経済研究科	経済学専攻	高等学校教諭専修免許状	公民
		中学校教諭専修免許状	社会
	経営学専攻	高等学校教諭専修免許状	公民
		中学校教諭専修免許状	社会

### (1)本年度開講科目及びオリエンテーション

上述の目標達成を目指し、学則第52条により「教職並びに司書教諭に関する科目」として開設されている科目の28年度における開講状況は次の通りである。

科目分類		28年度		開講クラス数		
		開設科目数	開講科目数	1学期	2学期	集中
教職に関する科目	教職の意義等に関する科目	1	1	1	1	
	教育の基礎理論に関する科目	4	4	2	2	2
	教育課程及び指導法に関する科目	27	22	21	15	3
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	2	2	2	2	
	教育実習	2	2	6		
	教職実践演習	1	1		1	
司書教諭に関する科目		5	5	3	2	
合計		42	37	35	23	5

教職課程では、学生が上記の授業科目を適正に履修できるよう、2年次生を対象とする教職課程オリエンテーションを年度初めに実施している。内容は、本学で取得できる教員免許状の種類、教員免許状を取得するために必要な授業科目の履修方法、履修にあたっての注意事項、教育実習履修の条件、2年次から4年次にかけての日程等の事項に関する説明である。4月10日に実施し、外国語学部生46名、経済学部生12名が参加した。

また1年次生向けの教職課程オリエンテーションを開催した。英語の教員免許状を希望するものに対して、一部の科目の履修条件としてTOEIC等の一定の基準を設けているため、英語の能力をより高める必要性と教職への意識付けから、1年次1学期より行っている。4月7日に実施し、外国語学部46名、経済学部13名が参加した。

## (2) 教育実習

教職課程における教育実習の重要性に鑑み、授業中及び授業以外の時間において、次のような指導を行っている。

- ①教職課程の中でも入門的科目である「教職概論」（主として2年次生が履修）の中で、教育実習に対する自覚を促して教育実習履修の条件（教育実習の前年度までに修得しておくべき単位等）を確認するとともに、教育実習希望届を提出させる。
- ②2年次2学期の終わりに、該当の学生を招集し、教育実習ガイダンスを実施する。ガイダンスの内容は、教育実習の重要性と履修条件の確認、教育実習受入れ依頼方法の説明である。
- ③教育実習を希望する学生は、上記ガイダンスを踏まえ、実習実施前年度に、中学校又は高等学校に対して教育実習受入れ依頼を行う。
- ④教育実習に不可欠な授業技術については、教科教育法の授業時に指導する。少人数教育の利点を活かして、履修者全員が模擬授業を実施し、徹底した指導を行う点が本学教科教育法の特徴である。また、学校教育の基礎となる道徳教育については、理論の理解のみならず、自分ならどのような授業を行いたいのか、という観点からチームで自分の指導案を検討し合い、模擬授業も行っている。
- ⑤次年度に教育実習に参加する学生を対象に、事前準備の徹底と、教育実習の質の向上を目的として集中講義と学校現場における授業見学を実施しており、28年度は2月16日（木）～21日（火）の期間で実施した。最終日には本学の系列校である麗澤中・高等学校において授業見学を行った。
- ⑥教育実習についての直接的な事前・事後指導は、「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の授業時に行うが、通学圏内の中学校又は高等学校、及び本学教育実習の協力校において教育実習を実施する学生に対しては、教職科目担当教員が分担して訪問指導を実施する。なお、28年度の教育実習実施者は23名（外国語学部19名、経済学部2名、科目等履修生2名）であった。

## (3) 介護等体験

介護等体験は、平成10年(1998)4月1日施行の「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年(1997)6月18日法律第90号）に基づいて実施されるものである（原則として、社会福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間、計7日間）。同法には「大学及び文部科学大臣の指定する教員養成機関は、その学生又は生徒が介護等の体験を円滑に行うことができるよう適切な配慮をするものとする」と定められており、大学には介護等体験の実施責任は法的には発生しないが、本学では次の事項を実施している。

- ①介護等体験実施にあたっての事前・事後指導
- ②介護等体験に際しての賠償責任保険への加入
- ③介護等体験実施に際しての公欠扱い等の措置

介護等体験の事前指導として、介護等体験実施予定者を年度初め（28年度の場合は4月10日）に2コマ・4時間ほどかけて、次の内容で介護等体験ガイダンスを実施している。

- 1 コマ目の内容：介護等体験の趣旨、概要、基本的注意事項、具体的注意事項等の説明  
介護等体験前後に支払うべき費用、提出すべきレポート等の説明
- 2 コマ目の内容：医学映像教育センター制作ビデオ「介護の心構えと実際」の視聴  
介護等体験申込書（千葉県社会福祉協議会指定用紙）の記入・回収

回収した介護等体験申込書に基づき、千葉県社会福祉協議会及び千葉県教育委員会から本学の介護体験実施校として指定されている千葉県立特別支援学校流山高等学園へ介護等体験受入れ依頼を行う。

依頼結果は、社会福祉協議会からは5月下旬に受入れ施設・時期の決定として通知され（28年度は26名に実習が許可された）、特別支援学校からは受入れ時期の決定として通知される（28年度は22名を11月30日～12月1日に一括して受入れる旨通知された）。受入れ施設・時期は直ちに教職科目担当教員を通じて学生に通知され、学生は受入れ時期前の所定の期日までに、事前学習の一環として介護等体験事前レポート（受入れ施設・校の概要と介護体験を実施するうえでの心構え・具体的注意事項を自学自習してまとめた

もの)を提出し、必要に応じて健康診断・細菌検査等を受診する。各受入れ施設・校からの注意・連絡事項は教職科目担当教員を通じて学生に連絡される。

学生は、介護等体験中に介護等体験の内容と所感を介護等体験日誌に記録し、介護等体験事後レポートとあわせて所定の期日までに教職科目担当教員に提出することが求められる。担当教員は、これらを点検して返却し、以って介護等体験事後指導としている。以上の全てを完了して、28年度中に社会福祉施設(千葉県内30施設)から介護等体験証明書を得た者は24名、千葉県立特別支援学校流山高等学園から得た者は22名であった。

#### (4) 教員採用試験対策講座(自主企画ゼミナール)

教員採用試験対策講座(自主企画ゼミナール)を開講した。講座の内容は、各都道府県過去5ヵ年問題集の分析、教職教養問題及び面接演習を実施し、1学期は10名、2学期は4が参加した。この結果として、1学期の受講者から千葉県教員採用試験に1名、埼玉県教員採用試験に1名が合格した。

#### (5) 教員免許状取得状況及び教員就職状況

大学での単位修得及び介護等体験等を経て教育職員免許法に定める要件を満たした者には、中学校教諭又は高等学校教諭の普通免許状が授与される。28年度に本学学生が取得した教員免許状件数は、中学校教諭一種免許状16件(英語12、ドイツ語0、中国語0、国語3、社会1)、高等学校教諭一種免許状18件(英語13、ドイツ語0、中国語0、国語3、公民2)、中学校教諭専修免許状0件、高等学校教諭専修免許状0件であった。一種免許状を取得した学生の実数は19名であるので、1人あたり1.8件を取得したことになる。また、このうち複数教科にわたる免許状を取得した者は0名であった。

28年度免許状取得者のうち、同年度末までに教諭として2名、卒業生については、6名の採用が決定しており、学校教育の現場で活躍することが期待される。

#### (6) 教員免許状更新講習

教員免許状更新講習は、平成21年(2009)4月に導入された教員免許更新制により、教員免許状所要資格を得て10年以内又は生年月日によって定められた修了確認期限までに現職教員等の受講が義務づけられたものである。その目的は、教員が定期的に最新の知識技能を身につけることにより、自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることにある。本学では、教員の現職教育の充実に寄与するという観点から、28年度は次表の通り実施した。

区分	名称	期間	時間数	受講者数	担当者
必修講習	教育の最新事情	8月9日	6時間	87名	江島顕一、原田恵理子
選択必修講習	教育の最新事情	8月10日	6時間	79名	齋藤之誉、浦田広朗
選択講習	英語指導法ブラッシュアップ講習	7月30、31日	12時間	29名	望月正道、マクグエイ、P. C.、ストラック、A. N.
	道德教育の現状と課題	8月8日	6時間	39名	江島顕一

#### (7) 教職シンポジウムの開催

10月29日に、本学卒業生の学校教員と教職課程履修学生を対象に第2回「教職シンポジウム」を開催した。教員養成は在学生だけを対象とするのではなく、卒業生への対応も含めたものとしていくことで、大学として成長をとともに支える取り組みをしていくことを目指している。現在教員として活躍している卒業生2名による事例発表では、教員採用試験時の面接におけるアドバイス、新任教員の校務や新任教員の校務やその工夫、授業での演習の紹介等、教育現場の現状と担任としての熱い思い等、自身の体験談を中心に事例を紹介された。また齋藤之誉准教授による「“やる気”を喚起する授業づくり」というテーマでの講演会を実施し、中教審答申の内容から次期学習指導要領の改訂内容にアプローチし、大学生の読書離れや男女の脳の差異を活用した教育方法など最新の教育事情を踏まえて、今後の教育方法のあり方について講演がなされた。

#### (8) 星槎大学との協定

星槎大学との協定により、中学校・高等学校(保健体育)の免許取得が可能となり、1名の学生が登録した。また28年度より小学校教諭免許状を加えたが、登録者は0名であった。

### 2-1-3-3 課題及び改善・向上方策

英語教員を目指す学生の英語力を向上させ、教員採用試験合格者を増大させるため、26年度入学生より、「英語科教育法Ⅰ」、「英語科教育法Ⅱ」、「教育実習Ⅰ」の科目について、TOEIC等の英語力を履修条件として設定している。この対応のため、1年次より教員免許状取得のためのオリエンテーションを行い、教員を目指す学生の指導体制を強化した。今後も継続して英語力の向上に努める必要がある。

併せて千葉県等の教員採用試験の受験者を増やしていくことが課題である。教員採用試験対策講座を受講し、一人でも多くの学生に教員採用試験に挑戦してもらうことが重要である。

学生総合インフォメーションを利用し、教職オフィスアワーを週2回昼休みに実施した。齋藤之誉准教授、江島頭一助教が担当し、教職履修学生の質問等の対応と指導を行い、学生の不安解消の一助となった。

### 2-1-4 高大連携教育

#### 2-1-4-1 目的・目標

高大連携プログラムとして、国際理解特別講座と麗澤高校における麗澤大学教養講座、麗澤瑞浪高校における麗澤大学出張講義を開設している。国際理解特別講座は、本学が高大連携教育の一環として開設した、高校生のための専門的な授業とキャリア形成を目的とした講座である。麗澤大学教養講座や麗澤大学出張講義は、高校生が大学の講義を受講することにより、大学という場に対する認識を深めると共に、大学での学びに対する興味関心を高め、進路意識の強化につなげることと、高校の教科の枠を超えた「学問」に触れ、時事的な問題に対する認識を深めることを目的としている。加えて、科目等履修生制度を利用して専門科目を開放し、高等学校生徒を受け入れている。

#### 2-1-4-2 本年度の活動

##### (1) 国際理解特別講座

本学は、高等学校との連携教育に関する協定に基づき、14年度から「国際理解特別講座」を開講し、高校生の国際感覚の涵養に努めている。総合テーマを「21世紀の国際理解」として開講し、27年度は近隣の高等学校5校から16名を受け入れ、下表の通り実施した。表に示すように、90分授業と75分授業を組み合わせ実施した。90分授業は特別講義であり、75分授業は、A. 欧米の社会と文化、B. 国際関係と国際社会、C. いま、アジアを知る、D. 世界の経済とグローバルビジネスの4つに区分した（各区分について2日間ずつ実施）。

##### ①開講実績

日程	時間	テーマ	担当教員
5月7日(土)	90分	国際社会に生きる	下田 健人
<b>A. 欧米の社会と文化</b>			
5月14日(土)	75分	文化がコミュニケーションに及ぼす影響とは	山下 美樹
5月16日(土)	75分	身近な所から考える国際社会における日本の役割	エヌ、M.
5月28日(土)	75分	ヨーロッパの言語と文化 —英語圏以外の文化に触れるおもしろさを知ろう—	竹内 拓史
5月28日(土)	75分	An Introduction to British Culture	トリキヤン、M.K.
<b>B. 国際関係と国際社会</b>			
6月11日(土)	75分	国際人って、どんな人間？	大場 裕之
6月11日(土)	75分	食料のグローバリゼーションとローカリゼーション	阿久根 優子
6月18日(土)	75分	国際社会とアメリカ	堀内 一史
6月18日(土)	75分	グローバル化と人の国際移動	武田 淳
6月25日(土)	90分	映画・テレビ番組を使ってネイティブの英語を学ぶ！	渡邊 信



日程	時間	テーマ	担当教員
C. いま、アジアを知る			
7月16日(土)	75分	中国の言語と文化	松田 徹
7月16日(土)	75分	多民族国家中国・中国にせまる	金丸 良子
7月23日(土)	75分	韓国の言語と文化	森 勇俊
7月23日(土)	75分	多民族国家中国・中国にせまる	金丸 良子
D. 世界の経済とグローバルビジネス			
7月30日(土)	75分	メガFTAの進展による日本経済への影響は？	徳永 澄憲
7月30日(土)	75分	腐敗と汚職の経済分析	溝口 哲郎
8月5日(金)	75分	会社の成績表を読み解いてみない？ オール5の会社はどこだ	篠藤 涼子
8月5日(金)	75分	日中互敬と経済の未来	陳 玉雄
8月6日(土)	90分	身近な国際理解	小野 宏哉

②参加高等学校

高 校 名	人数	男	女	1年次	2年次	3年次
1.(県)柏高等学校	1名	1			1	
2.(県)柏陵高等学校	3名		3	3		
3.(県)我孫子高等学校	4名		4	4		
4.(県)白井高等学校	3名	1	2	2		1
5.(県)藤代紫水高等学校	5名		5			5
人 数 合 計	16名	2	14	9	1	6

(2) 麗澤大学教養講座

高大連携をより実質的に進めていくために、麗澤高等学校における麗澤大学教養講座を開講した。18名の教員により全17回開講（講義時間100分）し、36名が登録し受講した。

日程	テーマ	担当教員
4月15日(金)	“大学で学ぶ”とは	大野 正英
4月22日(金)	国際問題に関心を持つ	梅田 徹
5月6日(金)	読みやすい文章を書くための作法	首藤 聡一郎
5月13日(金)	インド研究・死生学・モラロジー・研究者・教育者への私の歩み	竹内 啓二
5月27日(金)	国際社会とアメリカ	堀内 一史
6月3日(金)	アメリカでの大学生活から感じた日本の歴史認識問題	熊野 留理子
6月10日(金)	ドイツ語で自己紹介	草本 晶/ シュッテレ, ホルガー
6月24日(金)	多文化主義の理想と現実：カナダの事例を中心に	田中 俊弘
7月8日(金)	近代日本のパラドックスと現代日本の文明史的役割	川久保 剛
9月23日(金)	『小さい』言語を学ぶ・知るとのこと：フィンランド語を例に	千葉 庄寿
9月30日(金)	経済学で読み解く“社会問題”	大越 利之
10月7日(金)	映画・テレビ番組を使ってネイティブの英語を学ぶ	渡邊 信
10月21日(金)	ネット社会の基礎知識	大塚 秀治
10月28日(金)	中国語を学ぼう！	松田 徹
11月4日(金)	売り込まないからこそ売れる仕組みづくり、マーケティングを学ぶ	圓丸 哲麻
11月11日(金)	伊勢神宮から読み解く日本文化	橋本 富太郎
11月18日(金)	大学と学問	井出 元

### (3) 麗澤大学出張講義

高大連携をより実質的に進めていくために、麗澤瑞浪高等学校における麗澤大学出張講義を開設した。8名の教員により全11回開講した。

#### ①「RISE」プログラム

日程	内容	受講対象	担当教員
9月24日(土)	国際理解	高校1年進学コース	ハーツハイム B.H.
11月12日(土)	経済・経営	高校1年進学コース	下田 健人
2月25日(土)	小論文概論	高校1年進学コース	鈴木 大介

#### ②出張講義

日程	内容	受講対象	担当教員
6月17日(金)	出張講義	中学生・高校生	川久保 剛
10月4日(火)	出張講義	中学生・高校生	高 巖
1月26日(木)	出張講義	中学生・高校生	成瀬 猛
2月23日(木)	出張講義	中学生・高校生	宮下 和大

#### ③小論文指導

日程	内容	受講対象	担当教員
5月10日(火)	小論文に関する講義 ※小論文の宿題あり	高校3年生	首藤 聡一郎
5月28日(土)	小論文に関する講義	高校1年特進コース	首藤 聡一郎
9月10日(土)	提出された小論文による個別指導	高校3年生	首藤 聡一郎
9月17日(土)	小論文に関する講義	高校1年特進コース	首藤 聡一郎

### (4) 科目等履修生

平成13年度(2001)より、高大連携教育の一環として、高校生を科目等履修生として受入れている。28年度(2016)の受入れは無かった。

#### 2-1-4-3 課題及び改善・向上方策

国際理解特別講座においては、より多くの高校生に参加してもらうよう広報した。麗澤大学教養講座については、麗澤高校と定期的に打合せの機会を設けて、意見交換を行っている。高校生にとってより魅力的なプログラムを提供することが重要である。

#### 2-1-5 ファカルティ・ディベロップメント

##### (1) 全学での活動

##### 1) 目的・目標

ファカルティ・ディベロップメント委員会 (FD 委員会) では本学の学部・研究科等における FD 活動が持続的に実効されるため、FD 活動に係る情報の収集と提供ならびに FD 活動の組織的な推進を行うことを目標としている。

委員会の具体的な課題として以下のことについて検討・改善を行う。

- ①「道徳科学」・語学・情報を中心とする教養教育全体の内容・教授方法について、方針を決定し、開発研究を進めるとともに、より効率的な運用ができるよう、両学部間の共通化を推進する。
- ②特に「初年次教育」を FD 活動の柱に位置づけ、全学的な組織化・体系化を積極的に進める。
- ③各学部・研究科が行う専門教育を中心とした FD 活動について全学的な調整・促進を一層強化する。

## 2) 本年度の活動

28年度はメールでの回議を含め委員会を6回開催し、以下のとおり検討、確認を行った。

- ①教員間授業公開は、原則として全授業を公開し、第1学期（5月23日～6月3日）と第2学期（11月7日～19日）に実施。見学した教員数及びクラス数は、以下のとおりであった。
  - ・第1学期実施結果 見学：12クラス、7名（27年度実績：17クラス、9名）
  - ・第2学期実施結果 見学：9クラス、4名（27年度実績：11クラス、8名）
 各教員が提出した見学メモは教職員向けの学内イントラを使って全教員に公開した。なお、28年度（2016）から授業参観者に事務職員も加えられた。
  - ・第2学期実施結果 見学：17クラス、12名
- ②学生の学習時間等の調査は1年次と3年次を対象とし、外国語学部は基礎ゼミと専門ゼミで、経済学部は経済原論、経営学概論、会計ファイナンス概論、グローバル人材育成専攻sクラスで実施し、2年前の1年生と今年度の3年生との比較を行なった。
- ③アクティブ・ラーニング推進のため、先ず現状を把握するアンケート調査の内容について議論を進め、引き続き検討することとなった。
- ④学生による授業評価は、第1学期（6月27日～7月9日）、第2学期（29年1月6日～1月23日）に実施した。その評価結果は各教員に報告するとともに、授業評価アンケートに記載された学生の自由記述に対して教員にコメントを求めた。各授業に対する評価結果及び教員のコメントは、教員の所属する学部ごとに取りまとめて学部長及び教務主任に報告した。また、科目コーディネーターにも関連する授業の評価結果等を公開した。さらに、学生の自由記述に対する教員からのコメントは、纏めて図書館に配架し学生にも公開した。なお、大学院においても学部の調査を参考に実施した。
- ⑤新任・昇任専任教員研修会は、9月2日～3日の1泊2日で、谷川セミナーハウスにおいて実施し、外国語学部から新任2名及び昇任2名、経済学部から新任4名及び昇任1名の計9名が参加した。
- ⑥シラバスを充実させるため、「到達目標」の項目に説明文として「ディプロマ・ポリシーとの関連に基づき、当該授業科目を履修することによって何ができるようになるか、到達目標を具体的に記述してください。」を追加した。また、「成績評価方法・基準」の項目に記載例を加え、「課題に対するフィードバック」の項目を追加した。
- ⑦成績順位の逆転現象を回避するために独自に確立した素点からGPに変換する方式により、累積GPA3.5以上の取得が困難になるという課題について議論を進めたが、今後の活用方法を含め、引き続き議論することとなった。
- ⑧学生に汎用的能力の評価を実施した。また、学習時間の多い学生の汎用的能力の自己評価結果を分析した。
- ⑨学長裁量経費による取組事業の報告会を実施した。報告の対象事業の選定は、FDの視点を踏まえ、授業改善、新しい取り組みに結びつくものとして4つを選定した。
- ⑩アメリカの大学に勤務する本学卒業生を招き、「FD・SD 麗大生の学習成果を考える」をテーマとした研修会を実施した。

また、本学の建学の精神に関する教育を行っているメンバーによる「道徳科学担当者会議」の28年度の活動実績は次表のとおりである。

	開催日	参加者数	主な内容
第1回	5月11日	8名	新テキスト
第2回	6月15日	10名	新テキスト
第3回	9月8日	10名	次年度授業計画（30回分の内容）
第4回	10月19日	11名	次年度授業計画（30回分の内容）
第5回	11月16日	8名	クリーンキャンペーン、授業内容（マナー教育）、シラバス
第6回	12月6日	11名	クリーンキャンペーン、授業内容（マナー教育）、シラバス
第7回	1月12日	11名	クリーンキャンペーン、授業内容（マナー教育）、シラバス
第8回	2月16日	9名	クリーンキャンペーン、授業内容（マナー教育）、シラバス

本学留学生への日本語教育を行っている「別科日本語研修課程・日本語教育センター」において、28年度の活動実績は次表のとおりである。

	開催日	参加者	主な内容
第1回	2月15日	5名	各科目の到達目標、具体的な学習項目、学修時間の検討 日本語教育センター設置学部シラバス記載項目に関する記載内容の検討
第2回	2月17日	6名	27年度(2015)2学期の授業評価、28年度(2016)に向けた授業運営についての意見交換、教材研究(教授項目の確認および教授方法の工夫)
第3回	2月26日	5名	前年度の振り返りをもとに日本語教育センタープログラム、別科日本語研修課程教育の構築の検討、教員の授業内容の改善および向上に関する検討、大学院M1のためのアカデミック・ライティングに関する検討、経済学部1年次に対する補習教育および運用の検討、PDCA作成方法の検討および28年度(2016)の全コースにおけるP(計画)、D(実施方法)の内容検討
第4回	2月29日	5名	前年度の振り返りをもとに日本語教育センタープログラム、別科日本語研修課程教育の構築の検討、教員の授業内容の改善および向上に関する検討、大学院M1のためのアカデミック・ライティングに関する検討、経済学部1年次に対する補習教育および運用の検討、PDCA作成方法の検討および28年度(2016)の全コースにおける計画、実施方法の内容検討
第5回	3月1日 A.M.	17名	自大学の留学生や自大学への入学志願留学生者に対する理解を深めるための研修 日本語教育センターの教育方針・教育内容を理解する研修、日本語教育センタープログラムおよび別科としての課程教育の構築を目的とした研修
第6回	3月1日 P.M.	17名	授業内容改善(評価基準等の共通認識、授業内容・方法の交流、事例学習)の勉強会、日本語教育センターの方針に沿った教える技術や教授方法の向上の意見交換
第7回	3月15日	9名	支援室運用の改善にむけての検討、支援者の支援技法を改善、構築するワークショップ
第8回	3月15日	8名	27年度(2015)の授業評価を踏まえての28年度(2016)授業運営に関する改善、及び、意見交換、上記を踏まえての教材研究、オリジナル教材の改訂
第9回	3月16日	8名	27年度(2015)の授業評価、レポートの書き方等の文章作法の教育技法(学業評価法、教授方法、授業運営)の研修、オリジナル教材の学習項目、学習内容、到達目標、評価基準の検討、ライティング支援室活用方法の検討
第10回	3月17日	6名	27年度(2015)2学期の授業評価、28年度(2016)に向けた授業運営についての意見交換、教材研究(教授項目の確認および教授方法の工夫)
第11回	4月7日	17名	日本語PT結果を踏まえ、今学期の学生の理解と到達目標、学習内容等の確認、再検討
第12回	8月9日	17名	1学期の振り返りおよび改善点の洗い出し、授業内容改善に向けての(評価基準等の共通認識、授業内容・方法の交流、事例学習)の勉強会、日本語教育センターの方針に沿った教える技術や教授方法の向上の意見交換
第13回	8月23日	6名	28年度(2016)1学期の授業評価、28年度(2016)2学期に向けた授業運営についての意見交換、教材研究(教授項目の確認および教授方法の検討)、教材修正作業
第14回	8月25日	8名	28年度(2016)1学期の授業評価、改善点の洗い出し、レポートの書き方等の文章作法の教育技法(学業評価法、教授方法、授業運営)の研修、オリジナル教材の学習項目、学習内容、到達目標、評価基準の検討、ライティング支援室活用方法の検討
第15回	9月6日	8名	27年度(2015)の授業評価を踏まえての28年度(2016)授業運営に関する改善、及び、意見交換、上記を踏まえての教材研究、オリジナル教材の改訂
第16回	9月7日	6名	28年度(2016)1学期の授業評価、28年度(2016)2学期に向けた授業運営に関する改善および、意見交換、教材研究(教授項目の確認および教授方法の工夫)
第17回	9月14日	17名	授業内容改善(評価基準等の共通認識、授業内容・方法の交流、事例学習)の勉強会、日本語教育センターの方針に沿った教える技術や教授方法の向上の意見交換

### 3) 課題及び改善・向上方策

授業公開は教員の授業力向上に資する機会として位置づけているが、授業公開を利用して見学する件数が減少しているため、検討が必要である。また、授業公開の見学メモの取り扱いについて、教員のメモは授業実施

者へフィードバックされているが、事務職員のメモの取り扱いについては今後検討することとなった。

学習時間等の調査については、調査結果と成績との関連などの分析を進めることとなった。

学生による授業評価については、結果を学生に周知しているが、より学生に伝わりやすい工夫が必要ではないかということであり、改善策について他大学の事例を参考に議論し、図書館に配架して公開していることを学生に多様な方法で知らせることとなった。

シラバスの充実については、3つのポリシーの運用とも非常に関係することであり、3つのポリシーと一体的に検討を進めることとなった。

GPA制度は、素点からポイントに変換する方式により、累積GPA3.5以上の取得が困難な点を含めて、引き続き具体的な改善方法の検討を進めるとともに、活用方法の拡充を検討することとなった。

## (2) 外国語学部の活動

### 1) 目的・目標

6つの主専攻からなる外国語学部においては、FD活動が各専攻に依る部分が多い。また、課題に応じて、教務・カリキュラム検討委員会、情報FD委員会、基礎ゼミ担当者会議を設け、FD活動を推進している。

各部門・会議では、課題として以下のことについて検討・改善を行う。

- ①学生指導をはじめとした多くの問題に対処する
- ②各専攻に根差したカリキュラムを充実させる
- ③専攻を横断して全体的ないし将来的な課題を検討する

### 2) 本年度の活動

外国語学部においては、専攻単位にカリキュラムが構築されているため、学生指導をはじめとした多くの問題に対処する上で、各専攻における取り組みが重要な意味を持つ。そこで、各専攻で定期的な専攻会議以外に、専攻コーディネーターを中心にメール等による継続的な意見交換も行われた。

各専攻でのFD活動の概要は下表の通りである。各専攻で、共通して取り上げられたFDに関する議題は、カリキュラム、オリエンテーション、海外留学派遣・単位互換、学生の動向（欠席の多い学生、休学・退学希望など）等である。また、特段の議題がなくても教員間で学生の学習状況・生活状況に関して情報交換の場とした。その他、各専攻特有の議題は専攻ごとに記した。

なお、全学のFD委員会には、学期ごとに各専攻から、より詳細な報告が提出されている。

#### ①英語コミュニケーション専攻、英語・英米文化専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	3月31日	19名	クラスメンターによる面談、海外提携校・留学派遣、気になる学生の動向
2	5月12日	18名	TOEIC試験結果、基礎演習・上級演習の振り返り、気になる学生の動向
3	6月9日	17名	学生による授業評価、気になる学生の動向、クラスメンターによる面談進捗、課外活動（i-Lounge、ESS、英語劇、翻訳コンテスト）、Newsletter、麗澤レビュー
4	6月30日	16名	気になる学生の動向、夏休みの課題、4年次に対する英語能力試験、課外活動（模擬国連）
5	7月21日	17名	気になる学生の動向、2学期オリエンテーション、英米文化研究会履修条件に満たない学生への対応
6	9月8日	12名	クラスメンターによる面談、履修相談会、高校生英語スピーチコンテスト海外提携校・留学派遣、気になる学生の動向
7	10月6日	15名	新採用教員人事、AO入試、気になる学生の動向、英米文化研究会
8	10月27日	13名	クラスメンターによる面談、CECの新設、気になる学生の動向、AO入試合格者への教育
	開催日	参加者	主な内容
9	11月24日	16名	クラスメンターによる面談、
10	12月15日	16名	新設科目、TOEIC活用拡大、留学フェスティバル、学生による授業評価、

			翻訳コンテスト、気になる学生の動向
11	1月19日	15名	4年次に対する英語能力試験

### ②国際交流・国際協力専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	4月11日	7名	カリキュラム（基礎演習科目A群・B群、1年次留学生）、 新入生オリエンテーションキャンプ、TOEIC データ分析
2	4月25日	7名	次年度カリキュラム（観光関連科目）
3	5月11日	6名	次年度カリキュラム（英語による授業）、課外活動（ブート・キャンプ）準備
4	5月26日	7名	I E Cの学習内容の効果的な表現、提示方法、外国語学部の将来ビジョン
5	6月5日	5名	I E Cの学習内容の効果的な表現、提示方法、外国語学部の将来ビジョン
6	6月23日	6名	カリキュラム（第2外国語）、言語習得に関わる教育方法、 SPI能力を伸ばすための工夫
7	7月7日	7名	次年度カリキュラム（英語による授業）、長期履修（ギャップイヤー）、 PBL学習の進め方
8	7月25日	6名	次年度カリキュラム、プロジェクト・プラスの設計
9	9月8日	7名	2学期オリエンテーション、次年度カリキュラム、プロジェクト・プラスの実施 レビュー・ミーティング
10	9月26日	6名	次年度カリキュラム、
11	10月13日	5名	AO入試合格者への対応、海外留学派遣
12	10月31日	6名	次年度カリキュラム（自主ゼミ）、次年度オリエンテーションキャンプ
13	11月24日	6名	次年度時間割、レビュー・ミーティング、次年度オリエンテーションキャンプ
14	12月8日	6名	プロジェクト・プラス、次年度オリエンテーションキャンプ レビュー・ミーティング、
15	1月12日	6名	プロジェクト・プラス、レビュー・ミーティング、気になる学生の動向、
16	2月9日	8名	観光文化交流、レビュー・ミーティング

### ③ドイツ語・ドイツ文化専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	3月30日	5名	新学期オリエンテーション、履修相談会、海外留学派遣、ドイツ語模擬試験 Goethe Zertifikat B1 の結果、新カリキュラム
2	5月12日	3名	第2外国語の授業、海外留学派遣
3	5月13日	3名	基礎演習科目の授業運営、授業で取り上げるテーマ、教材
4	6月3日	3名	基礎演習科目の授業運営、授業で取り上げるテーマ、教材
5	6月9日	3名	留学説明会、新カリキュラム、気になる学生の動向
6	6月17日	3名	基礎演習科目の授業運営、教材
7	7月7日	4名	新カリキュラム、期末試験、海外提携校、気になる学生の動向
8	7月15日	4名	基礎演習科目の成績評価
9	8月3日	5名	基礎演習科目の成績評価、海外留学派遣、気になる学生の動向、新カリキュラム 海外提携先開拓
10	9月8日	5名	気になる学生の動向、海外提携先開拓、イェーナからの教育実習生受入れ、 新学期オリエンテーション
11	10月8日	5名	新カリキュラム、新規海外提携校
12	10月13日	4名	新カリキュラム、気になる学生の動向
13	11月10日	4名	新カリキュラム
14	11月24日	4名	来年度の時間割、気になる学生の動向
15	1月19日	4名	新規海外提携校、気になる学生の動向
16	2月3日	4名	気になる学生の動向、留学説明会、B1 試験結果、卒業研究コンテスト
17	2月6日	5名	基礎演習科目の授業運営、授業で取り上げるテーマ、教材

### ④中国語専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	3月31日	5名	新学期オリエンテーション、新入生オリエンテーションキャンプ、気になる学

			生の動向、専攻通信、今年度のFD態勢
2	4月14日	5名	テキスト、来年度以降の科目担当の見込み
3	5月12日	5名	基礎演習科目の授業運営、次年度カリキュラム、次年度担当科目案
4	6月16日	5名	基礎演習科目の授業運営、気になる学生の動向、海外交流校訪日団来学 海外提携校協定確認、次年度ハイパークラス
5	7月14日	5名	TECC受験、基礎演習科目の授業運営
6	6月17日	名	
7	9月8日	5名	1・2年次面談報告、ハイパークラス履修者、『中国研究』編集
8	10月6日	5名	1・2年次新学期状況、4年次生就職状況、『中国研究』編集、次年度中国語概説
9	11月24日	5名	次年度時間割、次年度以降第2外国語（中国語）、気になる学生の動向
10	1月19日	4名	気になる学生の動向
11	2月7日	5名	4年次生就職状況

⑤日本語・国際コミュニケーション専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	3月31日	6名	新学期オリエンテーション、1学期授業運営、新入生オリエンテーションキャン イマージョン日本語教育実習
2	4月5日	5名	新カリキュラム
3	4月14日	6名	履修ガイダンス、1年次留学生履修コース、授業で使うためのPREZI導入の可 可能性、 カリキュラム（日本文化事情、多文化共存共働）、気になる学生の動向
4	4月21日	5名	基礎演習科目の授業運営、気になる学生の動向、海外交流校訪日団来学 海外提携校協定確認、次年度ハイパークラス
5	4月28日	6名	ニュージーランド日本語教育実習プログラム、気になる学生の動向 カリキュラム（日本文化研究A/B、民俗学A/B）海外留学派遣
6	5月12日	6名	ATJ(オーストラリアプログラム)、ニュージーランド日本語教育実習プログラム 気になる学生の動向
7	5月19日	6名	ニュージーランド日本語教育実習プログラム、高大連携（市立柏）
8	5月26日	6名	AO入試合格者への事前課題
9	6月2日	4名	カリキュラム（別科→日本語専攻2年次編入）
10	6月9日	6名	カリキュラム（海外提携校との単位互換）
11	6月30日	6名	高大連携（市立柏）、課外活動（本学学生と日本語学校留学生との交流会） 日本語イマージョン・プログラム説明会、カリキュラム（海外提携校との単位 互換）
12	7月14日	6名	カリキュラム（日本語教員養成課程科目）、2学期時間割、クラス分け 気になる学生の動向、ビジネス日本語能力テスト（BJT）
13	7月21日	6名	カリキュラム（別科→日本語専攻2年次編入）、屏東日本語教育実習プログラム 気になる学生の動向
14	9月16日	5名	気になる学生の動向
15	9月22日	5名	海外日本語教育機関との提携
16	9月29日	5名	アドミッション・ポリシー
17	10月6日	6名	ビジネス日本語能力テスト（BJT）、気になる学生の動向
18	10月20日	6名	出席管理システム
19	10月27日	6名	ニュージーランド日本語教育実習プログラム
20	11月10日	6名	指定校入試（海外大学）
21	11月17日	6名	カリキュラム（海外提携校との単位互換）
22	11月24日	5名	海外留学派遣、気になる学生の動向
23	12月1日	5名	次年度カリキュラム（日本語演習I/II）、気になる学生の動向、高大連携（市立 柏）
24	12月15日	6名	課外活動（本学学生と日本語学校留学生との交流会）
25	1月19日	6名	次年度海外留学派遣

また、外国語学部では、専攻を横断して全体的ないし将来的な課題を検討するために、毎月定例の運営会議がFD委員会を兼ねているほか、課題に応じて、教務・カリキュラム検討委員会、基礎ゼミ担当者会議、情報FD委員会を設け、FD活動を推進している。特に、学年末（3月24日）には、情

報 FD 委員会主催で「外国語・情報教育プロジェクト」報告会が開催され、活発な質疑応答がなされた。各委員会における FD 活動は次表の通りである。

⑥教務・カリキュラム検討委員会

活動内容については、資料編 6-2 の⑥を参照されたい。

⑦基礎ゼミ担当者会議

	開催日	参加者	主な内容
1	4月22日	17名	学生相談センター合同授業、テキスト、汎用的能力の育成、各クラスの授業実践報告
2	5月20日	13名	学生相談センター合同授業振り返り、図書館ガイダンス、汎用的能力評価振り返り、各クラスの授業実践報告
3	6月10日	15名	汎用的能力評価結果、図書館ガイダンス、道徳科学教育センター合同授業各クラスの授業実践報告
4	7月22日	15名	道徳科学教育センター合同授業振り返り、自校史学習、各クラスの授業実践報告
5	9月8日	14名	自校史学習、キャリアセンター合同授業、次年度カリキュラム(授業内容)、各クラスの授業実践報告
6	10月7日	15名	自校史学習、キャリアセンター合同授業、次年度カリキュラム(授業内容)、各クラスの授業実践報告
7	11月18日	12名	キャリアセンター合同授業振り返り、副専攻オリエンテーション、次年度カリキュラム(シラバス)、2年次「道徳科学」との連携 PBL型、AL型の授業展開、各クラスの授業実践報告
8	12月9日	11名	副専攻オリエンテーション振り返り、次年度カリキュラム(シラバス)、成績評価基準の明確化、各クラスの授業実践報告
9	1月20日	15名	新たな特別授業プログラム、各クラスの授業実践報告

⑧情報 FD 委員会

	開催日	主な内容
1	通年実施	P 検対策教材「CS-One」貸し出しをヘルプデスクにて実施。 P 検団体試験の申し込み受け付けを麗澤ブックセンターで実施
2	4月初旬	外国語学部の授業を Moodle に登録する
3	4月7日	コンピュータ・リテラシー単位認定試験 (Rasti) を外国語学部共通科目と共催
4	6月20日 7月4日 7月18日	ICT プロフィシエンシー検定 (P 検) 団体試験を実施 (1 学期計 3 回)
5	6月25日	FD ワークショップ「Praat を用いた音響分析入門」を開催 (情報教育センターと共催) 講師：柳村 裕氏 (東京外国語大学特別研究員・東京医薬専門学校講師) 1303 教室 (校舎「かえで」3 階)
6	5月～7月7日	Web デザイナー検定勉強会 (全 8 回)
7	6月30日	CompTIA チャレンジキャラバンと CompTIA 資格取得講座説明会 (全 3 回実施 1304 教室) (CompTIA 日本支局, ウチダ人材開発センター, 情報教育センター共催)
8	7月5日, 7日	「コンピュータ・リテラシー」にて情報活用力診断テスト(Rasti) を実施
9	7月(7,8,11日)	情報活用力診断テスト(Rasti) の追試 (未受験者対象の追試)
10	7月10日	Web デザイナー検定(1 学期)試験実施 (外国語学部共通科目と共催)



	開催日	主な内容
11	11月14日 12月19日 1月23日 1月30日	ICTプロフィシエンシー検定(P検) 団体試験を実施(2学期計4回)
12	11月9日～ 12月14日	CompTIA Strata IT Fundamentals 資格取得講座を実施 (ウチダ人材開発センター, 麗澤オープンカレッジ ROCK, 情報教育センター共催) 講座(全5回実施): 11月9日, 16日, 30日, 12月7日, 14日
13	12月21日	CompTIA 検定試験(CompTIA 日本支局, ウチダ人材開発センター, 情報教育センター共催)
14	3月6日	28年度「外国語・情報教育プロジェクト」報告会を開催 日時: 28年3月6日(木) 16:00-18:30 場所: 校舎かえで 1303 教室 プログラム(敬称略): 第一部 授業コース管理システム(CMS)Moodle と e ポートフォリオシステム Mahara の利用実践報告 1. 千葉庄寿 「Moodle と Mahara の概説」 2. 清水哲郎* 「Moodle の『自動出欠』プラグインを利用して」 3. 氏川雅典* 「Mahara を使った授業実践(1)」 4. 笹原健* 「Mahara を使った授業実践(2)」 *外国語学部非常勤講師 第二部: ICT プロジェクト活動報告 1. 杉浦滋子 「Prezi 利用の試み」 2. Merwyn Torikian "videoing student presentations" 3. Richard Walker "XReading and Self-Access Learning" 4. 草本品 「『グローバル CAI』2016 年度報告」 5. 匂坂智子 「コンピュータ・リテラシクラスの理解構造の分析と可視化について: 5年間のテスト結果の IRS 分析より」
15	通年実施	P 検対策教材「CS-One」貸し出しをヘルプデスクにて実施。 P 検団体試験の申し込み受け付けを麗澤ブックセンターで実施

### 3) 課題及び改善・向上方策

28年度のFD活動は、上記のとおり充実したものであった。しかし、改善すべき課題もある。確かに各部門では、中身の濃い議論が積み上げられているが、一方では、カリキュラムの横断化にともない、専攻や科目群を跨ぐような、より高次のレベルのFD活動が望まれる。そのような場をまずは設定する必要がある。

### (3) 経済学部の活動

#### 1) 目的・目標

経済学部は、28年度より4つの専攻制に移行したため、専攻毎に、カリキュラムの策定、検討などを中心的な目的としてFDを実施した。カリキュラムの課題として、オープンキャンパス対応、高大連携戦略、入試戦略の検討、実施もFD活動の目的となる。

#### 2) 本年度の活動

経済学部は、28年度より4つの専攻制に移行し、基本的に専攻毎のFD活動を実施した。各専攻FDでは、初年次のカリキュラムを走らせながら検討を進めるとともに、29年度2年次のカリキュラムの再確認や整備を検討した。また、カリキュラムと同様に、オープンキャンパス対応、高大連携戦略、入試戦略についても議論した。また、基礎ゼミのメンバーが中心となり、初年次教育におけるスタディスキルのための麗澤経済学部版教科書を策定した。

28年度の活動実績は次表の通りである。

①経済専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	5月9日	13名	特別コース、新入生の状況
2	7月4日	15名	次年度カリキュラム（クラス分け）
3	11月7日	13名	次年度カリキュラム（科目担当者）
4	12月5日	13名	次年度カリキュラム（科目担当者、科目変更）

②グローバル人材育成専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	4月2日	13名	新入生オリエンテーション
2	4月9日	8名	カリキュラム（クラス分け）
3	7月7日	14名	次年度カリキュラム（英語科目、卒業要件）
4	12月12日	12名	次年度カリキュラム（時間割）、気になる学生の動向

③経営専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	4月25日	12名	カリキュラム（科目追加）、資格取得支援体制、懸賞論文
2	7月25日	7名	カリキュラム（基礎ゼミ）
3	7月26日	8名	DP、CP、AP、設備の要望
4	11月28日	8名	コア科目時間割

④会計ファイナンス専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	3月30日	8名	資格取得、カリキュラム（基礎演習）
2	10月28日	4名	気になる学生の動向

⑤スポーツマネジメントコース

	開催日	参加者	主な内容
1	4月7日	12名	課外活動（指定クラブとの連携）
2	5月9日	5名	自主プロジェクト進捗、第1回講演会
3	6月7日	6名	自主プロジェクト進捗、第2回講演会
4	8月1日	5名	自主プロジェクト進捗、第3回講演会
5	10月4日	5名	課外活動（指定クラブとの連携）
6	1月6日	3名	次年度カリキュラム（担当者、資格、コーチングセミナー、インターンシップ）

⑥国際教養

	開催日	参加者	主な内容
1	4月14日	6名	次年度カリキュラム（国際社会演習、国際教養）

⑦ESC

	開催日	参加者	主な内容
1	4月21日	7名	TOEIC Bridge 導入、ロゼッタストーン、気になる学生の動向
2	7月14日	7名	気になる学生の動向、学生指導とモチベーションアップのための対策
3	10月27日	7名	次年度カリキュラム（クラス担当、テキスト）
4	1月19日	7名	気になる学生の動向、TOEIC Bridge の結果、次年度カリキュラム（テキスト）

### 3) 課題及び改善・向上方策

28年度のFD活動は、上記のように、専攻毎に、特に初年次及び二年次におけるカリキュラムの充実を目的として実施した。29年度は、引き続き4つの専攻を基軸に、特に三年次以降の専門教育におけるカリキュラムの充実を中心に議論を行う。具体的には、専攻毎の履修パスをより魅力的なものにするためのアイデアや工夫を議論する。基礎ゼミ教育では、28年度に策定した麗澤版スタディスキルの教科書をつかって、いかに授業に反映しながら、学生のスタディスキルを育成するかについて議論しながら、教育を実践する。

## (4) 言語教育研究科の活動

### 1) 目的・目標

- ①修士論文作成指導の問題点を明らかにし、その対策を検討する。特に日本語を母語としない留学生の日本語強化と論文作成支援について検討する。
- ②専攻を超えた形で教員間、並びに教員と院生間の研究交流ができる環境、そして、正規カリキュラム以外の場でも院生が研究の醍醐味や方法論の多様性に対する理解を深められる環境づくりを試みる。

### 2) 本年度の活動

①の目標を掲げ、運営委員会や各専攻会議を利用して、本年度試行した(a)修士1年生の日本語教育センターコースの履修、(b)修士2年生の修士論文作成指導についての問題点を明らかにし、意見交換を行ってきた。(a)については、日本語教育センターの協力を得て、再来年度を目指した大学院生向けの日本語強化コース立ち上げの可能性について意見交換を重ねた。(b)については両研究科長が中心となり、経済研究科と共に来年度に正式科目とするための意見交換を行った。

②の目標を目指し、昨年度に引き続き、(a)年度はじめの履修オリエンテーションを利用した履修内容告知の徹底、(b)専攻単位の院生のメーリングリストを利用した研究会・セミナーの案内を行った。また専攻・研究科を超えて、教員・職員が協働する形で院生の研究活動・交流を支援し、研究科全体の教育・研究活動の活性化を試みた。具体的には、(c)谷川セミナーハウスにおける宿泊研修での三専攻混合の研究ポスター紹介・討論(9月)、(d)大学祭での院生研究ポスター展示(11月)である。(d)は経済研究科と合同で行った。特に3度目となるポスター展示は言語教育研究科からは24名の院生が参加した。研究科長賞を設けて院生の魅力的な論文発表を支援した。これら一連の活動は、院生にとって研究のまとめ方やプレゼンテーションの方法を学ぶ機会となった。また教員にとっては論文指導の方法を模索するFD活動の一環となった。

また、1学期末に共通科目である「アカデミック・スキルズ」と各専攻の基幹科目を中心として、修士1年生を対象としたアンケート調査を行い、授業についての意見を収集した。2学期末には修士2年生を対象としたアンケート調査を行い、「授業」「論文指導」「オリエンテーション」「生活サポート」「正規カリキュラム外活動」などの側面について要望と意見を収集した。さらに、「修士論文構想発表会・研究内容発表会」(5月19日)、「修士論文中間発表会」(10月6日)も、発表者(院生)と研究科教員による活発な質疑応答を通じて教員の論文指導力を向上させる場になっており、言語教育研究科のFD活動の一環と位置付けられる。本年は論文指導が余裕を持って行えるように、発表会のタイミングを昨年までより早期に設定した。比較文明文化専攻においては、さらに12月16日を事前論文提出日とすることにより、主査・副査が指導できる体制を整えた。上記(a)～(d)やアンケート調査や発表会については、運営委員会と研究科FD委員会が中心となり、毎月の運営委員会およびメールによる意見交換でその成果、反省、評価をまとめてきた。その他、各専攻別のFD活動は次表の通りである。

#### ①日本語教育学専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	4月8日	8名	研究生から修士課程に入学した学生のゼミ指導
2	7月14日	7名	学生の動向、次年度カリキュラム
3	11月28日	8名	次年度カリキュラムと担当者(対照言語学概論、日本語学概論、意味論・語用論)

## ②比較文明文化専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	4月1日	7名	修士論文指導、博士後期課程の外国語試験
2	7月7日	7名	入学試験、谷川宿泊研修
3	9月29日	10名	次年度カリキュラム、谷川宿泊研修、修論中間発表会に向けての指導体制
4	10月27日	9名	次年度カリキュラム(科目担当者)、修論指導体制の向上
5	12月15日	7名	修論最終試験に向けての指導体制、次年度カリキュラム(時間割) 留学生向け・日本語論文指導に関する新たな枠組みづくり

## ③英語教育専攻

	開催日	参加者	主な内容
1	5月12日	5名	学部・大学院の接続
2	6月9日	5名	次年度入試問題、次年度カリキュラム(編成)
3	9月8日	5名	次年度カリキュラム(科目担当者)
4	12月1日	5名	次年度カリキュラム(留学生の要件=資格取得、時間割、英語社会言語学)、 3つのポリシー

### 3) 課題及び改善・向上方策

本年度初めて、修士1年生向けの授業アンケートを実施したが、準備のための時間的余裕がなかったため、来年度は余裕をもって準備し、FD活動の一つとしての意義をより明確にする。修士論文作成指導について、構想発表会、中間報告会の日程を昨年までより早めたことを含め、より計画的に副査が中間発表の時期から論文作成支援・相談に関わるような体制を徹底する。また、日本語を母国語としない留学生について、1年次における日本語強化については、大学院での科目化を目指して引き続き日本語教育センターと意見交換を重ねる。2年次における添削支援についてはその成果が上がったことから、来年度は正規クラスとして設置し、より本質的な論文指導ができる体制を検討していきたい。

## (5) 経済研究科の活動

### 1) 目的・目標

- ①定員充足
- ②大学院教育の実質化
- ③博士学位論文(課程博士)提出までの流れの見直し
- ④研究科のグローバル化

### 2) 本年度の活動

本年度は、以下のような会議を開催し、FD活動を推進した。

#### ①経済研究科

	開催日	参加者	主な内容
1	7月5日	12名	留学生の日本語ライティング支援、学生による授業評価アンケート 博士課程語学試験
2	10月31日	18名	次年度カリキュラム(アカデミック・ライティング)、研究生指導の体制、 院生に対する研究倫理の指導、学生による授業評価アンケート

また、前記目標に関する具体的な活動内容は以下の通りである。

#### ①定員管理と学生募集

修士課程の募集定員(15名)充足に向けて、修士課程入学予備軍としての研究生の指導体制充実に向けて検討した。具体的には、履修者が研究生だけ(正規の修士学生の履修者なし)の科目も、原則開講する方針を再確認した。

また、27年度にスタートさせた英語での授業だけで修士の学位を取得できるプログラム（International Program：以下IP）で、一定の学生を確保できる目処がついて来たことをふまえ、このIPの学生募集に一層注力することを確認した。具体的には、4月入学に向けて、従来の10月入試に加えて、新たに3月入試を追加するとともに、9月入学に向けた入試の実質化を図ることを確認すると共に、外国人留学生の確保に向けて、国内の日本語学校に対する募集活動の強化等の必要性を確認した。

## ②大学院教育の実質化

修士課程の学生に対する研究倫理教育のあり方について検討し、毎年、谷川研修（1年次生全員を対象に9月上旬に実施）において研究倫理に関する講義を行うこととし、28年度の谷川研修で初めてこれを実施した。

修士課程においては、修士1年次生は研究計画報告会（4月）、中間報告会（9月）及び先行研究レビュー報告会（2月）、2年次生は中間報告会（5月）最終報告会（11月）という報告の機会を利用し段階的に修士論文を作り込んでいく仕組みを講じているが、それぞれの報告会における学生の報告内容をより充実させる必要性を確認した。

また、税務分野の修士課程学生の修士論文執筆に向けて、学生の当該分野の基礎知識を補うことを目的に、28年度から基礎科目の中に「租税法基礎」という科目を新設し、同分野の修士1年次生および科目等履修生（本学修士課程への進学を目指す学部生）が履修できるようにした。

通常プログラムの外国人留学生について、彼らが一層充実した修士論文執筆ができるように、日本語能力向上のための修論執筆支援プログラムを試行した。こうした試みの成果が十分に確認されたため、H29年度からは「アカデミック・ライティング」という正規科目として設置することを決定した。

IPに関しては、27年度から運用し始めた中での経験を踏まえて、カリキュラムの充実を図った。具体的には、開始翌年度（28年度）から「Research Methodology for Social Science」という科目（基礎専門科目：必修）を新設し、研究生の段階から修士1年次・2年次へと継続して論文指導を行える体制を整備した。

## ③博士学位論文（課程博士）提出までの流れの見直し

27年度より、既存の「博士学位論文（課程博士）の提出と審査に関する手続き」の見直しを開始した。28年度は、より具体的に、学位論文提出までの流れの中で、(1)新たに予備論文審査委員会を設置すること、(2)博士課程語学試験のあり方を見直すこと等について再検討を始めたが、具体的な変更等については29年度以降に持ち越すこととなった。

## ④研究科のグローバル化

26年9月に初めてABEイニシアティブ（African Business Education Initiative for Youth）第1バッチの学生1名を研究生として受け入れ、27年度から英語だけで修士課程を修了できるInternational Program（以下、IP）のカリキュラムを運用し始めた。28年度には、その第1期生（ケニアからの留学生）が無事に課程を修了し、経済学修士の学位を取得した。

また、28年度にはABEイニシアティブ第2バッチの学生3名（モロッコ、タンザニア、モザンビークから各1名）が入学すると共に、第3バッチの学生4名（コンゴ共和国、ボツワナ、南スーダン、ブルキナファソから各1名）を研究生として受け入れた。また、ABEイニシアティブ以外で、29年度入学を目指す研究生3名（ネパール2名、ベトナム1名）を受け入れた。さらに、3月入試で受験した学生1名（ウズベキスタン）を29年度から研究生として受け入れることも決定した。

このようにして、International Programが順調に軌道に乗り始めたことで、大学院の学生が急速にグローバル化し、大学院のフロアでは英語が準公用語となりつつある。しかし一方では、実際にIPのカリキュラムを運用する中で、種々の改善すべき点が浮かんで来たため、28年度からIPカリキュラムの一層の充実に向けて、継続的な改善に取り組んでいる（上記②参照）。

また、27年度に大学院レベルでの研究・教育協定を締結した UNIMAS (Universiti Malaysia Sarawak) に加えて、28年度には新たに USIM (Universiti Sains Islam Malaysia) と大学間での包括協定を締結し、今後の研究・教育交流の検討を始めることになった。

### 3) 課題及び改善・向上方策

#### ①定員管理と学生募集

上述のごとく、International Program が順調に軌道に乗り始めたことで、同プログラムが定員管理において大きな役割を果たすようになった。具体的には、29年度の修士課程新入生における International Program 学生の割合が半数を占めることが決まっている(通常プログラム7名、IP7名)。しかし一方では、既存の通常プログラムの学生(日本人学生および中国を始めとする漢字圏からの留学生)の減少傾向に、いかに歯止めをかけるかが喫緊の課題となっている。

修士課程における日本人学生の確保については、学部との連携強化を図ることが喫緊の課題である。学部の早期卒業制度や特別推薦制度をより有効に活用し、一人でも多く学部からの進学者を確保できるよう、学部との連携の実質化を図る必要がある。

修士課程における留学生の確保については、国内外の日本語学校に対する学生募集活動を強化し、漢字圏からの留学生は通常プログラムに、非漢字圏からの留学生はIPに志願してもらえるようアピールして行く。また、ABE イニシアティブが第5バッチで修了する見込みであることを踏まえて、International Program の学生についても、その後を見据えた学生募集対策を講じて行く必要がある。

博士課程の定員管理に関しては、過去2年にわたって志願者ゼロが続いており、何らかの方法でこの状況を打破していかなければならない。

#### ②大学院教育の実質化

修士課程(税務分野、IPを含む)における教育実質化に向けての努力を継続して行く。とりわけ、IPについては、29年度以降も学生数が増えていくことが見込まれるので、カリキュラムの更なる整備・充実を図るだけでなく、日本語が話せない学生たちの生活環境の整備にも継続的に努力して行く。

#### ③博士学位論文(課程博士)提出までの流れの見直し

28年度から持ち越しとなる(1)予備論文審査委員会の設置、(2)博士課程語学試験のあり方の見直し等を含む博士学位論文(課程博士)提出までの流れの改善について、29年度以降も継続的に検討していく。

#### ④グローバル対応

International Program の将来を見据えて、学生募集およびカリキュラムの更なる充実に向けて、継続的に検討していく。とりわけ、学生募集の範囲を、ABE イニシアティブ以外の非漢字圏からの留学生にも拡大して行く。

また、UNIMAS および USIM などの海外提携校との研究・教育両面での交流を実質化していくための方策(例えば、交換留学生、論文博士取得希望者等の受け入れ等)を、より積極的に模索していく。

## 2-1-6 初年次教育

### 2-1-6-1 目的・目標

本学では、学部新入生が大学での生活を円滑にスタートし、麗澤人としての礎を形成できるように支援することを目的として、初年次教育を実施している。また、この初年次教育の改善をFD活動の柱に位置づけ、全学的な組織化・体系化を積極的に進めることにしている。初年次教育の目標は次の通りである。

- (1) 建学の精神に触れ、大学で学ぶことの意味を考える。
- (2) 基礎的な力を身につける。
- (3) 専門領域を学ぶ動機を形成する。

## 2-1-6-2 本年度の活動

上記の目標に基づき、次のような取り組みを実施した。

### 【目標(1)に関して】

#### ①外国語学部

本学部の初年次教育のスタートに位置づけられる「オリエンテーションキャンプ」は、今年度も宿泊形式で各専攻において実施された。「オリエンテーションキャンプ」の目的は、1. 大学で学ぶことの意味を問いかける、2. 建学の精神と創立者の足跡に触れさせる、3. 同級生のみならず教職員や上級生と親睦を深める、という点に集約される。各専攻の特徴を生かしたプログラムを、上級生主体のPBL（Project Based Learning）方式で企画・立案・運営している。その効果として、新入生の感想文から満足度が高かったことが挙げられる。一定時間をかけた、教・職・学生、三位一体の宿泊形式によってこそ、キャンプ本来の目的が達成されると、あらためて実感される結果となった。

#### ②経済学部

入学式直後に3日間の集中授業形式で、「基礎ゼミナールC」という授業科目として実施している。この中では、グループワークを中心に「KJ法」を用いてブレインストーミングを行い、課題の設定、グループ内での合意形成、討議結果のまとめとプレゼンテーションまでを一通り経験させている。これらのグループ作業を通じて、「自ら考える」という大学での学びへの助走とするとともに、建学の精神を学び、人間関係形成の素地を作ることを目的としている。

### 【目標(2)に関して】

#### ①外国語学部

1年次の必修科目である「基礎ゼミナールA・B」は、大学生に求められる意識や基本的な知的スキルを身につけることを目標としている。具体的には、共通テキスト『大学生学びのハンドブック』を使用しながら、高校（生徒）と大学（学生）との違い、講義の聴き方、ノートのとり方といった基本的な事項から、「読み・書き・話し・聞く」というモダリティにおける4つの基礎的なスキル獲得を目指すものである。1学期は集中的にこれらのスキルを修得させ、2学期はそれを応用しながら、各クラス担当者が専門性を生かし、グループワークやプレゼンテーションの実践的活動を通してアカデミック・スキルの共通基盤を形成する授業を展開している。

また、担当者には専任教員を充てて副担任とし、専攻毎に設けた主担任と協力して、学生の相談にあたる体制を整えている。高校におけるホームルーム的な性格を重視し、学内の各部局・センターの協力を得ながら、1学期に図書館特別授業、学生相談センター特別授業、海外渡航安全教育、2学期にキャリアセンター特別授業、副専攻オリエンテーションといった合同授業を展開している。

28年度は、基礎ゼミ担当者会議を定期的で開催し、担当教員の共通理解とプログラムの改善を図った。

#### ②経済学部

大学での学修に必要なコンピュータやITのスキルを身につけさせる科目として「情報科学」を全ての学生が1年次に履修することとしている。また、経済学・経営学を学ぶ上で必要となる数学的な基礎学力を身につけさせる科目として「基礎数学」を開設し、全ての学生が履修している。また、1年次必修科目である「基礎ゼミナールA・B」においては、担当者に担任機能を持たせ、少人数できめ細かく指導する中で、学びのための基礎的なスキルの修得を図らせている。

### 【目標(3)に関して】

#### ①外国語学部

専攻別の入門・概説科目は、講義により語学・文学研究や地域研究の基礎を学ぶ役割を果たしている。例えば、英語・英米文化専攻の「グローバル・スタディーズ入門」では、地域研究、多文化、グローバル社会などの基本を学ぶ。ドイツ語・ドイツ文化専攻では、言語・社会研究、文学・文化研究の基本的視点を学ぶ「ドイツ語圏入門」、中国語専攻では、歴史的な視点から現代中国の諸問題を読み解く「中

国史入門」、民族学的見地で中国を見る方法を学ぶ「中国民族入門」、中国社会の現在状況を把握しつつ異文化コミュニケーションを学ぶ「現代中国入門」、国際交流・国際協力専攻では、国際ボランティアの概要を学ぶ「国際ボランティア論」など、それぞれの言語を土台にしつつ、それを専門領域の方法論と結びつける科目を配置している。なお、これらの入門・概説科目は専攻の垣根を越えて履修可能であり、たとえば、第二外国語としてドイツ語を選択している学生が、「ドイツ語圏入門」を履修することも可能である。

専攻別の基礎演習科目においては、各専攻言語を用いて様々な専門領域の学習に取り組む素地を作るべく、授業科目を配置している。例えば、英語コミュニケーション専攻の「Discussion on Culture and Society」では、アイデンティティや異文化理解のための導入的授業を行い、英語・英米文化専攻の「Reading in Culture and Society」では、現代社会研究の分析手法を英語文献で学習する。国際交流・国際協力専攻の「国際交流・国際協力基礎演習」は、日本及び世界が抱えている様々な国際問題に気付かせることを通じて同専攻学生の世界観を醸成することを目指し、日本語・国際コミュニケーション専攻の「日本語技術演習」は、同専攻で学んでいく様々な方法論の導入的な役割を果たしている。これら基礎演習科目は、言語能力の向上という側面と同時に、コンテンツの理解を通じた専門領域への誘いという意義を持つ。

## ②経済学部

専門科目への導入として、経済専攻は「経済原論」「基礎ゼミナール」を必修科目とし、基礎専門科目の「経済学基礎研究」を履修必修としている。ここでは、「経済原論」と「基礎ゼミナール」とを連携させ、国際的な標準的教科書の一つである『マンキュー経済学』を用いた教育を行っている。経営専攻は、「経営学概論」「基礎ゼミナール」を必修科目として、基礎専門科目である「経営学基礎演習」を履修必修としている。「基礎ゼミナール」においては、経営学が実践的の学問であることを踏まえて、1学期には「ビジネスゲーム」という教育手法を用いて企業経営の様々な面を疑似体験させ、少人数により学習させている点の特徴である。2学期においては、共通のテキストを決め、それを用いたグループワークなど、実践的な授業を実施している。会計ファイナンス専攻は「会計ファイナンス概論」「基礎ゼミナール」を必修科目とし、基礎専門科目において24単位を履修必修とし、基礎を身につけさせることを重視している。グローバル人材育成専攻は、基礎科目において、「基礎ゼミナール」「経済原論」「経営学概論」「グローバル人材概論」を必修科目とし、経済、経営の基礎を幅広く学ぶようにしている。またSクラスの学生は「経済原論」「経営学概論」に替えて、英語で行う「Principles of Economics」「Principles of Management」を履修する。各専攻の「基礎ゼミナール」は、初年次生をスムーズに基礎的専門教育に導入するためのものであり、少人数のクラス編成を行い、演習形式で経済学・経営学の基礎教育を実施している。

以上の取り組みは、次表のように整理することができる。

目的	外国語学部	経済学部	目的
建学の精神と創立者の足跡に触れ、大学で学ぶことの意味を考え、大学生活の目標や見取り図を作る	オリエンテーション キャンプ	基礎ゼミナール C	人間関係形成の素地を形成
大学生に求められる意識や学習方法の基礎的な力を身につける	基礎ゼミナール A・B コンピュータ・リテラシー	情報科学 基礎数学 基礎ゼミナール A・B	専門領域を学ぶ基礎的な力を身につける
専攻言語を用いた専門領域の学習に取り組む素地を作り、語学・文学研究や地域研究の基礎を形成する	基礎演習科目	基礎科目	専門領域を学ぶ動機を形成する
	入門・概説科目	基礎専門科目	



### 2-1-6-3 課題及び改善・向上方策

両学部とも初年次教育科目を配置しており、各科目においてクラス分けを行っている関係から、クラス担任機能の一部も担っており、学生指導も適切に行われている。29年度より道徳科学の授業が、1年次から2年次に移行することから、カリキュラム改革に合わせて、初年次教育の内容について、さらなる検討を行った。

### 2-1-7 キャリア教育

#### 2-1-7-1 目的・目標

建学の精神に基づく「真の国際人」育成を目指し、キャリア形成を幅広く支援し、社会との接続を支援することを目的とする。

#### 2-1-7-2 本年度の活動

現在、19年度から開講している「キャリア形成入門」「キャリア形成研究」「キャリア形成演習」、21年度から開講している「麗澤スピリットとキャリア」「ジェンダーとキャリア形成」の5科目をキャリア教育科目として開講している。

開講以来現在まで、目的である『建学の精神に基づく「真の国際人」』を育成すべく、本学の理念を踏まえた授業を実施してきた。

上記に加え28年度は、インターンシップへの参加や選考に必要な基礎学力、社会人基礎力、表現力といった人間力の育成を図ることに注力した。

科目名	開講時期	履修推奨年次	履修者数
麗澤スピリットとキャリア	第2学期	1年次	61名
ジェンダーとキャリア形成	第1学期	1～4年次	53名
キャリア形成入門	第1学期	3年次	163名
キャリア形成研究	第2学期	3年次	126名
キャリア形成演習	第2学期(冬期集中)	3年次	288名

麗澤スピリットとキャリア：麗澤大学へ入学したことへの不安や、不本意入学者が抱くネガティブなイメージを払拭し、この大学で学ぶことへの期待感を醸成すべく、本学の歴史や環境、創立者の建学の精神を学ぶこと等に最も重点を置く。その他、プレゼンテーションの技法を学び、将来の就職活動や社会における表現能力の向上を図る。

ジェンダーとキャリア形成：特に男女雇用機会均等法施行後の、社会人のキャリア形成をめぐる環境変化を理解し、男女共同参画社会に対する認識を深めながら将来を展望する。本学及び併設校の女性卒業生を中心に、建学の精神への理解が深い外部講師を招聘し、講義の中で体験談を語っていただくことで、麗澤教育の目指す人物像をイメージさせる。

キャリア形成入門：職業選択の幅を広げ、卒業後の将来をグローバルにかつ志高く展望させて、学生生活の目標を持たせる。また、インターンシップへの参加を目標としたPBL型のプログラムを展開し、人間力の育成に力を入れた。

キャリア形成研究：将来の就業場所を考えるべく、様々な業種について学ぶことで視野を広げる。特に主だった業界のリーディングカンパニーより講師を招聘して、様々な業界の仕組みや今後の展望について学んだ。その他、冬と春のインターンシップに向けて企業研究についての手法を考察した。

キャリア形成演習：書類選考や面接試験で発揮できる表現力を実践的に養う。模擬面接によってプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高め、就職試験のためだけでなく、卒業後の社会人としてのキャリアまでを見据えて、能力の向上を図る。1クラス30人前後のクラスを9クラス設け、少人数制できめ細かい指導を実施。授業の運営は、主担任の外部講師と主担任をサポートするSAを中心に行われるが、学生一人ひとりの能力や適性を把握すべく、キャリアセンター教職員も各クラスの巡回にあたる。

また、22年度から企業等でのインターンシップについては、学生からの申告に基づき、一定の条件を満たせば「インターンシップA・B」（各1単位）での単位認定を行っている。

### 2-1-7-3 課題及び改善・向上方策

これまで、キャリア教育と就職支援の連動と強化を図るべく、授業内で企業の協力を仰いだ業界研究や企業研究、卒業生による講義などを増やしてきたが、昨年度その効果が見られなかったことから、28年度は業界セミナーを就職支援のイベントとして実施。その分、キャリア教育は社会人基礎力や表現力といった人間力の育成に重きを置くことで、将来の選考にも役立つ授業を行った。

## 2-2 外国語学部

### 2-2-1 教育目的・目標

外国語学部の目的は建学の精神「知徳一体」を基軸にした国際教養教育及び人格教育によって、多言語・多文化の平和的共存を実現するための包括的な価値観の形成及び人格陶冶を目指し、グローバル化に対応できる国際的教養人を育成することである。

この目的を踏まえて、外国語学部では次のような目標を設定している。

- ①導入教育（入学式直後のオリエンテーションと新入生オリエンテーションキャンプ）において、大学で学ぶことの意味を問いかけ、建学の精神と創立者の足跡に触れさせ、同級生のみならず教職員や上級生と親睦を深めることによって、大学生活の目標や見取り図を作らせる。
- ②共通科目のうち1年次に「基礎ゼミナール」において、大学での効率的な学習方法を身につけ、また2年次に「教養ゼミナール」を設けて、語学以外の幅広い教養に対する関心を涵養して、2年次以後の専門的で高度な内容を学ぶ準備を行う。これらの授業はいずれも少人数・学生参加型のゼミ形式で行う。
- ③共通科目のうち情報処理に関する科目において、語学力やコミュニケーション能力、判断力を形成するための基礎となる知識の修得を目指す。
- ④外国語科目のうち英語において、少人数教育、習熟度別クラス編成、ネイティブ教員による授業をさらに推進するとともに、共通アセスメント・テストの実施により教授システムの改善を図る。
- ⑤外国語科目において、少人数クラス編成とそれぞれの言語の母語話者の教員の確保に努め、学生の多言語修得（外国語と日本語の比較を踏まえた言語一般に対する理解を含む）と多文化理解を促進する。また第二外国語として履修したドイツ語・中国語・韓国語・タイ語が特に優秀な者は、ドイツ・中国語圏・韓国・タイにそれぞれ留学して専攻語を学んだり、英語専攻以外の学生が英語圏に留学してそれぞれの専攻語の学習を行ったりする「クロス留学」を推進する。

各専攻等においては次のような目的を設定している。

#### (1) 英語コミュニケーション専攻、英語・英米文化専攻の目的

##### a) 英語コミュニケーション専攻

英語の4技能（Listening、Reading、Speaking、Writing）を徹底的に磨きながら、英語による情報発信能力を高める。「英語学」「英語教育学」「コミュニケーション学」の方法論を学び、英語を実践的に運用できる人材を育成する。

##### b) 英語・英米文化専攻

「コミュニケーション・ツールとしての英語」「英語文学・文化」「英語圏地域研究」を柱として学び、英語圏文化に対するリテラシーを高める。英語で発信される情報に積極的にアクセスし、多様で豊かな英語圏文化を幅広く理解することで、多文化社会に貢献できる人材を育成する。

以上の目的に基づき、具体的には以下のような教育を目標としている。

- ①英語の運用能力を向上させる。いわゆる 4 技能 (Listening, Reading, Speaking, Writing) の実力養成のため、次のような目標を設定している。
  - a. **Listening** : 日常英語の聞き取りはもちろんのこと、英語による授業、英語ニュースの聞き取りなどができるように教育し、指導する。
  - b. **Reading** : 英字新聞や雑誌、小説、専門書などを読んで内容が理解できるように教育し、指導する。
  - c. **Speaking** : 日常会話はもちろんのこと、ディスカッション、プレゼンテーション、スピーチ、ディベートなどができるように教育し、指導する。
  - d. **Writing** : 文法的に正確な文章はもちろんのこと、読み手にとって理解しやすく、効果的な文章が書けるように教育し、指導する。また、パラグラフ・ライティングから始めて、最終的には研究論文を英語で書けるように教育し、指導する。
- ②自律的学習者の育成を目指す。
  - a. 1・2 年次の入門科目及び概説科目で英語学、コミュニケーション、英米文学・文化、英米地域研究に関する基礎的専門知識を修得させ、以後の専門性確立の基盤とする。
  - b. 英文ポートフォリオ (Making My Dreams Come True) を作成させ、卒業時の自分の目標を考え、その実現のためにはこれからどう行動していけばよいか考えさせる。
  - c. 有意義な大学生活が送れるように、学生の学習の進捗状況や生活状況を把握し、助言できるように、クラス担任による面談を行う。
  - d. 専門性の確立に直結するものとしての「専門コースゼミナール」と「卒業研究」に重点を置く。
  - e. 英語劇グループや E.S.S. (English Speaking Society) など、英語関連の課外活動を奨励する。
  - f. 優秀で意欲のある学生には大学院開講科目の履修を奨励する。
- ③新入生オリエンテーションキャンプは、宿泊式の利点を生かして、本学の学生としての自覚を持たせ、教員の考えを知るとともに生の英語に触れさせ、かつ新入生が自らグループ単位で英語パフォーマンスを行うことを目標とする。併せて、スタッフとして参加する上級生の成長も促していく。

## (2) 国際交流・国際協力専攻

国際交流・国際協力専攻の目的は、多様な学習機会と実践体験を通して「4 つの C」< Communication (コミュニケーション能力)、Compassion (共感する力、思いやる力)、Commitment (関わろうとする意思、行動力)、Capability (専門的な知識と技能) > を身に付けた、グローバルな視野を持ち、社会に貢献できる人材を育成することである。専攻として、以下のことに取り組むことを狙いとした。

- ①学生が利用できる留学機会、インターンシップ機会の拡充を図る。
- ②カリキュラムの合目的性、整合性を検討し、必要があれば調整又は修正を図る。
- ③専攻の将来を見据えて教員補充並びにカリキュラムの充実を図る。

## (3) ドイツ語・ドイツ文化専攻

ドイツ語・ドイツ文化専攻の目的は、ドイツ語 (及び英語) によるコミュニケーション能力と異文化適応能力、さらに柔軟な発想力と創造力を兼ね備え、周囲と協同して問題解決にあたる人材を育成することである。この目的を達成するために、以下の事項に区分して、それぞれに教育目標を定めている。

### ①言語運用スキル

- ・ヨーロッパ共通参照枠 (CEFR) に準拠した教育プログラムをドイツの提携大学と連携しながら実践する。
- ・1 年 1 学期～2 年 1 学期 : 学生全員が A1 に合格する。
- ・日本人とドイツ人教員の連動による効率的な学習を目指すとともに、自律学習ソフトも活用する。
- ・2 年 2 学期～3 年 1 学期 : A2～B1 (Zertifikat Deutsch) 合格を目標とする。
- ・ドイツの提携大学への留学を前提とし、多文化化するドイツ・ヨーロッパ社会を実体験する。
- ・3 年 2 学期～4 年 2 学期 : 全員が B1 同等の語学力を有し、一部の学生が B2 に合格する。

- ・学習能力別及び分野別に細分化された上級段階の演習を実施する。

#### ②アカデミック・スキル

- ・ドイツ語教育を通じて、リサーチ力、プレゼンテーション力を高める教育を行う。
- ・1年1学期～2年1学期：日本語による資料検索、レポート作成力育成（予備段階）
- ・2年2学期～3年1学期：ドイツ語による資料検索、プレゼン能力の育成（初歩段階）
- ・3年2学期：上記の発展的段階で卒業研究への移行期間
- ・4年：主体的なリサーチ（アンケートやインタビューなど）に基づく卒業研究

#### ③コンテンツ教育

- ・1年：ドイツ語圏に関する基礎的な知識を得ることにより、学習対象に対する関心を高める。
- ・2年：ドイツに限らず、広くヨーロッパ事情について理解する。
- ・3・4年：言語、文化、社会事情に関する専門知識を高める。

#### ④その他

- ・ドイツ人留学生との学習サークル活動等により、外国人とのコミュニケーション力の向上を図る。

### (4) 中国語専攻（中国語・中国文化専攻）

中国語専攻の目的は、実践に役に立つ中国語の運用能力を身につけるための基礎を徹底して固め、異文化コミュニケーションに関する基礎的対応能力を高めるとともに、言葉の背景にある歴史や文化にも目を向けさせ、将来の東アジア関係を視野に入れ、中国語に堪能で、かつビジネスに精通した人材を養成することである。次のような学年ごとの達成目標を設定している。

#### 【1年次】

- ①大学と高校の学びの違いを認識させるとともに、しっかりとした目標を設定し、それに向かって自立的に努力できる姿勢を確立させる。このため、まず4年間の勉学の内容をよく紹介し、それぞれの時期の心構えと目標設定の方法を詳しく説明し、将来に向けた段階的な取り組み内容を示唆する。目標シートを提出させ、目標の具体的設定をサポートする。
- ②実践に役に立つ中国語の運用能力を身につけるための基礎を徹底して固める。中国語学習の最重要ポイントである発音習得を徹底させ、また簡単な日常会話1,000句ほどを暗誦させ、中国での基礎的生活能力を涵養する。
- ③異文化コミュニケーション教育に重点を置き、「現代中国入門A」で日中異文化コミュニケーションに関する基礎的対応能力を高める。
- ④単に言語学習に止まらず、言葉の背景にある歴史や文化にも目を向けさせる。入門科目の「中国史入門」「現代中国入門B」「中国民族入門」で、現在までに至る中国の歴史と現代中国の諸問題、中国民族文化の諸相について理解させ、問題意識を持たせる。

#### 【2年次】

- ①1年次に引き続き、実践に役に立つ中国語の運用能力の向上を図る。
- ②読解能力の向上に努め、3年次以降のテーマ研究に必要な情報収集読解能力を向上させる。
- ③留学や諸行事を通し、国際的な視野を育み、問題意識の発掘に努める。

#### 【3・4年次】

- ①社会の動きに関心を持ち、的確な情報収集と分析ができる人材を育成する。
- ②ゼミを通し、論理的思考力を培い、就職へ向けた意識改革にも力を入れる。
- ③3年次生全員にHSK（漢語水平考試）を受験させ、卒業時の語学能力保証プログラムに向けた教育に必要な基礎データを収集する。
- ④各種コンテスト、検定試験、イベントなどに積極的にチャレンジさせることにより、逞しい精神力と自信を獲得させる。

#### 【全体】

- ①中国語劇活動などを通して、専攻の一体感と、上級生と下級生とが相互に助け合い協力し合い支え合う喜びを体得させ、人間関係を大事にする事の素晴らしさを学ばせる。

(5) 日本語・国際コミュニケーション専攻（日本語・日本文化専攻）

日本語・国際コミュニケーション専攻は、日本語及び日本文化に通じ、多言語・多文化に理解を持ち、世界的視野に立って活躍する人材を育成すること、また文化や考えの異なる相手に対して自身の意見・考えを伝えられるコミュニケーション力を英語及び日本語で養成し、さらに留学生と日本人学生のコラボレーションを通じて、多文化共生の方法論を学ぶことを目的としている。

以上の目的に基づき、次のような教育目標を設定している。

- ①自らデータを収集し、分析する能力を育成する。
- ②視点を日本語に限定せず、他の言語との対照分析ができる学力をつけさせる。
- ③それぞれの言語圏で日本語教育に従事できるスペシャリストの育成を目指し、日本人学生には英語やアジアの言語を副専攻として深く学ばせる。
- ④日本の文化、文学、歴史などに関する科目の履修を通して、日本語のみならず日本語の背景を理解させる。
- ⑤留学、日本語教育実習、フィールドワークなどの体験学習を重視する。
- ⑥コンピュータを専門の研究に活用するカリキュラムを実施する。
- ⑦日本語専攻以外の学内外研究者の研究に直接触れる機会を設け、学生の研究の質の向上と関心の広がりを図る。
- ⑧留学生の言語・文化的背景に応じた日本語教育を行う。
- ⑨日本人学生、留学生それぞれのニーズに応じた、きめ細かいガイダンスを実施する。
- ⑩日本人学生が留学生のチューターとなるチューター制度などを通して、留学生と日本人学生のコミュニケーションの機会を設定し、双方向の具体的な言語・文化の理解を図る。

2-2-2 本年度の教育活動

(1)開講科目

28年度の授業科目の開講状況は次表の通りである。

科目分類			開講	開講クラス数			開講コマ数		
			科目数	1学期	2学期	通年	集中	1学期	2学期
英語コミュニケーション専攻		基礎演習科目	24	56	52	0	1	116	114
		入門・概説科目	8	6	6	0	0	6	6
		上級演習科目	21	38	34	0	1	24	20
		上級専門科目	13	7	9	0	0	7	9
英語・英米文化専攻		基礎演習科目	28	71	70	0	1	65	63
		入門・概説科目	12	8	9	0	0	8	9
		上級演習科目	21	40	36	0	1	22	19
		上級専門科目	16	8	8	0	0	8	8
国際交流・国際協力専攻	専攻専門科目	基礎演習科目	40	40	34	0	4	49	47
		入門・概説科目	11	8	6	0	1	7	6
		上級演習科目	17	11	10	0	2	9	8
		上級専門科目	18	8	10	0	0	8	10
ドイツ語・ドイツ文化専攻		基礎演習科目	24	22	17	0	0	22	17
		入門・概説科目	7	3	4	0	0	3	4
		上級演習科目	15	6	11	0	0	6	9
		上級専門科目	16	8	8	0	0	8	8
中国語専攻		基礎演習科目	21	12	11	0	0	11	11
		入門・概説科目	8	4	4	0	0	4	4
		上級演習科目	25	13	12	0	0	12	12
		上級専門科目	7	4	3	0	0	4	3

科目分類			開講 科目数	開講クラス数			開講コマ数		
				1学期	2学期	通年	集中	2学期	科目数
日本語・ 国際コミュニケーション専攻	専攻専門科目	基礎演習科目	28	26	30	0	0	30	34
		入門・概説科目	5	4	2	0	0	4	2
		上級演習科目	20	12	11	0	0	11	11
		上級専門科目	19	12	8	0	0	12	8
卒業研究科目			4	35	35	38	0	34	34
共通科目			106	117	112	0	8	99	92
外国語科目		英語	18	49	39	0	1	103	89
		ドイツ語	10	9	9	0	0	15	15
		中国語	10	13	13	0	0	23	23
		フランス語	8	5	5	0	0	8	8
		スペイン語	8	8	8	0	0	14	14
		イタリア語	8	4	4	0	0	6	6
		タイ語	8	4	4	0	0	6	6
		韓国語	8	8	8	0	0	14	14
		日本語科目	34	56	56	0	0	75	75
計			646	735	698	38	20	853	818

\*開設科目数、クラス数、コマ数のいずれも、専攻間の重複を含む。

\*\*各学期開講コマ数には、通年開講科目のコマ数を含む（集中講義のコマ数は含まない）。

## (2)外国語学部全体

### ①基礎ゼミナール

基礎ゼミナールでは、学部共通の初年次教育の科目として、スチューデントスキル、スタディスキル、2年次以降の学びの導入（専門分野と倫理道德の学習）、自校の学習の以上四項目の教育内容を中心に、オリエンテーション、心の健康教育、キャリア教育などの要素も組みこんだ授業を展開した。具体的な展開としては、全クラス統一のテキスト『大学生学びのハンドブック』の活用を基盤とした通常授業、図書館オリエンテーション、学生相談センター講話、キャリアセンター講話、道德科学教育センター講話、副専攻オリエンテーションなどの特別合同授業を行った。

また、関係部局職員を交えた担当教員会議を下記のとおり計9回開催し、基礎ゼミの運営や改善に向けた検討を行った。

開催日	内容
第1回(4/22)	初回授業の状況把握の共有化、学生相談センター講話の打合せ、汎用的能力自己測定の打合せ、授業実践報告
第2回(5/20)	図書館オリエンテーションの打合せ、汎用的能力自己測定の振り返り、来年度基礎ゼミナール時間割の検討、授業実践報告
第3回(6/10)	道德科学教育センター講話の打合せ、大学の中期計画の周知・確認、授業実践報告
第4回(7/22)	2年次必修科目「道德科学A・B」のガイダンスの検討、2学期「自校の学習」の打合せ、授業実践報告
第5回(9/8)	キャリアセンター講話の打合せ、2学期のスケジュール確認、29年度基礎ゼミカリキュラムの検討、授業実践報告
第6回(10/7)	2学期「自校の学習」の打ち合わせ、授業実践報告
第7回(11/18)	副専攻オリエンテーションの打合せ、2年次必修科目「道德科学A・B」との連携、PBLの検討、授業実践報告
第8回(12/9)	成績評価基準の確認、29年度の運営体制の打合せ、授業実践報告
第9回(1/20)	基礎ゼミ授業案内作成の打ち合わせ、ビブリオバトル等新たな取り組みの検討、授業実践報告

②「自主企画ゼミナール」は、以下の通り開講した。

1 学期	2 学期
「麗澤大学創立者、廣池千九郎に関して研究し、道徳についての学びを深める。」	「麗澤大学創立者、廣池千九郎について研究し、道徳についての学びを深める」
「ミクロネシア連邦での環境教育活動を通じてプロジェクトのPDCA を実践的に学ぶ」	「ミクロネシア連邦での環境教育活動プロジェクト」
「日本文化を世界に発信」	「現代フィンランドの言後と社会」
「現代フィンランド語の基礎」	「英語科教員試験対策」
「カンボジアにおける教育支援プロジェクト策定」	「教職教養特別演習」
	Diversity in Popular Films
	PCM を用いたカンボジア初等教育支援プロジェクト

③専門ゼミナール及び卒業研究

専門ゼミナール及び卒業研究は 36 クラス設けた。第 6 回卒業研究コンテストを実施し、推薦論文数 23 本の中から最優秀賞 1 本、優秀賞 3 本を選考し、表彰した。

④副専攻

28 年度入学者副専攻選択状況

英語教育	日本語・国語教育	言語・情報	EU 地域	英語圏	東アジア	比較文化・比較文明	国際交流	ビジネス	21 世紀の人間学
58	10	12	12	24	18	80	51	41	2

27 年度入学者副専攻選択状況

英語教育	日本語・国語教育	言語・情報	EU 地域	英語圏	東アジア	比較文化・比較文明	国際交流	ビジネス	21 世紀の人間学
59	17	14	26	20	8	125	44	20	3

⑤28 年度 12 月実施 TOEIC IP テスト結果

2 年次生	A	E	J	I	D	C
平均点	506.5	447.4	421.4	423.0	378.8	299.3
2 年間の伸び	141.3	101.8	50.2	80.8	27.4	14.6

1 年次生	A	E	J	I	D	C
平均点	455.2	437.6	398.6	444.4	377.6	393.2
1 年間の伸び	81.8	89.3	56.4	56	28.7	48.7

⑥外国語学部に関係する行事等

- a. 7 月 7 日に ANA ビジネスソリューション株式会社と教育連携協定の調印を行った。この協定に基づき、ANA エアラインスクールのベーシックコース（2 月）と ANA 成田空港での実務体験（3 月）をセットにした「ANA エアラインスクール学内講座」を開講した（参加者 14 名）。
- b. 11 月 11 日～13 日にアメリカ合衆国ワシントン D.C.にて「全米模擬国連大会」が開催され、第 6 期麗澤模擬国連団体の代表 8 名が参加した。発足以来、初めて『アウトスタンディングポジションペーパー賞』を受賞した。
- c. 1 月 18 日に『第 2 回留学プレゼン・フェス』を開催した。留学先（プログラム）別に 7 チームが参加した。各チーム 10 分の持ち時間で、プレゼンテーション（発表）は 5 分間。発表者は教室に常設されたパソコンに画像や PPT（パワーポイント）を駆使して、各プログラムの内容、思い出や失敗談を報告した。このイベントは、留学した学生の素晴らしい体験を発表する場を作ると共に、留学希望の学生にとっては留学先での生活のイメージを膨らませることができ、留学へ行くことを迷っている学生にとっては意思決定の後押しにもなっている。

- d. 11月3日に本学にて「第2回高校生英語スピーチコンテスト」を、暗唱部門とスピーチ部門の2部門に分けて行なった。暗唱部門には25名、スピーチ部門には22名、合計47名のエントリーがあった。
- e. 12月17日(13:00~16:30)及び18日(10:00~17:10)に「英語劇ワークショップ Express Yourself in English」を開催した。マーウィン・トリキアン准教授(英語劇グループ顧問)と英語劇グループメンバー9名が計12名の参加者に対して1日半の演劇指導や英語表現指導を行った。

⑦情報FD委員会(「外国語・情報教育プロジェクト」の活動を含む)

通年実施	P検対策教材「CS-One」貸し出しをヘルプデスクにて実施 P検団体試験の申し込み受けつけを麗澤ブックセンターで実施
4月8日	FDワークショップ「コース管理システム Moodle& eポートフォリオシステム Mahara」を開催(情報教育センターと共催) 講師:千葉 庄寿 場所:校舎「かえで」1303教室
4月7日	コンピュータ・リテラシー単位認定試験(Rasti)を外国語学部共通科目と共催
5月~7月7日	Webデザイナー検定勉強会(全10回)
6月20日 7月4日 7月18日	ICTプロフィシエンシー検定(P検)団体試験を実施(1学期計3回)
6月25日	FDワークショップ「Praatを用いた音響分析入門」を開催(情報教育センターと共催) 講師:柳村 裕氏(国立国語研究所 非常勤研究員) 場所:校舎「かえで」1303教室
7月5日・7日	「コンピュータ・リテラシー」にて情報活用力診断テスト(Rasti)を実施
7月7,8,11日	情報活用力診断テスト(Rasti)の追試(7月5日・7日の未受験者対象)
7月10日	Webデザイナー検定(1学期)試験実施(外国語学部共通科目と共催)
6月30日	CompTIA チャレンジキャラバンと CompTIA 資格取得講座説明会(CompTIA 日本支局,ウチダ人材開発センタ,情報教育センターとの共催)
11月14日 12月19日 1月23日	ICTプロフィシエンシー検定(P検)団体試験を実施(2学期計3回)
11月9日~ 12月14日	CompTIA Strata IT Fundamentals 資格取得講座を実施 (ウチダ人材開発センタ,麗澤オープンカレッジ ROCK,情報教育センター共催) 講座(全5回実施):11月9日・16日・30日,12月7日・14日
12月21日	CompTIA 検定試験(CompTIA 日本支局,ウチダ人材開発センター,情報教育センターとの共催)
3月6日	28年度「外国語・情報教育プロジェクト」報告会を開催 日時:29年3月6日(月)16:00-18:00 場所:校舎「かえで」1303教室 プログラム(敬称略): 第一部:授業コース管理システム(CMS)Moodleとeポートフォリオシステム Mahara の利用実践報告 千葉 庄寿「Moodle と Mahara の概説」 清水 哲郎氏(外国語学部非常勤講師)「Moodle の『自動出欠』プラグインを利用して」 氏川 雅典氏(外国語学部非常勤講師)「Mahara を使った授業実践(1)」 笹原 健氏(外国語学部非常勤講師)「Mahara を使った授業実践(1)」 第二部:ICTプロジェクト活動報告 杉浦 滋子「Prezi 利用の試み」 Merwyn Torikian "videoing student presentations" Richard Walker "XReading and Self-Access Learning" 草本 晶「『グローバル CAI』2016 年度報告」 匂坂 智子「コンピュータ・リテラシークラスの理解構造の分析と可視化について:5年間のテスト結果の IRS 分析より」
3月15-25日	コース管理システム「Moodle」とe-Portfolio システム「Mahara」のメンテナンスを実施



## ⑧麗澤グローバルひろば

### a. グローバルひろばを設置した経緯

平成 25 年 8 月に開設されて以降、学内において異文化交流や学生間の情報共有の場として多種多様なイベントや交流を続けてきた。ひろばには、JICA（国際協力機構）より譲り受けた世界各地からの寄贈品や書籍、民芸品を展示する事で、授業用の教室とは一味違った異文化空間を演出し、訪れる学生達に異文化コミュニケーションの発信基地としても広く活用されている。27 年度に新たに設置された電子黒板機能付きの 60 型大型 TV モニター及び PC、更に折りたたみ式のテーブル・ラックが付いたキャスター付き椅子 40 脚が導入され、利用する学生はもちろん関わる教職員の使い勝手が向上し、より応用的な ICT 利用も可能となった。28 年度は、学部生と当学に ABE イニシアティブで留学中の学生との交流イベントを手始めに行い大成功であったが、今後も継続して様々な国際交流行事で利用されることが期待されている。

### b. グローバルひろばの目的と目標

麗澤大学に於いても PBL 型学習が徐々に導入されてきているので、今後も、教職員・学生間でひろばを活用する事で PBL 型学習機会を更に増やして行きながら、その成果を発表する様々なイベントや交流会の開催に繋げていきたい。既に PBL 学習団体に所属する学生の勉強会等でも頻繁に利用されるようになってきているが、29 年度からは、麗澤グローバルひろば委員会の教員を中心に、より多彩な形で利用できる方法を考え出していく予定である。

### c. 28 年度のグローバルひろばの鍵貸出回数は下記の通りである。

#### <1 学期>

回数	利用内容
71 回	ミクロネシア研修打合せ、自主企画ゼミ、Japanesia 打合せ、ネパール PBL 打合せ、Plas 打合せ、黒須ゼミ、プアン打合せ、模擬国連ミーティング、国際千葉フェスタ、IEC オープンキャンパス打合せ

#### <2 学期>

回数	利用内容
58 回	Japanesia 打合せ、Plas 打合せ、ミクロネシア研修打合せ、オープンキャンパス打合せ、ASPIRE 打合せ、授業に伴うプレゼン準備、模擬国連ミーティング、地雷セミナー・RICAD 開催準備等

### d. 今後の課題と展望

今後、キャンパス内のグローバル化推進施設と連動して、学生達が目的に応じて使い分けられる様な工夫を凝らすことによって、今以上に利用回数も増え、新たなイベントや研究会などを企画できるようになる。麗澤グローバルひろば委員会の教員が率先して、学期毎に企画立案したものを確実に実行していけば、29 年度には他の関連施設との連携利用により、学生達がより楽しくグローバル化教育に取り組んでいくと展望している。

## ⑨iLounge

iLounge では、楽しみながら英語を身につける機会を多くの学生に提供する目的があるが、平日の 10 時半から 17 時半まで、毎日コーディネーター（英語ネイティブ）が常駐し、日本人スタッフがサポートする形で、訪れる学生対応や様々なイベント活動をサポートしている。また 26 年度から導入した Student Assistant (SA) 学生については、28 年度は 6 人の学生を SA として採用し、4 月当初のトレーニングを経て、iLounge 活動の運営にも関わってもらった。SA が企画したイベントなども他学生に好評で、カフェラウンジ全体の活性化の一旦を担った。iLounge では各種イベントを開催し、ランチタイム・ミュージック・イベントやランチタイムを利用した日本文化イベント、その他留学経験のある SA 学生による英語のみでなく、多言語での会話練習などの場所にもなっている。英語必修授業（1、2 年生）の担当教員と連絡を取り、スタンプ・カード利用により学生のモチベーションを高めるとともに、日頃から意欲的に会話やコミュニケーション能力を磨くことに対する取り組みを行った。

コーディネーターと SA の協力で学内ポスターを展示し、天井を利用したイベント紹介のフラッグ展示など独自性のあるデザインで作成された。28年度の利用者数は、延べ 10,010 人と、昨年度の 8,712 人より 1,298 人も多くの学生が利用した。日頃から、コーディネーターや SA の努力が実り、英語による活動のほかに、ボランティア上級生が中心となった多言語による活動を取り入れながら行った。今後は、より多くの言語を扱う SA 参加により、より一層の iLounge の活性化を目指したい。

28年度に iLounge で行われた主な活動やイベントは、以下の通りである。

主な活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Stamp cards, class visits and teachers' assignments</li> <li>• Short dialogs: Survival level proficiency before traveling abroad (主なトピックは At the Airport, Restaurants, Meeting the Host Family and Shopping) ※ドイツ語版も使われている。</li> <li>• Pelman game cards 初級レベルの学生 4-5 人用</li> <li>• Questions cards (3 steps)</li> <li>• Scrabble</li> <li>• "Hotel California"(すごろくタイプゲーム)</li> <li>• Werewof game</li> </ul>
イベント	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Pack Your Bag game event</li> <li>• Listen Think Volunteer</li> <li>• Tanabata</li> <li>• iLounge mini theatre (class related)</li> <li>• Halloween Event</li> <li>• Music event</li> <li>• Christmas Party Singalong</li> </ul>
プレゼンテーション・報告会	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ボランティアグループ報告会 (ネパール、カンボジア、秋田、ミクロネシア)</li> <li>• 国際ボランティア演習・英語圏インターンシップ 事前研修・事後報告会</li> <li>• 麗澤模擬国連団体 ((National Model United Nations) 第 6 期生のプレゼンテーション</li> <li>• ASPIRE 報告会</li> </ul>

### (3) 英語コミュニケーション専攻／英語・英米文化専攻

- ①冊子「Making Your Dreams Come True」に卒業後の目標・夢をあげさせ、その目標の達成のために学期ごとの目標とそのための方法を書かせた。特に 1～2 年次生のクラス担任 (主担任) は、この冊子を参考にしながら、毎学期学生と学習の状況や生活上の問題などについて個別面談を行った。3 年次生以上についても、専門ゼミナールの教員 (主担任) とともに英語演習必修科目の副担任教員又は専攻コーディネーターが適宜面談等の指導を行った。
- ②英語 2 専攻の教育目標のうち、英語運用能力向上については、12 月に実施した 2 年次生対象の TOEIC IP (国際コミュニケーション英語能力テスト団体試験) における平均点が、英語コミュニケーション専攻で 506.5 点、英語・英米文化専攻で 447.4 点であった。それぞれ入学時よりも 141.3 点、101.8 点の伸びを見せており、全般的な運用能力の向上という目標は達成していると評価できるものの、英語を専攻する学生の伸びとしては十分とは言えない。本専攻が卒業要件として課す 550 点以上 (英語コミュニケーション専攻)、500 点以上 (英語・英米文化専攻) を目指して、今後も継続的な学習指導を行う。
- ③英語 2 専攻主催の第 8 回英語翻訳コンテスト (1 学期) 及び第 9 回英語翻訳コンテスト (2 学期) を実施し、厳正なる審査の上、それぞれ最優秀翻訳賞 1 名、優秀翻訳賞及び佳作数名を選び、それぞれ 10 月 6 日及び平成 29 年 1 月 19 日に表彰式を英語 2 専攻共同研究室にて行った。
- ④客員教授で通訳・翻訳家の鈴木小百合氏を招いて、4 月 25 日及び 12 月 5 日に特別講義を行った。
- ⑤英語関連の課外活動として、英語劇グループでは、1 年次生の入部が 13 名あり、総勢 34 名で活動した。7 月にはバントック、G.氏翻案『アラジン』(於スモールシアター) を、11 月には、麗陵祭を含む計 2 回、ウィリアム・シェイクスピア作『ジョン王』(於スモールシアター) を、2 月末には卒業生公演でトリキアン、M.K.准教授、マッカロク、K.非常勤講師作『スピン』(於スモールシアター) を上演した。

- ⑥E.S.S.は、25名のメンバーで活動した。毎週2名のチェアパーソン（学生）が企画する平常活動のほか、ハロウィーンやクリスマスのイベント、そして麗陵祭では第39回英語スピーチコンテストを主催し、優秀なスピーチに対して表彰を行った。顧問教員はアドバイスを行うが、基本的な企画・運営・広報は学生主体で行うため、格好のアクティブ・ラーニングの場になっている。
- ⑦学部生の大学院授業履修（科目等履修生）については、英語2専攻から計4名（1学期2名、2学期2名）の履修があったが、今後も引き続きゼミ担当教員の指導を中心とした学生に対する働きかけが必要であろう。
- ⑧谷川でのオリエンテーションキャンプを実施した。20数名の上級生オリエンテーションスタッフが企画立案した様々な活動を通して、新入生に大学に一日も早く慣れ親しんでもらおうとする取り組みである。春休み中の企画・準備には上級生スタッフと担当教員が熱心に関わった。英語2専攻の教員も半数以上がキャンプに同行し、活動に参加した。また、専攻の独自の行事として、英語2専攻上級生スタッフが企画運営したキャンパスツアー及び新入生歓迎会を行った。これらのオリエンテーション関連活動は、学生間の信頼関係を育み、ピア・リーダーを養成するに留まらず、本学の教育目標を達成する上での重要な伝統行事となっている。
- ⑨第2回外国語学部主催高校生英語スピーチコンテスト（暗唱部門A・暗唱部門B・スピーチ部門の3部門で計37名の高校生が申し込み）を11月3日（学園祭の1日目）に生涯教育プラザのプラザホール及び2階セミナールームで開催した。厳正な審査の結果、それぞれの部門で最優秀賞1名、優秀賞1名、敢闘賞1名などを選び表彰した。付添い教員等も会場を訪れた。教育研究支援グループ及び入試広報グループの協力のもとで、英語2専攻の教員及び職員を含むタスクフォースで会議を重ねコンテストの実施概要策定から当日の運営までをこなした。
- ⑩トリキアン、M.K.准教授と英語劇メンバーが中心となり（コーディネーターは田中俊弘教授）、12月17日と18日に高校生向けの（第2回）英語劇ワークショップ **Express Yourself in English!** をスモールシアターで開催した。近隣の学校から12名の参加者（高校生5名、中学生7名）を得た。

#### (4) 国際交流・国際協力専攻

- ①新入生オリエンテーションキャンプを大学キャンパス、JICA「地球ひろば」、手賀の丘自然少年の家において実施した。外部講師として本学卒業生の富島奈央氏、八巻由希氏、麗澤高等学校卒業生の西村統行氏、高野倉匡人氏を迎えた。新入生に対する動機づけに大きな成果が見られた。
- ②「国際交流・国際協力基礎演習」「社会活動演習」「ソーシャルワーク」「国際ボランティア論」といった科目を中心に、国際交流、国際協力、社会活動に対する学生の関心を掘り起こし、基礎的な知識と技術を身につけることを狙いとする教育に力を入れた。
- ③「社会活動特別演習A」では、事前研修を受けた履修者が、それぞれ社会福祉施設でのボランティア、あるいはNGO活動などに参加した。体験・学習内容を報告する機会を設けて、その成果を確認した。
- ④専攻の学生の英語力の涵養のために用意した「グローバル英語演習」に関して各クラスの連携を図るために専攻コーディネーターを交えて担当者間で協議を重ねた。
- ⑤将来の進路として観光系を希望する学生が増えている状況に応えるために、29年度カリキュラムから観光系授業を充実させるために検討を重ね、カリキュラム改定に合意した。観光インターンシップ、観光文化入門、観光ビジネス概説、観光ホスピタリティ論、観光デザイン論等の追加が決まった。
- ⑥提携校であるイエーナ大学（ドイツ）に4名、淡江大学（台湾）に3名、パヤオ大学（タイ）に1名、フットヒル大学（米国）に1名、マイクロネシア大学（マイクロネシア）に1名の学生が留学した。
- ⑦夏期休暇中に実施するタイ・スタディツアーに10名、麗澤海外開発協会が春期休暇中（29年2月）に主催するタイ・スタディツアーに5名の学生が参加し、異文化を体験するとともに、山岳民族の子弟を受け入れている施設における子供たちとの交流、ラチャパット大学日本語学科の学生との交流等を通じて、視野を広げた。
- ⑧自主企画ゼミナールの一環として学生たちが自ら企画したプロジェクト（マイクロネシア、カンボジア、ネパール）について報告会を開いた。

- ⑨学生の課題活動等の発表を通じて相互理解を深める目的で、前年度に引き続き「ブート・キャンプ」を実施し、1年生の活動や上級生の活動内容を互いに学び合うことができた。
- ⑩学生の政策提言能力の伸張を図るために政策提言コンテスト「プロジェクト・プラス」(第7回)を実施した。
- ⑪1年間の学習状況と成果等を振り返り、次年度に向けて意識を高めるために、年度末にレビュー・ミーティングを行った。1年次生は、IEC専任の基礎ゼミ担当者及び学年担任等によって個別面談の形で、2年次生は、集合的なミーティング形式で実施した。このイベントを通じ、学生自身の学習・研究・活動に関する振り返りと今後の学習への動機づけ・意識づけを行う上で意義があった。
- ⑫青年海外協力隊千葉県OB会とシニア海外ボランティアOB会との合意に基づき、「国際交流・国際協力基礎演習」「国際ボランティア論」等の授業に対して、両団体からの講師派遣を受けて、連携授業を展開した。
- ⑬集中講義の形で実施された「国際協力上級演習」において、国際協力機構(JICA)が運営する青年海外協力隊の駒ヶ根研修所での体験入所のほか、同二本松研修所での派遣前研修のプログラムに学生を送った。専攻の教員も3名、参加した。
- ⑭学生の有志グループが自発的に企画し、実施する「自主企画ゼミナール」に関して、専攻の教員2名がそれぞれ、ミクロネシア、カンボジアに関わる勉強グループを担当し、それぞれが自主的に計画した旅程をもとに現地社会を視察する旅行実施に結び付いた。
- ⑮夏期休暇中に、東日本大震災の復興状況について学ぶため、専攻の学生9名を引率し、2泊3日の被災地研修旅行を実施した。宮城県登米市と南三陸町を訪れ、仮設住宅の住民との交流や伝統文化の体験などを行った。また、地元学習塾では、学生たちが主体となって、小学生の子どもと保護者向けに、麗澤大学や、自分たちが取り組む国際協力プロジェクトを紹介するワークショップに取り組んだ。
- ⑯2年生の学生1名が、文部科学省主催する「トビタテ!留学JAPAN」という留学プログラムに合格し、1年間海外で活動を展開することになり、これについてはギャップイヤー扱いで、休学費用の納付を免除する特別措置を初めて適用した。

##### (5) ドイツ語・ドイツ文化専攻

- ①新入生オリエンテーションキャンプで、外国語の授業に対する意識を高めるワークショップやゲームを行った。授業開始前に学習に対する意識及び仲間意識を高めるのが目的である。
- ②ドイツ語のスキルに関して、1~2年次には、タスクベースの授業形式を全面的に導入し、日本人とドイツ人教員が連携してドイツ語力の向上はもちろん、コミュニケーション能力全般の育成に尽力した。2年時2学期から3年次1学期にはドイツ語圏への長期留学を推進した。その際、留学前と留学後に語学能力比較試験を全員に実施し、留学の効果測定を行った。3年次2学期からは、学生の留学経験を生かし、ディスカッションやプレゼンテーション中心の実践的語学教育を行った。また、3年修了時には、希望者全員がB1試験を受験できるよう支援した。4年次1学期修了時点での未合格者には、B1相当の演習を履修させると同時に、専攻教員全員による卒業面接試験(ドイツ語)を行った。
- ③1年間あるいは半年間の長期留学をする学生を33名、ドイツ語圏の留学先へ派遣した。そのほかにも、短期研修であるワイマル・サマーアカデミーやオーストリア・クラゲンフルト夏期講座には1年生を中心に合わせて10数名送り出した。また、新たに2つの大学と留学協定を結ぶべく、準備を進めた。学生の長期留学に先立っては、外部講師を招いて「異文化適応ワークショップ」を5日間にわたって行い、留学先での学びの目標を各自で設定させた。また、4つの派遣先と連携して講座内容の確認や初期手続きに関する情報交換などを綿密に準備し、留学後の単位互換に際しては学生に個別指導を行った。ドイツ語・ドイツ文化専攻の学生だけでなく、他専攻学生のドイツ留学も積極的に進めている。

## (6) 中国語専攻

- ①中国語専攻では19名の新生を迎え、オリエンテーションキャンプを実施した。1日目は、社会で活躍している卒業生、米井由美氏（2007年度卒業・本学非常勤講師）と三村守氏（1970年度卒業・元YKK海外勤務）による体験談が披露された。夜は宿舎となった研修寮1階の集会室で、親睦会が行われた。多くの上級生が参加し、専攻内の交流が深められた。2日目は、横浜中華街へ行き、関帝廟や媽祖廟などを見学し、日中経済・社会交流の実際を学修した。
- ②中国厦門理工学院訪日団（計21名・引率教員2名学生19名）を7月7日～8日に受け入れ、本学で交流活動を行なった。
- ③大連理工大学、天津理工大学、天津財経大学、台湾の淡江大学への長期留学などを積極的に推進した。また、淡江大学へは、従来の夏期短期研修だけでなく春期にも短期研修を新たに実施した。その他、留学フェアへの協力のほか、中国語圏留学説明会を実施し、大学の留学サイトを利用しつつ、各留学先の留学体験者からも報告をしてもらい、留学への意識を高める効果があった。
- ④28年度1学期は1名を天津財経大学（前年度2学期からの延長）に、2学期には、6名を天津理工大学、1名を大連理工大学、2名を淡江大学に長期留学へ送り出した。
- ⑤ゼミの充実に努め、卒論指導の充実、卒論要旨集等のゼミでの活動報告の刊行を行った。
- ⑥各教員が常に研究室を開放し、授業外で学生の質問に応じたり、学力不足の学生に自主的な補助教育を施したりして学生との交流と実力アップに取り組んだ。また、1年次の担任が面談を実施した。その結果、学生と教員の信頼関係がますます強化され、様々な活動を支える力となった。
- ⑦在学生・卒業生・新入学生のつながりを高めるために、『中国語専攻通信』（第6号）を発行した。

## (7) 日本語・国際コミュニケーション専攻（日本語・日本文化専攻）

- ①教室と現実社会を繋ぐ「JIC 特別プログラム」を実施。以下のような企画で、学知の現実的価値について学生が自ら考えるきっかけを提供した。
  - a. 淑徳日本語学校及びキノシタ学園日本語学校に、本専攻学生を派遣。日本語教師としてのインターンシップを行った。
  - b. 明友日本語学院及び東京YMCAにほんご学院と協力し、ネパール、ベトナム、中国などからの留学生たちとの交流会を企画。本専攻学生にも参加を呼びかけて実施した
- ②自らデータを収集し、分析する能力を育成するため、次の活動を行った。
  - a. 専門コースゼミナール（対照研究）において、日本語の方言や、日本語以外の言語を取り上げ、比較・対照言語分析を行った。
  - b. 「文化研究の方法」で、学生自身が個人でデータを収集し、それを分析する授業を実施した。
- ③コンピュータを専門の研究に活用する次のようなカリキュラムを実施した。
  - a. 卒業研究に際して、言語データを表計算ソフトExcelで処理を行った。
  - b. 授業、演習、ゼミで調査データを分析する際、Excelを用いて統計処理を行った。
- ④「語彙と文化」「記号と文化」「日本文化研究」「日本文化を学ぼう！」「文化研究の方法」などの授業において、言語や文化の背景について理解を深めた。
- ⑤日本人学生に英語やアジアの言語を深く学ばせ、一定の言語圏の日本語教育に従事できるスペシャリストを育成するために、対照言語学演習や台湾での海外日本語教育実習（詳細は⑧に記載）を実施した。
- ⑥「専門ゼミナール（日韓対照研究）」や「韓国語」の授業で、韓国ドラマと日本のドラマをリメイクした韓国ドラマを用いて、日本語の韓国語訳について考察し、言語行動や感情表現等の比較・対照分析を通じて、自分の母語を相対化し、外国語との相違を客観的に捉える力の養成を試みた。
- ⑦ 新生オリエンテーションキャンプにおいて、日本人学生に対しては、留学生と共同作業の機会を与えることで、他言語・他文化に対する意識を高めることができた。外国人留学生に対しては、実質的には初めてとなる日本人との共同作業を通じて、自国文化を伝える機会を提供することができた。日本語・国際コミュニケーション専攻の履修方法や留学に関しても、時間をかけて説明を行った。参加者の

感想文もほとんど肯定的な評価であった。

- ⑧「外国人留学生のための包括的就職支援制度」を実施。3年次留学生を対象にBJT（ビジネス日本語能力テスト）の検定対策を行い、5名を受検させた。うち2名がJ1を取得した。
- ⑨「日本語技術演習」6科目（+選択1科目）で、効果的な日本語運用技術の習得を目的とする授業を行った。その成果として、本専攻4年生が、昨年に続いて、本学外国語学部の卒業論文コンテストの最優秀賞、優秀賞、佳作（各1名ずつ）を受賞した。なお、専攻学生の『卒業論文要旨集』をまとめ、発行した。

(8) 特別講義

テーマ	講師	授業科目	担当教員	開催日
通訳の現場	鈴木 小百合氏（麗澤大学客員教授）	専門ゼミナールA	渡邊信 日影尚之	4月25日
異文化コミュニケーションにおける文化的価値観の重要性	John Condon氏（Director, Jemez Institute）	異文化コミュニケーション研究A	町恵理子	5月17日
RODAとメーコックファーム	竹原 茂氏（麗澤大学名誉教授）	国際ボランティア論	梅田徹	5月30日
民間航空会社の歴史と航空会社の基礎知識	川辺 巖氏（ラオス国営航空上級顧問）	観光学A	山川和彦	5月31日
麗澤大学における道德教育の歴史	岩佐 信道氏（麗澤大学名誉教授）	麗澤スタディーズ	橋本富太郎	6月6日
日本の海外旅行マーケットの歴史と現状	川辺 巖氏（ラオス国営航空上級顧問）	観光学A	山川和彦	6月7日
事務局から見た麗澤大学の歴史	阿部 壮太氏（廣池学園常勤嘱託）	麗澤スタディーズ	橋本富太郎	6月13日
デスティネーション開発とプロモーション	川辺 巖氏（ラオス国営航空上級顧問）	観光学A	山川和彦	6月14日
働くということについて一緒に考えよう	柚木 純氏（資生堂労働組合中央執行委員 専従）	労働法入門	梶田幸雄	6月16日
NPO法人Good!が実施する海外ワークキャンプ	磯田 浩司氏（NPO法人Good! 代表理事）	国際ボランティア論	梅田徹	6月20日
私の見た麗澤大学の歩み	谷口 茂氏（麗澤大学名誉教授）	麗澤スタディーズ	橋本富太郎	6月20日
ケーススタディとしてのタイと台湾観光プロモーションおよび今後の海外・訪日マーケットの展望	川辺 巖氏（ラオス国営航空上級顧問）	観光学A	山川和彦	6月21日
青年海外協力隊の経験と若者への提言	田中 昌氏（(株)クボタ）	国際交流・国際協力Ⅰ	成瀬猛	6月22日
ドイツとアジアにおけるドイツ語授業の違い	Steidele, Holger氏（淡江大学外国語文学部ドイツ語文学科助教）	ドイツ語総合ⅢB	草本晶	6月24日
私の見た麗澤大学の歩み	梅田 博之氏（麗澤大学名誉教授）	麗澤スタディーズ	橋本富太郎	6月27日
通訳者の見る日本人と英語の関係	山之内 悦子氏（執筆、通訳・翻訳等）	英語の発想と論理B	渡邊信	11月9日
Explaining how independent and international film co-productions are made and financed in Japan	木藤 幸江氏（映画プロデューサー）	メディア文化研究B	ハーツハイム ブライアン	11月15日
青年海外協力隊の経験と若者への提言	斉藤 さおり氏（小学校非常勤講師）	国際交流・国際協力基礎Ⅱ	成瀬猛	11月16日

これからの市民活動	中山 薫子氏 (特定非営利活動法人バラキャン事務局長)	NPO/NGO論	内尾太一	11月17日
きもの着装披露および作法の解説	片平 一子氏 ((公社) 全日本きものコンサルタント協会 理事)	日本文化入門	橋本富太郎	11月21日
NPO経営と働き方	石本 めぐみ氏 (特定非営利活動法人ウィメンズアイ代表理事)	NPO/NGO論	内尾太一	12月1日
通訳の現場	鈴木 小百合氏 (麗澤大学客員教授)	専門ゼミナールB	渡邊信 日影尚之	12月5日
アジア教育友好協会における山岳民族のための学校建設活動について	山川 香氏 (認定NPO法人アジア教育友好協会コーディネーター)	NPO/NGO論	内尾太一	12月8日
Canada, a Country of Cultural Diversity (多文化の国カナダ)	Cael Husband氏 (在日カナダ大使館二等書記官)	コモンウェルス諸国の社会B	田中俊弘	12月8日
働くということについて一緒に考えよう	柚木 純氏 (資生堂労働組合中央執行委員 専従)	労働法入門	梶田幸雄	12月15日
能楽を通じて日本文化の深淵を学ぶ	梅村 昌功氏 ((社) 能楽協会 会員 梅謡会主宰、好文木会代表、ふれあい能代表)	日本文化入門	橋本富太郎	12月19日

### 2-2-3 課題及び改善・向上方策

英語2専攻に関しては、毎年約200名の学生を受け入れており、本学部の旗印の「少人数教育」の継続が困難な状況であった。28年度の専任教員数は19人(内1人は学部長で担任業務から外れている)であるので単純計算で教員1人あたり学生44人を担当していることになる。この問題の抜本的解決として、具体的には教員1人の担当学生数を25人以下にすることを目標とし、28年度及び29年度の2年間で年俸制のネイティブ教員合計9名の採用を目指している(28年度中に既に6名を採用した)。合わせて、『英語コミュニケーションセンター(Center for English Communication、略称CEC)』を設置しCEC講師の執務環境を整備し、同時に校舎あすなろ2階(International Floor; 略称iFloor)のグローバル化をより一層推進する。また、CEC講師が英会話指導等を担当するなど、iLoungeでの教育活動を更に充実させる。

オープンキャンパスや入試での志願者数から判断すると、英語コミュニケーション専攻に比べて、英語・英米文化専攻の募集力が低い状況が続いている。29年度より英語・英米文化専攻の名称を「英語・リベラルアーツ専攻」に変更し、高い英語力を備えた国際的教養人の育成を目指してカリキュラムの改定を検討中である。映画学を専門とするネイティブ教員が他大学に異動することとなったが、公募によりカナダ文学、日本法制史を専門とするネイティブ教員2人の採用に成功した。

国際交流・国際協力専攻では、国際交流分野の強化が必要との判断から、国際観光交流に関する科目を29年度から設置すべく議論を進めた。「観光インターンシップA・B」、「観光文化入門」、「観光学概説」、「観光ホスピタリティ論」「観光デザイン論」を開講する。

多様なゼミ活動を中心にアクティブ・ラーニング(AL)の気運は本学部でも高まりつつあるが、ALをより広くかつ深く浸透させる為、研究棟A棟をアクティブ・ラーニング教室と研究室が一体化したActive Learning Support Commons(ALSC)に改修・改名した。

## 2-3 経済学部

### 2-3-1 教育目的・目標

本学の創立者廣池千九郎が打ち出した「総合大学構想」を実現するための第一歩として、平成4年に「国際経済学部」が設置された。その目的は、「国際性と倫理性を備え、国際社会に貢献し得る人材を育成すること」にあった。当初は、「国際経済学科」と「国際経営学科」の2学科から成っていたが、11年に「経済」（マクロ）、「経営」（ミクロ）の中間としての「産業」（セミマクロ）のレベルで広く情報技術を活用できる人材の育成を目指して「国際産業情報学科」を設置し、3学科体制となった。

20年には、国際経済学部を改組し、「経済学部」とした（この際に、経済学科、経営学科の2学科制に移行）。これは、①社会の多様な要求と学生の基礎的能力開発への対応、②情報技術教育の位置づけの見直しなどの課題に対処するためである。学部名称から「国際」を外したのは、本学の建学の精神である国際人の養成ということが、教育のあらゆる側面に共通しているため、あえて特記することを廃したものである。新たな経済学部は、これまでの理念を引き継ぎ、「国際性と倫理性を備え、持続可能な社会の構築に資する人材の育成」という理念のもとで、学部教育の内容として、「経済学・経営学に関する基礎的専門力の涵養を目的とする」ものである。なお、従来の国際経済学部は、所属学生が全員卒業するのを待って26年3月31日付で廃止した。また、23年度が経済学部の完成年度となり、24年度からは科目等の新設・改廃を行った「新カリキュラム」に移行した。また新カリキュラムへの移行に伴い、「国際ビジネスコース」を立ち上げた。

28年度には、経済学部の学びの「見える化」を目的として、4つの専攻制を導入した。具体的には、経済学科の下に「経済専攻」と「グローバル人材育成専攻」を、経営学科の下に「経営専攻」と「会計ファイナンス専攻」を設置した。28年度の専攻制の開始を前に、おおよそ2年をかけて、各専攻は新しいカリキュラムを組み立てた。また、28年度は、麗澤大学の創立者である廣池千九郎博士の生誕150周年を記念して、経済学部の教育理念を改めて振り返り、経済学部の教育の目的が道徳と経済の一体を目指すものであることを再確認した。

#### 経済学部・国際経済学部の経緯

時期	内容
平成4年	「国際経済学部」を設置（2学科制）
平成11年	「国際産業情報学科」を設置（3学科制へ）
平成20年	「経済学部」に改組（2学科制に移行）
平成24年	経営学科の中に「国際ビジネスコース」を設置（入試別枠）
平成28年	4専攻制を導入。経済学科の下に経済専攻、グローバル人材育成専攻、経営学科の下に経営専攻、会計ファイナンス専攻を設置。専攻制導入に伴い、国際ビジネスコースを解消。

以上の目的を実現するために、経済学部では次のような目標を設定している。

- ①経済・経営活動における人間性・道徳性の重視への対応：個人及び国家社会の道徳性・倫理性の重要性を認識するために、1年次に「現代社会と道徳科学」を必修科目として配置する。2年次には、従来1年次に配置していた「道徳科学」を設置する。3年次（30年度）から、道経一体コースを開始する。
- ②経済・経営活動のグローバル化への対応：国際性を備えた人材に要求される国際コミュニケーション能力育成の教育を進めるとともに、国際社会の歴史的・多元文化的理解を促進する教育及び地域研究に関する教育を進める。グローバル人材育成専攻では、学生の英語能力レベルに応じてカリキュラムを整備し、英語で経済学や経営学、教養科目、その他の専門科目などを学ぶ科目を配置している。経済学部創設以来、海外への専門留学、語学留学を積極的に推進してきたが、グローバル人材育成専攻では、全員留学を目指す。また、グローバル人材育成専攻以外の専攻の学生にも開かれた留学を提供し、留学を希望する全ての学生の留学が可能であり、幅広くグローバル教育を修得できる。その一方で、発展した日本経済や日本の企業経営について学びたいとする外国人留学生を積極的に受け入れている。また、国際的な人材の養成という目的から、20年度より、「中国MCコース」（Management & Communication Course）を開設した。
- ③情報化への対応：情報化に対応すべく、情報処理の基礎教育を行うため、1年次生は全員「情報科学」



及び「情報リテラシー」を履修する。2年次には、「経営情報」をコア科目として置く。また、情報関連の資格である「ITパスポート」「基本情報技術者試験」「MOS (Microsoft Office Specialist)」などの取得を目指した教育体制を整備している。

- ④高度な専門教育：学部が目指す基礎的専門力の涵養に基づき、さらに高度な専門教育を実現するために、本格的な専門職を目指す学生のニーズに応えるために、従来の「REPLL」(Reitaku Educational Program for Professional License) コースを、学生にわかりやすい言葉として、「税理士コース」と「公務員コース」とした。また、平成 20 年以降、日本経済学教育協会が実施する経済学検定の受検の為の教育を行ってきたが、経済専攻では、本教育を継承している。本コースでは、経済学検定試験における高得点を目指し、集中的に教育を実施している。平成 30 年度からは、全ての専攻の学生を対象に、3 年次生から道経一体コースを開設する。
- ⑤導入教育の推進：以上の学部の教育目標は、入学者が経験してきた高等学校以下の教育目標とは大きく異なる。そこで、入学時に、3 日間の日程で「基礎ゼミナール C」(従来の「社会科学分析入門」)を実施する。この科目の目標は次の通りである。
  - a. 入学までに学生が持っている殻・壁を打破し、新たな人間関係を築き、社会科学の勉学・研究に能動的に取り組む素地をつくる。
  - b. 共同作業としての「KJ 法」を実践させることにより、コミュニケーション能力を高めるとともに、社会科学の思考作法の基本を体得させる。
  - c. 2 年生以上の在学学生を「上級生スタッフ」として参加させて、入学者へのアドバイスを行わせ、上級生との関係を形成する。

## (1) 経済学科

経済学科の 1 学年の定員は 170 名である。経済学科では、「経済専攻」と「グローバル人材育成専攻」の 2 つの専攻を置く。

### ①経済専攻

経済学という個人と社会を組みあわせる学問の基礎を学び、世の中にある多様な問題を道徳と経済との関係性、経済倫理やガバナンスなど専門的な学びを活かして解決する。特に経済理論の学びを深める学生には、経済学検定試験の受検を目指す経済実務演習を推奨する。また、「公務員コース」「中国 MC コース」「道経一体コース」の 3 つの特別コースがあり、経済の知識を資格につなげ、実社会で実際に使える実力を伸ばすことに力を入れている。「公務員コース」では専門学校とのダブルスクール制度を取り入れており、実践的な試験対策を行いながら、公務員試験合格と学位取得を可能にする。大学院への進学、シンクタンクでの研究者、経済系の公務員、エコノミストなどを育成することを目指す。経済情勢を読み取り戦略的決定のできる企業人、経済アナリスト、公務員などを育成することを目指す。

### ②グローバル人材育成専攻

高い品性に支えられ、世界の人々の安心、平和、幸福の実現を目的として活躍する人材を育成することを目的とする。語学力を武器に、国際社会をボーダーレスに活躍する人材を育成する。学部発足以来 20 年以上にわたって培ってきた「語学力+専門力」の教育実績をさらに強化し、グローバル人材を多面的に育成する。学生の多様な英語能力に合わせて、教員学生比率 1 対 20 の質の高い少人数教育を実践する。英語能力の高い学生は、「スーパーグローバルコース」で入学当初から英語で授業を行う専門教育を行う。一方、英語能力向上が途上にある学生は、1 年後の TOEIC150 点アップを目指し、週 17 コマのうち 10 コマの英語教育を受ける。

世界 20 数カ国の提携校と直接顔の見える友好関係を築き、各種海外研修・留学制度を用意している。卒業までの 4 年間に全ての学生がグローバル社会を経験するのが基本スタンスである。半期もしくは 1 年の語学留学・正規留学のほかに、夏期・春期休暇を利用したアクティブ・ラーニング型、インターンシップ型など、多彩な短期海外研修制度がある。将来、国際的なメーカーや商社、国際輸送や旅行などグローバル企業や国連等の国際機関で働く人材の育成を目指す。

## (2) 経営学科

経営学科の1学年の定員は130名である。経営学科では、経営専攻と会計ファイナンス専攻の2つの専攻をおく。

### ①経営専攻

経営専攻では、少人数の体験型授業を中心とし、あらゆる組織の“マネジメント”に必要な知識と能力を育成する。1年次の「基礎ゼミナール」は「ビジネスゲーム」であり、ゲーム感覚で経営を疑似体験する。ビジネスゲームを通じて、学生は経営組織やマーケティング、国際ビジネスなどの基本的な素養を修得する。体験型の授業を重視し、例えば、「ビジネス・イノベーション・プログラム」では、企業関係者と交流し、現実のビジネス課題を解決する。各グループで知恵を出し合い、独創的な解決策を練りあげ、最終的にはこれを企業側に提案する。大学院への進学、優れた企業人、経営のエキスパートを育成することを目指す。

### ②会計ファイナンス専攻

「会計」と「ファイナンス」（金融）の両分野についてしっかり学び、4年間で必ず日商簿記とFP（ファイナンシャル・プランナー）技能検定2つの資格を取得させる。この他、金融、会計、ファイナンスに関連する「資格取得支援科目」がある。特別コースとして、「税理士コース」を置く。銀行などの金融機関、企業の財務・経理部門、税理士・国税専門官などを育成することを目指す。

## (3) 両学科共通の特別コース

①道経一体コース：麗澤大学創立者の廣池千九郎博士の教えを踏襲し、平成30年度から本格的にスタートする。一般社団法人日本道経会と公益財団法人モラロジー研究所の寄付講座である「道徳経営特論」をコア科目に置くと共に、「道経一体実務演習」を設置し、現代における道経一体の経済学、経営学について学びを深める。28年度には、「道徳経営特論」を前倒しにして実施し、また、道経一体実務演習の基本型となる自主企画ゼミ「道経一体経営を学ぶ」を行った。

②中国MCコース：高度な国際性教育として、高度な中国語能力を駆使して、国際ビジネスリーダーシップを発揮できる人材を育成するための特別コースである。外国語学部の中国語関連科目を活用するなどして徹底した中国語教育を行うだけでなく、中国語で経済学・経営学の専門的内容を学ぶ。1学年に若干名程度の選抜コースで、在学中の中国や台湾等の提携校への留学を積極的に支援する。

③税理士コース：高度な専門職教育として、税理士の資格取得のための専門知識を学ぶ。大学院進学により、5～6年で税理士の資格取得を目指す。公認会計士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの資格取得を目指す学生にも対応する。

④公務員コース：国家公務員、地方公務員、国税専門官、警察官、その他の公的機関の職員などを目指す学生のために、幅広い教養科目と経済分野の専門科目を学ばせ、公務員試験に備える。

## 2-3-2 本年度の教育活動

### (1) 導入教育

4月第1週に、歓迎の集い、履修オリエンテーション、学生生活オリエンテーション、履修登録ガイダンスなどの各種オリエンテーションを実施した。また、各種のプレースメント・テスト（英語力、数学力）を行い、能力別のクラス編成の参考とした。また、留学生については、別途、日本語能力試験や履修オリエンテーションを実施した。

導入教育の中核は、導入授業「基礎ゼミナールC（従来の社会科学分析入門）」であり、28年度は下記の日程で実施した。これは、5～6名によるグループにより、わが国の抱えている問題点（災害と経済、エネルギー政策、大学での学びなど）についてテーマ設定を行わせうえて、その背景・原因や課題・解決策について、ブレインストーミング（KJ法）を行う。グループ討議により考えさせ、最終的にその結果をグループごとに発表させる。各グループには、上級生のチューター1名を配置し、新入生の議論のサポートに当たらせた。

これにより、新入生の問題意識を社会全体の問題に向けさせて、社会科学への関心を持たせるとともに、グ

グループ・ワークを通じて、コミュニケーションの大切さや難しさを経験させた。また、最終日に発表を行うことにより、達成感を与えることができたほか、グループ作業を通じて、授業開始に向けた人間関係の形成につなげることができた。

<導入授業の日程>

4月4日	「建学の精神」に関する講話 学科別の導入講義（「経済学への招待」・「経営学への招待」） クラス別授業（経済専攻3クラス、グローバル人材育成専攻3クラス、経営専攻4クラス、会計ファイナンス専攻1クラス、全専攻共通2クラス） グループ別討議及び発表資料の作成（ブレインストーミング、KJ法など）
4月5日	グループ別討議及び発表資料の作成（同上）
4月6日	各グループの発表

(2) 開講科目

28年度の授業科目の開講状況は次表の通りである。

【2012年度以降入学者対象】

科目分類		開講科目数	開講クラス数			開講コマ数		
			1学期	2学期	通年	集中	1学期	2学期
経済学科	基礎科目	7	4	15	0	0	4	15
	基礎専門科目	79	67	49	0	0	59	38
	経済学科専門科目	55	108	107	0	1	87	87
経営学科	基礎科目	6	2	14	0	0	2	13
	基礎専門科目	77	85	69	0	0	70	44
	経営学科専門科目	56	107	109	0	2	85	86
共通専門科目		101	54	55	0	6	45	49
キャリア形成科目		15	14	14	0	6	6	6
教養科目	選択科目	46	38	40	0	3	36	38
外国語科目	英語	47	47	41	0	0	55	53
	中国語	15	19	16	0	0	20	20
	フランス語	2	1	1	0	0	2	2
	スペイン語	4	2	2	0	0	2	2
	韓国語	4	4	4	0	0	6	6
日本語科目	日本語科目	10	20	20	0	0	20	20
教職関係科目	教科に関する科目	11	5	7	0	2	4	5
計		535	577	563	0	20	503	484

\*開設科目数、クラス数、コマ数のいずれも、学科間の重複を含む。

\*\*各学期開講コマ数には、通年開講科目のコマ数を含む（集中講義のコマ数は含まない）。

\*\*\*教科に関する科目は他科目群との重複を含む。

【2016年度以降入学者対象】

科目分類		開講				開講コマ数			
		科目数	1学期	2学期	通年	集中	1学期	2学期	
経済専攻	専攻専門科目	基礎科目	4	32	32	0	0	32	32
		基礎専門科目	32	37	32	0	6	37	27
		上級専門科目	0	0	0	0	0	0	0
グローバル 人材育成専攻		基礎科目	11	36	35	0	6	36	35
		基礎専門科目	49	42	32	0	0	43	28
		上級専門科目	0	0	0	0	0	0	0
経営専攻		基礎科目	4	31	31	0	0	31	31
		基礎専門科目	31	37	30	0	0	41	30
		上級専門科目	0	0	0	0	0	0	0
会計ファイ ナンス専攻	基礎科目	4	31	31	0	0	31	31	
	基礎専門科目	22	25	20	0	0	29	20	
	上級専門科目	0	0	0	0	0	0	0	
共通科目	道徳	4	2	2	0	0	2	2	
	教養（外国語を含む）	83	147	134	0	1	157	153	
	日本語	29	51	54	0	0	65	77	
キャリア科目		13	12	12	0	6	4	4	
教職関係科目	教科に関する科目	11	5	7	0	2	4	5	
計		297	488	452	0	21	512	475	

\*開設科目数、クラス数、コマ数のいずれも、学科間の重複を含む。

\*\*各学期開講コマ数には、通年開講科目のコマ数を含む（集中講義のコマ数は含まない）。

\*\*\*教科に関する科目は他科目群との重複を含む。

(3) ゼミナール

ゼミナールは、3年次配当の「ゼミナールⅠ・Ⅱ」、4年次配当の「ゼミナールⅢ・Ⅳ」からなっており、専門教育の柱である。「ゼミナールⅠ・Ⅱ」は経済学科28、経営学科14の計32クラスを開講した。「ゼミナールⅢ・Ⅳ」は経済学科28、経営学科13の計41クラスを開講した。ゼミナールの規模は、概ね5～15名程度であり、少人数で密度の濃い指導が行われている。ゼミナールにおいては、自らテーマを選んで調べ、調査結果について資料を作って発表すること、また発表内容についてゼミ内で討議を行うこと等を通じて、課題設定力、リサーチ力、プレゼンテーション力、質問力、ディスカッション力などの涵養を図るものである。新しく3年次になる学生の94%がゼミに所属する。

ゼミナールの4年次においては、担当教員の指導の下に、卒業論文の作成がなされる。各自の設定したテーマに基づいて、先行研究等を調べたうえで、分析を行い、まとめた論文を書くことが求められる。いくつかのゼミでは、卒業論文発表会の実施や卒業論文集の作成を行っている。

なお、麗澤大学経済学会の主催により「懸賞論文」の制度を設けており、ここには、4年次生を中心に卒業論文をもとにした論文が応募される。これは、国際経済学部創設10周年を記念して14年度に創設されたものである。28年度は、この懸賞論文に33編の応募があり、厳正な審査の結果、4編を「優秀賞」として、またそれに準ずるもの4編を「奨励賞」として表彰した（表彰式は29年1月19日）。優秀作品は『麗澤大学経済学会懸賞論文優秀作品集』として刊行される。

(4) 特別講義

教育の一層の充実のため、次表の通り学外講師を招聘し、特別講義を実施した。

テーマ	講師	授業科目	担当教員	開催日
IT企業の設立と、儲けのタネ	石井幸治氏（株式会社イーゼ代表取締役社長）	インターネットビジネス論A	吉田健一郎	5月11日
即興劇を活用した、よりよい対人関係を築くためのヒント	佐久間一生氏（企業研修講師、大正大学非常勤講師、インプロシアターTILT主宰）	国際コミュニケーション論A	山下美樹	5月25日
美容業界とインターネット	黒田洋介氏（CUORE新松戸店オーナー）	インターネットビジネス論A	吉田健一郎	6月1日
戦後アメリカ日系移民の歴史	内田テッド誠一郎氏（President, Uchida Greenhouse, Inc.）	北米社会論A	堀内一史	6月6日

テーマ	講師	授業科目	担当教員	開催日
美容室の Web プロモーション	渡部康二氏 (株式会社クオーレプランニング代表取締役社長)	インターネットビジネス論A	吉田健一郎	6月8日
レクリエーション支援の基礎①	小山亮二氏 (公益財団法人日本レクリエーション協会職員)	レクリエーション技術演習I	井下佳織	6月22日
インターネットビジネスとしてのクラウド会計	西山のりこ氏 (アクシア総合コンサルティング合同会社 CEO)	インターネットビジネス論A	吉田健一郎	6月22日
グローバル人材になるためには何が必要か	綿貫雅一氏 ((社) 日本グローバル・イニシアティブ協会理事長)	グローバル人材概論	熊野留理子	6月27日
レクリエーション支援の基礎②	小山亮二氏 (公益財団法人日本レクリエーション協会職員)	レクリエーション技術演習I	井下佳織	6月29日
心の知能指数：自分を知る	田辺康広氏 (シックスセカンズジャパン株式会社代表取締役社長)	組織行動論 A	中野千秋	7月1日
インバウンド観光のための SNS 活用	武重謙氏 (ライター・作家 (旅分野))	インターネットビジネス論A	吉田健一郎	7月6日
ファッション業界における広告のあり方	太田祐二氏 (株式会社ライトハウスメディアアメンズ雑誌「OCEANS」編集長)	マーケティング情報管理	圓丸哲麻	7月11日
Web によるシティプロモーション	松野豊氏 (元流山市市議会議員)	インターネットビジネス論A	吉田健一郎	7月13日
貧困削減と持続可能な開発に関する国際協力①	山下雅弘氏 ((独) 国際協力機構、国際協力専門員)	国際開発協力フィールド演習	徳永澄憲 ヲ シ イ	8月29日
貧困削減と持続可能な開発に関する国際協力②	綿貫雅一氏 ((社) 日本グローバル・イニシアティブ協会理事長)	国際開発協力フィールド演習	徳永 澄憲 ヲ シ イ	8月29日
レクリエーション支援の応用①	小久保信幸氏 (公益財団法人日本レクリエーション協会職員)	レクリエーション技術演習II	豊嶋建広	8月31日
レクリエーション支援の応用②	小久保信幸氏 (公益財団法人日本レクリエーション協会職員)	レクリエーション技術演習II	豊嶋建広	8月31日
消費者コンタクトポイントの重要性	杉本慎太郎氏 (株式会社アパレルウェブ取締役兼事業本部長)	上級マーケティング	圓丸哲麻	10月17日
日本の農業	中川坦氏 (一般財団法人全国瑞穂食糧検査協会理事長)	日本経済論 B	真殿 達	10月26日
日本銀行の機能と業務	杉山快氏 (日本銀行情報サービス局企画役補佐)	金融論 B	中島真志	11月8日
ファッション業界における広告のあり方	太田祐二氏 (株式会社ライトハウスメディアアメンズ雑誌「OCEANS」編集長)	上級マーケティング	圓丸哲麻	11月15日
中小企業における会計と税務の実情	横尾一徳氏 (横尾一徳税理士事務所税理士)	国際会計基準論 (IFRS)	倍 和博	11月15日
スポーツ用品等企画・開発	藤田陽一氏 (株式会社アファン代表取締役、一般社団法人視覚認知教育協会代表理事)	自主プロジェクト	首藤聡一朗	11月21日
組織行動の“まずい”学：企業不祥事と組織風土	樋口晴彦氏 (警察大学校警察政策研究センター教授)	組織行動論 B	中野千秋	12月9日
最近の自転車利用を巡る社会動向等について	油谷充寿氏 (公益財団法人自転車駐車場整備センター主任研究員)	都市政策	太田秀也	12月10日
スポーツライターという職業	織田淳太郎 (本名：石塚紀久雄) 氏 (ノンフィクション作家)	自主プロジェクト	首藤聡一朗	12月19日
レクリエーション支援の基礎	佐藤洋二郎氏 (日本ライフセービング協会職員)	救急処置法	井下佳織	12月20日
認知症と認知症予防①	矢富直美氏 (東京大学高齢社会総合研究機構協力研究員)	スポーツ健康と社会	豊嶋建広	1月10日
認知症と認知症予防②	矢富直美氏 (東京大学高齢社会総合研究機構協力研究員)	スポーツ健康と社会	豊嶋建広	1月17日

### 2-3-3 課題及び改善・向上方策

28年度、経済学部は学部教育の見直しを行った。具体的には、経済学科に経済専攻とグローバル人材育成専攻、経営学科に経営専攻と会計ファイナンス専攻を設け、学びのあり方を見えるようにした。専攻制の導入に伴い、26年度からカリキュラム改革のための準備を続け、27年度にほぼ基本的な内容を確認した。経済学科及び経営学科におけるそれぞれ5つの科目群を発展的に解消し、専攻毎に目標とすべき人材像を設け、教育の内容を整備した。

目標①を実現するために、従来、「道徳科学」を1年次の必修科目として設置していたが、道徳科学教育グループによる教育体系の変更に伴い、「道徳科学」が2年次に置かれることとなり、経済学部では、従来2年次に配当していた「現代社会と道徳科学」を1年次の必修科目とした。さらに、道経一体コースを設け、道徳と経済の一体をより深めて学ぶ学生のための教育を充実した。

「国際性と倫理性を備え、国際社会に貢献しうる人材を育成する」という経済学部の目的は変わらないが、28年度からは、上記のように、グローバル人材育成専攻を設置した。本専攻は、従来の国際ビジネスコース及びIMCコースを発展させたものである。

専門ゼミの参加学生100%を目指し、希望のゼミに入れなかった学生を対象にゼミへの誘導を行い、ほぼ目標数値を達成した。29年度は、専門ゼミに入らなかった学生を対象に特別のゼミを設け、学部執行部あるいはゼミ負担の小さい教員が責任をもって指導に当たり、ゼミの100%参加を目指す。

## 2-4 言語教育研究科

### 2-4-1 教育目的・目標

言語教育研究科は、国際社会において高まっている日本語及び日本文化の教育と研究に対するニーズに応えるため、日本語教育の専門家を養成し、国際的な貢献を行うことを目的として、平成8年に設置された。当初は日本語教育学専攻（修士課程）のみであったが、その後、10年に博士後期課程を設置（同時に修士課程は博士前期課程に改組）、13年に比較文明文化専攻（博士前期課程・後期課程）を設置、18年には英語教育専攻（修士課程）を設置して現在に至っている。

各専攻（博士前期・修士課程）の教育目的・目標は次の通りである。

#### (1) 日本語教育学専攻

言語理論に基づく言語研究・言語習得研究を深化させ、日本語教育学の理論的・実践的展開を図ることを通じて、国内外の教育機関・研究機関等で日本語教師・研究者として活躍できる人材を育成することを目的とする。この目的を実現するために、次のような目標を設定している。

- ①言語学、日本語教育学、対照言語学の3つを柱とするカリキュラムで構成する。特に以下の点を重視した教育を行う。
  - a. 一般性の高い言語理論・言語習得理論・言語教育理論を基盤として分析を行う能力の育成。
  - b. 日本語と外国語との対照という視点から考える能力の育成。
  - c. 言語データを適切に収集・処理できる能力の育成。コーパスを適切に扱える能力の育成。
- ②日本語教育の普及を通じて広く国際社会に貢献するために、留学生の受け入れを積極的に行う。
- ③言語研究センターとの連携により、学生の研究を支援する。
- ④現役の日本語教師をはじめとする社会人の再教育を支援する。

#### (2) 比較文明文化専攻

世界の諸文明と世界各地の文化を比較の観点から探究し、文明圏の交流や多様な文化に関する理解と認識を深めるといふ理念のもとで、地球と人類の未来を開拓する新たな文明の創造を志向しつつ、世界の平和と文化の保持・発展のため、教育研究機関・国際機関等で貢献できる広い視野を備えた人材を育成することを目的とする。この目的を実現するために、次のような目標を設定している。

- ①比較文明文化、地域言語文化の2領域をカリキュラムで構成する。具体的には以下の点を重視する。
  - a. 学問的方法の基礎として、外国語の原典を利用する。
  - b. 言語・文化の比較研究を重視して、諸文化の共通点と相違点を把握する能力を養成する。
  - c. フィールドワーク及び現地体験を通じて、異文化理解を促進する。
- ②研究・教育のツールとしての情報処理教育を奨励する。
- ③国際貢献の一環として、留学生の受入れを積極的に行う。
- ④比較文明文化研究センターとの連携により、学生の研究を支援する。
- ⑤国際的な機関、ボランティア活動などを経ての再教育を希望する学生を支援する。

### (3) 英語教育専攻

高度な英語力をもとに、英語学・英語教育学・コミュニケーション学を探究し、専門領域の英知と英語力を駆使できる英語教員・研究者・企業等で活躍する人材の育成を目的とする。この目的を実現するために、次のような目標を設定している。

- ①カリキュラムは英語学、英語教育学、コミュニケーション学の3領域で構成する。具体的には以下の点を重視する。
  - a. 多様な言語研究の方法論を通して、英語学研究の土台を築く。
  - b. 英語教育学諸分野の基礎を固め、さらに高度な知識と技術を身につける。
  - c. ネイティブスピーカーによる演習を中心とし、高度な英語運用能力を身につける。
- ②「使える英語教育」に対する社会的要請に応える教育を実践する。
- ③高度な英語運用能力を身につけた英語教師を育成する。
- ④英語学・英語教育学・コミュニケーション学の専門家を育成する。
- ⑤企業や海外の教育機関等で活躍できる人材を育成する。

博士後期課程は、日本語教育学専攻・比較文明文化専攻とともに、博士前期課程で行った研究をさらに発展・深化させることを通じて、博士の名にふさわしい高度な研究能力と学識を有し、自立した研究者として社会の多様な方面で活躍できる人材を養成することを目標とする。学位論文提出資格として学会発表1回、レフェリー付き学会誌への論文掲載2本を義務づけている。

## 2-4-2 本年度の教育活動

### (1) 開講科目

課 程	専 攻	科目分類	開設科目	1 学期	2 学期	集中	通年	計
博士前期課程	日本語教育学専攻	基礎科目	8	4	4			8
		言語学	10	4	4			8
		日本語教育学	5	1	2	1		4
		対照言語学	10	2	1			3
		特別研究	3		1		1	2
	比較文明文化専攻	基礎科目	6	3	2			5
		比較文明文化	8	2	2	1		5
		地域言語文化	8	2	2			4
		特別研究	3		1		1	2
修士課程	英語教育専攻	基礎科目	6	2	2			4
		英語学	13	2	2	1		5
		英語教育学	6	1	1			2
		コミュニケーション学	8	1	1			2
		特別研究	3		1		1	2
博士前期課程・修士課程 共通専門科目			11	4	3	3		10
博士後期課程	日本語教育学専攻	言語学・日本語教育学	5				2	2
	比較文明文化専攻	比較文明文化・地域言語文化	2				2	2

\*開設科目は、麗澤大学大学院学則（第 44 条別表 I、II）に示された科目

### (2) オリエンテーション

新年度の授業開始に先立ち、次表の通りオリエンテーションを実施した。

日 程	内 容
4 月 2 日	新入生（博士前期・修士）オリエンテーション、新入生（博士後期）オリエンテーション 大学院生生活オリエンテーション
4 月 4 日	研究生オリエンテーション、研究生生活オリエンテーション、外国人留学生オリエンテーション（新入生）
4 月 5 日	新入生コンピューター・リテラシーオリエンテーション
4 月 6 日	学生相談センターオリエンテーション、図書館オリエンテーション、キャリアセンターオリエンテーション
4 月 7 日	修士論文作成オリエンテーション（1 学期・修士 2 年次生）、新入生履修指導オリエンテーション 専攻別オリエンテーション

### (3) ティーチング・アシスタント

本学大学院では、教員が担当する学部及び博士前期課程の学生に対する講義、演習、試験等の教育・研究活動の補助業務にあたる者として、博士前期・修士課程 2 年次生及び博士後期課程に在学する学生で、学業成績優秀で研究指導教員が推薦する者のうちからティーチング・アシスタントを採用する制度がある。28 年度は次表の通り採用し、指導教員の教育・研究活動の補助業務を行った。

専 攻	年次	氏 名	指導教員
日本語教育学専攻（博士後期）	1	徐 進	井上 優
日本語教育学専攻（博士前期）	2	陳 九如	近藤 彩
比較文明文化専攻（博士前期）	2	Agnoletti Marco	岩澤 知子
比較文明文化専攻（博士前期）	2	鄭 媚輝	黒須 里美

### (4) 修士学位の授与

授業科目の履修、研究指導、修士論文構想発表会、修士論文中間発表を経て、28 年度に修士学位論文を提出し、審査に合格した者は次表の通りである。なお、英語教育専攻においては、研究成果報告書の審査によって学位論文に代えることができるが、本年度はこの制度を利用した修了生はいなかった。



①日本語教育学専攻

氏名	指導教員	論文題目
于琦	大野仁美	物語りタスクを用いたナラティブテキストにおける中国人日本語学習者の時制の使用
蔣曉玥	近藤彩	中国人日本語学習者を対象とした一人称に関する研究－使用リソースとイメージの観点から－
陳九如	近藤彩	中国浙江省の大学におけるビジネス日本語教育の現状－教育内容と学習者のニーズとの差異－
叶芬	杉浦滋子	感謝の場面での感謝型表現と謝罪型表現の使用－日本語と中国語を比較して－
連婷	杉浦滋子	中国語を母語とする日本語学習者の終助詞「ね」の使用について－KY コーパスを用いて－

②比較文明文化専攻

氏名	指導教員	論文題目
Agnoletti Marco	岩澤知子	神話の比較研究－日本神話とギリシア神話における「死」と「異界」－
許寧	梶田幸雄	中国における冷蔵・冷凍宅配便の現状と展望
鄭媚輝	黒須里美	「一人っ子政策」と中国人の出産・育児観の変化について－中国広東省を事例に－
陶湘欣	金丸良子	市場－文化的視点からの考察－

③英語教育専攻

28年度該当者なし

(5) 博士学位の授与

28年度該当者なし

(6) 学生の研究活動支援

本学大学院の現地調査研究活動費助成及び学会参加助成制度により次表の通り旅費等を助成した。

①現地調査研究費の助成

氏名	専攻	日程	行先	内容
鄭媚輝	比較文明文化専攻	8月12日～8月27日	中国	現地調査

(7) 学生の研究活動

言語教育研究科学生の学会発表、論文発表等の業績は次表の通りである。

①学会発表

発表者	学会名等	日程	会場	発表題目
竹中信介	総合人間学会	5月22日	國學院大学 (渋谷キャンパス)	下程勇吉の人間学の再評価と現代的意義 - 「世代間倫理」との接点を考える -

②著書・論文等 ※『言語と文明』第15巻掲載論文等は別掲載。

竹中信介「未来世代への利他性を考える－「世代間倫理」の視点から－」  
『モラロジー研究』第78号, 2016年11月

(8) 学生の研究交流活動支援

学生が経済研究科と交流を図り、主体的に行った研究活動等を支援した。

日程	内容
11月3日～5日	麗陵祭にて、研究内容をポスター展示

### 2-4-3 課題及び改善・向上方策

麗澤教育の使命として学部との連携、社会人への学びの場の提供が重要課題であるという認識のもと、社会人で職業を有しながら就学する等の理由で、2年間で十分な学修時間を確保することが難しい方を対象とした長期履修制度（修業年限3年もしくは4年）を28年度から導入した。また、28年度に引き続き、科目等履修生制度を積極的に活用して学部生が大学院の学修環境に触れる機会を増やすとともに、学部と連携してカリキュラムの関係性を整理し、29年度から学部と大学院の連携科目を6科目設置することを決定した。あわせて、各専攻における教育科目の科目名と授業内容の整合性を見直し、教職科目の設置内容についても整備を行った。

29年度はこれらの成果を検証し、研究活動の基盤となるカリキュラムの一層の改善を目指すとともに、多様なプログラムによる開かれた学びを実現するための制度の整備について検討する。例えば、学部と大学院の連携による学士課程＋修士課程の5年コース、別科＋修士課程の最短2.5年コース、履修証明制度を活用した社会人に開かれたプログラム等である。また、本研究科の学生の多くを占める外国人留学生が一層充実した研究活動を展開できるように、論文作成や日本語能力向上のための支援プログラムについて検討し、次の二つのことを試行した。①日本語教育センターの技能別プログラムの履修（M1、対象者指定）、②日本語での修士論文執筆支援プログラム（M2、主に日本語文章表現の添削・点検作業）。試行の結果をふまえ、②については29年度からM2の正規科目とすることを決定した。①については、次年度に向けて大学院独自のM1に対する日本語強化プログラムの検討を行った。

## 2-5 経済研究科

### 2-5-1 教育目的・目標

経済研究科の各専攻の教育目的・目標は次の通りである。

- (1) 経済学専攻（修士課程）においては、経済学を体系的かつ先端的に学び、現実が生じている経済事象の理論的な把握、因果関係などの科学的解明を踏まえた仮説構築力を養い、仮説に対してデータなどに即した検証及び仮説の修正という作業の反復を苦としない持続的な研究心を培い、これらの分析を踏まえた、経済事象に対応するための政策を提起する政策構築力を養う。
- (2) 経営学専攻（修士課程）においては、経営学を体系的かつ先端的に学び、企業倫理の視点及び高度な情報処理能力を身に付け、経営組織、人事管理、経営戦略、マーケティング、会計、税務などの分野で、高度な社会的要求に応えられる専門家としての能力を取得させる。
- (3) 経済学・経営学専攻（博士課程）においては、市場と組織の高度な発達に相応しい先導的な研究能力を養い、戦略的な判断のできる、経済各界で必要とされる人材として供給する。

### 2-5-2 本年度の教育活動

#### (1) 開講科目

授業科目の開講状況は次表の通りである。

課程	専攻	科目分類	開設科目	1学期	2学期	集中	通年	計
修士課程	経済学専攻	専門科目	51	9	10			19
		特別研究	8	3	3	1	7	
	経営学専攻	専門科目	45	10	6		16	
		特別研究	8	3	3		6	
	共通	基礎科目	17	4		1	5	
国際科目		18	4	6		10		
博士課程	経済学・経営学専攻	経済学分野	8					
		経営学分野	8			1	1	

\*開設科目は、麗澤大学大学院学則（第44条別表I・II）に示された科目。

## (2) オリエンテーション

授業開始に先立ち、次表の通りオリエンテーションを実施した。

日 程	内 容
4月2日	新入生オリエンテーション、新入生履修指導オリエンテーション、大学院生生活オリエンテーション
4月4日	研究生オリエンテーション、外国人留学生オリエンテーション(新入生)、研究生履修指導オリエンテーション
4月5日	新入生コンピューター・リテラシーオリエンテーション
4月6日	学生相談センターオリエンテーション、図書館オリエンテーション、キャリアセンターオリエンテーション
4月8日	修士論文作成オリエンテーション
4月9日	新入生研究計画発表会

## (3) ティーチング・アシスタント

本学大学院では、教員が担当する学部及び修士課程の学生に対する講義、演習、試験等の教育・研究活動の補助業務にあたる者として、修士課程2年次生及び博士課程に在学する学生で、学業成績優秀で研究指導教員が推薦する者のうちからティーチング・アシスタントを採用する制度がある。28年度は次表の通り採用し、指導教員の教育・研究活動の補助業務を行った。

専 攻	年次	氏 名	指導教員
経済学専攻(修士)	2	SENEIWA BENSON IGESA	徳永 澄憲
経済学専攻(修士)	2	王 重元	中野 千秋
経営学専攻(修士)	2	趙 宇翔	佐藤 政則
経営学専攻(修士)	2	小原 徹	水野 時孝

## (4) 修士学位の授与

授業科目の履修及び研究指導、修士論文中間報告会(5月7日、11月1日に実施)を経て、28年度に修士学位論文を提出し、審査に合格した者は次表の通りである。

### ①経済学専攻

氏 名	指導教員	論 文 題 目
Senelwa Benson Igesa	徳永 澄憲	The Impact of Eliminating Agricultural and food Industry Tariffs' on the Kenyan Economy.

### ②経営学専攻

氏 名	指導教員	論 文 題 目
王 重元	中野 千秋	日本におけるCSR経営と財務パフォーマンスの関連－アサヒビールの事例として
大久保 有望	水野 時孝	租税回避行為否認の問題とその対応
加藤 嘉輝	宮本 治雄	職務発明による和解金の所得区分該当性
小原 徹	水野 時孝	複数税率導入を巡る諸問題－消費増税による転換期を迎えて－
田中 紗有美	宮本 治雄	個人が法人から受領した株式の譲渡対価の所得区分
趙 宇翔	佐藤 政則	企業の脱成熟化戦略－ソニーの既存事業と多角化事業との融合を中心に－
根井 佳奈子	別所 徹弥	AOA導入に伴うPE課税の諸問題
丸山 智之	水野 時孝	恒久的施設概念と諸問題
和田 真実子	別所 治雄	我が国での国際的二重課税排除のあり方

(5) 博士学位の授与

授業科目の履修、研究指導などを経て、28年度に博士学位論文を提出し、審査に合格した者（課程博士）は次表の2名である。

専攻名	氏名	指導教員	論文題目
経済学・経営学	IRMA YAZREEN BINTI MD YUSOFF	ラウ・シンイー	Measuring Corporate Social Responsibility in Malaysia :A Multidimensional Index Approach
経済学・経営学	高 欽虹	長谷川 泰隆	利益概念の展開を通じた財務報告の再検討 －英米日の財務報告の比較を中心にして－

(6) 学生の研究支援

本学大学院の現地調査研究活動費助成及び学会参加助成制度により次表の通り旅費等を助成した。

①研究調査費助成

氏名	専攻	日程	行先	内容
藤原 達也	経済学・経営学	28年3月13日～12月20日	マレーシア	現地調査

②学会発表助成

氏名	学会名	日程	会場	発表題目
藤原 達也	International Society of Business Economics and Ethics	7月12日～7月17日	Shanghai Academy of Social Sciences (SASS)	Importance of Understanding Business Ethics in Islam for Japanese Companies in Halal Food Industries
藤原 達也	3rd International Halal Conference 2016(INHAC)	11月21日～11月22日	Grand BlueWave Hotel	Supplier Management In Halal Food Supply Chain:A Preliminary Case Study

(7) 学生の研究活動

経済研究科の学会発表、論文発表等の業績は次表の通りである。

①学会発表

発表者	学会名	日程	会場	テーマ
大塚祐一	日本経営倫理学会	6月19日	東北大学	共同体としての企業 —徳理的アプローチ—
大塚祐一	経済社会学会	9月17日	麗澤大学	共同体主義の企業観
高 欽虹	日本ビジネス・マネジメント学会 第13回全国研究発表大会	6月18日	大分大学	新たな財務報告に求められる会計上の利益概念とキャッシュ・フロー情報の意義と役割
齋藤香織	第17回日本経営会計学会	6月25日	国土館大学	統合報告に向けた情報システムの関係性 - 財務情報とマネジメントシステムの関係性 -
齋藤香織	第12回日本商学研究学会	6月18日	大分大学	アカウンタビリティ概念の整理と企業報告の展開
藤原達也	Sixth World Congress of the International Society of Business, Economics, and Ethics (ISBEE)	7月15日	Shanghai Academy of Social Sciences (SASS)	Comparison of Recall and Boycott Scandals of Halal Certification Food Products from Perspectives of Business Ethics in Islam and Supply Chain Risk Management
藤原達也	3rd International halal conference 2016 (INHAC)	11月21日	Grand BlueWave Hotel	Supplier Management in Halal Food Supply Chain: A Preliminary Case Study

## ②著書・論文等

大塚祐一「ロバート・ソロモンの「共同体としての企業」論—その意義と課題をめぐって—」『日本経営倫理学会誌』第24号, 2017年2月

大塚祐一「共同体主義の企業観—日本の経営における「企業共同体」との比較を通じて—」『麗澤学際ジャーナル』第25巻, 2017年3月

齋藤香織「アカウントビリティ概念の変容と会計情報の開示動向」『日本経営会計学会』, 2016年10月

齋藤香織「企業の私的公共性を巡るアカウントビリティ概念と会計学への影響 - 中小企業会計の現状と課題を題材として -」『ビジネスマネジメント学会』, 2017年1月

### 2-5-3 課題及び改善・向上方策

グローバル人材育成に向けて企画整備された教育プログラムとして、27年度より、全ての授業を英語で行う International Program for Public Policy, Finance and Business (略称: International Program) の運用を開始している。これに伴い、26年度から受け入れ開始となった日本政府が取り組む「アフリカの若者のための産業人材育成プログラム (ABE イニシアティブ) 第1バッチ研修員が本研究科経済学専攻の正規生として27年度に入学し、このプログラムで就学し始めた。今年度は第2バッチの研修生3名が正規生として入学、また9月からは第3バッチの研修生4名が研究生として入学して就学している。彼らには通常科目だけでなく、JICAと委託契約を結ぶ形式で、外部研修や海外フィールドワーク等の特別プログラムを提供した。また、ABE イニシアティブ以外にも International Program への志願者が3名あり研究生として入学し、29年度から正規生として入学が決定している。この International Program は、英語を公用語とする非漢字圏諸国からの学生を受け入れ、一層拡大充実していくことが期待される。

28年度には、社会人で職業を有しながら就学する等、十分な学修時間を確保することが難しい方を対象として、長期履修制度 (3年もしくは4年) を導入した。

近年、大学院生にも研究活動を展開するための基礎的な知識・能力の必要性が叫ばれている。当研究科では、修士論文の作成に向けた先行研究の収集や整理、とりわけ外国人留学生については修士論文を執筆するための十分な日本語能力、また税務コースの学生については専門職を目指す上での基本的な知識などを身につかせるための教育体制の整備・改善を行ってきた。

その内、通常プログラムの外国人留学生については、彼らが一層充実した研究活動を展開できるように、日本語能力向上のための支援プログラムを検討した。具体的には、研究科で指定した修士2年次の中国人留学生を対象に、日本語での修士論文執筆支援プログラムを試行的に行った (主に日本語文章表現の添削・点検作業)。この論文執筆支援プログラムについては、29年度からは正規の科目として設置することを決定した。また、International Program での入学者 (研究生・正規生) に対しては、別途日本語能力向上のための支援プログラムの体制を整備した。

博士課程では、経済学部に加えて経済研究科としてもマレーシアのサラワク大学と連携協定を締結し、本研究科から現地で研究活動を希望する学生1名を継続して留学派遣した。

教育活動を展開する教員体制について、一部の分野において退職した教員の補充が設置された専門分野を維持するために研究科として安定した教員体制の一層の整備が必要となっている。

## 2-6 別科日本語研修課程

### 2-6-1 教育目的・目標

別科日本語研修課程は、本学の国際化を進め、日本と諸外国との恒久的友好の増進、世界の平和と人類の幸福の実現に寄与せんとする本学の建学理念のもと昭和51年に設置された。以来、多数の留学生を受入れ、「知的国際貢献」の一翼を担っている。

別科日本語研修課程は、本学又は日本の他の大学に進学を希望する外国人及び帰国子女、並びに日本語学習を希望する者に日本語を教授し、併せて日本文化・事情への理解を深め、国際的視野に立ったコミュニケーション能力の養成を目的としている。

## 2-6-2 本年度の教育活動

- ①年度課題を「日本語教育の質の向上：学習成果が実感できる日本語教育の実施—学びを意識させる工夫—」とし、各授業において学習者に合わせた更なる工夫を重ねることを日本語教育センター全教員（専任、非常勤）で確認した。
- ②初級Ⅱコース／初中級Ⅰコースでは、初級から初中級前半の日本語知識（文型・文法・語彙等）の確実な習得を目標にした。ビデオ作成などのように、既習の日本語を使って、学生が自主的に学習を進められるようなカリキュラムを導入し、積極的に日本語運用を行うための支援を行った。
- ③初中級Ⅱコース／中級コースでは、学生が意識的に学習に取り組めるよう、自分の学習を振り返るとともに、学期ごとに成し遂げたい目標や、それに向けての取り組みを考える機会を週に1度設けた。それをもとにコース・コーディネーター（担任）と面談を行い、その振り返りや進捗状況の把握が出来る体制を整えた。
- ④初中級Ⅱコース／中級コースでは、基礎的な学習項目の定着を促すため、教材・テスト問題の再検討を行った。さらに、学生によっては応用的な学習項目も学べるよう、「オプション問題」を設け、クラス内レベル差に対応した。
- ⑤初中級Ⅱコース／中級コースの文字語彙クラスでは、字形の細部に注目し、正確に認識や産出ができるようになるためのワークシートを作成した。
- ⑥中上級コース／上級コースでは、N2・N1レベルの語彙、文型および読解の力を着実に向上させるために、小テストと宿題プリントの内容を再検討し、改訂した。また、学習した語彙と文型を定着させるため、各課の終わりに本文の音読テストを行った。
- ⑦中上級コース／上級コースでは、速読力を養成するため、2週に1回ホームルームの時間に速読練習を行った。
- ⑧「進学日本語」において、学習者オートノミー育成のため、学生による自己評価体方法を充実させた。
- ⑨「進学日本語」では効果的かつ効率的に進路指導を行うため、担当者および担任間で打ち合わせを緊密に行なった。
- ⑩「日本文化・事情」では、別科生と日本人学生がグループでディスカッション、アンケート調査、プレゼンテーションを行い、個人でレポートにまとめることで日本及び自分の国／地域に対して社会、文化的構造の面から理解を深めさせる活動を充実させた。
- ⑪別科谷川研修旅行を実施し、麗澤大学で学習する意義を理解する機会、日本文化に親しむ機会とした。
- ⑫別科修了後の進路実績は、立教大学ビジネスデザイン研究科春季博士前期課程（1名）、麗澤大学経済学部経営学科経営専攻（2名）、麗澤大学経済学部経済学科グローバル人材育成専攻（1名）、学習院大学経済学部（1名）、宇都宮大学国際文化学科研究生（1名）、専門学校・日本語学校（8名）であった。
- ⑬進学やキャリアプランに合わせて日本語学習を続けるために修業年延長制度の利用を希望した学生、2015年度2学期入学生4名、2016年度1学期入学生3名の延長を認めた。

### (1) 春学期（1学期）

入門コース	休講
初級Ⅱコース	「聞く、話す」から、「読む、書く」という順番で、初級レベル80%強の文型・文法・語彙を確実に習得し、4技能をバランス良く運用できる学習を行った。また、異なる学習動機や学習目的に応じて、学生自身が目指す日本語学習が行えるよう指導し、支援した。
初中級Ⅱコース	学期前半は初級文型・文法の復習と整理、関連付けを行い、後半からの中級教材へとつなげた。既習であるが習得が不完全な初級の学習項目に意識的に取り組ませるため、学期開始時にテストを行い、各自の弱点を把握させた。また、実践的な力を身につけるために日本人との1対1の会話活動を行った。
中上級コース	中上級レベルの文型・表現、語彙を学習させながら文章を精読する力を養成し、総合的な日本語力の向上を図った。作文授業ではレポートの基礎知識を教授し、プレゼンテーション授業ではグループ発表を行った。日本語能力が高い学生1名に特例履修を認め、学部の授業を履修させた。
超級Ⅰ	上級を終えてさらに修業年限を延長した非漢字圏の別科生には超級コース指定のJIC科目に加え、必要な日本語力を補う科目を履修させた。

## (2) 秋学期 (2 学期)

初級 I コース	休講
初中級 II コース	初級 II コースから引き続き、初級レベル後半の 20%から中級前半の文型・文法・語彙の習得を中心に指導を行った。300 字程度の比較的平易な社会的な問題を扱った文章を読み、それについてディスカッションし、意見文を書けるように学習を進めた。また、会話と作文の授業では、学生自身に麗澤大学の紹介ビデオを作成させ、学習した日本語を運用する体験をさせた。
中級コース	初中級 II コースから引き続き、中級レベルの文型・表現、語彙を習得させた。中級レベルでは、日常生活だけでなく、よりフォーマルな場面での言語使用に慣れて行くことが大きな目標となる。その一環として、自分の意見や考えを論理的に伝えられるようになることを意識した授業を行った。一方で、初級レベルの文法項目が苦手項目として問題になることも多かったため、定期的に助詞、自他動詞の確認・復習を行った。
上級コース	中上級レベル及び上級レベルの文型・表現、語彙を学習させながら、生教材を精読する力を養成し、総合的な日本語力の向上を図った。作文授業では引き続きレポート作成に必要な基礎知識を教授し、プレゼンテーション授業では個人発表を行った。日本語能力が高い学生 1 名に特別履修を認め、学部の授業を履修させた。
超級 II	上級を終えてさらに修業年限を延長した別科生に超級コース指定の JIC 科目を履修させた。

### 2-6-3 課題及び改善・向上方策

キャリアにつながる日本語学習を目的とする別科生に対する支援の一環として、キャリアセンターとの連携の仕方を検討する。

## 2-7 情報教育センター

### 2-7-1 目的・目標

情報教育センターは、学士課程における情報教育及び情報機器を利用する教育・研究に関する FD を統括するとともに、情報教育システムの企画・運営等、また情報基盤システムの設計・運用管理等を行うことで、本学の教育・研究の向上に寄与することを目的としている。

情報教育センターは、上記の目的を実現するために次のような目標を設定している。

- ① 本学学士課程における情報教育の基本的計画を立案し、情報教育の実施にあたって調整を行う。
- ② 情報システムに関連する学部委員会及びプロジェクトの運営を支援することによって、情報機器を利用する教育・研究に関する FD を促進する。
- ③ 教育用ソフトウェア及びコンテンツの開発・企画・運用を行うことによって、効果的な情報教育システム環境を維持する。
- ④ 情報教育システム環境を企画・運営・保全することによって、教育及び学術研究を支援する。
- ⑤ 情報システム利用資格の管理を適正に行うことによって、システムのセキュリティと安定性を高める。
- ⑥ 廣池学園の情報ネットワーク開発・整備に協力する。
- ⑦ 教育・研究・地域貢献において学内外ネットワークの効果的な活用を協力する。

### 2-7-2 本年度の活動

目的・目標に基づいて、下記のような情報教育支援及び研究支援業務を行った。

- ① 全学情報教育システム 2011 整備計画 (ネットワークシステム)、2013 整備計画 (PC システム)、2014 整備計画 (サーバシステム)、で導入・整備したシステムの安定運用に努めた。
  - a. 教育支援としてコンピュータ教室、CALL 教室及びコンピュータ自習室を安定運用した。
  - b. 研究支援としての研究室 PC について運用支援した。
  - c. 学内ネットワークシステムを安定運用した。
  - d. 無線 LAN 環境を安定運用した。
  - e. アプリケーションサーバを安定運用した。
  - f. 環境保護のため印刷枚数を制御できる仕組みを運用した。
  - g. 学外からの利用のため、VPN 接続サービスを継続して提供した。

- h. 学生用メールシステムのGmailを安定運用した。
  - i. 教員用メールとして多言語に対応したWebメールシステムを安定運用した。
  - j. 各種サーバ群を安定運用した。
  - k. 印刷専用端末を安定運用した。
  - l. コンピュータ教室のWebカメラを継続して運用した。
  - m. ネットワークのセキュリティ対策を継続して運用した。
  - n. 情報コンセント及び無線LANにWeb認証システムを継続して運用した。
  - o. Webのコンテンツフィルタリングシステムを継続して運用した。
  - p. 利用者が安全・快適に電子メールを利用できるようにするためのspam対策を継続して運用した。
  - q. google driveの運用を開始した。
- ②ティーチング・アシスタント（TA）制度を継続して運用した。
  - ③ヘルプデスクによる利用者サービスを継続して提供した。
  - ④外国語学部の「外国語・情報教育プロジェクト」報告会を共催した。
  - ⑤各種マニュアルのWeb化及び英語化を促進した。
  - ⑥コース管理システム(Moodle)の運用を行い、教員のコンテンツの作成及び授業運営を支援した。
  - ⑦P検（ICTプロフィシエンシー検定）の団体試験を7回実施した。
  - ⑧統合認証システムを安定運用した。
  - ⑨学術ネットワークに継続加入し、SINET5への移行を行った。
  - ⑩（公社）私立大学情報教育協会、大学ICT推進協議会、伊藤忠テクノサイエンスユーザ会（CAUA）、サイエンティフィックシステム研究会（富士通SS研）などの活動に参加した。
  - ⑪法人の電力使用量の見える化システムを継続運用し、ISO26000活用による麗澤課題3「温室効果ガスの削減を図ること」に貢献した。
  - ⑫本学で研究開発を行った「Wi-Fi利用状況の見える化と学生見守りシステム」について大学ICT推進協議会2016年度大会にて発表および議論を行った。
  - ⑬「UPKIオープンドメイン証明書自動発行検証プロジェクト」から後継プロジェクトの「UPKI電子証明書発行サービス」への移行を行った。移行に伴い全てのサーバ証明書の切り替えを実施した。
  - ⑭情報FDワークショップを1回開催した。
  - ⑮ネットワークシステムの新死活監視システムの実運用を開始した。
  - ⑯ネットワークトラフィックを含め、統合的に管理情報を提示することができる表示パネルを設置し、運用を開始した。
  - ⑰標的型スパムに対応する防御システムを稼働させ⑯の装置に継時的表示させるようにした。
  - ⑱ベンダーと協議の上、ネットワーク型侵入検知システムおよびファイアウォールの状況レポートを適時メールで受け取るように変更した。

### 2-7-3 課題及び改善・向上方策

- ①校舎かえで3階PC教室の授業用ティーチング・アシスタント（TA）が増加傾向にある。今後は、PCの自習室用TAの夜間シフト体制等を見直すことで、予算削減の対応を行う。
- ②情報システムに関わる学生及び教員の窓口をヘルプデスクに一本化する方向で進んでいる中、ヘルプデスク業務の効率化を図るため、お知らせ、マニュアル、Q&A情報等のWeb提供を継続して推進した。さらに申請書の記入欄を少なくするなど事務手続きの簡略化を進める。また、学生証のICチップを利用した受付業務の一部自動化等の研究を進める。
- ③「外国語・情報教育プロジェクト」報告会は、学内行われているICTの教育利用に関する教員の取り組みを報告するものである。これまでの報告会では、外国語学部情報委員会の委員による報告が主だったが、今年度はFD委員以外で外国語学部の講師による活動報告も行われた。そこでは現在、外国語学部で使用されている学習管理システム「Moodle」の便利な使い方の提案や、ポートフォリオシステム「Mahara」の利用報告とその課題について活発な議論が行われた。新たな参加者によってこれ



まで気がつかなかった新たな視点と課題が明らかになり大変有意義な報告会となった。しかし今年は例年よりも報告会の参加が全体的に少なかった。今後は、多くの人に報告会に参加してもらい、日頃行っている取り組みについて気軽に発表してもらえるように広く学内周知をしていきたい。

- ④外国人ユーザへのサービス向上として一部のマニュアルについて英語化を行ったが、変更時の対応が遅れる傾向があった。今後は、さらに多くのマニュアルの英語化を進めるとともにマニュアルの変更に迅速に対応できるようにしたい。
- ⑤コース管理システム(Moodle)については、昨年度より全学的な利用を積極的に推進しているが、今年度はサポートを外国語学部から情報教育センターに完全に移行しユーザからの問い合わせをヘルプデスクで受けつけるとともに、教員からの新規コースのリクエストの処理を情報教育センターでおこなない対応の迅速化をはかった。本年度はさらに、Moodleを2.6から2.9にアップデートし、操作性や機能の改善を図ったほか、携帯端末やタブレットでの利用を想定し、これらの端末からも使いやすい新しいテーマを導入した。
- ⑥P検団体試験については、今年度は試験実施中にP検システムのエラーが発生し、後日再試験を実施することが何度もあった。昨年度まではこのような問題は起こらなかった。そこでこの原因を究明するために、大学の情報システムのメンテナンス時に、P検システムに関するアプリケーションや実行環境の点検を行った。また団体試験の実施時には、システム管理者立ち会いとともにシステム動作の観察を行った。その結果、P検受験時のシステムエラーの原因は、大学のシステム環境によるものではなく、P検システムに由来するものだということがわかった。現在、P検協会にP検システムの改善を要請中である。
- ⑦統合認証システムについて、現行の富士通ICAssistが販売終了となった。次期システムに求められる機能の要件整理を行う。
- ⑧2016年度は、前年度に引き続き全学的な視点で構成された学士課程の情報教育を実施するための組織や運営方法について検討し、新たな情報教育の全学化に関する提案を行った。その結果、従来の情報教育センター会議を、教育部会とシステム部会に分けて開催し、おもに情報教育の内容については教育部会で検討・立案することになった。また両学部の情報教育担当教員から構成される情報教育担当者会議を設置して、情報教育の効果的な実施のための連絡・調整を行うことになった。

## 2-8 学修支援センター

### 2-8-1 目的・目標

学修支援センターは、単位制度の実質化及び学生の自己学修力向上の観点から、学生の主体的学修を支援することを目的とし、次の事業を展開している。

- ①基礎学力の充実を支援するための事業
- ②学修意欲の向上を支援するための事業
- ③生涯学習に連続する能力開発を支援するための事業
- ④その他学修支援に関する事業

### 2-8-2 本年度の活動

#### (1) 基礎的数学力向上講座

経済学部の希望学生を対象に数学の基礎的な講座を正課外で実施した。1年次生に実施した基礎数学プレースメント・テストの結果を受けて、希望学生を対象に5月～7月の期間で1年次生57名が参加した。

#### (2) 英語学修支援プログラム

経済学部の英語リメディアル教育として、「エッセンシャル英語コース」を正課外に2クラス体制で実施し、授業との連携を図った。

(3) 英語フォローアップセミナー

TOEIC等のスコアアップ等を目的に英語の科目指導を実施した。教職志望の学部生、科目等履修生5名に依頼し、学生に対して個別指導を行った。

(4) オフィスアワー

教員のオフィスアワーの一部を、総合インフォメーションオフィスを利用して行った。オープンなスペースで気軽に相談できる雰囲気をつくり、非常勤講師の学生指導の場としても活用した。

担当者(内容)	日程
齋藤 之誉 准教授(教職課程全般)	金曜日昼休み(1、2学期)
江島 顕一 助教(教職課程全般)	火曜日昼休み(1、2学期)
邱 璋琪 非常勤講師(中国語)	火、金曜日昼休み(1、2学期)

(5) 女川スタディツアー

東北エネルギー懇談会と日本原子力産業協会が主催する第3回女川スタディツアーが8月25日(木)～26日(金)に開催され、本学からは外国語学部2名、経済学部1名が参加した。女川原子力発電所の見学、グループ・ディスカッションなどを通じて、町の震災からの復興状況や日本のエネルギー事情に関する見識を深めた。

(6) 就活筆記試験対策支援

就活筆記試験対策支援(eラーニングサービス利用)を開始した。Web・スマホで利用可能な、SPI対策問題集+模擬試験環境を有し、72名の学生が取り組んだ。

### 2-8-3 課題及び改善・向上方策

経済学部の基礎的数学力向上講座については、授業との連携が図られ、参加した学生は、対象科目である「基礎数学」の受講資格を得るとともに、数学の基礎力向上に一定の成果を得ることができた。

英語フォローアップセミナーについては、外国語学部の語学能力保証プログラムの対策や英語力向上等の需要が多かったため、学期中だけではなく休暇中も一部実施した。

就活筆記試験対策支援(eラーニングサービス利用)については、29年度に向けて、授業と連携して実施できるよう、検討を進めた。

1年次に柏地域の課題を調査し、解決・改善策を提案するPBL体験科目を新設するための検討を進め、29年度より両学部にて「麗澤・地域連携実習」を開設した。

## 2-9 図書館

### 2-9-1 目的・目標

本学図書館の基本理念は、創立者が掲げた額「以経説経」(経を以て経を説く)に集約されている。これは、学問研究は原典によるべきとの意味である。図書館は、本学創成期から教育・研究活動において重要視され、その一翼を担う組織として位置づけられ、当初より開架式が導入され、自学自修、出藍の教育を旨とする本学の伝統を具現化するものであった。

この基本理念に則り、図書館という施設が持つ基本的な資料の収集機能、保存機能、利用機能を有効に発揮して、学生や教員の教育・研究活動を総合的に支援することを主な目的としている。この目的を実現するために、次のような目標を設定している。

- (1) 資料収集方針に従って、本学の教育・研究活動に必要な図書館資料を計画的に収集し、充実した学術情報基盤を構築する。また、安定した収容能力を確保し、快適な利用環境を実現する。
- (2) 業務環境・利用者環境の整備・充実のため、業務用・利用者用コンピュータ機器の整備に心がけ、電子図書館的機能を備えた図書館情報管理システムを稼働させる。また、ネットワークを活用したデジタル情報の利用サービス環境を促進する。
- (3) 高度で学術的な教育・研究支援に対応しうる質の高い図書館情報サービスを提供する。

- (4) 業務の効率化を目指して業務組織を機能的に編成し、情報の透明化や相互協力を推進できる環境を実現する。また、図書館関係団体等の研究会・研修会等に参加して、積極的に情報収集を行うと共に高い業務資質を確立する。
- (5) 図書館の資産（施設、設備、図書館資料等）に対する保全や利用者の安全管理を徹底する。

## 2-9-2 本年度の活動

### (1) 資料管理

資料収集方針に基づき、教員や学生による推薦資料、図書館運営委員による選定資料等を中心にして図書館資料を収集した。書店による見計り選定方法を継続し、利用者のニーズに沿った資料収集を進めた。また、授業科目のシラバスに基づき、掲載された教科書・参考資料等の収集を行い、学生への学修支援環境を整えた。その一方で、図書館における収容能力確保のために重複資料等の除籍を行った。

各種資料の所蔵状況は以下の通りである。

#### ①受入図書 ※製本雑誌を含む。

和書	洋書	中国語図書	合計
4,991冊	936冊	155冊	6,082冊

#### ②受入雑誌

和雑誌	洋雑誌	中国語雑誌	合計
636種	79種	107種	822種

#### ③受入視聴覚資料

マイクロフィルム	マイクロフィッシュ	カセットテープ	ビデオテープ	CD・LD・DVD	レコード	スライド	CD-ROM	合計
0種	0種	0種	0種	40種	0種	0種	0種	40種
0点	0点	0点	0点	40点	0点	0点	0点	40点

#### ④除籍図書 ※製本雑誌を含む。

和書	洋書	中国語図書	合計
833冊	133冊	100冊	1,066冊

#### ⑤28年度末図書所蔵状況

和書	洋書	中国語図書	合計
320,376冊	115,373冊	64,059冊	499,808冊

#### ⑥28年度末雑誌所蔵状況

和雑誌	洋雑誌	中国語雑誌	合計
3,070種	691種	426種	4,187種

#### ⑦28年度末視聴覚資料所蔵状況

マイクロフィルム	マイクロフィッシュ	カセットテープ	ビデオテープ	CD・LD・DVD	レコード	スライド	CD-ROM	合計
21種	4種	683種	829種	1,550種	1,178種	136種	125種	4,526種
1,787点	239点	1,153点	2,316点	2,837点	1,958点	186点	1,046点	11,522点

### (2) 利用者サービス活動

学事日程を基本に図書館開館スケジュールを設定し、図書館資料、施設等の利用に対するサービスを提供した。また、資料情報検索ガイダンス、資料展示等を実施し、学修支援に関する企画を実施した。図書館3・4階には情報システムセンター所管のコンピュータ設備が設置されており、それらへのサポートも行った。

#### ①開館状況

開館時間	月曜日～金曜日：9:00～21:30 土曜日：9:00～17:00
休館日	日曜日、国民の祝日、入学式、学位記授与式、入学試験日、長期休暇中他
年間開館日数	262日

②サービス対象者数

項目	人数
本学学生	2,554名
教職員	462名
学外者*	502名
合計	3,518名

\*学外者数は当該年度の利用登録者数。

③入館者数

項目	人数
本学学生	121,612名
教職員	4,850名
学外者	8,572名
合計	135,034名

④館外貸出冊数

項目	冊数
本学学生	23,695冊
教職員	5,438冊
その他	3,410冊
合計	32,543冊

⑤特別貸出冊数

項目	冊数
卒業研究(学生)	4,247冊
学術研究(教職員)	2,200冊
合計	6,447冊

⑥グループ用施設・視聴覚施設利用件数

項目	件数
グループ学習室	757件
視聴覚ブース	2,815件
グループ視聴室	457件
視聴覚室	201件
合計	4,230件

⑦ILL(図書館間相互協力貸借)件数

項目	件数
図書貸出	70件
図書借受	35件
文献複写受付	202件
文献複写依頼	206件
合計	513件

⑧参考サービス件数

項目	件数
文献所在調査	292件
事項調査	147件
利用指導	1,174件
合計	1,613件

⑨利用ガイダンス実施回数

項目	件数
図書館利用ガイダンス	28回
データベース利用ガイダンス	2回

⑩提供したデジタル情報サービス

タイトル	
国内	麗澤大学学術リポジトリ
	ジャパンナレッジ Lib
	日経テレコン(日本経済新聞等)
	日経 BP 記事検索サービス
	東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー
	聞蔵II ビジュアル(朝日新聞)
	ヨミダス歴史館(読売新聞等)
	Sankei Archives(産経新聞)
	中日新聞・東京新聞データベース
	官報情報検索サービス
	D1-Laws 第一法規法情報データベース
	英語・日本語・教育学・中国関係論説資料[索引・全文]
国立情報学研究所 論文情報ナビゲータ(CiNii)	
海外	ProQuest Central [各種洋雑誌・洋新聞のアグリゲータパッケージ]
	SciVerse Science Direct [Elsevier 社発行雑誌のデータベース]
	SpringerLink [Springer 社発行雑誌のデータベース]
	OECD iLibrary
	Oxford English Dictionary Online
	Cambridge Online Journals
	JSTOR [海外学術雑誌バックナンバーのデータベース]

⑪展示

内容	実施日
創立者廣池千九郎の足跡(廣池千九郎生誕150年記念事業)	平成28年3月28日～4月25日
地図からみる廣池千九郎(柏市内大学図書館の合同企画展)	10月17日～11月26日

### (3) その他

- ①廣池千九郎生誕 150 年記念事業 および新入生に向けた展示として 4 月に「創立者廣池千九郎の足跡」の展示を実施した。
- ②サービス付き高齢者向け住宅「麗しの杜 光ヶ丘」の入居者の利用受付を開始した。
- ③4 月に英語多読本を推奨するための学生向けのイベント「ボキャブラ貯金」を実施し、約 200 名が参加した。
- ④6 月に外国語学部新入生導入授業「基礎ゼミナール」において図書館利用ガイダンスを 12 回実施した。また、教員からの依頼により、授業内において図書館資料利用ガイダンスを 16 回実施した。
- ⑤28 年度第 1 回の「書評コンテスト」を 5 月に実施し 25 名の応募、第 2 回は 11 月に実施し 11 名の応募があった。それぞれの最優秀賞は経済学部経営学科 3 年林峻さんと外国語学部ドイツ語・ドイツ文化専攻 1 年川又遥さんが受賞した。
- ⑥就職活動にも役立つデータベース「日経 BP 記事検索サービス」を導入し、利用ガイダンスを 2 回実施し、延べ 10 名が参加した。利用ガイダンスの周知においては、キャリアセンターと連携した。
- ⑦推奨する図書を紹介する POP カードを作り、図書の貸出を促した。
- ⑧7 月に 3 名の高校生、11 月に 2 校計 7 名の中学生をインターンシップ生として受け入れた。
- ⑨廣池千九郎生誕 150 年記念事業と柏市立図書館・柏市内大学図書館合同企画の展示として、10 月 17 日～11 月 26 日の期間「地図からみる廣池千九郎」と題して、古地図とともに廣池千九郎の業績を展示した。
- ⑩10 月 20 日に、学内ビブリオバトルを実施した。3 名の学生が発表し、24 名の利用者が参加した。大学院言語教育研究科比較文明文化専攻の大沼洋文さんが優勝者となった。平日の午後に開催することで、より多くの利用者が参加できるよう改善した。
- ⑪柏市立図書館・柏市内大学図書館合同企画の一つとして、10 月 29 日に「地図からみる廣池千九郎」と題し、橋本富太郎外国語学部助教による講演を開催し、35 名の参加があった。
- ⑫11 月 26 日に、柏市立図書館・柏市内大学図書館合同企画の一つとして「柏市内 4 大学図書館見学ツアー」を受け入れた。ツアーの最終イベントであるビブリオバトルには大学院言語教育研究科比較文明文化専攻の大沼洋文さんが出場し、奨励賞を受賞した。
- ⑬地下 2 階書庫を改装し、貴重書と道徳科学資料を貴重書庫に納め、一元管理を可能にした。
- ⑭研究室 A 棟の改修工事に伴い、研究室備付図書の所在確認および除籍処理をした。
- ⑮予算の効率的な執行のため、雑誌の継続を見直した。
- ⑯麗澤大学学術リポジトリにて学内発行の紀要 8 誌と博士論文を Web 公開した。
- ⑰貴重資料で「田端屋文書」として保存している古文書のマイクロ化を継続した。
- ⑱私立大学図書館協会及び国立情報学研究所等主催の各種研修会・講習会に参加し、情報収集や他大学・機関との交流を深めた。加えて、東葛地区大学図書館コンソーシアム (Tokatsu University Library Consortium : 略称 TULC) における活動に参加し、情報交換・意見交換を重ねた。TULC は中央学院大学、江戸川大学、川村学園女子大学、開智国際大学、二松学舎大学、東洋学園大学、本学の計 7 大学図書館で構成され、相互利用及び情報の交換を目的とした組織である。
- ⑲国立情報学研究所における図書及び雑誌の総合目録データベース (NACSIS-CAT) 構築事業に参加し、本学図書館での図書及び雑誌受入れデータを所在データとして提供した。また、同研究所が運用している相互貸借システム (NACSIS-ILL) に参加し、相互貸借業務を行った。

### 2-9-3 課題及び改善・向上方策

- ①書架の狭隘化対策が課題の一つである。予算の効率的な執行に努め、図書の受入れ業務を進めると同時に、重複図書の除籍など資料の整理を並行して進める。
- ②図書資産の管理について、図書館業務システム LIMEDIO に集約してきた。より簡便で正確な資産管理を進めていく。

## 2-10 麗澤オープンカレッジ

### 2-10-1 目的・目標

昭和 10 年に創立者廣池千九郎が柏の地で社会人を対象とした教育活動を開始した後、54 年に千葉県及び柏市教育委員会からの要請で開放講座を始め、58 年からは自らの企画による公開講座をスタートさせた。この公開講座は平成 17 年度まで「コミュニティ・カレッジ」として発展・継続され、18 年度からは、麗澤大学生涯教育プラザを拠点として、「麗澤オープンカレッジ (Reitaku Open College in Kashiwa; ROCK)」を開校した。

ROCK 開校 11 年を迎えた 28 年度は、開かれた大学として地域社会に貢献するために、引き続き次のような事業計画のもとに活動を行った。

- (1)開校 10 年を経て、本学が持つ人材・施設等の知的資産の開放（エクステンション）の意味を改めて検証し、生涯教育活動の次のステップを模索する。
- (2)生涯学習講座・特別講演会の開催状況及び企画内容を精査し、一層の質的向上を図る。また、大学運営の一翼を担うものとして、施設運用の改善と共に収支の安定的なバランスを堅持する。
- (3)在学生の能動的な学修の促進を補完するため、キャリア支援や各種資格取得等に関する正課外講座を増加させる。
- (4)今までの各種分野の学習講座の実績を土台にして、受講者により具体的な技能を修得させて、社会において活躍できる人材を育成する講座を企画する。
- (5)地域連携センターと連携して、地域貢献を意識した講座を企画実施し、COC (Center of Community) を担う事業を展開する。
- (6)本学が協定する自治体関係施設を使用した新たな生涯教育事業を検討し、試行する。
- (7)学習コーディネート事業を地域連携活動に位置づけて、これまでの実績をふまえて補完する。

### 2-10-2 本年度の活動

(1) 各種プログラムを企画・実施した。

①生涯学習講座は、次表の通り、232 講座を開講し、延べ 3,376 名の受講者を迎えた。

学期／分野	語学	文化教養	経済・経営	コンピュータ・情報	資格取得	スポーツ・健康	生き方	政治社会・国際関係・国際政治	教育	その他	無料	合計	
前期	募集講座	17	5	2	9	0	10	7	4	0	3	2	59
	開講講座	16	5	2	7	0	10	6	3	0	2	2	53
	定員	295	130	60	176	0	260	132	80	0	80	130	1,343
	受講者数	215	78	62	67	0	134	100	37	0	30	62	785
後期	募集講座	23	10	5	9	1	9	5	5	0	5	2	74
	開講講座	19	6	5	6	1	9	5	5	0	3	2	61
	定員	380	225	170	166	25	230	95	140	0	155	130	1,716
	受講者数	221	96	93	67	16	118	79	96	0	71	85	942
通年	募集講座	50	12	3	0	0	2	0	5	1	0	0	73
	開講講座	40	12	2	0	0	2	0	4	1	0	0	61
	定員	910	190	60	0	0	70	0	154	30	0	0	1,414
	受講者数	423	128	26	0	0	12	0	79	13	0	0	681
夏期集中	募集講座	5	6	0	3	1	4	3	7	0	5	0	34
	開講講座	3	4	0	3	0	3	2	7	0	5	0	27
	定員	95	144	0	56	30	90	118	215	0	220	0	968
	受講者数	32	39	0	31	0	23	30	168	0	129	0	452
春期集中	募集講座	9	5	1	1	1	0	3	11	1	5	0	37
	開講講座	8	2	1	0	0	0	2	11	1	5	0	30
	定員	175	130	15	16	30	0	115	375	15	205	0	1,076
	受講者数	68	19	8	0	0	0	28	271	8	114	0	516
合計	募集講座	104	38	11	22	3	25	18	32	2	18	4	277
	開講講座	86	29	10	16	1	24	15	30	2	15	4	232
	定員	1,855	819	305	414	85	650	460	964	45	660	260	6,517
	受講者数	959	360	189	165	16	287	237	651	21	344	147	3,376

- ②市民による PC ボランティア 7 団体と連携し、情報・コンピュータの講座を開講した。
- ③大学教員および各界の著名人や専門家を招いた特別講演会を 1 学期 4 回、2 学期 4 回次表の通り開催した。総合テーマは、1 学期は「日本!!」、2 学期は「日本!!Part.2」として開催した。

【1 学期】（申込者数 366 名）

講演者	テーマ	開催日	参加者数
中山 恭子 氏（参議院議員、日本のことを大切にする党代表）	文化のプラットフォームとしての日本	5 月 14 日	309 名
古森 義久 氏（麗澤大学特別教授、産経新聞ワシントン駐在客員特派員）	アメリカと日本憲法 ～アメリカは改憲か護憲か～	6 月 18 日	305 名
井出 元 特任教授・副学長	不易と流行～新しい道徳教育を求めて～	7 月 9 日	240 名
柯 隆 氏（株式会社富士通総研 主席研究員）	昨日、今日と明日の中国	8 月 6 日	245 名

【2 学期】（申込者数 248 名）

講演者	テーマ	開催日	参加者数
井上 優 外国語学部教授	相席で黙ってられるか ～日中コミュニケーション比較～	10 月 1 日	196 名
清水 幹夫 氏 （政治ジャーナリスト、元毎日新聞論説委員長）	甦れ！日本 ～政治・社会の劣化と回復力～	11 月 12 日	207 名
藤崎 一郎 氏（前駐米大使、日米協会会長ほか）	これからのアジア太平洋 ～日本、アメリカ、中国～	12 月 3 日	204 名
橋本 正裕 氏（茨城県境町長）	いま政治に求められるのは「スピード感」	1 月 28 日	210 名

- ④地域社会への貢献として、無料の公開講演会を次表の通り開催した。

講師	テーマ	開催日	受講者数
福永佳津子氏（一般社団法人 海外邦人安全協会 理事）	この夏、海外旅行(滞在)にお出かけの人のための海外安全対策	6 月 11 日	27 名
	極上のロングステイ	9 月 10 日	43 名
金丸良子（外国語学部教授）	ベトナム・ドンホー版画の世界	6 月 25 日	35 名
	中国 ペー族・ナシ族 文化展	11 月 26 日	42 名

- ⑤企業・団体等のニーズに応え、次表の通り学習コーディネート・講師派遣を行った。

講師	テーマ	開催日	委託元
EWING, William James （麗澤オープンカレッジ講師）	ビジネス英会話講座 2016（1 学期）	5 月～9 月 全 17 回	三協フロンテア株式会社
鈴木 未恵 （麗澤大学非常勤講師）	英文読解研修	5 月～10 月 全 15 回	三協フロンテア株式会社
八嶋 康裕、井上 里鶴、中谷 あゆみ、中尾 菜穂 （麗澤オープンカレッジ講師）	日本語学習支援（第 3 ターム）	4 月 1 日～28 日 （20 日間）	SMC 株式会社
井上 里鶴、中谷 あゆみ、柳田 しのぶ、永井 絢子 （麗澤オープンカレッジ講師）	日本語学習支援（20162 学期）	11 月 5 日～ 4 月 28 日 （103 日間）	SMC 株式会社
大場 裕之（経済学部教授）	世界と日本、そして自分はどこへ向かっているのか	7 月 30 日	柏南交友会（170 名） 会場：1603 教室
大場 裕之（経済学部教授）	"心を持つロボット"を鏡として介護に向き合う～「共創空間」で気づく新たな希望～	10 月 29 日	柏南交友会（170 名） 会場：1603 教室
井上 優（外国語学部教授）	相席で黙ってられるか～日中コミュニケーション比較～	3 月 25 日	柏南交友会（170 名） 会場：1603 教室

⑥聴講生の積極的な受入れに努め、次表の通り聴講生を受入れた。

学部・研究科	聴講生数		聴講科目数	
	1学期	2学期	1学期	2学期
外国語学部	14	10	15	8
経済学部	5	3	5	3
言語教育研究科	2	1	3	1
経済研究科	1	1	2	1
合計	22	15	25	13

※聴講生数は学部・研究科単位での人数。1学期には通年科目を含む。

⑦受講生同士の交流の場及び学習成果の発表の場として、次表の通り展示会を開催した。

担当者	名称	期間
小林 大彦・七海 正文 (ROCK 講師)	「水彩ソフトで描くあなたの世界！」講師・受講生の作品展	7月23日～9月10日
黛 蓮葉 (ROCK 講師)	「漢字書道 (入門・初級・中級)」受講生の作品展	9月13日～10月11日
田頭昭子 (ROCK 講師)	「かな書道 (初級・中級・上級)」受講生の作品展	1月12日～2月16日

⑧創立者廣池千九郎生誕 150 年記念及び ROCK 開校 10 周年記念として、2015 年ノーベル物理学賞受賞者・梶田隆章教授を講師にお招きし特別講演会を開催した。

講演者	テーマ	開催日	備考
梶田 隆章 (2015 年ノーベル物理学賞受賞者、東京大学特別栄誉教授、東京大学宇宙線研究所所長)	「ニュートリノ」の小さい質量の発見	9月20日	参加者数：1450 名 (内 一般 200 名) 会場：麗澤大学体育館

(2) 円滑な運営のための諸活動を行った。

- ①学習意欲を継続できるように、語学講座を中心に通年形式での企画・開講を推し進め、受講生のニーズに応えた。
- ②収支のバランスを注視しながら、引き続き最少開講人数及び受講生 10 名未満の講師料の改定に則った運営を行った。
- ③学生を対象とした講座では、キャリアセンターと連携した就職支援講座「SPI 対策講座」、「公務員試験対策講座」、情報教育センター運営委員と連携した情報系資格取得支援講座「コンピューター入門～CompTIAIT-Fundamentals 資格準拠～」等の各プログラムを実施し、新設講座として「マナー・プロトコール検定対策講座」を企画すると共に受講者数の増加と効果向上のための検討を行った。
- ④「コンピューター・情報」分野の生涯学習講座については、引き続き、PC ボランティア団体にのみ依存する体制からの脱却を図るため、上記③でも記述した資格取得をめざす講座を情報教育センター、外部企業と連携して実施した。また該当分野の講師の高齢化に伴い、次世代への交代を促すべく、iPad やスマホの無料アプリなどの比較的新しいツールの使用法などを教授する講座の企画・実施などで、質の向上を図った。
- ⑤社会貢献活動の一環として、PC ボランティア団体に対して Web サーバを利用したファイル共有サービスの提供ならびに講座準備としてリハーサル会場を提供した。
- ⑥本学図書館における図書の貸し出し等の利用案内を行い、会員サービスの充実を図った。
- ⑦麗澤幼稚園児の保護者を対象とした生涯学習講座受講料の減免制度を実施した。
- ⑧受講者を対象としたアンケートを実施し、講座の企画及び環境の充実を図った。
- ⑨Web サイトから、特別講演会の申し込みもできるように改善し、会員サービスの向上を図った。
- ⑩英語を担当する麗澤オープンカレッジの外国人講師と協働して、12月13日に「インターナショナル・クリスマスパーティー」をホワイエで実施し、受講者間の交流を図った。
- ⑪公益財団法人モラロジー研究所「麗しの杜 光ヶ丘」と連携し、夏期・春期集中講座に高齢者を対象とした講座を開設した。託児所「あおいルーム」への利用について案内を行った。



(3) 積極的な広報活動を行った。

- ①近隣地域への新聞折り込み（生涯学習講座 2 回、特別講演会 2 回）を行った。
- ②柏市 Web サイト（かしわシティネット）へのバナー広告掲載を行った。
- ③千葉県生涯学習情報提供システム「ちばりすネット」、柏市の生涯学習サイト「らんらんかしわ」を通じた広報活動を行った。
- ④千葉県私立大学短期大学協会の公開講座開設校一覧ポスターを通じた広報活動を行った。
- ⑤生涯教育プラザ 1 階ロビーに麗澤大学出版会及び公益財団法人モラロジー研究所の出版書籍見本を展示し、2 機関の広報活動の一役を担った。
- ⑥メールマガジン会員数は 1,878 名になり、メールマガジンを月 1 回（全 12 回）、臨時号 1 回を配信した。
- ⑦積極的な広報活動の結果、9,035 名の会員と 679 名の資料請求登録者を迎えた。
- ⑧講座管理システムと連動した外部の総合生涯学習講座紹介サイトを通じた広報活動を行った。また、オープンカレッジ Web サイト内にグーグル・アナリティクスを設定し、日々のアクセス状況を分析できるようにした。

(4) 今後の運営のための検討を行った。

- ①ROCK の将来構想（中期的戦略、運営体制の改革等）および収益性向上に関する検討を行った。
- ②講座の質の向上と、受講生獲得のための広報戦略等、講座企画・運営について検討を行った。
- ③企業・外部機関・団体からの講座受託についての検討を行った。
- ④東京研究センター、柏市の施設等を有効活用した講座企画の検討を行った。
- ⑤情報収集および職員研修のために、研修会やセミナーなどに参加した。

### 2-10-3 課題及び改善・向上方策

28 年度、麗澤オープンカレッジは開校 11 年を迎え、カレッジ長、委員の交代による運営委員会の世代交代がなされ、次の 10 年に向けて新たな一歩を踏み出した。

生涯学習講座の受講生数は開校以来一定の幅で推移してきた。この 10 年間で、受講生層の中核をなしてきたのが、いわゆる「団塊の世代」を中心とした前後の層である。新規受講生として毎年参入してきたこの層の数は年を追って減少していくものと見られ、それに伴い、年間の延べ受講生数、受講料収入についても減少が予想される。受講料収入の安定的な確保に向けて、いかに新規受講生を増やし、一人当たりの受講料収入も増やしていくかが課題となっている。広報戦略として、26 年度より導入した講座管理システムと連動した外部の総合生涯学習講座紹介サイトなどを通じた広報活動をはじめ、連携する企業・自治体他外部団体等の資源も活用して多角的に展開する必要がある。

講師については、高齢化に伴う担当辞退といったケースが散見される。特に開校以来、本学の外国語学部と経済学部の 2 学部に準拠した語学、政治・経済分野など、受講生の関心・期待が高く、継続的に開講されてきた講座については、専門性に秀で、かつ受講生を引き付ける魅力にあふれた後任講師の補充が強く求められている。

上記の分野に限らず、近隣地域社会に向けて、いかに良質な講座を安定的に提供して安定的な受講料収入を得ていくかは大きな課題であり、国内外の動向を注視し、受講生のニーズを読み解き、講座企画の改善と共に学内外との様々な連携を軸に新規講師及び講座内容を開拓していくことが必要となっている。

また、本学が地域社会に開かれた大学として、自治体や産業界、民間団体等と協働することで、ROCK 講座の充実化をため、地域連携センターとの連携が求められている。地域の課題（ニーズ）に対して大学の資源（シーズ）を活用することで連携を強化し、より地域をフィールドにした具体的な教育活動の展開を図ることが必要である。

## 2-11 地域連携センター

### 2-11-1 目的・目標

本学は27年度に「地域連携センター」を設置し2年目を迎えた。カリキュラムとの連動性を高め、地域をフィールドにした学生の教育環境の充実を図ることを目的に、地域と大学双方の発展を目指した。地域との連携は一層の強化を図るとともに、「量」及び「質」の両面において、新たな可能性を模索し、企画・実践を検証しつつ、大学の知見や施設を活かした活動に取り組んだ。

### 2-11-2 本年度の活動

本学の28年度事業計画における1.重点目標のうち「(3) グローバル化及び地域連携への取り組みの促進」が掲げられ、2.中期計画の実行に関する事項のうち「(4) 地域連携を意識した教育の確立」を目指すため、次のような活動を行った。

(1)COC (Center of Community) を意識した教育を確立し、大学カリキュラムとの連動性を増加させるために、地域連携実習科目の正課科目化実現に向けて、担当教員および自治体と協議し運営体制構築を推進した。

①2年次必修科目である「道徳科学 A/B」において、地域社会を対象としたフィールドワークやアクティブ・ラーニングに関する取り組みを確立すべく「道徳科学担当者会議」において企画・提案を行った。

②観光系の授業やインターンシップの企画に対してアドバイスや、開催当日の運営支援を行った。

③ボランティア実習を伴う科目やゼミ等に対して、実習先の紹介や運営に関する支援を行った。

- ・国際コミュニケーション論(山下美樹准教授) ... 授業内で実施するボランティア活動先の紹介。
- ・ヒューマンライブラリー(山下美樹准教授) ... 社会的偏見をなくし、相互理解を深めるゼミ活動イベントの支援。

(2)包括的連携協定を締結している柏市とは地域連携センターの外部運営委員としてセンター事業への意見聴取や情報交換を行い、別途柏市と大学運営教員と大学カリキュラムについて協議の場を設けた。また市委託事業としてかしわ市民大学の企画運営を受託し、教職員と留学生の参画機会を持ち、学生の新たな社会参画機会の創出を実現した。境町とは研究受託事業を受け、来年度以降本格的な研究活動を推進していくこととなった。

①かしわ市民大学の企画運営を受託し、「めざせ！かしわの国際観光プランナー」を実施し、柏市における国際交流の観点から、柏市のプロモーションについて講座を進めた。

②柏アーバンデザインセンター (UDCK)、柏市社会福祉協議会等の柏市の外郭団体と協議し、まちづくりや学生の参画等のあり方について模索した。

③「大学コンソーシアム東葛」の加盟大学として会合に出席し、「柏市インターンシップ」に協力した。

④柏市生活支援課からの要請に基づき、近隣中学生の学習支援事業を支援した。

行事名	内容	主催	会場	参加者数
生活困窮者家庭の学習支援ボランティア	本学学生が生徒の学習をサポート	柏市生活支援課(運営委託：NPO 三アイの会)	生涯教育プラザ	学生3名

⑤境町が主催する境町戦略会議に徳永澄憲教授が政策アドバイザーとして出席し、同町に対して学術的な見地から振興に寄与した。

会議開催日：4/21、5/19、6/23、8/25、9/29、10/26、11/10、12/22、1/26、2/23、3/23

⑥境町から特産物の「さし茶」に関する「さし茶ブランド価値向上・発信事業」の研究を受託し、事務局業務を行った。

⑦境高校との高大連携プロジェクトとして、アフリカからの留学生を派遣し、出張授業を行った。

(3) 柏商工会議所との意見交換や、地域経済団体の会合への参加、筑波銀行関連企業から ROCK 講座への講師招聘等を通じて具体的な連携事業のあり方を検討した。

① 柏商工会議所青年部と、教員およびゼミ生と打合せし、学生と若手経営者との座談会「KashiWork (カシワーク)」を2日間開催した。

② 筑波銀行南柏支店と協議し、「つくば総合研究所」から講師を派遣し、金融関係の ROCK 講座を開催した。

(4) かしわ市民大学では、オリンピック・パラリンピックに係るインバウンド観光の施策検討を市民と協働で進め、来年度以降は本学正課科目を通じた学生教育活動との連携も図るため継続的な支援を実施する。

① ドイツデュッセルドルフ・日本デーに留学中の学生を派遣した(山川和彦教授)

② 千葉県立房総のむらへの視察協力として留学生を派遣した(山川和彦教授)

③ 三井商船フェリーのモニターツアーに留学生を派遣した(山川和彦教授)

(5) 麗澤オープンカレッジと連携した講座を企画実施した。東北被災地支援をテーマとしたスタディツアーでは本学教員の事前事後研修を取り入れる等工夫し、ヒューマンライブラリーを ROCK 講座として開講した。

行事名	内容	場所	参加者数
ROCK スペシャルスタディツアー ～岩手・宮城の旅～	現地に触れて、感じることでできる体験型講座	登米市、南三陸町、陸前高田市	23名 (内、学生5名)
誰にでも語れる人生がある ～「語り」の共創講座～	癒し・自己発見・共感を体験する「参加型」の講座	生涯教育プラザ	13名
Project JAPAN —麗澤大学生が伝える、いまの日本—	熊本・福島で体験した学生のボランティア活動報告 (5/20・27、6/10・16・24)	かえでラウンジ、はなみずき	80名

(6) はなみずきホールにデジタルサイネージを導入し、学内活動の外部広報機能を強化した。また、はなみずきホールで年間20件以上の地域交流事業を開催し、また地域福祉団体のイベント開催を受け入れるなど多様な主体との交流を進めることで、大学と地域の相互理解推進を図った。

① 光ヶ丘地区社協、各種ボランティア団体が参画する「光ヶ丘地域ふれあい祭」の運営支援をした。

行事名	内容	日程	場所	参加者数
光ヶ丘地域ふれあい祭	柏市および障害者団体の交流イベント	10月22日	はなみずき	約1,000名

(7) 地域のにぎわいづくり・コミュニティ貢献を目的として、本学と協同組合光ヶ丘商店会との連携事業に、学生が主体となって企画・運営に携わり、協働して地域連携事業を開催した。

① 「音楽の祭典」を通じて交流の輪を広げる事業を実施した。

行事名	内容	会場	開催日	参加者数
第10回光ヶ丘ミュージック・フェスティバル	音楽演奏(麗澤幼稚園、光ヶ丘小、酒井根西小、光ヶ丘中、酒井根中、Team Hiroshi)	はなみずき	4月24日	約3,000名
Team Hiroshi GoGo 祭	音楽演奏 (Team Hiroshi)	はなみずき	7月3日	約300名
第5回光ヶ丘 サマーナイトガーデン	JAZZ 演奏、ハワイアン・ダンス、市民バンド、二胡演奏、ヒーローショー、飲食8ブース出店	はなみずき	8月27日 8月28日	約1000名 約800名
第11回オータム・フェスティバル	音もだち、劇団つどい、かんだいソロ出演、軽音楽部 sunnygates、ダンス部 Dir@T	はなみずき	10月23日	約800名
第5回光ヶ丘 ウィンター・ナイト・ガーデン	JAZZ 演奏、アカペラサークル、かんだいソロ出演、サクソ演奏	はなみずき	12月18日	約300名

② 「子どもの居場所づくり」を目的とした事業を実施した。

行事名	内容	会場	開催日	参加者数
第7回光ヶ丘子ども天国	子どもの居場所づくりのため、地域の子供たちに外で遊ぶことの楽しさを知ってもらう	はなみずき 生涯教育プラザ	8月27日	67名
第4回 光ヶ丘ちびっこ探偵団	各商店にちりばめられたヒントを見つけ、謎解きをしながら犯人を探す	はなみずき 光ヶ丘商店会	11月26日	155名

③「活気あふれる地域づくり」を目的とした事業を実施した。

行事名	内容	会場	開催日
光ヶ丘フリーマーケット&新鮮朝市	地域のにぎわいづくりと地域コミュニティの活性化づくり	はなみずき	①4月24日、②5月29日、③6月19日、④7月10日、⑤8月28日、⑥9月25日、⑦10月23日、⑧11月27日、⑨12月18日、⑩28年1月22日、⑪2月26日、⑫3月26日(全12回)

④「明るく健康的なまちづくり」を目的とした事業を実施した。

行事名	内容	会場	開催日	参加者数
第8回光ヶ丘ペタンクリーグ春季大会	高齢者や子ども達が安心して取り組める生涯スポーツを通じて、健康的なまちづくりに貢献する事業を行う	光ヶ丘団地中央グラウンド	5月22日	80名

(8)その他

①東北地方における被災地復興支援ボランティア活動を企画・調整し、学生からの参加者を募集した。

また、麗澤ボランティアセンター[Reivo]の活動支援を行い、学生間のボランティアの啓発を進めた。

行事名	活動内容	期間	参加学生数
Reivo 春ボラ	各地のボランティア活動紹介	4/21	60名
Reivo 秋のボラ活	ボランティア活動を通じて感じたこと、考えたこと、共有したいことを学生が自分の言葉で語る場	10/10・12・14	20名

②熊本大地震の被災地活動支援を支援し、68,110円を寄付された。

③ミドルテネシー州立大学研修団の光ヶ丘小学校訪問をサポートした。(6/2)

④麗澤高校との高大連携プロジェクトとして、国立天文台の羽村氏をお招きし、天文学に関するトークイベント「アストロトーク」を開催した。(2/20)

### 2-11-3 課題及び改善・向上方策

27年度に地域コミュニティの核としての役割を果たすことを目標に、カリキュラムとの連動性を高め、学内に留まらない学生の教育環境の充実を図り、地域と本学双方が発展していくことを目指すことを目的に、「地域連携センター」が設置された。

産学官連携活動の総合窓口として、様々な団体や関係機関との連携活動も安定的に実施され、地域社会に根付いてきたが、今後もより一層の連携強化と、金融機関等との新たな連携を図ることが求められている。

また、学生ボランティア活動団体に対しては、それぞれのフィールドに合わせた適切な支援を強化するとともに、教員と連動して、ボランティア活動等の課外活動を取り入れた授業を活発化し、一層の推進を図らなければならない。

### 3. 研究活動

#### 3-1 全学共通事項

##### 3-1-1 研究目的・目標

「知徳一体」の建学の精神に基づき、世界の平和、人類の幸福及び持続可能な社会の実現に貢献するため、研究活動を推進する。また、科学研究費補助事業(科研費)をはじめとする外部研究資金への応募を促進し、研究資金の適切な管理運営に務める。

##### 3-1-2 本年度の研究活動

###### (1) 学内研究費

本学の研究を支える研究費としては、一般研究費、学術研究・学会出張旅費、特別研究費、図書出版助成費、重点研究助成金がある(「麗澤大学個人研究費規程」「麗澤大学特別研究費規程」「麗澤大学図書出版助成規程」参照)。

一般研究費は、専任教員(嘱託専任教員を含む)を対象とし、一人年額(限度額)300,000円である。ただし、大学院の修士課程授業担当者には50,000円、博士課程授業担当者には100,000円が加算される。

学術研究・学会出張旅費は、宿泊を伴う出張(旅程片道100km以上)及び日帰り出張(旅程片道100km未満)について年額(限度額)100,000円が支給されるものである。研究発表や理事等の資格での総会出席を目的とした学会出張については別枠で必要額が支給される(学部長の許可を要する)。

特別研究費と図書出版助成費は、廣池学事振興基金の果実を原資とするもので、個人研究、共同研究、学会発表(特に海外)、研修、出版に対して助成される。重点研究助成金は、外部研究資金、特に科学研究費助成事業(補助金・基金)への積極的な申請を促進するため、不採択課題の再申請支援及び翌年度の新規申請を支援するために19年度に設けられた廣池学事振興基金による研究費助成である。いずれも、申請された研究課題等について研究戦略会議にて審査のうえ、学長が推薦し、理事長が助成を決定する。28年度に助成されたものは次表の通りである。

###### ①特別研究費

###### a.個人研究

(50音順)

申請者	研究課題	支給額(円)
阿久根 優子	応用一般均衡モデルを用いた品種多様性による地域経済への経済効果に関する研究	361,085
太田 秀也	駐輪場整備のあり方に関する調査研究—商店街等における放置自転車対策、駐輪場の更新・再配置の観点から—	500,000
金 廷珉	商品名の命名メカニズムに関する日韓対照研究	500,000
近藤 彩	能動的な学びを促す内省に関する基礎研究	499,375
佐藤 政則	金融業における関係依存性、小規模性、地域性の認識—1950年前後における銀行と組合金融—	410,000
ハーツハイム, B.H.	The Writer's Rooms:Producing Difference Across Two Cultures	500,000
山川 和彦	観光業における留学生インターンシップと地域連携について	484,822
連 宜萍	地域発展と地場産業	169,220
計		3,424,502

###### b.共同研究

(50音順)

申請者	研究課題	支給額(円)
犬飼 孝夫	タゴール国際大学との共同国際会議「タゴールと日本」で発表	1,000,000
小野 宏哉	マレーシア・サラワク大学での共同シンポジウム開催	820,000
草本 晶	カリキュラム研究「タスクベースの外国語学習」	928,264
下田 健人	光ヶ丘商店会における道経一体経営	564,228
堤 和彦	アジア地域の移動・流動する社会に関する歴史文化的研究	500,000
橋本 富太郎	自校史(麗澤大学の歴史)の調査・研究	402,945
計		4,215,437

c.学会発表

(50音順)

申請者	内容 (①学会名 ②発表題目 ③開催地)	支給額(円)
日影 尚之.	①映画英語教育学会、韓国の学会 (Society for Teaching English through Media および International for Educational Media との共同開催による SAI の大会) ②'It's Complicated' : Jennifer Lopez and Cinematic Representations of Latina in American Culture ③韓国	94,490
山下 美樹	①International Transformative Learning Conference XII/Transforming ② Transforming student and teacher learning through community involvement ③アメリカ	223,157
計		317,647

②図書出版助成費

(50音順)

申請者	タイトル	支給額(円)
梶田 幸雄	『中国対外経済戦略のリアリティー』	914,760
竹内 啓二	『Tagore and Japan』	369,350
永井 四郎	『新環境政策原理』	856,440
計		2,140,550

③重点研究助成金

(50音順)

申請者	研究課題	支給額(円)
圓丸 哲麻	自国中心主義的消費 (愛国消費) とブランド消費の関係ー半耐久財および非耐久財を対象としてー	396,079
太田 秀也	住生活関連サービスに関する調査研究	400,000
佐藤 政則	関係依存型金融と 1927 年銀行法	200,000
陳 玉雄	中国のシャドーバンキングと金融構造の変化に関する研究	300,000
徳永 澄憲	気候変動・自然災害リスク下における我が国企業の立地・産業集積及び経済発展の相互依存関係の空間経済学的分析	880,000
吉田 健一郎	マイナンバー・マイポータル導入への育児世代を対象にした意識調査	720,000
計		2,896,079

(2) 研究休暇・海外留学制度

本学は、専任教員に研究費を支給するだけでなく、研究休暇制度及び海外留学制度によって集中的な研究期間を提供している (「麗澤大学専任教員研究休暇規程」「麗澤大学専任教員海外留学規程」を参照)。

①研究休暇制度

申請資格は次の3点である。期間は、原則として1学期間 (6か月以内) である。

- 1) 教員として6年以上継続して勤務していること
- 2) 研究休暇開始時の年齢が、60歳未満であること。
- 3) 研究意欲が旺盛で、本学の研究に貢献できる見込みがあること。

過去5年間の実績は次表の通りである。

氏名	研究期間	研究テーマ
櫻井 良樹 (外国語学部)	24年4月～24月9日	加藤高明の伝記的研究
中島 真志 (経済学部)	24年4月～24年9月	「決済システム」に関する調査・執筆
副島 昭夫 (外国語学部)	24年4月～24年9月	アクセント指導のシラバス作成に向けて
トキワ, M. K. (外国語学部)	24年9月～25年3月	Teaching English Through Drama
大場 裕之 (経済学部)	25年4月～25年9月	共創空間開発」技法に関する体系化と理論的研究
高 巖 (経済学部)	25年9月～26年3月	新たな挑戦と企業の社会的責任 (特に、外国公務員贈賄防止に向けての研究)
平澤 元章 (外国語学部)	25年9月～26年3月	高校生長距離ランナーのトレーニングと取り組み
佐久間 裕秋 (経済学部)	26年4月～26年9月	EU金融市場統合の深化の課題と金融戦略
梶田 幸雄 (外国語学部)	26年9月～27年3月	中国におけるビジネス紛争解決法に関する研究
鈴木 大介 (経済学部)	28年4月～28年9月	粉飾決算のモデル分析とケーススタディ

## ②海外留学制度

海外留学制度には、学園から留学費用の貸与を受けて海外に留学する第1種と、学園以外の機関から留学費用の助成等を受けて海外に留学する第2種とがある。

申請資格は次の4点である。期間は、原則として1年以内である。

- 1) 教員として3年以上勤務していること
- 2) 麗澤大学専任教員海外留学規程又は学校法人廣池学園職員国内留学規程に基づく留学を経験していないこと
- 3) 心身ともに健康であること
- 4) その専攻する分野に関し、優れた研究業績があると認められ、研究意欲が旺盛で、将来本学の教育・研究活動に十分貢献できる見込みのあること

※第1種については、これらに加えて留学開始時の年齢が原則として満45歳以下であること  
過去5年間の実績は次表の通りである。

氏名	研究期間	研究テーマ	留学先	種類
清水 千弘 (経済学部)	23年9月～24年3月 24年9月～25年3月	テーマ1 Estimate of CPI using supermarket scanner data in Japan. テーマ2 Sticky Price and Residential Rent-User cost approach or Equivalent rent approach テーマ3 Consistent Estimates of the Elasticity of Substitution between Land and Non-Land Inputs in the Production of Housing	カナダ	第1種
コシロフ, A. M. (経済学部)	24年4月～25年3月	Improving Japanese and Westerners' Intercultural Communication Processes and Outcomes	イギリス	第1種
齋藤 貴志 (外国語学部)	24年9月～25年8月	日本人中国語学習者に対する教授法、教材及びテスト研究	中国	第1種
千葉 庄寿 (外国語学部)	26年9月～27年8月	電子化された大規模な言語データ（コーパス）を用いたフィンランド語の文法分析に関する研究	フィンランド	第1種
阿久根 優子 (経済学部)	28年10月～29年9月	グローバル化が進む中での農業・食料リンゲージを中心とした持続的な地域経済研究－動学的応用一般均衡モデルを用いて－	アメリカ	第1種

## (3) 外部資金の活用

以上の学内研究費・研究支援制度の他、28年度は次表のような外部資金を活用して研究を進めた。

### ①科学研究費助成事業（補助金・基金）

#### a. 研究代表者

(研究種目順)

研究代表者	所属	研究課題	研究種目	研究期間
黒須 里美	外国語学部	東アジアにおける歴史人口データベースを利用した人口・家族の比較研究	基盤研究 (B)	H27～30
鈴木 大介	経済学部	利益調整の範囲と粉飾決算の誘因	基盤研究 (C)	H25～28
匂坂 智子	外国語学部	大学での情報科目における理解過程の可視化と診断・支援モデルの構築と評価	基盤研究 (C)	H26～28
高本 香織	外国語学部	異文間ケアのコミュニケーションと異文化適応	基盤研究 (C)	H26～28
中野 千秋	経済学部	日本企業における倫理制度化と管理者の倫理観：1994年および2004年との比較	基盤研究 (C)	H26～28
竹内 拓史	外国語学部	19世紀のドイツにおける女権運動と自然科学研究の発展、およびそれらの連関について	基盤研究 (C)	H27～29
望月 正道	外国語学部	初任英語教員の教科指導の向上と学校での問題克服を支援するシステムの提案	基盤研究 (C)	H27～29
高 巖	経済学部	経営理念と組織のダイナミズム：日本航空の破産と再生を巡って	基盤研究 (C)	H27～29
堀内 一史	経済学部	アメリカのキリスト教福音派による環境保護運動	基盤研究 (C)	H27～29

研究代表者	所属	研究課題	研究種目	研究期間
籠 義樹	経済学部	基礎的インフラの維持可能性評価と住民の居住地選好に基づく最適配置に関する研究	基盤研究 (C)	H28～31
笹原 健	外国語学部	上ソルブ語における文の閉じ方と「文らしさ」	基盤研究 (C)	H28～30
藤本 幸夫	言語研究センター	日本現存朝鮮古刊本の調査とその語学的・書誌学的研究	基盤研究 (C)	H28～32
千葉 庄寿	外国語学部	形態・統語情報を考慮した多層的語彙ネットワークの描出とその応用に関する研究	基盤研究 (C)	H28～31
櫻井 良樹	外国語学部	華北駐屯列国軍を通じて見る東アジア国際社会の変容に関する研究 (1901-43)	基盤研究 (C)	H28～30
阿久根 優子	経済学部	動学的応用一般均衡モデルを用いた高温耐性品種米普及による地域経済への評価分析	基盤研究 (C)	H28～31
武田 淳	外国語学部	国際観光地ニセコにおけるオーストラリア人コミュニティの形成と多文化研究	挑戦的萌芽研究	H27～29
阿久根 優子	経済学部	内生的な温暖化適応品種選択を内包する多地域動学的応用一般均衡分析：緑茶を事例に	若手研究 (B)	H25～28
ヨネスク, M.	外国語学部	Power, government and the discrimination of Roma in Romania: an alternative explanation	若手研究 (B)	H26～28
佐藤 繭香	外国語学部	戦間期イギリスの国際博覧会におけるジェンダーと帝国	若手研究 (B)	H26～28
首藤 聡一朗	経済学部	大企業国際移転の中での国内立地中小企業の戦略	若手研究 (B)	H26～29
冬月 律	外国語学部	過疎地域における神社神道の変容に関する宗教社会学的調査研究	若手研究 (B)	H28～30
金 廷珉	外国語学部	日韓両言語における中断節の語用論的機能に関する対照研究	若手研究 (B)	H28～30
上元 亘	経済学部	サービス・エンカウンターにおける顧客の行動変容に関する研究	研究活動スタート支援	H27～28

b. 研究分担者

(研究種目順)

研究分担者	所属	研究課題	研究代表者	研究種目
白井 聡子	言語研究センター	チベット語最古層形成とその構造推移	武内 紹人 (神戸市外国語大学外国語学部教授)	基盤研究 (A)
近藤 彩	外国語学部	学びの関係性をめざした「対話型教師研修」の研究	館岡 洋子 (早稲田大学国際学術院 (日本語教育研究科教授))	基盤研究 (B)
近藤 彩	外国語学部	日本語教育における協働学習の実践・研究のアジア連携を可能にするプラットフォーム構築	池田 玲子 (鳥取大学国際交流センター教授)	基盤研究 (B)
齋藤 貴志	外国語学部	コンピュータ適応型中国語テストの開発と検証	侯 仁鋒 (県立広島大学人間文化学部教授)	基盤研究 (B)
冬月 律	外国語学部	人口減少社会日本における宗教とウェルビーイングの地域研究	櫻井 義秀 (北海道大学文学研究科教授)	基盤研究 (B)
徳永 澄憲	経済学部	気候変動下の貿易自由化と世界食料市場システミックリスク：多地域 DSGE モデル評価	國光 洋二 (農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門地域資源工学研究領域ユニット長)	基盤研究 (B)
白井 聡子	言語研究センター	「方向接辞」からみたチベット・ビルマ語系言語の諸相	荒川 慎太郎 (東京外語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授)	基盤研究 (B)
石郷岡 建	経済学部	「コンステレーション理論に基づくウクライナ危機とエネルギー安全保障の総合的研究」	蓮見 雄 (立正大学経済学部教授)	基盤研究 (B) 特設分野
千葉 庄寿	外国語学部	大学での情報科目における理解過程の可視化と診断・支援モデルの構築と評価	匂坂 智子 (麗澤大学外国語学部准教授)	基盤研究 (C)



研究分担者	所 属	研 究 課 題	研究代表者	研究種目
太田 秀也	経済学部	高齢者住まいの契約実態と権利関係に関する比較法的検討	矢田 尚子（日本大学法学部准教授）	基盤研究（C）
大塚 秀治	経済学部	大学での情報科目における理解過程の可視化と診断・支援モデルの構築と評価	匂坂 智子（麗澤大学外国語学部准教授）	基盤研究（C）
上村 昌司	経済学部	利益調整の範囲と粉飾決算の誘因	鈴木 大介（麗澤大学経済学部准教授）	基盤研究（C）
吉田 健一郎	経済学部	大学での情報科目における理解過程の可視化と診断・支援モデルの構築と評価	匂坂 智子（麗澤大学外国語学部准教授）	基盤研究（C）
持木 克之	経済社会総合研究センター	基礎的インフラの維持可能性評価と住民の居住地選好に基づく最適配置に関する研究	籠 義樹（麗澤大学経済学部教授）	基盤研究（C）
長岡 篤	経済社会総合研究センター	基礎的インフラの維持可能性評価と住民の居住地選好に基づく最適配置に関する研究	籠 義樹（麗澤大学経済学部教授）	基盤研究（C）
竹内 拓史	外国語学部	初学者向け外国語 ICT 総合学習環境構築と多読データベース作成に関する研究	川村 和宏（岩手大学人文社会科学部准教授）	挑戦的萌芽研究
正宗 鈴香	外国語学部	国際観光地ニセコにおけるオーストラリア人コミュニティの形成と多文化研究	武田 淳（麗澤大学外国語学部助教）	挑戦的萌芽研究
山川 和彦	外国語学部	国際観光地ニセコにおけるオーストラリア人コミュニティの形成と多文化研究	武田 淳（麗澤大学外国語学部助教）	挑戦的萌芽研究

②私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

研究代表者	所 属	研究プロジェクト名	研究期間
黒須 里美	外国語学部	人口・経済・家族の長期的研究：多世代パネルデータベース構築	H27～31

③独立行政法人科学技術振興機構（受託研究）

研究代表者	所 属	研究開発題目・研究課題	研究期間	受託金額（円）
徳永 澄憲	経済学部	更新整備シナリオ評価のための都道府県地域間産業連関表の開発 SIP（インフラ維持管理・更新・マネジメント技術）	H26～30	1,727,500

④経済産業省貿易経済協力局 技術協力課 研究責任者：株式会社現代文化研究所（受託研究）

研究代表者	所 属	研究課題	研究期間	受託金額（円）
徳永 澄憲	経済学部	南アフリカ自動車産業政策調査「導入政策の効果分析」	28年11月10日～29年1月20日	2,160,000

⑤Ethics Compliance Initiative（米国のNPOシンクタンク）（受託研究）

研究代表者	所 属	研究課題	研究期間	受託金額（円）
中野 千秋	企業倫理研究センター	Ethics Benchmark Project 調査	28年10月～29年3月	1,346,000

⑥茨城県境町（受託研究）

研究代表者	所 属	研究課題	研究期間	受託金額（円）
徳永 澄憲	経済学部	茨城県境町 さしま茶のルーツに関する調査研究	29年2月1日～3月31日	3,000,000

#### (4) 学術誌の刊行

本学及び本学関連学会は、本学内外における研究成果発表の場として、8種類の学術誌を刊行している。28年度は次の通り発行した。

- ①『麗澤大学紀要』(第100巻) 29年3月 麗澤大学発行 (英文誌名: *Reitaku University Journal*)
- ②『言語と文明』(第15巻) 29年3月 言語教育研究科発行 (英文誌名: *Language & Civilization*)
- ③『麗澤経済研究』(第24巻) 29年2月 麗澤大学経済学会発行 (英文誌名: *Reitaku International Journal of Economic Studies*)
- ④『麗澤学際ジャーナル』(第25巻) 29年3月 麗澤大学経済学会発行 (英文誌名: *Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies*)
- ⑤『麗澤レビュー』(第22巻) 28年9月 麗澤大学英米文化研究会発行 (英文誌名: *Reitaku Review*)
- ⑥『中国研究』(第24号) 29年1月 麗澤大学中国研究会発行
- ⑦『比較文明研究』(第21号) 28年10月 麗澤大学比較文明文化研究センター発行 (英文誌名: *Journal for the Comparative Study of Civilizations*)
- ⑧『麗澤大学経済社会総合研究センターWorking Paper』(No.74~No.79) 麗澤大学経済社会総合研究センター発行 (英文誌名: *Reitaku Institute of Political Economics and Social Studies Working Paper*)

#### (5) 教員の表彰

本学には、学術・研究、教育、社会貢献活動の振興・奨励を図るために、顕著な業績をあげた教育を表彰する制度がある。28年度の受賞は次表の通りである。

受賞者	受賞区分	受賞理由
宮下 和太 助教	研究奨励賞	著書『朱熹修養論の研究』により、東アジア広域に伝播した「朱子学」の起点に位置する朱熹その人の思想を修養の実効性という新たな視座から解き明かし、極めて有益かつ重要な見解を提示したこと。
金丸 良子 教授	教育奨励賞	学生基点に立ち、これまでにフィールドワークで収集された成果を企画展として一般公開し、さらには公開講演会を開催し、本学の教育研究活動を学内外へ発信され大きな貢献をしたこと。
共同受賞 (上村 昌司 教授、長谷川 泰隆 教授、倍 和博 教授、鈴木 大介 准教授、篠藤 涼子 助教)	教育奨励賞	学生基点に立ち、熱意と工夫をもって会計ファイナンス専攻における教育に取り組み、多くの学生の資格取得において大きな成果をあげたこと。

#### (6) 学会の開催

28年度中に本学を会場として開催された学会は次表の通りである。いずれについても、必要な支援を行った。

学 会 名	開 催 日	担 当 者
日本人口学会	6月11日~12日	黒須 里美 (外国語学部)
日本経営会計学会	7月30日	近藤 明人 (経済学部)
経済社会学会	9月17日~18日	大野 正英 (経済学部)
生と死を考える会	9月24日~25日	川久保 剛 (外国語学部)
地球システム・倫理学会	11月12日	犬飼 孝夫 (外国語学部)
日本経営実務研究学会	11月26日	倍 和博 (経済学部)
国際人口学会	12月9日~10日	黒須 里美 (外国語学部)

#### (7) 研究支援体制の整備

文部科学省により策定された「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」(平成26年8月26日 文部科学大臣決定)及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」(平成26年2月18日改正)を受けて、研究機関が組織を挙げて不正行為の防止に関わり、不正行為が起こりにくい環境を整備することが強く求められている。

本学では、27年度にこれらのガイドラインの趣旨に沿った環境整備を行ったところであり、28年度もその取り組みを継続するとともに、新たに以下の取り組みを実施した。

- a. 「公的研究費の使用に関する不正防止計画」を年度初めの研究戦略会議で確認した。  
 b. 以下の通り、研究倫理研修を実施した。

受講対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専任教員（新任採用者のみ）</li> <li>・科研費等の公的研究費の研究代表者及び研究分担者</li> <li>・学内研究費（特別研究、重点研究、研究センタープロジェクト）の研究分担者</li> <li>・課長職以上の大学事務局職員</li> <li>・研究事務担当職員（経理課及び教育研究支援グループ担当者）</li> </ul>
実施方法	1) 本学指定のe-ラーニング（CITI JAPAN） ※JST（国立研究開発法人科学技術振興機構）研究者コースの7単元 2) 指定テキストの通読及びレポート提出 ※『科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—』 日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会編、丸善出版 上記、1) 2) のうちのいずれかを実施

- c. 科研費等の公的研究費の研究代表者及び研究分担者、研究事務担当職員（経理課及び教育研究支援グループ担当者）より、本学の規程等を遵守し、不正を行わないことを明記した誓約書を回収した。  
 d. 研究活動及び研究費に関するマニュアルの見直しを行った。

### 3-1-3 課題及び改善・向上方策

本学における研究活動は、「知徳一体」の建学の精神に基づき、世界の平和、人類の幸福及び持続可能な社会の実現に貢献することを目指しており、個人研究費をはじめとして、多様な学内研究費（特別研究助成、図書出版助成、重点研究助成、各研究センタープロジェクト）を整備している。これらの研究費を活用して得られた研究成果は、それぞれの研究者が国内外の学会や学術誌等で発表している。

科研費に代表される外部の競争的資金への応募については、ここ数年15～20件で推移しているため、応募者数及び採択件数の増加を目指し、応募に向けた科学研究費補助事業（科研費）説明会を例年より2か月早めて実施したほか、応募書類の記入例を作成して周知するなどの工夫を行った。

次年度以降も引き続き、他大学との情報交換会や外部研修等に積極的に参加し、情報収集を行いながら、本学の研究支援体制の充実に努める。

## 3-2 外国語学部

### 3-2-1 研究目的・目標

外国語学部では、言語、文学、歴史、文化、言語教育、社会・文明・国際・地域研究等の分野にわたる基礎的かつ先端的な研究と教育技術開発のための研究を推進している。このため外国語学科の各専攻において次のような研究目標を設定している。

#### (1) 英語コミュニケーション専攻／英語・英米文化専攻

英米及び英語圏の文学・文化・地域・歴史・社会についての研究や、英語教育などの分野における研究を強力に推進し、一般社会の啓蒙、学界への貢献と同時に研究成果を授業その他の教育活動に反映させる。この目標達成のために、次のような取り組みを行っている。

- ①英米文化研究会を年2～3回開催するとともに、学会誌『麗澤レビュー』を年1回発行することによって、専攻における研究を促進する。
- ②英語教授法セミナーを年1回開催することによって、近隣の英語教員及び本学の教員志望学生に最新の教授法を紹介する。
- ③両専攻教員を中心とする共同研究プロジェクトを推進する。

#### (2) 国際交流・国際協力専攻

国際交流・国際協力専攻の研究目標は次の通りである。

- ①専攻に所属する各教員が各自の専門分野（国際協力、比較文学、比較文化心理学、歴史人口学、企業倫理等）における研究を行う。
- ②国内外の大学又は研究機関との間で研究・教育交流を図る。

③本専攻で実施する教育内容をレビューすることを通じて、麗澤大学にける国際交流・国際協力の教育のあり方、成果について検証を行う。

(3) ドイツ語・ドイツ文化専攻

ドイツ語圏の語学・文学・文化・社会・歴史・地誌研究等を言語的な視点も踏まえて研究する。具体的には次の通りである。

- ①「外国語としてのドイツ語」という観点からの教育方法を研究・推進し、専門語学としての教授法を確立する。
- ②一般言語学とドイツ文法との関係を研究し、言語理論とドイツ語教授法及び実用語学の整合性を図る。
- ③言語的視点からの文学・文化・社会・歴史・地誌等の研究を推進する。
- ④海外提携大学（ドイツ）を中心とする学外講師を招聘して講演と研究会を開き、各分野での情報を交換し、専門性を高める。

(4) 中国語専攻

中国語専攻の研究目標は次の通りである。

- ①『中国研究』を年1回刊行する。
- ②開発済みの中国語パソコン学習教材をバージョンアップし、教学面における運用方法を研究する。
- ③書面中国語の教授法の研究を推進し、その成果を出版する。
- ④21世紀の言語文化教育にふさわしい中国語テキストを編集する。
- ⑤中国語文化圏の総合的な研究を推進する。
- ⑥海外提携校との間で留学教育に関する国際的共同研究を推進する。

(5) 日本語・国際コミュニケーション専攻

日本語・国際コミュニケーション専攻の研究目標は次の通りである。

- ①日本語及び日本語にかかわる言語文化の研究を行う。
- ②実証性を重視した研究を行う。
- ③日本語教育の研究と教材の開発を進める。
- ④日本語及び日本文化・文学に関する研究を国際的視野に立って進める。
- ⑤一次資料を重視した研究を行う。
- ⑥学習者の言語・文化的背景に応じた日本語教育の研究を行う。
- ⑦対照言語学及びフィールド言語学の観点を導入することによって、日本語学の新しい分野を開拓する。

### 3-2-2 本年度の研究活動

外国語学部外国語学科各専攻の研究目標達成のために、それぞれ以下のような活動を行った。

(1) 英語コミュニケーション専攻／英語・英米文化専攻

- ①英米文化研究会の活動としては、10月1日にワークショップ“The Sound of Shakespeare”（於生涯教育プラザホール）を主催し、バントック、G.氏、犬飼孝夫氏などが朗唱などの発表を行った。また、12月15日に研究例会を実施し、森秀夫氏（本学外国語学部教授）による発表「英語で英語を教える——Storytellingでの試み」および花田太平氏（本学外国語学部助教）による発表「大震災と死者の政治学」が行われた。例会後年次総会が開かれ、今後の活動予定などについて話し合った。
- ②『麗澤レビュー』第22巻を9月に刊行した。
- ③第28回麗澤大学英語教授法セミナーを5月21日（場所：生涯教育プラザホール）に手島良氏（武蔵中学高等学校教諭）を講師に迎えて、「なぜ英語教師は新出単語を10回書かせるのか?!—英語の綴りと発音のはなし—」の題目で実施した。

(2) 国際交流・国際協力専攻

- ①4月に「地球ひろば」で開催された「協力隊まつり2016」に1年生の学生7名が参加した。また、5月に神田外語大学で開催された「国際フェスタ CHIBA」に1年次生が参加・出展し、国際交流・国際協力で携わる他団体・関係者との交流を図った。

- ②PBL（課題解決型学習）について、立命館大学との間で交流及び情報交換を行った。とりわけ、2月には、国際協力機構（JICA）二本松研修所において、立命館大学職員及び卒業生と麗澤大学教職員との間で意見交換をする機会があった。
- ③専攻の教員が各自の専門分野における研究を行い、それぞれの研究成果を発表した。
- (3) ドイツ語・ドイツ文化専攻
- ①6月下旬、台湾の淡江大学ドイツ語から教員を2名招待し、共同教育プログラムについて協議した。
- ②9月上旬、タイ・パヤオ大学日本語学科、国際交流基金、麗澤大学外国語学部共催で昨年度に引き続きワークショップ「外国語教育の新たなコースデザインとTBLT」を行い、外国語学習のあり方や実践方法について研究・交流を行った。
- ③11月中旬、タイ・パヤオ大学から教員3名を招待してシンポジウム「タスクベース型の外国語学習」を実施し、日本語、英語、ドイツ語など言語教育に関わる教員が横断的に交流した。
- (4) 中国語専攻
- ①研究誌『中国研究』第24号を発刊した。
- ②各教員が専門分野で精力的に学術・実務的研究を行い、成果を発表・出版し、学术界・実務界に資する提言をした。
- (5) 日本語・国際コミュニケーション専攻
- ①専任教員が各自の専門分野における研究を行い、それぞれの研究成果を発表した。
- ②専門コースゼミナール（意味論研究）と卒業研究（同）で、その研究成果をまとめた論文集『意境探究X』を刊行し、内外の研究者や研究機関等に配布。批判を仰いだ。
- ③松戸市大橋の三匹獅子舞のフィールドワークを実施。画像データの記録・収集を行った。
- ④専任教員による日本語学校を訪問。積極的に連携を試み、情報交換を行った。
- ⑤「日本語技術演習」担当者間で授業内容に関するFDを実施した。

本年度の各専任教員の具体的な研究成果のうち、28年度中に公刊された主なものは次の通りである。

\*著者（専任教員）50音順

- 家田章子 他「アニメーションを用いた格助詞の指導-日本語教育現場における試み-」『麗澤大学紀要』第100巻，2017年3月
- 犬飼孝夫「地球倫理としての利他主義：諸宗教に通底するもの」中山理 他編『日本：多様な文化が融合する国』，2016年7月
- 犬飼孝夫「利他の文明論～道徳の科学的研究とグローバルな倫理の構築に向けて」『モラロジー研究』第78号，2016年11月
- Inukai, T., "Origins of the Japanese Ethic: Prince Shotoku's Seventeen-Article Moral Constitution," Gita A. Keeni (ed.), *Centenary Celebration on the Occasion of Gurudev Rabindranath Tagore's Maiden Visit to Japan: Rabindranath Tagore and Japan: The Proceedings of the International Conference on 'Tagore and Japan & Various Aspects of Japanese Culture'*, Mar.2017.
- 犬飼孝夫「廣池千九郎と地球倫理～21世紀の「三方よし」に向けて～」『麗澤大学紀要』第100巻，2017年3月
- 井上優「日本語と中国語の真偽疑問文と確認文の意味」庵功雄 他編『日本語文法研究のフロンティア』，2016年5月
- 井上優「話し手情報」「聞き手情報」と文末形式—日本語と中国語の場合—」『日本語/日本語教育研究』7号，2016年5月
- 内尾太一「『東日本大震災』の脱構築：チリ辺境にある3.11の津波被災地から」『麗澤大学紀要』第100巻，2017年3月
- 梅田徹「経済学と倫理学の乖離におけるアダム・スミスの位置—スミスの『慎慮』概念をめぐる—」『経済社会学会年報』Vol.38，2016年9月

- 大関浩美「名詞修飾節の習得」森山新・向山陽子編『第二言語としての日本語習得研究の展望』, 2016年5月
- 大野仁美「南紀方言における「ノダ」相当形式と「タ」の共起」『言語と文明』第14巻, 2016年3月
- Ono, H., “A Comparison of Kinship Terminologies of West Kalahari Khoe – #Haba, Tshila, Glui, Gllana, and Naro.” Vossen, R. & W. Haacke (eds.), *Lone Tree: Scholarship in the Service of the Koon, Essays in memory of Anthony T. Traill*, Mar.2017.
- 梶田幸雄「中国の外国仲裁判断に対する司法監督(10) 政策提言および外国企業への示唆～司法監督の現状と課題を再考する」『JCA ジャーナル』第63巻第4号, 2016年4月
- 梶田幸雄「中国における外国仲裁判断の承認・執行拒否事由としての公序」『法学新報』123巻第5・6号, 2016年11月
- 梶田幸雄「新しい成長戦略の可能性と隘路～“13・5”計画、“走出去”戦略と“一带一路”構想」『中国の第13次5ヵ年計画と一带一路戦略を中心とする 対外発展戦略の国際経済への影響』, 2017年2月
- 梶田幸雄 他『中国対外経済戦略のリアリティー』麗澤大学出版会, 2017年3月
- 川久保剛 他『方法としての国学——江戸後期・近代・戦後』北樹出版, 2016年4月
- 金廷珉「商品名の表記に関する日韓両言語の比較調査—お菓子類を事例に—」『言語と文明』第15巻, 2017年3月
- 金廷珉「発話末の「ゴ」に対応する日本語の形式—ドラマの会話文を中心に—」『日本語文学』第72輯, 2017年3月
- Kurosu, S. et al. “Kin and Birth Order Effects on Male Child Mortality: Three East Asian Populations, 1716-1945” *Evolution and Human Behavior*, 38(2). Mar.2017.
- 近藤彩 他「人材育成を目指すビジネスコミュニケーション教育」『日本語教育通信 日本語・日本語教育を研究する』第44回, 2017年2月
- 櫻井良樹 他編『田健治郎日記6』芙蓉書房出版, 2016年12月
- 櫻井良樹『国際化時代「大正日本」』吉川弘文館, 2016年12月
- 櫻井良樹「広池千九郎と京都史壇——新出史料の紹介を兼ねて——」『麗澤スタディーズ』第4号, 2017年2月
- Sato, M. “Representations of British women at the British Empire Exhibition, 1924-1925” *Making Trans/National Contemporary Design History*. Nov. 2016.
- 佐藤繭香『イギリス女性参政権運動とプロパガンダ: エドワード朝の視覚的表象と女性像』彩流社, 2017年1月
- 杉浦滋子『『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』にみる日本語のフィラー』『言語と文明』第15巻, 2017年3月
- 中山理 訳, H. ベロック『ユダヤ人 なぜ、摩擦が生まれるのか』祥伝社, 2016年9月
- 中山理 他編『日本: 多様な文化が融合する国』ホーチミン市国家大学人文社会科学大学出版社, 2016年7月
- 中山理 他『運命を開く 易経の知恵』モラロジー研究所, 2016年12月
- 橋本富太郎「廣池千九郎をめぐる神道学的研究緒論(4) —神道における廣池千九郎の位置—」『モラロジー研究』No.77, 2016年5月
- 橋本富太郎『廣池千九郎: 道徳科学とは何ぞや (ミネルヴァ日本評伝選)』ミネルヴァ書房, 2016年12月
- 長谷川教佐「新しい家族旅行としてのオートキャンプ—日本におけるオートキャンプ・ブームの発生要因について— (下)」『麗澤大学紀要』第100巻, 2017年3月
- 日影尚之「Alfonso Cuarón の Children of Men (2006) に見る難民の表象—グローバリゼーションとポスト国民国家への希望」『麗澤レビュー』第22巻, 2016年9月
- 望月正道 他「ベテラン英語教師は、若手英語教師の授業にどう助言するか—授業研究協議の発話分析から」『麗澤レビュー』第22巻, 2016年9月

望月正道 他「英語授業研究のためのフレームワーク」『中部地区英語教育学会紀要』46, 2017年1月  
望月正道 他『英語で教える英語の授業: その進め方・考え方』大修館書店, 2016年9月  
森勇俊 他「韓国語における水のイメージと表現・水に関することわざと慣用句を中心に」『聖徳大学言語文化研究所論叢』第24号, 2017年3月

### 3-2-3 課題及び改善・向上方策

教員の研究活動はおおむね活発である。今後もそれぞれの専門分野での学会活動、出版活動を継続し、外部研究費獲得にも積極的に取り組む。

## 3-3 経済学部

### 3-3-1 研究目的・目標

学部独自の研究テーマを設け、共同研究を進めているわけではなく、教員各自が個人の関心やテーマに従って研究を深めることを基本としている。研究成果は、外部学会誌や学内の『麗澤経済研究』、『麗澤学際ジャーナル』などを通じて発表する。なお、経済学部として研究を深める場合には、次の目的に沿って、経済研究科及び附属研究機関と連携し、研究を深める体制をとっている。

経済学部における研究は、次の3点を目的としている。

- (1) 非西欧世界への深い認識を組み込んだ研究：従来の経済学・経営学は、欧米の視点・価値観をその基底においてきたといえる。それらに加えて、非西欧世界、特にアジア・太平洋圏への深い認識を組み込んだ研究を進める。
- (2) 人間性に適合する経済活動の原理の探求：経済だけが突出する経済至上主義を克服し、文化や政治、自然環境といった社会の諸次元と調和し、人間性に適合する経済活動の原理が求められている。この要請に応えるべく研究を進める。
- (3) 経済政策・経営実践に資する研究：数理学・統計学・情報技術等を活用し、政策立案、政策実現及び経営実践の基礎となる研究を進める。

以上の目的を実現するために、次のような目標を設定している。

#### (1) 経済・経営のグローバル化に対応する研究の推進

世界文明の歴史的な理解を土台にし、国際的・学際的視点を取り入れた専門的研究を目指す。併せて、その基礎となる国際的・文化的・経済的交流の研究、世界の主要文化地域を対象とする地域経済研究を進める。このために、教員の海外留学、国際研究プロジェクトへの参加、海外からの研究者の招聘を推進する。

#### (2) 経済・経営における人間性・文化性を重視する研究の推進

個人及び国家社会の道徳性、倫理性の重要性を認識し、経済至上主義を克服し、経済活動を人間生活の中に調和的に位置づける原理を探求する。すなわち、主体の哲学、倫理の確立を目指し、経済の非人間化を克服し、かつ科学技術の進歩と社会の国際化・公共化・成熟化に伴って出現する文化的欲求に適合した新時代の社会経済理念の探求を進める。

#### (3) 先進的な政策研究・実践研究の推進

数理学・統計学・情報技術等を活用し、現実の経済問題・経営問題・社会問題の工学的解決を目指す金融工学・経営情報学・社会工学の研究を推進する。

### 3-3-2 本年度の研究活動

本年度の各専任教員の具体的な研究成果のうち、28年度中に公刊された主なものは次の通りである。

\*著者（専任教員）50音順

上元亘 他『1からのグローバル・マーケティング』碩学舎，2017年3月

上元亘「サービスの標準化における顧客の役割に関する考察」『麗澤学際ジャーナル』第25巻，2017年3月

上元亘「コミュニティ意識の規定要因—互惠性期待と外集団脅威の観点から」『消費者行動研究』第23巻第2号，2017年3月

江島顕一『日本道徳教育の歴史—近代から現代まで』ミネルヴァ書房，2016年4月

Emmaru, T., “The Consumption of Jeans in Japan: An Exploratory Study,” *2016 Global Marketing Conference at Hong Kong Proceedings*, Jul.2016.

圓丸哲麻「中心市街地活性化のためのコミュニティ・ビジネス評価に関する一考察-ブランド研究からの考察-」『商學論究』第64巻第5号，2017年3月

圓丸哲麻「統合的 Country-of-Origin 分析モデルの検討」Made in Japan"消費に関する一考察-」『麗澤大学紀要』第100巻，2017年3月

大越利之「不動産業の景況感の特徴：不動産業況指数と景気関連指標との関係」『土地総合研究』第24巻第3号，2016年9月

大越利之「金融緩和政策と住宅価格の関係：金融危機後の日本と諸外国の比較」一般財団法人土地総合研究所編『マイナス金利下における金融・不動産市場の読み方』，2017年3月

太田秀也「米国におけるリバースモーゲージの最近の状況」『土地総合研究』第24巻第3号，2016年9月

太田秀也「賃貸住宅におけるサブリース事業の実態と課題に関する研究」『麗澤学際ジャーナル』第25巻，2016年3月

高巖 他「エージェントをどう格付・評価・コントロールするか」ビジネス法務 Vol.16, No.8, 2016年8月

高巖「形式的な禁止から実質重視の判断へ：リスクに応じたアプローチ」ビジネス法務 Vol.16, No.8, 2016年8月

高巖 他「汚職防止のための内部統制システムの整備、コンサルタント・エージェントの格付・管理手法」『自由と正義』Vol.68 No.2, 2017年2月

陳玉雄「中国における「民間貸借」の発展とその論理」『成城大学経済研究所研究報告』No.76, 2017年3月

陳玉雄「中国金融における「下からの変革」——「民間貸借」からソーシャルレンディングへ——」『麗澤大学経済社会総合研究センターWorking Paper No.71 中国における民間活力の導入』，2016年3月

Tokunaga, S. et al., “Testing Localization of Chinese Food Industries: Evidence from Microgeographic Data,” *Review of Urban & Regional Development Studies*, Vol.28 Issue 3, Nov. 2017.

徳永澄憲 他『気候変動の農業への影響と対策の評価』養賢堂，2016年9月

徳永澄憲 他訳，A, セン『アマルティア・セン講義 経済学と倫理学』筑摩書房，2016年12月

徳永澄憲 他訳，藤田 昌久・J, ティス『集積の経済学』東洋経済新報社，2017年1月

徳永澄憲 他「千葉県における少子高齢化の地域経済への影響と産業空洞化・地域間財政移転問題に対する経済政策分析」『麗澤大学経済社会総合研究センターWorking Paper』No.79, 2017年3月

豊嶋建広・井下佳織 他「琉球処分以降における 転換期の唐手に関する一考察」『麗澤学際ジャーナル』第25巻，2017年3月

永井四郎『新環境政策原理』麗澤大学出版会，2016年7月

永井四郎『科学から信仰へ』祥雲社，2016年10月

中島真志 他『金融読本（第30版）』東洋経済新報社，2017年3月



- Bai, K. et al., "Possibility of Integration of financial accounting and management control : Through the alignment of two systems," *Business and Accounting Research*, Vol.5, Dec. 2016.
- Panda, R., "A Revolution in store for Indian Railways," *World Focus*, No. 441, Sep. 2016.
- Panda, R., "Modi's Visit to Vietnam: A New Push to India's Act East Policy," *Mainstream*, VOL LIV No 38, Sep.2016.
- Panda, R., "Emerging Synergy in India-Japan Relations," *Reitaku Journal of Interdisciplinary Studies*, vol. 25, Mar.2017.
- Panda, R., "ASEAN: Evolution, Performance and Challenges", *World Focus*, No. 447, Mar. 2017.
- 堀内一史「社会貢献する信仰集団：日本における信仰に基づくソーシャル・キャピタル」中山理 他編『日本：多様な文化が融合する国』, 2016年7月
- 山下美樹「グローバル社会の中の自分軸(個性) ～教育現場からの視点～」麗澤大学経済社会総合研究センター『Working Paper No. 77 グローバル社会の中での自分らしさと男女協働「共創空間」で気づく個性の本質』2017年3月
- 山下美樹「サービス・ラーニング：挑戦課題と学生の変容」『麗澤大学学際ジャーナル』第25巻, 2017年3月

### 3-3-3 課題及び改善・向上方策

基本的に、上記の目的に沿って、研究の主体は個々の教員に委ねられるが、26年度から「知の発信会」という教員の研究発表の場を設けた。今後も、本活動をより積極的に展開し、学際的な研究の発展の方向性を強める。

## 3-4 言語教育研究科

### 3-4-1 研究目的・目標

言語教育研究科では、専攻ごとに次のような研究目的・研究目標を設定している。

#### (1) 日本語教育学専攻

日本語を中心とした言語及び言語習得の研究を深化させ、それを基盤とする日本語教育学を構築することを目的としている。とりわけ以下の点を重視する。

- ① 一般性の高い言語理論・言語教育理論に基づく言語研究・言語習得研究・言語教育研究の推進
- ② 日本語と外国語との対照研究の推進
- ③ コーパス及び一次資料に基づく実証的な研究の確立
- ④ 言語研究センターとの連携による研究の推進

#### (2) 比較文明文化専攻

比較文明学・比較文化学理論を確立し、展開することを目的としている。この目的のために、比較文明学・比較文化学研究を推進するが、とりわけ以下の点を重視する。

- ① 世界平和の礎石としての比較文明文化学理論の構築
- ② 地域文化の比較研究
- ③ 言語文化の比較研究
- ④ 文明・文化を構成する言語、文学、民俗、宗教、社会などの諸分野における研究
- ⑤ 研究成果を比較文明文化研究センターや学会活動において積極的に公開

#### (3) 英語教育専攻

英語学領域、英語教育学領域、英語実践領域の研究を展開することを目的としている。各領域においては、以下の点を重視する。

- ① 現代言語学理論による英語学研究
- ② 教材論、語彙論、テスト論等の英語教育学研究
- ③ 異文化コミュニケーション研究、英語語法研究、英語翻訳論等を通じた英語運用能力の修得

### 3-4-2 本年度の研究活動

以上の研究目的・目標の達成及び教員各個人の研究目標達成のために、28年度も多彩な研究活動が展開された。本研究科の教員の殆どは外国語学部との兼担であるので、個別の研究成果については、3-2-2を参照されたい。ここでは、本研究科各専攻の教員・院生の研究論文発表の場として刊行されている『言語と文明』第15巻（29年3月）に収録された研究論文、研究ノート、研究資料を掲載順に示す。

（研究論文）

- ・杉浦滋子『全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』にみる日本語諸方言のフィラー
- ・武内梓朗「Two Types of Double Object Constructions in English:An Explication of Oehrle's (1976) Observation」(平成21年度修了生)
- ・コーブルアン ワチャラチャイ「物語ナラティブにおけるタイ語の関係節の使用  
- 「hîi 関係節」「sâŋ 関係節」「裸の関係節」各関係節の使われ方を中心に-
- ・趙妍姍「「くらいなら」の意味用法について」
- ・鄭媚輝「「一人っ子政策」と中国人の出産・育児観の変化ー中国広東省を事例にー」

（研究ノート）

- ・井上優「終助詞の意味の体系性に関する試論ー富山県井波方言の場合ー」
- ・大野仁美「若年層による南紀方言のアスペクト形式の使用とその理解」
- ・金廷珉「商品名の表記に関する日韓両言語の比較調査ーお菓子類を事例にー」

（研究資料）

- ・黒須里美・高橋美由紀・長岡篤「「ザビエルデータ」から復元する移動ヒストリーー近世庶民の人口移動研究資料ー」

### 3-4-3 課題及び改善・向上方策

言語教育研究科における研究活動は教員と学生が互いに刺激を受けながら展開するものであり、言語研究センター・比較文明文化研究センターとも連携しながら活性化を図っている。29年度は28年度に引き続き、大学院生メーリングリスト等を活用して、教員・学生の国内外の学会・セミナー・研究会への参加、ならびに学術雑誌における研究成果の報告を積極的に促進し、各研究センターとの連携をより一層強化する。その一方で、研究科内の教員はそれぞれグローバルな研究活動を行っているが、研究科としてその成果を共有することが必ずしも実現されていない。今後は大学院 Web サイトの「研究活動報告」やインフォーマルな研究会などの場を活用して、教員・院生による多彩な研究活動を広く公開し、大学院として高度専門分野の発展や課題解決に貢献していくという姿勢を一層明確にする必要がある。リサーチ・アシスタント、ポスト・ドクターなど、若手研究者の養成・支援のための制度を充実させることも重要である。

## 3-5 経済研究科

### 3-5-1 研究目的・目標

経済研究科における研究は、次の3点を目的としている。

- (1) 非西欧世界への深い認識を組み込んだ研究：従来の経済学・経営学は、欧米の視点・価値観をその基底においてきたといえる。ここではそれらに加えて、非西欧世界、特にアジア・太平洋圏への深い認識を組み込んだ研究を進める。
- (2) 人間性に適合する経済活動の原理の探求：経済だけが突出する経済至上主義を克服し、文化や政治、自然環境といった社会の諸次元と調和し、人間性に適合する経済活動の原理が求められている。この要請に応えるべく研究を進める。
- (3) 経済政策・経営実践に資する研究：情報化と地球規模を特徴とする21世紀の経済社会に対応するよう、数理科学・統計学・情報技術等を活用し、政策立案、政策実現及び経営実践の基礎となる研究を進める。

以上の目的を実現するために、次のような目標を設定している。

### (1) 経済・経営のグローバル化に対応する研究の推進

世界文明の歴史的な理解を土台にし、国際的・学際的視点を取り入れた専門的研究を目指す。併せて、その基礎となる国際的・文化的・経済的交流の研究、世界の主要文化地域を対象とする地域経済研究を進める。このために、教員の海外留学、国際研究プロジェクトへの参加、海外からの研究者の招聘を推進する。

### (2) 経済・経営における人間性・文化性を重視する研究の推進

個人及び国家社会の道徳性、倫理性の重要性を認識し、経済至上主義を克服し、経済活動を人間生活の中に調和的に位置づける原理を探求する。すなわち、主体の哲学、倫理の確立を目指し、経済の非人間化を克服し、かつ科学技術の進歩と社会の国際化・公共化・成熟化に伴って出現する文化的欲求に適合した新時代の社会経済理念の探求を進める。

### (3) 先進的な政策研究・実践研究の推進

数理学・統計学・情報技術等を活用し、現実の経済問題・経営問題・社会問題の工学的解決を目指す金融工学・経営情報学・社会工学の研究を推進する。

## 3-5-2 本年度の研究活動

本研究科に所属する専任教員は学部教員を兼任しているため、経済研究科（及び経済学部）の専任教員の研究活動については、主に経済社会総合研究センター及び企業倫理研究センターの研究プロジェクトとして組織的に支援してきた。従って、本年度の研究活動の成果については、両センターの報告を参照されたい。

また、博士課程の学生の研究活動及びその成果発表を支援・促進するために、両センターで実施される研究プロジェクトのいずれかに可能な範囲で研究協力者として学生を参加させている。また、博士課程リサーチセミナーを年に2回実施し、研究の継続・蓄積を促すとともに、逐次研究成果を発表させる機会を設けるなど研究成果を積極的に公表するよう研究指導を行った。

## 3-5-3 課題及び改善・向上方策

研究科専任教員の研究活動は、本年度も経済社会総合研究センターや企業倫理研究センターの研究プロジェクトが中心になっている。在学する大学院生もそれぞれの研究分野において指導教員と連携しながら、各研究センターの研究プロジェクトに研究協力者として参加している。

経済・経営のグローバル化に対応する研究は、International Program の開始やマレーシアのサラワク大学との連携協定によって、大学院生の交換留学、教員の学術研究交流を行える体制が徐々に整備されつつある。しかし、そうした制度は未だ途についたばかりで、今後はその活用を一層充実化して行く必要がある。また、今後も東南アジア諸国を中心に学術交流を目的として新たな海外提携校との協定を模索していく。それらのことにより、アジア、アフリカ等の途上国をはじめとする地域経済の発展に貢献できる研究及び政策提言を一層推進していく。

しかしながら、研究科内で展開されている研究活動及びその成果があまり外部に発信されていない状況もあり、高度専門分野の発展や課題解決に貢献していく目的を持つ大学院として、一層の情報発信が必要となっている。

## 3-6 別科日本語研修課程

### 3-6-1 研究目的・目標

同課程における日本語教育を改善、向上させることを目的とし、学生の日本語能力やニーズに応じた日本語教育を提供する研究を推進する。

### 3-6-2 本年度の研究活動

(1)年次の共通課題及び別科教育の方向性を全教員で確認して教育に携わった。また、各コースにおいて「学生自身に学びを意識させる工夫」のためのコース運営を研究した。

(2)FD として、各学期末に日本語教育センター全教員参加の分科会を開催した。授業担当者で学期の振り返

りや課題等を話し合い、次の学期や次年度へ反映する材料とした。

- (3)出身地域、日本語学習歴、別科入学時期など、各学生のより多角化した特性に合わせた指導法や教授方法に関して研究した。
- (4)初中級Ⅰ／Ⅱの会話授業における日本人と1対1で会話する活動において、学生自身がモニターしながら活動を行うにはどのような声掛けが有効か研究した。
- (5)初中級Ⅱコースでは、文法と読解の授業の内容をリンクさせ、統合的な日本語力を養成できる教材、教授方法、評価方法について研究した。
- (6)中上級／上級コースでは、メインテキストの本文を効率的に学ばせるために副教材を研究した。

### 3-6-3 課題及び改善・向上方策

- (1)引き続き学生自身が自己の日本語学習の目的、目標を明確に定め、日本語学習が進められるような支援方法を研究する。
- (2)多文化共存・共働、日本文化・事情等の授業で、日本人、他の外国人留学生と目的意識をもって交流させると同時に、幅広く問題意識を持ち、その解決を図れる人材を育成するより良いカリキュラムを研究する。
- (3)中上級／上級コースでは、ホームルームの時間に隔週で速読練習を行い、精読だけでなく速読力の向上も図ったが、引き続き効果的な速読力養成の方法を検討する。

## 3-7 経済社会総合研究センター

### 3-7-1 研究目的・目標

経済社会総合研究センター（略称は経総研）は既存の2つの研究センター、すなわち麗澤経済研究センターと国際研究センターを発展的に統合して、平成13年度から新規センターとしてスタートを切った。

爾来、本センターは単なる2つのセンターの加算というより乗算的に研究資源を蓄積し、複雑に錯綜する国内外の経済・経営現象を学際的・総合的に分析・解明する研究能力を飛躍的に高めてきている。

そして、上記の各種の課題を適切かつ相互に理解可能にするために、語学関連の研究まで含み、その裾野の広さが伺える。このことは単に多彩な研究活動が推進されていることのみならず、海外言語が加わることにより、奥行きが深い学際研究につながる可能性を示す。

本センターの研究活動は、学内公募による各種の研究プロジェクトに中心をおいている。

現在進行中の中期計画では、①本研究センター研究員が学内外の研究者と共同して行う「重点研究」、②重要な問題につながる「基礎的研究」、③政策提言に関わる「応用領域」という3本柱を立てている。「重点研究」は「アジアの経済社会研究」と「国際経済・国際社会研究」に、「基礎的研究」は「基礎理論の研究」と「データの収集・整備」に細分化され、重層的な成果を挙げられる区分構成となっている。

### 3-7-2 本年度の研究活動

#### (1) 研究プロジェクト

28年度においては、次の通り、研究プロジェクトを推進した。このうち14件が複数の学内外研究者による共同研究である。

①重点研究：「アジアの経済社会研究」

テーマ	代表者
1940年代～1950年代における道経一体論の再構築とその可能性—『報徳経済学研究』と『経済道徳研究所年報』に依拠して—	佐藤政則（経済学部教授）
教育が歴史、文化、社会に与える影響に関する研究～東アジア地域を中心に～	松田 徹（外国語学部教授）
中国社会・産業構造の変革と伝統文化の再構築	陳 玉雄（経済学部准教授）
アジアビジネス戦略研究	真殿 達（経済学部特任教授）
ユーラシアの政治経済研究「ロシアをめぐる国際関係の研究」	真殿 達（経済学部特任教授）

②重点研究：「国際経済・国際社会研究」

テーマ	代表者
日本企業における国際財務の実態	上村昌司（経済学部教授）

③基礎的研究（A）（基礎理論研究）

テーマ	代表者
大型小売業態における百貨店およびショッピングセンターの競争優位性に関する研究—消費者認識からの考察—	圓丸哲麻（経済学部准教授）
環境政策における政策システムの展開に関わる研究	小野宏哉（経済学部教授）
不動産市場、賃貸住宅の供給、流通、管理に関する研究	太田秀也（経済学部特任教授）

④基礎的研究（B）（アーカイブズ構築）

テーマ	代表者
人口・経済・家族の長期的研究：多世代パネルデータベース構築	黒須里美（外国語学部教授）

⑤応用研究（基礎理論研究から政策提言へ発展する研究）

テーマ	代表者
世界と日本をつなぐ「共創空間」開発研究—共創知による人材育成	大場裕之（経済学部教授）
持続可能な基礎的インフラの整備・維持管理に関する研究	籠 義樹（経済学部教授）
首都圏における少子高齢化の都市・農村経済への影響と地域・産業創生政策の提言	徳永澄憲（経済学部教授）
ビジネス中国語の研究開発	陳 玉雄（経済学部准教授）
リテール分野を中心とした決済業務の高度化に関する研究	中島真志（経済学部教授）
さしま茶のルーツに関する調査研究	徳永澄憲（経済学部教授）

(2) 研究会・セミナー・シンポジウム

28年度に開催した研究会等は次表の通りである。

①公開研究会

テーマ	講師・報告者	開催日
東芝「粉飾事件」の真相—トップ人事失敗による「人災」という東芝の悲劇	大鹿 靖明 氏（朝日新聞経済部記者）	5月27日
レコード業界の衰退からみた戦後芸能音楽史	後藤 喜兵衛 氏（医療法人社団恵愛会大分中村病院理事）	6月24日
AIとIoTとパーソナルデータ	橋田 浩一 氏（東京大学大学院情報理工学系研究科ソーシャルICT研究センター 教授）	7月29日
BREXITを中心に日本を取り巻く国際問題について	真殿 達（経済学部特任教授）	8月26日
IoT世界の中で日本の進む道	神永 晋 氏（住友精密工業株式会社 前代表取締役社長）	9月30日
インドネシアの不思議	池田 幸代 氏（INPEX 国際石油開発帝石株式会社 マセラ事業本部業務ユニットシニアコーディネーター）	10月21日
信用保証の視角から見た農家の資金調達難問題 無錫・保定農村調査：歴史、資料およびデータ	趙学軍 氏（中国社会科学院経済研究所 研究員） 隋福民 氏（中国社会科学院経済研究所 研究員）	11月9日
昭和史の中の「頭山満」—書き換えを求められる戦後の「玄洋社」観—	石瀧 豊美 氏（イシタキ人権学研究所 所長）	11月25日
プーチン来日にもつかわる諸問題を総括	石郷岡 建 氏（麗澤大学非常勤講師）	12月20日
高度成長期からアベノミクスまで—戦後70年の日本の経済社会の変化を長期的に考える—	宮川 公男 氏（麗澤大学名誉教授）	29年 1月27日

②シンポジウム

テーマ	講師・報告者	開催日
原子力と石炭 —本来議論すべきものは—	佐々木宜彦 氏 (社団法人電力土木技術協会) 相澤 善吾 氏 (一般社団法人海外電力調査会 会長) 坂梨 義彦 氏 (J-POWER電源開発株式会社 顧問 (同社 前副社長)) 真殿 達 (経済学部特任教授)	29年 2月18日

(3) Working Paper

28年度に発行した Working Paper は次表の通りである。

No.	題名	著者
74	国際ビジネスファイナンス研究会報告書	国際ビジネスファイナンス研究会
75	日銀引受国債発行の史的考察 —大蔵省・日本銀行・シンジケート銀行からの分析—	佐藤政則 (経済学部教授) 神山恒雄 (明治学院大学経済学部教授) 永廣 顕 (甲南大学経済学部教授)
76	都市の中小企業はどの金融機関を取引先にしたのか？ —『名古屋商工名鑑』による分析—	佐藤政則 (経済学部教授) 新井大輔 (名城大学経済学部准教授)
77	グローバル社会の中での自分らしさと男女協働 「共創空間」で気づく個性の本質	大場裕之 (経済学部教授) 山下美樹 (経済学部准教授) 露木かおり ((株)日本アプライドリサーチ研究所主任 研究員) 「共創空間」開発プロジェクトチーム
78	国際ビジネスファイナンス研究会報告書 第2巻	国際ビジネスファイナンス研究会
79	千葉県における少子高齢化の地域経済への影響 と産業空洞化・地域間財政移転問題に対する経済 政策分析	徳永澄憲 (経済学部教授) 佐藤仁志 (経済学部教授) 阿久根優子 (経済学部准教授) 沖山 充 (経済社会総合研究センター研究員)

3-7-3 課題及び改善・向上方策

本研究センターは既存の2つの研究センターの統合発展形であるため、研究領域が多岐にわたる。この特性のため、研究プロジェクトの学内募集に際しても多くの申し込みがあり、1件当たりの予算申請額にしても決して小さくない額である傾向となる。

現在、各センターの研究予算は学内全体で各種の調整段階を経て最終決定される。昨今の経済事情に鑑みると、大学の研究環境を取り巻く状況は決して好転せず、厳しい状況にある。この厳しい状況下で、各研究員は綿密な検討を下した本当に必要な予算を申請しなければならない。

ここ数年、本研究センターは旺盛な研究意欲を示し、申請件数及び予算額では3センターの7割前後を占める結果となっている。こうした突出状態の中、研究員は予算という浄財を申請しそれを研究目的に執行していく。このこと自体、研究者としての大学教員の責務であり、また喜びである。

稀に予算不要なプロジェクトも申請されるが、ほとんどのプロジェクトには一定額の予算申請が伴う。本研究センターでは査定上のチェックポイントを設けて、予算申請額の精緻化をはかる仕組みが提案されている。

誤解を恐れずに研究活動それ自体の醍醐味を言えば、「新たな課題解決」、「未知の既知化」に集約される。そして、それには「独り善がり」であってはならないという条件が付く。課題自体が広く社会的に共有され、その解決や解明が社会的に共有されること一言い換えれば、成果は社会的に還元されなければならない。各研究プロジェクトが著しい成果をアウトプットし、当センターの活動が内外にごく自然に認知され、その存在感が際立っていく—当センターの見定める座標である。

### 3-8 比較文明文化研究センター

#### 3-8-1 研究目的・目標

現代世界においては諸文明が共存・共生する道を模索することが求められている。比較文明研究センターは、平成7年4月に本学に設置された。その目的は、地球上の諸文明を比較研究し、諸文明間に相互理解の橋を架け、地球社会の平和の実現に寄与することである。それは、わが国における比較法学の創始者とも言える創立者廣池千九郎の建学の精神にも合致するものである。

平成13年4月には、本学大学院言語教育研究科に比較文明文化専攻（博士前期課程及び後期課程の同時開設）が実現したことを機に、大学院組織とも連携すべくセンターの名称を「比較文明文化研究センター」（略称は比文研）に改称した。諸文明の核にはそれぞれ固有の文化があり、両者を相即的に捉えて諸文明・諸文化の共生、交流を深めようとする目的が、改称によってより明確化された。

比文研では上記の目標を、以下の具体的事業を通して実現していく。

- ①年に数回「比文研セミナー」を開催する。この研究会は、第一部の講演と、第二部の研究会からなる。第一部は公開講演会とし、センター構成員、大学教職員、院生、学生のみならず、関心を持つ地域社会の人々に広く公開し、比較文明文化の研究成果を共有していくことを目的とする。第二部の研究会は、センター構成員、院生、学生が講師を囲み、研究発表をめぐって討論することにより、比較文明・比較文化の問題を掘り下げることを目的としている。セミナー講師は、本学教員及び外部の優れた研究者に依頼する。
- ②年10回程度「伊東俊太郎先生を囲む連続談話会「宇宙と文明の歴史—われわれの由来」」を開催する。この研究会は、伊東俊太郎博士が構想された自然史（*Historia Naturalis*）と文明史（*Historia Civilisationalis*）を含む「創発の生成史」の各段階を講義していただき、自由に討論するものであり、比較文明学の基礎を学び、若手・中堅研究者を育成することを目的としている。
- ③上記の研究発表を含め、センター構成員ならびに外国の研究者の論文も収録して、年1回センター紀要『比較文明研究』を発刊する。『比文研ニューズレター』も年1回発行する。
- ④センター構成員は「比較文明学会」の学術大会をはじめ、「国際比較文明学会」などの国際的学術大会・会議にもつとめて出席し、わが国の比較文明・文化研究の成果を世界に発信することに貢献する。
- ⑤比較文明・文化に関する内外の図書・資料を収集する。

#### 3-8-2 本年度の研究活動

- ①学内外の研究者を講師として、比文研セミナーを次表の通り開催した。

テーマ	講師・発表者	開催日
「日本」の源流を探る—「ヤマト文化」から「日本文明」まで—	モデレーター： 伊東俊太郎（麗澤大学・東京大学名誉教授、比較文明文化研究センター客員教授） レポーター： 所功（モラロジー研究所道徳科学研究センター研究主幹、比較文明文化研究センター客員教授） コメンテーター： 服部英二（モラロジー研究所道徳科学研究センター研究顧問、比較文明文化研究センター客員教授） 欠端實（麗澤大学名誉教授、比較文明文化研究センター客員教授）	6月15日
新しい世界史像：古代文明は四大文明だけだったかどうか？	安田喜憲（ふじのくに環境史ミュージアム館長）	7月13日
日本人と「無」 ※地球システム・倫理学会の学術大会と共催	中西進（高志の国文学館館長）	11月12日
科学と文明の未来	木曾功（千葉科学大学学長）	2月6日

- ③『比較文明研究』第21号を発行した（28年11月）。

④「伊東俊太郎先生を囲む連続談話会「宇宙と文明の歴史—われわれの由来」」を次表の通り開催した。

回	開催日	報告者
第5回	4月7日	伊東俊太郎（比較文明文化研究センター客員教授）
第6回	5月12日	
第7回	6月9日	
第8回	7月14日	
第9回	10月20日	
第10回	11月30日	
第11回	2月2日	

⑤海外の大学・研究機関との人的交流を推進すべく、28年8月から29年3月末まで、インド国立タゴール国際大学日本学科助教授のシュディプト・ダス氏を客員研究員として受け入れた。

### 3-8-3 課題及び改善・向上方策

『比較文明研究』に掲載された日本語論文、欧文論文及び英文要旨を、インターネットを通じて発信する体制が整っていないという課題がある。これらを研究センターのウェブサイトに掲載し、誰もがダウンロードできるように改善したい。

## 3-9 企業倫理研究センター

### 3-9-1 研究目的・目標

企業倫理研究センター（R-BEC）は、企業倫理の研究を通してビジネス社会の調和ある発展に資することを目的として設置された。その趣旨に沿って、創設以来、次の3つを大きな目標として活動を展開している。

- ①企業倫理、コンプライアンス、リスク・マネジメントなどに関する問題を総合的・多角的に研究し、その成果を広く社会に公表する。
- ②企業その他組織による倫理法令遵守マネジメントシステム、コンプライアンス体制などの確立を支援し、公正かつ責任あるビジネスの実践を促す。
- ③倫理的な企業その他組織がより正当に評価され、明確な形で報われるビジネス社会の建設に寄与する。

### 3-9-2 本年度の研究活動

上記3つの目標を追求するため、28年度は次のような研究活動を行った。

(1) 28年度に実施した研究プロジェクトは次表の通りである。

テーマ	代表者
エコノミズムとは何か、それをいかに越えるか	梅田 徹（外国語学部教授）
財務会計とマネジメントコントロールの関係性に関する研究：財務報告から統合報告への展開の可能性	倍 和博（経済学部教授）

(2) 28年度に開催した公開研究会は次表の通りである。

テーマ	講師・報告者	開催日
資生堂の企業文化について	大木 敏行氏（(株)資生堂企業文化部マネージャー）	10月15日
Complexity of Public Opinion and Implication to Ethical Decision Making	Chung-hee Kim 氏（立命館アジア太平洋大学国際経営学部教授）	11月29日
経営理念浸透のメカニズム	田中 雅子（帝塚山大学経営学部 教授）	2月16日

(3) 28年度に公表した主な研究成果は次表の通りである。

著者	研究成果のタイトル	発行日
梶田 幸雄（外国語学部教授）	Working Paper No.16『中国における会社の社会的責任』	8月3日



(4) 28年度にセンター研究員、特別研究員及び研究協力者が海外で行った発表・報告は次表の通りである。

テーマ	報告者	会議名 (国名)	開催日
Globalization, Coagglomeration, and Japanese MNF's Overseas Location in East Asia	徳永 澄憲 (経済学部教授)	環太平洋地域学会年次大会 (タイ)	6月28日
Significances of Introducing the Homo Socio-Economics Model	梅田 徹 (外国語学部教授)	ISBEE World Congress 2016 (中国)	7月14日
Institutionalization of Ethics at Japanese Corporations and Japanese Managers' Views of Business Ethics: Comparisons with Ten and Twenty Years Ago	中野 千秋 (経済学部教授)	ISBEE World Congress 2016 (中国)	7月15日
Foreign Public Officials Bribery as a Global Risk: Why Management of Japanese Corporations does not Perceive the Risk?	藤野 真也 (本学ポストドクター)	ISBEE World Congress 2016 (中国)	7月15日
Comparison of Recall and Boycott Scandals of Halal Certification Food Products from Perspectives of Business Ethics in Islam and Supply Chain Risk Management	藤原 達也 (経済研究科博士課程)	ISBEE World Congress 2016 (中国)	7月15日
The relationship between financial accounting and management control	倍 和博 (経済学部教授)	International Conference on Business and Management 2016 (アメリカ)	8月28日
A Study on Management EDP Audits (Internal Audits) for Achievement of Business Objectives in Small and Medium-sized Enterprise: From Viewpoints of Effective Utilization of Risk-based International Audits in ISO Management Systems	近藤 明人 (経済学部准教授)	International Conference on Business and Management 2016 (アメリカ)	8月28日
Study on the Level to understand Information Subject due to the Difference in Learning Strategies	吉田 健一郎 (経済学部准教授)	International Conference on Business and Management 2016 (アメリカ)	8月28日
日本の行政相談制度の意義・効果と課題	梶田 幸雄 (外国語学部教授)	Public Administration Forum for Asia (中国)	11月1日
Impacts of the Japan Earthquake and Effects of Restoration in the Tohoku Region: Using of a Regional I-O table and DSCGE Model	徳永 澄憲 (経済学部教授)	2016年北米地域学会年次大会 (アメリカ)	11月10日
What is Economism, and How Can We Overcome It?	梅田 徹 (外国語学部教授)	2016 NZ Association of Philosophers Annual Conference (ニュージーランド)	11月30日
Accounting Fraud and Accounting Standards: The Case of Toshiba's Fraudulent Accounting	鈴木 大介 (経済学部准教授)	2016 International Conference on Accounting, Auditing, and Taxation (エストニア)	12月9日
Spatial Panel Data Analysis of Spatial Dependence and Location Choices of Japanese FDI in East Asia			
Globalization, Coagglomeration and Japanese MNFs' Overseas Location in East Asia: Cases of Food, Electronics and Automobile Industries	徳永 澄憲 (経済学部教授)	2016年北米地域学会年次大会 (アメリカ)	11月14日
Globalization, coagglomeration and Japanese MNFs' overseas location in East Asia: A case of Japanese automobile industry	徳永 澄憲 (経済学部教授)	米国西部地域学会2017年次大会 (アメリカ)	2月16日
The impact of Kenyan fiscal policy and tariff elimination to the Kenyan economy			

### 3-9-3 課題及び改善・向上方策

28年度には、ISBEE (International Society for Business, Economics and Ethics) の第6回世界会議が中国・上海で開催され、本センター研究員5名が参加し、うち4名が学会発表した。この世界会議は、4年に1回開催されるため、企業倫理のオリンピックとも言われているが、その第1回目は1996年(平成8年)にモラロジー研究所と麗澤大学が主催して本学キャンパスで開催された。以来、企業倫理研究センター研究員は、ISBEEの活動に深くコミットして来たが、この第6回世界会議においても、麗澤大学のプレゼンスを世界の企業倫理研究者に大きくアピールできた。また、世界的企業倫理研究者と旧交を深め、また新たな関係を築くこともできた。例えば、28年11月29日に開催した公開研究会の報告者である Chung-hee Kim氏は、上海で新たに知己を得た韓国人研究者である。

29年度以降は、こうした海外の研究者および研究機関との交流や人材ネットワークの維持・拡充に一層注力し、当センターの研究活動の国際通用性を更に向上すべく努めていきたい。

## 3-10 言語研究センター

### 3-10-1 研究目的・目標

言語研究センターは、学際化・グローバル化の時代にあつて、語学教育に伝統と実績を有する麗澤大学がそれにふさわしい発展を遂げるために、研究水準の高度化を図り、個々の語学の枠を超えた横の連携、及び学部と大学院の縦の連携を担うべき組織として、平成15年10月1日に設立された。

設立の趣旨に基づき、本センターの活動目的を次のように定めている。

1. 言語の研究を通して人間言語の普遍性と多様性にかかわる知の形成に努め、人間の学に貢献する。
2. 学部・大学院教育への支援となる活動を行い、研究と教育の一体化を担うモデル的な組織を目指す。具体的には、次の活動を行う。

#### (1) 教員と学生の研究の活性化

- ①言語研究センター共同研究室を、教員と学生の研究交流の場として活用する。
- ②個々の語学の枠を超えて教員と学生の区別なく研究成果を自由に発表できる定例の研究セミナーを開催する。
- ③外部講師を含めた学術シンポジウムを開催し、学外の研究者・学生との研究交流を促進する。
- ④学生も参画可能な学内共同研究プロジェクトを公募し、教員と学生の研究活動を支援する。

#### (2) 学部及び大学院の教育支援

- ①研究セミナーを通じて学部学生の言語文化全体に対する関心を高める。
- ②大学院生及び博士課程修了者に対して、研究セミナーでの発表、共同研究プロジェクトへの参加の機会を提供し、研究業績に反映されるような実績を上げていく。
- ③プロジェクトや大学院生の研究に資することを目的として、言語学関係書籍を収集し、広く利用に供する。

#### (3) 外部資金による研究との有機的な連携を図る。

センター活動の社会的水準を高めるべく、科学研究費助成事業等の外部資金獲得を志向した研究や、外部資金による研究からの継続性をもった研究を積極的に支援していく。

### 3-10-2 本年度の研究活動

#### (1) 中期計画(25年度から29年度までの5年間)に関する取組み

言語研究センターは、以下の5項目を中期計画に掲げている。①、②は順調に実施されたが、③についてはプロジェクトの応募がなかったため、実施できなかった。④については時間と労力が確保できず、具体的な整備には至っていない。⑤については、研究室A棟の改修に合わせて、言語学関連書籍を言語研究センターに移管した。

- ①個々の語学の枠を超えて、教員と学生の区別なく研究成果を自由に発表できる定例の研究セミナーを開催する。
- ②言語研究センター主催のシンポジウム・研究発表会を年1回開催し、学内・学外の研究者・学生との研究交流を促進する。特に「言語研究」と「言語教育研究」の二本柱のバランスがとれた形で実施することに重点を置く。
- ③学生も参画可能な学内共同研究プロジェクトを公募し、教員と学生の研究活動を支援する。
- ④言語研究センターweb ページの運営をよりシステム化し、センターの研究プロジェクトやシンポジウムの成果を公表する媒体として最大限に活用する。
- ⑤プロジェクトや大学院生の研究に資することを目的として、言語学関係書籍を収集し、広く利用に供する。

## (2) 研究セミナー・シンポジウム

次表の通り開催した。

開催内容	講師・報告者及びテーマ	開催日
第64回研究セミナー	杉浦 滋子 (外国語学部教授) 「推量の文脈からの派生—日本語共通語、諸方言の推量形と終助詞ガに注目して—」	5月19日
第65回研究セミナー	北原 賢一 (外国語学部准教授) 「映画「フルメタルジャケット」に見る英語同族目的語表現の広がり」	6月16日
第66回研究セミナー	望月 正道 (外国語学部教授) 「外国語授業研究のためのフレームワーク」	7月14日
シンポジウム	【テーマ】英語辞書と英語学習 【講演】田中 茂範 (慶應義塾大学教授) 「英語の語彙力を伸ばす方法」 【実践報告】森本 俊 (常磐大学人間科学部助教) 「基本語力を育むエクササイズ・デザイン」 渡邊 裕子 (松戸国際高等学校教諭) 「生徒の語彙サイズ拡大のための取り組み」	12月17日

## (3) 研究プロジェクト

今年度はプロジェクトがなかった。

### 3-10-3 課題及び改善・向上方策

これまでの課題を踏まえ、29年度はいまだ実現できていない以下の点を、中期計画の期間内に実現させることに重点を置く。

- ①言語研究センターweb ページの運営をよりシステム化し、センターの研究プロジェクトやシンポジウムの成果を公表する媒体として活用する。

## 3-11 日本語教育センター

### 3-11-1 研究目的・目標

大学での学習に必要な日本語力やコミュニケーション能力を養成することを目的とし、効果的な日本語教育についての研究を推進する。また、学習目的が多様化する学習者に対し、ニーズに応じたカリキュラムを研究する。

### 3-11-2 本年度の研究活動

- ①「日本語文章表現演習」では、文章の質を高めていく過程において学生が難しいと感じる点を洗い出し、それらに沿った教材作成について研究した。
- ②「日本語文法演習」では、より教育効果を高めるため、単元ごと、授業ごとの目標を教師と学生で共有することを目指し、それに必要となる基礎的な文法力について研究した。
- ③「日本語文法演習」では、学生の日本語のレベル差や、興味関心の違いに対応するため、多様な教授方法および効果的なテスト作成について研究した。

- ④日本語力の低い経済学部留学生（1年生）に対し、初級レベルで学ぶ知識の確実な定着及び運用能力の向上を図るためのカリキュラム、教授方法、支援方法について研究した。

### 3-11-3 課題及び改善・向上方策

- ①増加する経済学部留学生（1年生）に対する日本語教育に関して、経済学部の教育方針を確認しながら、学生の日本語能力向上に関する効果的なカリキュラム、教授方法および支援方法を検討する。
- ②「日本語聴解演習」において、課ごとに作成した到達項目リストをより効果的なものになるよう検討する。
- ③「日本語文法演習」では、修得すべき文法力の一覧をどのように効果的に活用できるか、その活用方法を検討する。
- ④「日本語文章表現演習」において、パフォーマンス評価の段階的な基準設定に向けて検討を始める。

## 3-12 道徳科学教育センター

### 3-12-1 目的・目標

道徳科学教育センター（Center for Moral Science and Education）は、建学の精神の根幹を成す道徳科学に関する教育及び研究を行い、広く社会の道徳教育の推進に資することを目的に、麗澤大学開学 50 周年記念事業の一環として、平成 20 年 4 月 1 日に設置された。具体的には、次のような教育・研究活動を展開することになっている。

- ①「道徳科学」の授業運営支援及び教材開発
- ②道徳教育の展開の場としての学生生活の支援
- ③建学の精神に関する研究とその教授法の開発
- ④道徳科学に関する研究とその教授法の開発
- ⑤倫理学、道徳に関する研究とその教授法の開発
- ⑥研究会・講演会の開催

### 3-12-2 本年度の活動

全学的なカリキュラム改革の一環として進めてきた全学年において「道徳科学」を順次に学べる教育課程が 28 年度から開始された。28 年度入学者からの教育課程では、2 年次に「道徳科学 A・B」（必修）を配置し、1 年次には教養科目（必修）の中で、2 年次の「道徳科学 A・B」につながる内容を講義する科目を配置した。さらに 3・4 年次には「道徳科学研究 A・B・C・D」（選択）を配置して、4 年間を通じて「道徳科学」を学べるカリキュラムが開始された。

また、アメリカのボストン大学、ミズーリ大学、セント・マーチンズ大学、イギリスのバーミンガム大学、ベトナムの国家大学ホーチミン市校人文社会科学大学、インドのタゴール大学、マレーシア・サラワク大学などの海外大学等との教育・学術における交流を進め、道徳・倫理教育の世界的な展開を図り、教育のグローバル化を進めてきた。

教育に関しては、28 年度は、両学部とも新教育課程の実施に伴い、「道徳科学 A・B」は 2 年次配当科目となったため、1 年次で外国語学部は新入生オリエンテーションキャンプ、経済学部は導入授業のなかで建学の精神や麗澤大学の歴史を学ぶ自校学習などが行われた。また、「基礎ゼミナール A・B」（外国語学部の 1 年次必修科目）、「現代社会と道徳科学 A・B」（経済学部の 1 年次必修科目）においても 2 年次の「道徳科学 A・B」の学びに繋がる建学の精神、麗澤大学の歴史、倫理・道徳の課題などを学ぶ機会を提供した。

道徳教育の展開の場として入学式後のオリエンテーション期間中に行われる新入生対象のオリエンテーション・キャンプ（外国語学部）や社会科学分析入門（経済学部）における自校学習のための学生組織「自校学習スタッフ」の活動を支援した。また、学生生活の支援として、リーダーセミナー Part II（11 月 26 日（土））・Part I（29 年 2 月 15 日（水）～17 日（金）、谷川セミナーハウス）、ユニット・リーダーセミナー Part I（28 年 2 月 10 日（金））・Part II（29 年 3 月 16 日（木）～18 日（土）、谷川セミナーハウス）において講話等を行った。

さらに、高等学校が実施する研修会等への講師派遣や公益財団法人モラロジー研究所が主催する教育者研究会への講師派遣、人格教育に関する研究を行っている海外の高等教育機関との交流等を図るため、道徳科学教育センターから積極的に情報発信することに努めた。

28年度の主な活動は、以下のとおりである。

《海外の高等教育機関との活動》

- ①4月20日～25日 ベトナム・ホーチミン市人文社会科学大学 道徳研究センタースタッフ見学団が来園

4月20日に江島頭一助教による道徳教育の現状についての解説と意見交換、江島助教担当の「道徳教育の研究」、堀内教授担当の「比較社会論」の授業参観、グローバル・ドミトリーの見学、中山学長と今後のコラボレーションについて意見交換を行い、さらなる協力要請があった。4月23日と24日は、谷川セミナーハウスを訪問、創立者の事蹟見学と今後の交流についての意見交換が行われた。

- ②7月6日 2015年12月開催のベトナム国家大学との国際シンポジウムの成果を日越両語で出版

『日本：多様な文化が融合する国』をホーチミン市国家大学と共同出版（中山理、堀内一史、犬飼孝夫）

- ③8月18日～30日 タゴール初訪日100周年および廣池千九郎生誕150年記念シンポジウム

8/26～27 国際会議テーマ「タゴールと日本及び日本の諸側面とその文化」

基調講演・発表テーマ：Japanese Garden and Its Conception of Nature (shizen) (中山)

セッション発表テーマ：「タゴールと廣池千九郎の教育観」(竹内)

「日本式庭園とその自然観」(中山)

「日本の道徳の起源：聖徳太子の十七条憲法」(犬飼)

※国際会議の報告書は、3月20日発行予定。

- ④9月10日～14日 ミズーリ大学 Journal of Character Education の編集打合せ（堀内一史、江島頭一）

・「道徳科学」の教育効果を測定する尺度開発（RUMS 3）に関する研究会

バーコウィッツ教授、メリンダ博士と意見交換し、報告書を修正。結果はミズーリチームと共著で論文にまとめ、2017年3月を目途に査読付きの Journal of Character Education に寄稿予定

・道徳科学の教育効果に関する定性的研究について」の研究会

バーコウィッツ教授、メリンダ博士、ウルフガング教授と意見交換し、報告書を修正

- ⑤11月17日～20日 Japan Vietnam Festival2016 教育セミナー講演（中山理、近藤彩）

テーマ：「教育分野での日越コラボレーションで両国の未来を拓く」（中山）

会場：ベトナム・ホーチミン市 GEM センター、9月23日公園

- ⑥12月3日～8日 マレーシア・サラワク大学（国際会議・道徳と経済に関するシンポジウム）

（中山理、小野宏哉、中野千秋、下田健人、堀内一史、ラウ・シンイー）

テーマ：“Morality, Economics and Business Ethics”（モラロジー、経営と道徳）

- ⑦29年1月5日～7日 バーミンガム大学 ジュビリーセンター主催の国際会議で発表（堀内一史、宮下和夫、江島頭一）

Character, Wisdom and Virtue, Oriel College, Oxford, January 5-7, 2017

「道徳科学の教育効果に関する定性的研究」についての論文を発表予定

《国内・学内外での活動》

- ①教職課程における道徳教育に関する資料の充実や教授法教育等への支援、道徳に関する教員免許状更新講習の運営を支援

8/8 道徳教育の現状と課題（選択） 受講者：39名

講師：江島頭一

テーマ：「道徳教育の現状」、「道徳教育の目標と内容」、「道徳教育の指導と展開」、「道徳教育の課題」

8/9 教育の最新事情（必修） 受講者：87名

講師：江島頭一、原田恵理子（東京情報大学教授）

テーマ：「国の教育政策や世界の教育の動向 / 教員としての子ども観、教育観についての省察」（江島）

②道徳教育の推進に向けた活動を展開

- 1) 高等学校教員を対象とする道徳教育研修会「第4回 高校教員のための道徳教育講座」を千葉県教育委員会及び茨城県教育委員会の後援を受けて本学で開催。(8月10日(水))

メインテーマ：『道徳』の教科化と道徳授業への提案

講師：江島頭一、稲田敏志(千葉県立船橋北高校)、北條奈緒美(茨城県立下妻第二高校)

講演：「よりよい道徳教育をめざして」(江島頭一)

実践報告：「道徳を学ぶ時間を通じた教員の指導力向上」(稲田敏志)

「“道徳プラス”の授業実践」(北條奈緒美)

参加人数：46名

- 2) 柏市大学連携講座として柏市内小・中学校教員を対象とした道徳教育講座を開講した。(8月4日(木))

テーマ：「道徳の本質と実践～よりよい道徳教育と道徳授業をめざして～」

講師：江島頭一「よりよい道徳教育をめざして」

大館昭彦(流山市立小山小学校校長)『『特別の教科 道徳』への準備』

参加人数：51名

③公益財団法人モラロジー研究所主催の第53回教育者研究会への講師派遣を推進した。

総合テーマ：道徳教育の新たな充実をめざして

派遣教員	開催日	開催場所	テーマ
中山 理 学長	7月2日(土)	大阪府住吉区	道徳教育の新たな充実をめざして
宮下和大 助教	7月9日(土)	大阪府東淀川区	道徳教育の新たな充実をめざして
北川治男 名誉教授	7月30日(土)	新潟県長岡市	対話の教育～生きる力を育む～
高橋史朗 客員教授	8月2日(火)	福井県福井市	日本を取り戻す教育
橋本富太郎 助教	8月3日(水)	神奈川県座間市	道徳教育と日本文化の核心～皇室の伝統を考える～
北川治男 名誉教授	8月5日(金)	群馬県高崎市	いっそう問われる教師の品性
貝塚茂樹 客員教授	8月5日(金)	千葉県柏市	道徳模擬授業・講義「考え、議論する道徳」の授業のつくり方
井出 元 特任教授	8月6日(土)	栃木県宇都宮市	モラロジーの創業者廣池千九郎の事績
江島頭一 助教	8月23日(火)	茨城県水戸市	道徳の教科化に向けて今なすべきこと

④公益財団法人モラロジー研究所との共催や協議会からの要請を受けて講師を派遣した。

- ・東松山教員研修会(埼玉県東松山市)(8月8日)

テーマ：「道徳教育の教科化に向けて、今、挑戦すべきこと」(中山理)

- ・千葉県モラロジー協議会主催 平成28年度公開教養講演会(10月10日)

テーマ：「現代に生かす廣池千九郎の道徳思想」(中山理)

- ・道徳授業指導力向上講座(研究所・大学共催)(10月30日)

テーマ：「学習指導要領改正のポイント」(江島頭一)

※「道徳授業指導力向上講座」は、モラロジー研究所(道徳教育推進部)と麗澤大学(道徳科学教育センター)の共催で4回の講座を開催。10/30(日)、11/13(日)、11/27(日)、12/11(日)

- ・第5回教育者対象モラロジー講習会(12月24日)

テーマ：「今日における道徳教育の課題と展望」(中山理)

⑤ 道徳科学教育センター主催研究会

- ・『日本道徳教育の歴史』（江島顕一著）出版記念研究会（6月1日）

貝塚茂樹教授（武蔵野大学）を招いて出版記念研究会を開催

『日本道徳教育の歴史-近代から現代まで-』（ミネルヴァ書房）4/15 刊行

- ・『廣池千九郎—道徳科学とは何ぞや』（橋本富太郎著）出版記念研究会（11月30日）

第1部 橋本富太郎助教による著作内容等についての講演

第2部 櫻井良樹教授、水野雄司教授客員研究員（武蔵野大学教養教育リサーチセンター研究員）を交え、招いて出版記念研究会を開催同書の意義や今後の廣池研究の課題、方向性などについて議論

『廣池千九郎—道徳科学とは何ぞや』（ミネルヴァ書房）11/10 刊行

- ⑥ 29年度より2年次配当とした「道徳科学A・B」で使用する新テキストの作成を進め、29年2月末に『新編 大学生のための道徳教科書』を刊行した。なお、今回はパイロット版として作成し、30年2月末刊行予定で29年度中に学生モニターとの意見交換等を行い、改訂作業を行うこととした。

### 3-12-3 課題及び改善・向上方策

- ① 1年次配当の（外）「基礎ゼミナールA・B」、（経）「現代社会と道徳科学A・B」における建学の精神、麗澤大学の歴史、倫理・道徳の課題などの学習量が異なることが、2年次の配当の「道徳科学A・B」の学び方に影響することが懸念される。できれば、1年次において両学部 of 学生に対して同じ学びが提供できるような改善を検討したい。
- ② ミズーリ大学 CCC との共同研究プロジェクト「品性教育と道徳教育の評価方法に関する共同研究」については、データ分析法方法に関して堀内一史教授、江島顕一助教がミズーリ大学を訪問（9月14日）し、「道徳科学」の教育効果を測定する尺度開発（RUMS 3）に関する研究会を行い、その報告を取りまとめてバーコヴィッツ博士のグループとともに編集する『*Journal of Character Education*』に掲載することとなった。

#### 4. 学生受入れ

##### 4-1 外国語学部

##### 4-1-1 目的・目標

アドミッション・ポリシーに基づき、国際的教養人を育成するために多様な学生の受入れを目的とする。

##### 4-1-2 本年度の活動

外国語学部の学生募集は、10月のAO入試（出願資格に関する審査は9月実施）から始まり、3月入試まで、延べ17種類の入学試験及び編入学試験が、ほぼ半年の期間をかけて行われる。このような複雑で種類の多い学生受入れの体制は、受験生側の多様な受験ニーズに応えることと、様々な特色を有する学生を確保したいという本学部側の要請によって、徐々に積み重ねられてきた。

入試区分ごとの29年度募集人員は、次表の通りである。

##### 【外国語学科 入学定員：300名】

選抜区分	英語 コミュニケーション 専攻	英語・ リベラルアーツ 専攻	国際交流・ 国際協力 専攻	ドイツ語・ ドイツ文化 専攻	中国語 専攻	日本語・国際コミュ ニケーション専攻		合計	
						日本人	留学生		
AO入試	約25名						—	約25名	
指定校推薦入試	約30名						—	約30名	
公募推薦入試	約30名						—	約30名	
麗澤会員・維持員子女等推薦入試	若干名						—	若干名	
外国人留学生11月入試	国内受験	若干名					—	約10名	約10名
	国外受験	—	—	—	—	—	若干名	若干名	
帰国子女入試	若干名						—	若干名	
大学入試センター試験利用入試Ⅰ期	約10名	約10名	約5名	約5名	約5名	約5名	—	約40名	
一般2月入試	A日程 (本学・サテライト)	約30名	約40名	約20名	約20名	約20名	約15名	—	約145名
	B日程 (本学)								
外国人留学生2月入試	—	—	—	—	—	—	約10名	約10名	
大学入試センター試験利用入試Ⅱ期	約10名						—	約10名	
一般3月入試 (A日程・B日程)							—		
合計	300名							300名	

##### 【外国語学部 編入学試験】

編入区分	学科/専攻	入試区分	募集人員
2年次	英語コミュニケーション専攻	Ⅰ期・Ⅲ期	若干名
	英語・英米文化専攻	Ⅰ期・Ⅲ期	
	国際交流・国際協力専攻	Ⅲ期	
	ドイツ語・ドイツ文化専攻	Ⅲ期	
	中国語専攻	Ⅲ期	
	日本語・国際コミュニケーション専攻 (日本人)	Ⅲ期	
	日本語・国際コミュニケーション専攻 (留学生)	Ⅱ期・Ⅲ期	

編入区分	学科/専攻	入試区分	募集人員
3年次	英語コミュニケーション専攻	Ⅰ期・Ⅲ期	若干名
	英語・英米文化専攻	Ⅰ期・Ⅲ期	
	国際交流・国際協力専攻	Ⅲ期	
	ドイツ語・ドイツ文化専攻	Ⅲ期	
	中国語・中国文化専攻	Ⅲ期	
	日本語・国際コミュニケーション専攻 (日本人)	Ⅲ期	
	日本語・国際コミュニケーション専攻 (留学生)	Ⅱ期・Ⅲ期	

※上記入試区分のうち、実施時期はⅠ期が10月、Ⅱ期が11月、Ⅲ期が2月。



【外国語学部 指定校編入学試験】

編入区分	学科/専攻	入試区分	募集人員
2年次	英語コミュニケーション専攻	I期・II期※	若干名
	英語・英米文化専攻		
	国際交流・国際協力専攻		
	ドイツ語・ドイツ文化専攻		
	中国語専攻		
	日本語・国際コミュニケーション専攻（日本人）		
日本語・国際コミュニケーション専攻（留学生）			

※上記入試区分のうち、実施時期はI期が11月、II期が2月実施。

編入区分	学科/専攻	入試区分	募集人員
3年次	英語コミュニケーション専攻	I期・II期※	若干名
	英語・英米文化専攻		
	国際交流・国際協力専攻		
	ドイツ語・ドイツ文化専攻		
	中国語・中国文化専攻		
	日本語・国際コミュニケーション専攻（日本人）		
日本語・国際コミュニケーション専攻（留学生）			

※上記入試区分のうち、実施時期はI期が11月、II期が2月実施

(1) AO 入試

AO入試は、一定の語学力を備えた者の内から、プレゼンテーションと面接（英語コミュニケーション専攻、英語・リベラルアーツ専攻のみ質疑応答を一部英語で行う）を通じて、表現力・思考力・リーダーシップ・創造性などを評価することによって合否判定がなされる。

(2) 推薦入試

推薦入試は、高校生活を真面目に送った優秀な学生の早期確保を目的とする。29年度入試より公募推薦入試<併願型>を設け、英語・国語による能力検査による入試を開始した。公募推薦入試【専願型】、指定校推薦入試については29年度以前の入試と同様に、面接により選抜を行った。指定校推薦入試は面接のみの選抜となるため、公募推薦入試に比べ、出願資格をやや高めに設定している。

指定校推薦入試は、特定校（麗澤高校・麗澤瑞浪高校・明德義塾高校・関東国際高校・流通経済大学付属柏高校）を対象とするものと一般指定校を対象とするものがある。

- ・A方式は高校ごとの入学実績を中心とするものであり、高校との太い関係を築き継続的に優秀な学生を推薦していただくという意図で設けられた。
- ・地域特定校は、①本学が所在する柏市内並びに柏市に隣接・近接する地域に設置されている高校、②一般2月入試A日程で会場を設置した水戸・宇都宮・千葉・新宿並びにこれらに隣接・近接する地域に設置されている高校の中から多様な要素を基に算定を行った。
- ・E方式は、指定校推薦枠の依頼を本学が受けた高等学校及び本学教職員が推薦する高等学校のうち所定の条件を満たした場合に指定校とするものである。
- ・29年度入試より自己推薦入試を公募推薦入試へ変更し、【専願型】と<併願型>の2種類を設けた。【専願型】は従来実施していた自己推薦入試と同様、出願資格として英語コミュニケーション専攻のみ評定平均値及び語学資格取得を課し、他の5専攻では出願資格に基準は設けていない。選抜は、高校時代の諸活動の内容や人物評価を含みながら、小論文と面接（調査書による評価を含む）により行った。
- ・29年度入試より開始した<併願型>は、出願資格に基準は設けず、英語・国語による能力検査を実施する入試である。また、この入試は推薦入試ではあるが他大学との併願を可能とし、且つ入学手続期限も他の推薦入試より遅く設定されている。
- ・麗澤会員子女等推薦入試は、麗澤会員の子女等を対象としており、29年度入試での志願者はなかった。
- ・モラロジー研究所維持員子女等推薦入試は本学の学校法人と同じ敷地内にある公益財団法人であるモラロジー研究所維持員子女を対象としており、29年度入試での志願者はなかった。

- ・29年度入試は麗澤高校、麗澤瑞浪高校を対象とする指定校推薦入試Ⅱ期・Ⅲ期を実施した。指定校推薦入試Ⅱ期は3月2日、Ⅲ期は3月22日に実施するものである。29年度入試では志願者はなかった。

### (3) 一般入試

- ・2月入試は本学独自の問題を作成し、A日程(2月4日)・B日程(2月5日)を実施した。29年度入試より従来の英語200点・国語100点の基礎2科目型に英語・国語・選択科目(世界史、日本史、政治・経済より1科目選択)各100点の3科目を新たに加えた選抜方式である。A日程では試験会場を本学及びサテライト会場の地方4会場(水戸・宇都宮・千葉・新宿)とし、B日程では本学のみとしている。受験生の都合により試験日を選択できるとともに、両日受験することもできるようになり、受験機会の幅が広がった。
- ・大学入試センター試験利用入試Ⅰ期は、英語を軸に社会系・理数系科目を含む様々な科目から高得点のものを合否判定に用いることにより、全国各地の多彩な学力を有する生徒を獲得することを目標としている。29年度入試では、従来の2科目型の他に英語+高得点2科目を利用する3科目型と英語・国語+高得点2科目を利用する4科目型を加えた。また、大学入試センター試験利用入試Ⅱ期は英語(ドイツ語・ドイツ文化専攻志願者はドイツ語でも出願可)の得点のみで合否判定を行っている。
- ・3月入試(A日程)は、英検などの資格を出願条件とし、3月入試(B日程)は一定の評定平均値を出願条件としている。選考は面接(英語コミュニケーション専攻、英語・リベラルアーツ専攻志願者には質疑応答を一部英語で行う)によって行われる。2月までに行われた入試の手続き状況に基づき入学者数の調整を図ることを目的としている。
- ・帰国子女入試は、海外経験の豊かな生徒を受け入れようという趣旨から設けたもので、推薦入試に併せて実施する。TOEICやTOEFLなどの語学能力と面接などを通じて合否を判断する。29年度入試は志願者はなかった。

### (4) 外国人留学生入試

- ・日本語・国際コミュニケーション専攻の外国人留学生入試は2回実施する。1回目の11月入試は本学作成の『日本語』を用いる国内受験と、日本及び世界各国で行われる日本留学試験の日本語の成績を用いる国外受験に分かれる。2回目の2月入試では「日本留学試験」の『日本語』の成績と『記述』を作文として利用するの両方を用いて選抜する。
- ・日本語・国際コミュニケーション専攻では、漢字圏出身者(漢字圏出身者とは中国・台湾・韓国出身者を指す)と非漢字圏出身者とに分かれて選抜を行っている。これは非漢字圏出身者に受験しやすい環境を整えることで、より多様な外国人留学生の受入れを可能とした。
- ・日本語・国際コミュニケーション専攻以外の5専攻でも11月に外国人留学生入試を実施している。
- ・外国人留学生入試にも指定校推薦入試があり、日本国内外の日本語学校等に推薦枠を提供している。これは学習意欲・日本語力の高い留学生を早期に確保することを目的としている。29年度入試は11月に2名、2月に0名、計2名の志願があった。
- ・その他に、日本語・国際コミュニケーション専攻以外の各専攻も含めて、本学の別科日本語研修課程から推薦を受けるという形式で留学生を受け入れる制度を備えている(募集人員は若干名として11月入試の一部に含まれている)。こちらも日本語学校指定校と同様に11月・2月に実施している。29年度入試では志願者はなかった。

### (5) 編入学試験

- ・編入学試験は、10月、11月及び2月の3回設定している。10月には英語コミュニケーション専攻、英語・英米文化専攻の2・3年次編入学試験を、11月には外国人留学生対象の日本語・国際コミュニケーション専攻2・3年次編入学試験を、また2月には各専攻への2・3年次編入学試験を設けている。
- ・29年度入試は、日本国内の日本語学校23校を日本語・国際コミュニケーション専攻の外国人留学生編入学指定校とし、入試は11月と2月の2回実施した。29年度入試は3年次に1名の志願者があった。
- ・指定校(海外)として、韓国の大学(2校)と韓国の日本語学校2校を指定校とした。29年度入試では志願者がなかった。

- ・29年度入試も指定校（短期大学・専門学校・別科推薦枠）を設定した。短期大学は3校、専門学校は4校を指定校とした。この内専門学校枠から2年次に4名、3年次に6名の志願があった。
- ・26年度入試より継続して、指定校（専門学校枠）の中でこれまでの志願者数を考慮し神田外語学院出身者で以下の語学資格を満たす者を入学金免除とする旨決定した。29年度入試の対象者はなかった。

【入学金免除語学資格基準】

- ・TOEIC 又は TOEIC IP 800 点以上
- ・TOEFL iBT 90 点以上、PBT574 点以上、又は TOEFL ITP574 点以上
- ・28年度入試では、共同学位プログラムに基づき、釜山外国語大学から2名志願があり、淡江大学からはなかった。

(6) 転部・転専攻試験

- ・29年度入試では、日本語・国際コミュニケーション専攻から英語コミュニケーション専攻への転専攻（2年次）に1名の志願があった。試験の結果、転専攻が認められた。

(7) 複数一括出願制

- ・2月実施入試における同一合格発表日の大学入試センター試験利用入試・一般入試に対して複数の出願を一括して行う場合には入学検定料を減額するという「複数一括出願制」を経済学部と共に導入している。29年度入試では併願する入試区分1つにつき入学検定料を一律1万円に減額し、より受験しやすい体制に整えた。

(8) スカラシップ制度

29年度入試より一般2月入試受験者を対象にスカラシップ制度を開始した。スカラシップ制度は、一般2月入試A日程・B日程受験者の中で総合点75%以上取得した者で100位以内のものに授業料60万円を支給するというものである。今年度は両学部合わせて80名の該当者があり、その内49名が外国語学部であった。

#### 4-1-3 課題及び改善・向上方策

上述のように、外国語学部では多様な入試により多様な学生の確保に努めている。また、安定的に入学定員の充足が継続している。各入試の定員の割合をどのように設定するかは、学生の質と人数の確保を考えた場合、戦略として非常に重要である。

現在の課題は、大学のグローバル分野が拡大する中でありながらも外国語学部を志望する人数が全般的に減少する傾向にあることである。今後日本全体の大学受験者数が減少期に入ることも鑑み、大学進学希望者の最新の志望動向を的確に分析すると共に、広報活動とも緊密に連携し、重ねて受験方法の変更やターゲット層の拡大等の対応策を検討しているところである。

また、大学入試センター試験が数年後に終了する予定のため、大学入試センター試験利用入試に代わる入試区分についても継続して議論を進めている。

## 4-2 経済学部

### 4-2-1 目的・目標

経済学・経営学に裏付けられた国際的な教養・専門力を備えた人材、すなわち国際公共人を育成するため、多様な選抜方法により、多様な学生を受け入れることを目的とする。

### 4-2-2 本年度の活動

経済学部では、多様な学生を受入れることを目的として、29年度入試では15の入試区分を設定した。入試区分ごとの29年度募集人員は、次表の通りである。28年度から導入した2学科4専攻体制に伴い、29年度も引き続き専攻ごとに募集定員を設定し選抜を行った。29年度においては全学的に入学者選抜方法の改革が進められ、各入試区分において様々な改革が新たに実施され、一定の成果を収めた。加えて、外国人留学生入試においても多くの外国人留学生を受け入れることができた。

【経済学部 入学定員：300名】

	経済学科		経営学科		合計	備考
		グローバル人材育成専攻	経営専攻	会計ファイナンス専攻		
AO入試Ⅰ～Ⅴ期	約30名		約20名		約50名	
公募推薦入試Ⅰ～Ⅳ期	約5名		約5名		約10名	
指定校推薦入試Ⅰ期～Ⅳ期	約30名		約20名		約50名	一般指定校・提携校
麗澤会員子女等推薦入試Ⅰ期～Ⅳ期	若干名		若干名		若干名	麗澤会員または維持員が推薦する3親等以内の者
(公)モラロジー研究所維持員子女等推薦入試Ⅰ期～Ⅳ期	若干名		若干名		若干名	
帰国子女入試	若干名		若干名		若干名	
外国人留学生特別指定校推薦入試Ⅰ期	約10名		約10名		約20名	明德義塾・国外校・特別指定校
外国人留学生入試(国内)						
外国人留学生入試(国外)						
大学入試センター試験利用入試Ⅰ期	約15名	約15名	約15名	約15名	約60名	
一般2月入試(A日程・B日程)	約25名	約25名	約20名	約15名	約85名	
外国人留学生特別指定校推薦入試Ⅱ期Ⅲ期	若干名		若干名		若干名	全特別指定校対象
大学入試センター試験利用入試Ⅱ期・Ⅲ期	約15名		約10名		約25名	
一般3月入試						
指定校推薦入試Ⅱ期Ⅲ期	若干名		若干名		若干名	提携校(麗澤・麗澤瑞浪)のみ
合計	170名		130名		300名	

【経済学部 2年次編入学試験】

経済専攻	経済学科		経営学科		合計	備考
		グローバル人材育成専攻	経営専攻	会計ファイナンス専攻		
Ⅰ期・Ⅱ期 ※	若干名					

【経済学部 3年次編入学試験】

	経済学科	経営学科	合計	備考
Ⅰ期・Ⅱ期 ※	若干名			

※編入学試験は、2年次3年次ともに実施時期はⅠ期が11月、Ⅱ期が2月実施である。また、同時期に指定校編入学試験も募集した。

各入試区分についての詳細を以下の各項にまとめる。

(1) AO入試

「AO入試」は、各学科の学究活動のねらいと志願者の進路選択・意欲・資質・可能性とが適合しているかどうかを評価して選抜を行うものである。AO入試では「課題型」「資格型」「スポーツ型」の3つの型を設定し、志願者の持つ多様な経験や能力を評価する選抜を行った。「AO入試Ⅰ・Ⅱ期課題型」では、一定のテーマを提供して、それらに関して志願者自身の問題意識を「自己マニフェスト」として2000字程度のレポートまとめ上げ発表することを求めた。「AO入試Ⅲ～Ⅳ期課題型」では小論文試験を課し、与えられた課題文に対して自分の考えを800字程度で述べることを求めた。課題文として本学の建学の精神に関連したものをを用いることにより、本学入学への適性を審査した。「AO入試資格型」では志願者が取得した検定試験の成績を用いることにより選抜を行った。検定試験としては、実用英語技能検定、TOEIC、中国語検定、日商簿記検定を採用した。「AO入試スポーツ型」は、本学に入学後に陸上競技部、野球部、剣道部、

空手道部、テニス部のいずれかへ入部を希望する者を対象とした選抜試験である。出願には出身高校及び本学の部活動顧問の推薦状を必要とする。いずれの型においても、個人面接試験および書類審査を行い本学教育への適性を評価した。設定した募集人員を超える入学者数を受け入れることができたが、志願者数は前年度より減少した。

なお AO 入試の一部は早期に入学が決定するものもあるため、入学前に 1 日来学して学部教員による教育プログラム（「入学前教育」）を実施し、加えてインターネットによる学習プログラムを提供した。

## (2) 公募推薦入試・指定校推薦入試・麗澤会員子女等推薦入試・モラロジー研究所維持員子女等推薦入試

「公募推薦入試」は 29 年度入試から「専願型」に加えて「併願型」を新たに実施した。従来の公募推薦入試に当たる「専願型」では、一定の学業成績を収めていることを条件として、学校長推薦によって広く公募するものである。「併願型」は、同様に学校長の推薦は求めるものの、大学入学に必要な基礎学力を身に付けているかどうかを確認するために、英語と国語を適性検査として選考を行った。

「指定校推薦入試」は、麗澤高校、麗澤瑞浪高校、明德義塾高校、開星高校の特定校の他、一般指定校からの推薦を受け、本学に入学を希望する者を対象とするものである。「一般指定校」の制度は 18 年度入試から導入しており、本学が指定した高校において、学業成績等が本学の定めた基準を満たし、人物・学業共に優秀で学校長から推薦を受けた者を受験可能とした。

22 年度入試より本学校法人が設置している高校・大学の在学学生・既卒者で組織された団体である麗澤会の会員の子等対象とした「麗澤会員子女等推薦入試」を導入している。出願基準は原則として公募推薦の基準を準用している。また、26 年度入試より公益財団法人モラロジー研究所の会員の子等を対象とした「モラロジー研究所維持員子女等推薦入試」を導入した。出願基準は、同様に原則として公募推薦の基準を準用している。

これらの推薦入試においては、29 年度入試でも指定校推薦入試を中心に大幅に募集人員を超える入学者を得ることができた。特に指定校推薦入試においては本学との関係が強い入学実績校が集中しており、今後高大教育接続に伴う一層の連携が期待される。また、一般指定校算定については、本学への入学者数を基礎にする方法等の検討が進められた。

## (3) 帰国子女入試・外国人留学生入試

「帰国子女入試」と「外国人留学生入試」は、それぞれ帰国子女と日本国以外の国籍を有する者を対象とした入学者選抜である。いずれも本学のグローバル化を促進する入試制度として期待されている。本学の別科日本語研修課程より推薦を受けた者も、この外国人留学生入試の枠内で受け入れている。さらに、留学生教育に高い実績を有し、本学部教育についての理解が深い内外の日本語学校等を本学部の「特別指定校」として設定し、そこで学ぶ外国人留学生については「外国人留学生特別指定校推薦入試」の対象として、学科試験を課さずに選抜し受け入れている。29 年度入試においては、この外国人留学生特別指定校推薦入試の推薦基準の一つとして一定の日本語能力を課した。対象の日本語学校等ではそのことが推薦者を選定する明確な要素として活用され、前年度を超える入学者を受け入れることができた。帰国子女入試はここ数年志願者が無い。

また、「外国人留学生入試」では、11 月入試にて成績優秀者 2 名に学費を免除するスカラシップ制度を実施しているが、該当する者として 2 名を受け入れた。

## (4) 一般入試

「大学入試センター試験利用入試Ⅰ～Ⅲ期」、「一般 2 月入試」、「一般 3 月入試」は、志願者に特別な条件を求めない一般選抜であるが、想定している志願者はそれぞれ異なるものとなっている。また、より一層の多様な学力を持ちうる者を選考し受け入れていくことができるように、全学的に試験科目の設定や組み合わせ等を追加変更した。「一般 2 月入試」は、英語、国語、数学、公民（政治・経済）に加えて、日本史、世界史を新設すると共に、その中から 2 科目を選択して受験させる 2 科目型に加えて、3 科目を利用する 3 科目型を設置し、志願者に大学入学に必要な基礎学力の幅を拡大させた。また、その受験科目は事前選択制とした。

「一般 3 月入試」では、英語に加えて国語を新設した。これも事前選択制で、得意科目 1 科目試験のみによって選抜するものである。「大学入試センター試験利用入試 I 期」でも、大学入試センターが実施した試験科目の中から志願者が得意とする科目の得点を評価して受け入れて、多様な学力を持つ学生を求めるものである。29 年度入試より、2 科目型に加えて 3 科目型、4 科目型を新設し、使用する科目の多様性を増加させた。

「大学入試センター試験利用入試 II・III 期」は、外国語（英語）、国語、数学、地理歴史・公民の 4 科目の中で最も高得点の科目を対象に判定を行い、得意分野を特化してその基礎学力の高い学生を求めるものである。

「一般 2 月入試」においては、20 年度入試より「A 日程」、「B 日程」として 2 日間を設定している。A 日程では、試験会場を本学及び「サテライト会場」（29 年度入試は水戸・宇都宮・千葉・新宿の 4 会場）、B 日程では本学のみで実施した。

「一般 3 月入試」では、新たに設置した国語を選択した志願者が純増したと共に、各入試区分における合格者の入学手続率も大幅に上昇した結果、想定を超える入学者数を迎えることとなった。

また、大学入試センター試験利用入試と一般入試については、同一合格発表日の入試区分に対して複数の出願を一括して行う場合には入学検定料を減額する「複数一括出願制」を実施しているが、外国語学部と共に追加する入試区分 1 つにつき検定料を 1 万円に減額し、併願受験を促進させた。

29 年度より新たに一般 2 月入試受験者を対象に「本学創立者生誕 150 年記念スカラシップ制度」を開始した。これは入試成績 75% を取得した者で、両学部全体で 100 位以内の入学者に授業料 60 万円を支給し、より有能な人材を受け入れていくようにする制度である。AO 入試、推薦入試などの年内入試受験者にも入学検定料を大幅に減額することによって受験できるようにした。

#### (5) 編入学試験、転部・転専攻試験

経済学部各学科の 2 年次・3 年次への「編入学試験」は 11 月と 2 月に募集しているが、2 月の 2 年次 II 期試験で 2 名の受験があったが、入学者はいなかった。転部・転専攻試験も 2 月に実施され、外国語学部からの転部が 1 名、経済学部内での転専攻が 1 名いた。

#### 4-2-3 課題及び改善・向上方策

経済学部は 23 年度入試から 4 年連続の定員割れとなったが、26 年度を底として 27 年度入試は前年度 20 数名増の 282 名の新入生を得た。28 年度から導入した 4 専攻制の効果もあり、28 年度入試では 330 名の新入生を迎えることができ、定員割れに終止符を打った。29 年度はその反動が心配されていたが、一般入試における志願者数の増加に加えて高い入学手続率によって、入学定員の 1.3 倍に迫る入学者数を受け入れる結果となった。これは様々な入試改革への取り組みが功を奏したことが根底にあるが、それと共に併願する多くの大規模校で行われた入学定員管理の厳格化によって合格者数が絞られたことも影響したといえる。

次年度入試においても決して安定的に入学定員を確保できるという保障はない。しかし、引き続き大規模併願校では入学定員管理の厳格化により合格者数が絞られる傾向もあり、29 年度入試に近い高い入学手続率も予想されることから、大学入試センター試験利用入試や一般入試の難易度を上昇させることに踏み切る必要もある。また、29 年度志願者数合計が数年ぶりに 1,000 名を超える結果となったが、引き続き入試改革を進めなくてはならない。また、本学が展開する研究教育活動やその広報活動を一層活発にすることにより、AO 入試、推薦入試等において一定の本学専願者数を維持すると共に、学力試験による入試によって本学部を志願する者を一層増加させなくてはならない。

## 4-3 言語教育研究科

### 4-3-1 目的・目標

言語教育研究科では、高度な専門性を身につけた研究者・実務家を養成するため、各専攻単位で以下の目的を設定している。

- (1) 日本語教育学専攻（博士前期・後期課程）は、普遍的な言語理論と日本語学の成果とを踏まえ、それらの深化及び日本語教育学の理論的・実践的展開を図ることによって、日本語教育機関で活躍できる人材の育成及び研究者の養成を目的とする。
- (2) 比較文明文化専攻（博士前期・後期課程）は、世界の諸文明と世界各地の文化を比較の観点から探究し、文明圏の交流や多様な文化に関する理解と認識を深める。地球と人類の未来を開拓する新たな文明の創造を志向しつつ、世界の平和と文化の保持・発展のため、教育研究職、国際機関等で貢献できる広い視野を備えた人材の育成を目的とする。
- (3) 英語教育専攻（修士課程）は、高度な英語力をもとに、英語学・英語教育学・コミュニケーション学という学問を探究し、専門領域の英知と英語力を駆使できる英語教員・研究者・企業等で活躍する人材の育成を目的とする。

上記のような方針に基づいて、その目的を実現するに相応しい学生を社会人や外国人留学生も含めて受け入れるため、入学試験科目を設定し入学者選抜を行う。

### 4-3-2 本年度の活動

言語教育研究科では、4つの選抜区分（一般選抜・社会人選抜・外国人留学生選抜・学内推薦選抜）を設けており、博士前期課程・修士課程ではⅠ期入試、Ⅱ期入試と2回に分けて実施している。

選抜区分ごとの29年度入試の募集人員は、次表の通りである。

選抜区分		日本語教育学専攻	比較文明文化専攻	英語教育専攻	合計
博士前期 修士 Ⅰ期入試	一般選抜	約6名	約3名	約3名	約12名
	社会人選抜				
	外国人留学生選抜				
	学内推薦選抜				
博士前期 修士 Ⅱ期入試	一般選抜	若干名	約3名	約3名	約6名
	社会人選抜				
	外国人留学生選抜				
	学内推薦選抜				
博士後期	一般選抜	約3名	約3名	—	約6名
	社会人選抜				
	外国人留学生選抜				

志願者に特別な条件を求めない一般選抜の他、社会人経験を有する者等を対象とした社会人選抜、日本国以外の国籍を有する者等を対象とした外国人留学生選抜、本学学部生、卒業生を対象とした学内推薦選抜を設け、多様な学生の受け入れを目指している。

博士前期課程・修士課程の入学者選抜は、日本語教育学専攻では、書類審査、筆記試験（言語学、日本語学、日本語教育学の基礎的知識と理解力を試すもので、日本語で記述する）、及び口述試験による。比較文明文化専攻では、書類審査、筆記試験〔外国語（英語、ドイツ語、中国語の中から1つ選択、外国人留学生選抜は日本語）、小論文（いくつかのテーマの中から1題を選んで日本語または英語で記述する）〕、及び口述試験による。英語教育専攻では、書類審査、筆記試験（英語）及び口述試験による。学内推薦選抜は、専攻ごとに出願資格を定め、日本語教育学専攻と英語教育専攻は口述試験と書類審査、比較文明文化専攻は筆記試験（小論文）、口述試験、書類審査による。博士後期課程の入学者選抜は、日本語教育学専攻では、書類審査と口述試験で実施し、比較文明文化専攻では、より柔軟な学生の受け入れができるように、29年度より、比較文明文化専攻の博士後期課程の選抜方法から筆記試験を外し、書類審査と口述試験のみとすることを決定した。専攻ごとに特色ある学生を選抜するため、選抜方法を工夫して柔軟な受け入れ体制を整備する必要がある。

### 4-3-3 課題及び改善・向上方策

学部からの入学者やリカレントを志向する若手の社会人、外国人留学生の高等教育志向など、研究科への多様な志望ニーズがあることに鑑み、各専攻の特徴や魅力をより明確にして、多彩な入学志願者を選考し受け入れていく体制を強化する。本学の大学院における中期計画では、外国語学部からの内部進学者、一般・社会人、外国人留学生が平均して入学定員を充足させていくことが目標となっている。

しかしながら、専攻ごとの入学志願動向を安定させることが大きな課題となっている。外国語学部における主要な専門分野として英語系専攻があるが、大学院進学につながっていない。学部との連携を一層強化し、学部生の研究科科目の履修・聴講体制を整えて、学内推薦による入学を促進すると共に、本年度以上に学内外への情報発信を強化し、社会人及び外国人留学生を含めた入学志願者数の増加を目指す必要がある。更に博士前期課程から博士後期課程への進学促進にも力を入れ、修了後は研究者及び教員、または実務家として社会貢献に繋げていけるような指導をしていくことが望まれる。

また、28年度入試から博士前期課程・修士課程の社会人選抜を対象に長期履修制度利用の案内を行い、2名の志願者があった。また、28年度入試より全ての入学者選抜において研究生併願ができるようにしたこと、及び29年度入試において研究生の出願期間を正規生の日程と合わせたことにより、志願者の負担を軽減し、受け入れを効率化することができた。

## 4-4 経済研究科

### 4-4-1 目的・目標

経済研究科では、経済学及び経営学における研究者及び専門家の育成を目的としている。博士課程の経済学・経営学専攻は、経済学及び経営学の理論研究及び実証研究の深化を通して、先進的な研究を指導できる研究者及び専門家の養成を目的とする。修士課程の経済学専攻及び経営学専攻は、各領域において、先導的な研究を推進できる研究者及び実務専門家の養成を目的とし、内外の公的機関において求められる公共政策を担う人材となることが期待される。

また、経済研究科では、これまで主に中国、台湾をはじめとするアジアからの留学生を多数受け入れて来たが、日本人学生及び世界各国からの留学生も含めて、グローバル人材の育成に努める。

上記のような方針に基づいて、その目的を実現するに相応しい学生を社会人や外国人留学生も含めて受け入れるため、入学試験科目を設定し入学者選抜を行う。

### 4-4-2 本年度の活動

経済研究科では、4つの選抜区分（一般選抜・社会人選抜・外国人留学生選抜・特別推薦選抜）を設けており、修士課程ではⅠ期入試、Ⅱ期入試と2回に分けて実施している。また、博士課程では同様の選抜区分に加えて、連携協定を締結している海外提携校から学生を受け入れるため海外提携校推薦選抜を実施している。

選抜区分ごとの29年度入試の募集人員は、次表の通りである。

修士課程		選抜区分	経済学専攻	経営学専攻	合計	博士課程	選抜区分	経済学・経営学専攻
Ⅰ期入試	一般選抜	約3名	約7名	約10名		一般選抜	約3名	
	社会人選抜							
	外国人留学生選抜							
	特別推薦選抜							
海外提携校推薦選抜								
Ⅱ期入試	一般選抜	約2名	約3名	約5名		社会人選抜		
	外国人留学生選抜							
	特別推薦選抜							
	海外提携校推薦選抜							



志願者に特別の条件を求めない一般選抜の他、社会人経験を有する者等を対象とした社会人選抜、日本国以外の国籍を有する者等を対象とした外国人留学生選抜、経営学専攻の税理士コースに進学しようとする学部 REPLL コース（28 年度入学者から「税理士コース」「公務員コース」）在籍者や本学部にて優秀な成績を収めた学生の推薦を受ける特別推薦選抜を設け、多様な学生の受け入れを目指している。

修士課程の選抜方法は、書類審査、筆記試験〔専門科目（経済学、経営学の基礎的知識について数問の中から 1 問を選択して解答する）、英語、小論文（あるトピックについて受験者の意見や考え方を述べる）〕、及び口述試験で実施している。また、社会人選抜・外国人留学生選抜を志望する者は、英語に替えて専門科目で受験することができる。加えて、日本経済学教育協会主催の「経済学検定試験」で一定の評価以上の取得者に専門科目を免除、一定レベルの英語資格取得者に英語試験科目の免除を行い、それらの資格取得を奨励している。博士課程の選抜方法は書類審査、筆記試験（英語）、及び口述試験で実施し、経済研究科として特色ある学生を選抜する工夫をしている。博士課程でも、英語資格取得者に英語試験科目の免除を行っている。特別推薦選抜については、修士課程、博士課程とも書類審査・口述試験を実施している。海外提携校推薦選抜では、提携校から推薦された学生の書類審査を行っている。

ABE イニシアティブでは引き続き第 3 バッチの受入れに対応し、JICA にて指定された選考作業を行い、新たな留学生 4 名を研究生として受け入れ、29 年 3 月実施のⅡ期入試で特別推薦選抜を実施した。また、27 年度から設置された International Program において、9 月入学及び 4 月入学に対応する入学試験を実施した。加えて、社会人選抜志願者を対象に長期履修制度の案内を行った。

#### 4-4-3 課題及び改善・向上方策

29 年度博士課程入試では志願者はいなかった。また、修士課程においても社会人選抜の志願者はいなかった。本大学院における中期計画では、経済学部からの内部進学者、一般・社会人、外国人留学生が平均して入学定員を充足させていくことが目標となっている。経済学部との連携には力を注いでおり、特別コースの 3 年次卒業・飛び入学の体制も整えていることから学部と大学院の一層の進学促進が望まれる。更に修士課程から博士課程への進学促進にも力を入れ、修了後は研究者もしくは実務家として、社会貢献に繋げていけるような指導をしていくことが望まれる。

今後は修士課程 2 専攻の特徴をより明確にするとともに、タイムリーに情報を発信し募集広報を強化し、高度な専門性を身に付けた研究者及び実務家を目指して研究活動を進めていくことができる入学志願者を選考し受け入れていく体制を強化する。

大学院のグローバル化を目指すための外国人留学生の受入れについては、日本語学校・専門学校との関係を整備してきたが、広報活動を積極的に進めるだけでなく、大学院での研究計画の構築や専門教育、倫理教育の基礎に関する理解を促していく必要がある。

そこで、International Program に関する情報を、より分かりやすく発信できるよう、大学院英語版 Web サイトを簡易リニューアルし、国内外からの資料請求者を増加させた。また、Facebook 上での研究科キャンペーンサイトのアクセス状況を確認し、Web 上での情報収集の動向等を検証した。英語による授業のみでカリキュラムを構成する International Program では、非漢字圏の国々や日本国内に在住する出身者からの資料請求、志望者の増加と共に今後は研究活動を展開できる基礎的知識を持ちうる人材をより多く受け入れていくことができるように、一層の情報発信をしなければならない。

International Program 4 月入学では、10 月入試に加えて新たに 3 月入試（国内在住者対象）を追加し、柔軟な受け入れ体制を強化した。その結果、英語を公用語とする新たな国々からの資料請求や問い合わせが増し、入学志願者の確保につながった。併せて英文の入学試験要項や各種関係資料も準備した。ABE イニシアティブでは第 4 バッチの募集が始まり、本研究科でも多数の志望者を迎えることになり、今後一定数の大学院生の受入れにつながる。しかし、本プロジェクトは募集数が縮小する第 5 バッチが最後となる予定のため、その後を見据えた対策が必要となる。また、JICA の新しいプロジェクトである太平洋島嶼国の若手人材育成プログラム (Pacific-LEADS) の推奨コースにも選定され、募集を行なったが、本学希望者はいなかった。

こうした特別プログラムの将来を見据えた学生募集に一層注力し、継続的に入学者を迎えられる募集・広報戦略、教育体制の整備などの対応が求められる。それと共に、社会人を含めた多様な学生のニーズに対応するため、早期修了制度や長期履修制度などを活用して学位取得を目指す学生の募集活動を積極的に展開していく。

28年度入試より、全ての入学者選抜において研究生を併願できる形式となり、加えて29年度入試は研究生の出願期間を正規生の日程と合わせたことで、志願者への負担軽減とともに、受入れの効率化を促進させた。

#### 4-5 別科日本語研修課程

##### 4-5-1 目的・目標

別科生受入れは、日本の大学に進学を希望する者、並びに日本語の学習を希望する者に日本語を教授するという目的に基づき、本学の学部、大学院での留学生数確保に結び付け、また、キャンパス内の国際的な学習環境を実現するための一端を担うものとして位置づけられる。これらを踏まえた別科の募集戦略目標は、質の高い別科生の持続可能な安定的確保、学部につながる別科生の確保の2点である。

##### 4-5-2 本年度の活動

麗澤大学への進学を視野に入れた応募者を開拓するためのコンテンツ作りの実施を開始し、Facebookやキャンペーンサイトを通じて、特に台湾、香港、シンガポールなどの比較的、留学への心理的ハードルが低いグループへのプロモーションに傾注した。また、昨年度までの広告努力が功を奏し、今期からはGoogleでの自然検索の表示順位が向上し、対象エリアからのターゲット獲得が大幅に改善した。特にFacebookでのリーチは、ページの「いいね」が2万を超え（3月31日現在21,954人；このうちの約6千人は投稿等があるごとにページのチェックを必ずしていることが分かっている）、総ページビュー数は66万5672回となった。この総ページビュー数は別科本サイトの約30倍のページビュー数となる。このキャンペーンサイトから2,452人が別科本サイトを訪問しており、これは別科が持つトラフィックソースの全体の約36%となり年々増加してきている。本年度は次の施策として、本学学部の魅力を伝えるコンテンツ導入を開始し、海外における麗澤大学のブランド戦略を本格的に始動した。

この他、安定的な別科生数確保および学部進学者獲得に向けてベトナムの斡旋会社であるREDBOOK社と契約を交わした。別科で優秀な成績を収めたREDBOOK社紹介の別科生には年間3名まで10万円の授業料一部免除とする覚書を交わした。また、今後、ベトナムの高校から別科に応募してもらう可能性を探るためHUNG VOUNG GIFTED HIGH SCHOOL(Binh Duong省)を表敬訪問した。

以下、募集日程と合格発表日の一覧である。

秋入学生募集	出願期間	合格発表日
第1回	27年4月1日～4月22日	5月6日
第2回	27年5月2日～5月20日	5月27日
春入学生募集	出願期間	合格発表日
第1回	27年8月1日～8月29日	9月10日
第2回	27年10月1日～10月23日	11月5日
第3回	27年11月2日～11月20日	11月27日
第4回 *国内のみ	28年1月6日～2月2日	2月9日
第5回 *国内のみ	28年2月10日～2月24日	3月5日

##### 4-5-3 課題及び改善・向上方策

次年度は、引き続き、コンテンツの強化とキャンペーンサイトでも麗澤大学ブランドの向上を行い、別科から本学への進学をメインシナリオとする応募者数増強を図っていく。

## 4-6 募集広報活動

### 4-6-1 目的・目標

- ①適正な定員の確保
- ②全学的な募集広報環境・運営体制の構築
- ③知名度向上・ブランディング施策を実施
- ④データに基づく事業推進体制（PDCA サイクル）の実質化
- ⑤入試システムの入替えと主要入試の完全 Web 出願によるの安定的な入試実施・運用

### 4-6-2 本年度の活動

以下の通り、募集広報活動を行った。

#### (1) 学部志願者を対象とするもの

##### 1) 知名度向上の取り組み

- ①プレスリリースの計画的実施：「教育内容」「グローバル」「地域連携」を配信強化資源と位置づけ、

以下の通りリリース配信を実施

教育内容：12件、メディア掲載 12件

グローバル：7件、メディア掲載 7件

地域連携：3件、メディア掲載 3件

その他：プレスリリース 23件、メディア掲載 23件（計45件）

- ②リスティング広告、交通広告掲出

- ・オープンキャンパス参加促進
- ・一般入試への出願促進策

- ③受験情報誌に広告掲載

以下の紙媒体に広告を掲載（）内は掲載数

マイナビ(12)、リクルート(9)、ベネッセ(5)、キッズコーポレーション(4)、ディスコ(3)、

fromページ (3) JS コーポレーション(3)、エデュケーショナルネットワーク(3)、

ライセンスアカデミー(2)、さんぽう(1)、に広告掲載

- ④受験情報サイトに広告掲載

以下の WEB 媒体に広告を掲載

マイナビ、リクルート、ベネッセ、キッズコーポレーション、fromページ JS コーポレーション

- ⑤一般雑誌への広告掲載

「週刊新潮」へ記事広告掲載（1/5、1/12 発売号）。

##### 2) 集客力（募集力）向上の取り組み

- ①コンテンツ（紙媒体）制作

- ・入学案内 2017、入試ガイド 2017 を制作
- ・Reitaku Journal Vol.3、Vol.4、Vol.5、特別号の計4件制作
- ・留学ガイド、東洋経済特別版、スポーツビジネス専攻リーフレット、学部別応援メッセージブック、高大連携プロジェクトリーフレットの計5件制作

- ②コンテンツ（WEB 媒体）制作：大学公式サイト、受験生用サイト「Reitaku Journal」

以下の対象を取材しコンテンツを制作（）内は制作数

- ・企業人事担当者と卒業生(4)、教員(19)、卒業生(11)、在学生(16)、部活動 (5)、職員 (10)

- ③動画コンテンツの制作：公式 HP にて全 18 コンテンツ配信中。

- ・プロ車いすテニスプレーヤー国枝慎吾選手来校ドキュメンタリー大学 Ver、国枝選手来校ドキュメンタリーロング Ver、麗澤大学 OpenCampus!!の計3件制作

- ④DM 発送による大学紹介・イベント周知

- ・オープンキャンパス集客：志願者対象、5月・6月・7月・10月・11月
- ・大学紹介：塾・予備校対象、7月・11月

- ⑤ICT ツールによる情報発信
    - ・LINE 公式アカウントの運営：投稿件数 91 件
    - ・facebook 公式アカウントの運営：投稿件数 98 件
  - ⑥進学相談会実施：15 回
  - ⑦校内ガイダンス実施：75 回
  - ⑧出張講義実施：71 件
  - ⑨高校訪問実施：ターゲットとする高校を 3 期訪問。一部の該当校にはIV期訪問。
  - ⑩高校訪問委託：業者による入試変更点の情報提供を目的として 3 期訪問。
  - ⑪塾訪問実施： 募集中心エリアのターゲットとする塾を 3 期訪問。  
講師を対象としたガイダンスを実施。
  - ⑫日本語学校内ガイダンスを実施：2 回
  - ⑬高等学校教員向け入試説明会を実施
  - ⑭学内見学会（高校単位）を実施：
  - ⑮個別見学（個人）の受入れ実施：
- 3) 満足度向上の取組み
- ①オープンキャンパス実施：9 回
  - ②入試対策オープンキャンパス実施：3 回
  - ③合格者相談会実施：1 回
- 4) その他
- ①大学公式サイトのアクセスログ解析を実施
  - ②Web 出願時のアンケートを実施し、受験生に影響を与えているリソース分析を実施
  - ③入試結果と施策の効果測定を実施  
実施施策に対する（Google Analytics による）効果測定及び Web 解析を実施し、スマートフォン対策やページ階層の繰上げ、類似ページの統合などの課題を抽出。これを基に 29 年度の公式ホームページ年次改修に反映させ、改めて効果測定及び Web 解析実施を予定している。
- (2) 大学院志願者を対象とするもの
- ①言語教育研究科志願者対象の入学説明会を実施：5 回（うち 1 回は学外）
  - ②経済研究科志願者対象の入学説明会を実施：5 回（うち 1 回は学外）
  - ③日本語学校・専門学校への訪問説明を実施：26 校（上記学外説明会を含む）
  - ④JICA プロジェクトである ABE イニシアティブ及び Pacific-LEADS への参画や優秀な外国人留学生確保のために、International Program に関する情報発信をより分かりやすくするため大学院の英語版公式サイトを簡易リニューアルすると共に、facebook を使用したキャンペーンサイトにおいて外部業者による大学院紹介を行い、公式サイトへの送客誘導を行った。また、それらのアクセス状況を検証した。
  - ⑤大学祭（麗陵祭）にて本学大学院を紹介する展示室を設置し、在学生の研究活動を紹介するポスター展示を行った。
  - ⑥受験情報誌、受験情報サイトに広告や大学院紹介の記事掲載を実施した。
- (3) 別科志願者を対象とするもの
- ①別科の英語サイトおよび日本語サイトを運営した。  
訪問者数：8,238 セッション（内、新規訪問者 71.98%）  
ユニークユーザー数：6,004 人  
総ページビュー：24,209PV  
入試情報ページのページビュー：2,660PV  
願書のダウンロード数：171 人  
URL からの応募者：15 人（春 10 人、秋 5 人）  
URL からの入学者：4 人（春 3 人、秋 1 人）

②上記サイト①に応募者を誘導、麗澤大学の日本語教育を啓蒙するためにキャンペーンサイト A「Study Japanese in Japan」を運営した。16年度はコンテンツの新規入れ替えに加え、中島真志教授のインタビュー記事の掲載などで訪問者数を伸ばした。

訪問者数：10,683 セッション（内、新規訪問者 84.53%）

ユニークユーザー数：7,404 人

総ページビュー：32,080PV

別科本サイトへの誘導数：863 セッション

③上記サイト①に応募者を誘導するためにキャンペーンサイト B「Study Japanese in Japan (Facebook)」を運営した。上記サイト①のすべての更新情報を記載した他、応募期間ごとの呼びかけや学内イベントの情報などでもフォーカスグループを呼び込んだ。また、Facebook 内での属性広告も多数活用した。

サイトへの総「いいね」数：21,954（2017年3月末：現在 23,000）

フォロワー：約 21,000 人（2017年3月末：現在 22,000 人）

総ページビュー：665,672PV（2017年3月末：記事が数本シェアされて拡散された結果。シェアされたのは梶田先生の講演、天城先生の講演、中島先生の紹介記事、他数本。なお、現在も拡散中）

別科本サイトへの誘導数：2,452 セッション（2017年3月末）

④上記サイト①に Google キーワード広告を実施した。Google からは 2,845 セッションの誘導があったが、広告誘導は 685 セッションにとどまり、代わりにターゲットエリア（香港・台湾・シンガポール・マレーシア・ベトナム）での自然検索からの誘導が大きく伸びた。

⑤ベトナムにおいて、現地業者と提携して募集活動を実施した。

(4) 外国人留学生を対象とするもの

①独立行政法人日本学生支援機構が主催する日本留学フェアのうち、台湾・韓国でのフェアに参加した。この他、国内（東京）での説明会に 1 回参加した。

②台湾において、現地業者（台湾事務所）に委託して募集活動を実施した。

③韓国において、日本語学校（指定校）4 校を訪問した。その他日本留学フェア会場を訪問する高校、日本語学校と面談した。

④経済学部では、日本語学校を 26 校訪問した。

⑤外国語学部、経済学部教員による日本語学校訪問を実施。

(5) 広く全般を対象とするもの

①『麗澤教育』23 号（特集「麗澤型 PBL 教育」）

②麗澤大学「総合案内」パンフレットの制作

#### 4-6-3 課題及び改善・向上方策

①公式ホームページのユーザビリティ、特にスマートフォン対応の改善課題がある。

②ホームページや各種媒体において多言語対応での環境を整備する課題がある。

## 4-7 入学前教育

### 4-7-1 目的・目標

AO入試・指定校推薦入試・自己（公募）推薦入試の合格者が、入学までの時間を有意義に過ごせることを目的に入学前教育を実施している。

### 4-7-2 本年度の活動

29年度の各学部・研究科・別科の入試結果は、資料編4の通りである。

29年度入学予定者のうち、外国語学部・経済学部共にAO入試・指定校推薦入試・自己（公募）推薦入試による入学予定者に対して、入学前教育を実施した。

外国語学部の入学前教育は、AO入試による入学予定者に対して入学後の学習目的に合わせた学習の方向づけを行うなど、入学前までの時期を有意義に過ごせるようPREP（Pre-Entrance Program）として実施した。このプログラムでは、各入学予定者に対して、本学教員が1名ずつPREPチューターとなり、電話や電子メールなどで連絡をとり、入学予定者の興味・関心に配慮して入学時までの学習課題に取り組むものである。また、PREPチューターは課題に関する質問の他に、大学生活全般に関する質問にも対応し、入学準備を支援した。かつ、指定校推薦入試・自己推薦入試での入学予定者を含めて、入学前に英語力のレベルアップを図るため、TOEICに関するe-Learning教材若しくはTOEIC問題集を提供した。

経済学部では、AO入試・指定校推薦入試・自己（公募）推薦入試による入学予定者を対象に、入学前教育をスクーリング形式で、以下の通り実施した。また、e-Learning形式の学習によって、高校までの学習の振り返りを行い、自主学習の習慣づけをつけることを目的とした。

#### (1) スクーリング

①実施日：12月10日

②内容：経済学部の専門科目である「ビジネスゲーム」を体験するとともに、入学後の生活や講義についての説明を行った。プログラムを通じて、大学での学びのイメージをつかみ、大学での学習の期待を高めた。

### 4-7-3 課題及び改善・向上方策

両学部とも新入生全員に英語のプレースメント・テストとしてTOEICを課している。特にAO、推薦入試等で、早期に合格が確定した者に対しては、高校から大学へのスムーズな接続が必要で、新入生の英語力向上が求められる。入学前教育と初年次教育の連携も重要であるので、今後の検討が必要である。

## 5. 学生支援

### 5-1 学修支援

#### 5-1-1 目的・目標

学修支援は、「2. 教育活動」で述べた学修支援センターや情報教育センター、図書館によって行われているが、学務部教務グループによっても行われている。教務グループによる学修支援の目的は、各学部の教育課程の円滑な実施を通して、本学の教育理念を実現することにある。

この目的のもと、履修に関する事項としては、教育課程に従って学生が授業科目を確実に履修できるようにすることを目標としている。この目標を達成するため、年度初めに履修オリエンテーションを実施し、各年次における教育課程の確認と進級要件や卒業要件の確認方法などの周知に努めている。また、履修手続きに対する助言、履修登録後における履修エラー訂正の指導などを行っている。さらに、履修に関する質問や成績に関する問い合わせなどを書面で受け付けて、それに対する正確な回答に努めている。

#### 5-1-2 本年度の活動

4月1日から10日までの期間に、学科（専攻）別・学年別の履修オリエンテーションを実施し、授業科目履修上の注意事項等を説明した。2学期の授業開始前にも履修オリエンテーションを行い、科目履修上の注意点などを説明した。また履修相談会を実施し、教員と職員で学生個々の履修相談に対応した。さらに、学生からの科目履修上の質問は上記期間以外にも随時教務グループで受け付け、教育課程の趣旨を踏まえた間違えのない履修ができるように支援した。授業で使用される教具・教材についても、その保守・管理に努め、学生の学修が効率よく行われるようにした。

履修登録に関して、基本的な修得単位数の確認は、Web上で学生が個々に行えるようになっているため、学生自身の確認に基づいた履修質問への対応に重点を置いている。外国語学部の単位確認が複雑であるため、外国語学部生への対応が必然的に多くなっている。またGPAを用いた成績評価方式を導入していることにより、学生には、履修登録後に履修取り消し期間を設けるなど、GPAに対する意識を高め授業への積極的な取り組みにつながるよう配慮している。

「授業科目のナンバリング」において、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みとしている。授業科目を分類し、対象とするレベル（学年等）や学問の分類を示すことで、学生が適切な授業科目を選択する助けとしている。番号を見てすぐにイメージできるよう、番号はアルファベット3文字と数字3文字から構成している。アルファベットは科目分類等を示し、数字は配当年次または履修推奨年次を示している。また基礎や入門的な科目を表示するために0番台を設けて運用している。

#### 5-1-3 課題及び改善・向上方策

オリエンテーション期間中に通常の履修オリエンテーションとともに、教員と職員による履修相談会を開催した。ブース形式で質問を受け、履修の疑問点について納得のいくまで聞くことができ、授業開始前に解決することができたので、学生にとって意義あるものとなった。

外国語学部の単位確認が複雑で、卒業要件の判断が難しくなっていることの改善策として、副専攻集計システムの改修に着手した。学生にとっても自身の単位確認が分かりやすくなり、卒業要件の確認が容易になった。

## 5-2 学生生活支援

### 5-2-1 目的・目標

学生生活支援は、学務部学生支援グループが中心となって行っており、安全で健康的な学生生活を実現することを目的としている。この目的を実現するために、次のような目標を設定している。

- (1) 思いやりのあるキャンパスづくりを推進する
- (2) 学生生活の充実と安全なキャンパスライフを支援する
- (3) 課外活動を支援し、課外教育の充実を図る
- (4) 学生用の施設と設備の充実を図る
- (5) 学生の経済生活支援のため、奨学金制度の適切な運用を図る
- (6) 学生の経済生活支援のため、本学学生に相応しいアルバイトに関する情報提供の充実を図る
- (7) 学生の健康管理と予防衛生を支援する

なお、本学（前身校を含む）卒業生及び在学者で構成されている麗大麗澤会から本学に対する支援を受けている。麗澤会の目的は、麗澤精神の高揚と母校の発展を願い、会員相互の交流と親睦を図ることである。この目的を実現するため、麗澤会は、会報の発行をはじめ、同窓会開催支援、母校の諸活動への援助・支援等の事業を行っている。

### 5-2-2 本年度の活動

- (1) 思いやりのあるキャンパスづくりの推進
  - ①キャンパス内での挨拶の提唱・推進
  - ②マナー向上の「クリーンキャンペーン」を推進
- (2) 学生生活の充実と安全なキャンパスライフの支援
  - ①「新入生へのメッセージ（28年度）」の作成・配布
  - ②新入生対象学生生活オリエンテーションの実施（4月）
  - ③自動車・バイク通学の学生に対する安全運転講習会の実施（4月、9月）
  - ④警備関係者との定例打合せの実施（月1回）
  - ⑤学生保険の加入奨励と事務支援
  - ⑥学外団体の各種催しに関する情報提供と支援
  - ⑦ボランティアに関する情報提供と支援
  - ⑧3年次生を対象とする学生満足度調査の実施（11月）
- (3) 課外活動の支援及び課外教育の援助
  - ①リーダーセミナーの開催（2月と11月）
  - ②学友会活動（学友会セミナー・大学祭開催）の支援と助成
  - ③他大学との交流支援
  - ④課外活動指導者との懇談会の開催（7月）
  - ⑤課外活動施設（部室棟・体育館・武道館・グラウンド・テニスコート）の利用の調整と管理
  - ⑥各種団体の自主的な活動の支援と助成
  - ⑦学生の自主活動支援制度「あなたの夢、実現しませんか」は、今年度は3件  
・マイクロネシア自主企画研修・秋田ボランティア活動・ネパールボランティア活動
  - ⑧後援会による学生表彰（課外活動や学術的活動に顕著な活躍をした団体、個人に対して）  
・後援会長賞（個人1件）

荒谷 友硯 (中国語専攻4年)	9月1日～5日、台湾の桃園アリーナで行われた第9回アジア武術選手権大会において日本代表として出場し、男子太極剣の部で準優勝。また、11月18～20日に中国福建省・福州市で国際武術連盟（IWUF）主催による「第1回武術套路ワールドカップ大会」が開催され、昨年度の「第13回世界武術選手権大会（インドネシア）」で入賞（8位以内）した選手に出場権が与えられるものであり、その代表選手に選出された。
--------------------	---



・後援会賞（個人1件、団体1件）

岸本 拓真 (経済学科4年)	第62回関東学生剣道選手権大会に出場(495名)し、強豪校の選手を相手に勝ち上がり、第64回全日本学生剣道選手権大会への出場権を獲得。第42回大会初出場以来、3度目13年ぶりの快挙を成し遂げた。全日本学生剣道選手権大会では、全国8地区連盟での大会を勝ち抜いた男子176名の精鋭の選手が出場するなかで、1回戦は九州連盟の代表選手、2回戦は関西連盟の代表選手、3回戦は関東連盟の代表選手と戦い、本大会3度目の全国大会出場で3回戦進出を成し遂げ、本学史上初の快挙となった。また、第42回警視庁対関東学生剣道連盟親善試合における関東学生剣道連盟の選抜メンバーに本学から20年ぶりに選出され、剣道界トップ選手と対戦した。
陸上競技部	12月4日、奥多摩渓谷駅伝において、大学部門で本学A、B、Cチームが出場し、1位、2位、3位の上位を独占した。

・後援会奨励賞（個人3件）

青木 章悟 (経済学科4年)	千葉アクアラインマラソン（部門：ハーフマラソン男子）において、3位に入賞した。（ちなみに第1位がケニアの選手、第2位が埼玉県庁の川内優輝選手）
鈴木 結 (中国語専攻3年)	12月10日、2016 JAL 中国語スピーチコンテスト（日本航空株式会社及び日華青少年交流協会主催）で、優勝。中国語専門学校生や大学生による総勢17名が参加したが、スピーチの内容・発音・語調・表現のほか質疑応答対応において高い評価を得た。
荻谷 崇英 (経営学科2年)	12月17日～18日、第11回全日本学生剣道オープン大会において、男子2段以下の部で、全国ベスト8に見事入賞し、敢闘賞を受賞した。

(4) 学生用の施設と設備の充実

- ①学生食堂関係者との定例打合せの実施（月1回）
- ②朝食利用促進とバランスの取れた食事を摂るための支援と助成
- ③ロッカー貸与：260人（貸出可能数876口）

(5) 学生の経済生活支援のための奨学金制度の適切な運用

- ①学外及び学内各種奨学金制度の周知と募集
- ②日本学生支援機構奨学金の新規申込みと貸与継続・返還に関する説明会を実施
- ③奨学生のうち成績不振学生に対する個別指導
- ④新たに返還を始める卒業生に向けた返還指導

28年度に各種奨学金の支給・貸与を受けた学生数は、次表の通りである。

学内	麗澤大学奨学生 特別奨学生	20名	115名
	一般支給奨学生	3名	
	海外留学奨学生	58名	
	外国人奨学生	34名	
	麗大麗澤会海外留学奨学生		2名
学外	日本学生支援機構奨学生 第1種289名、第2種652名		941名
	国費外国人留学生		0名
	私費外国人留学生・学習奨励費受給者（別科を含む）		7名
	オリエンタルモーター奨学財団奨学生		2名
	岡本国際奨学交流財団奨学生		0名
	交流協会奨学生		0名
	坂口国際育英奨学財団奨学生		1名
	清和国际留学生奨学会奨学生		1名
	朝鮮奨学会奨学生		1名
	蓮見留学生育英奨学基金奨学生		1名
	服部国際奨学財団奨学生		1名
	平和中島財団奨学生		0名
	ロータリー米山記念奨学会奨学生		4名
	合計		1,076名

(6) 学生の経済生活支援のためのアルバイト情報提供の充実

28年度より『学生アルバイト情報ネットワーク（運営：株式会社ナジック・アイ・サポート）』で求人票受付の運用を開始した。これまで大学講内の掲示板でアルバイト求人の情報提供を行っていたものを、インターネットを活用したことで、在学生が自宅のパソコンや携帯電話で24時間365日閲覧（危険を伴うもの、人体に有害なもの、法令に違反するもの、教育的に好ましくなくないもの、労働条件が不明確なものは掲載不可）及び応募が可能となり、また学生支援グループの業務負担の軽減にも繋がった。28年度の本学学生の当サイト利用数（求人閲覧回数）は累計5729件、求人企業数は延べ1695社であった。

(7) 学生の父母との連携による学生生活支援

①後援会役員会の開催

4月29日	27年度事業報告・決算報告、28年度事業計画・予算・役員選出
11月3日	28年度上半期事業報告・中間決算報告、父母懇談会の総括
3月13日	28年度事業報告・決算概算報告、29年度事業計画・予算・役員選出、学生表彰

②後援会定期総会の開催

4月30日	27年度事業報告・決算報告、28年度事業計画・予算・役員選出
-------	--------------------------------

③父母懇談会の開催〔後援会と本学の共催により全国13会場で開催、数字は参加組数〕（ ）は大学院

	外国語学部	経済学部	計		外国語学部	経済学部	計
札幌	1	3	4	静岡	5	1	6
仙台	3	1	4	名古屋	5	5	10
郡山	2	3	5	大阪	2	4	6
金沢	0	2	2	岡山	0	0	0
長岡	3	0	3	高知	1	2	3
大宮	2	5	7	福岡	1	2	3
水戸	12	2	14	柏	46(1)	42	88
				合計	83	72	155

④後援会会員への刊行物の送付

- a. 『後援会のしおり』28年度版
- b. 『新入生へのメッセージ』28年度
- c. 『麗澤教育』第22号（麗澤大学発行）
- d. 『ニューモラル』（モラロジー研究所発行）
- e. 『奨学金案内』28年度
- g. その他資料

⑤後援会による本学諸活動への援助

教育活動援助	入学式学部歓迎の集い昼食代援助（新入生・父母保証人分）、留学生歓迎懇親会、留学生一日バス旅行、麗澤教育発行、大学祭、大学院研究活動援助、卒業アルバム、卒業記念パーティー援助
課外活動援助	学友会、部・同好会活動支援（公式戦等交通費、顧問・コーチ合宿参加費等）、課外活動保険料（合宿含む）、課外活動懇親会、学生表彰、自主活動支援、皇居奉仕団交通費・保険代援助、リーダーセミナー等
学生援助	学生食堂小鉢（朝・昼・夕食援助）、学生食堂等清掃、学生食堂植木リース、ロータリー花壇整備、公用車維持等、学内SNS運用費援助、大規模災害対応マニュアル作成費、学生寮清掃費等
進路指導援助	職業適性検査、キャリアカウンセラー援助、My Career Note作成、大学総合パンフレット購入、公務員試験対策講座実施援助
医療厚生援助	学生教育研究災害傷害保険加入料、定期健康診断検査料〔血液検査・血圧測定・心電図<1年>・尿検査<4年>〕、学生休憩用寝具リース代等
広報活動援助	麗澤ブランド向上のための施策、ホームページリニューアル
機器・設備援助	学生食堂用機器設備援助、証明書自動発行機（リース料）、入退寮カードリーダーメンテナンス契約費

(8) 学生の健康管理と予防衛生の支援

① 全員受診を目指した定期健康診断の実施

28年度の定期健康診断受診状況は、次表のとおりである。

学部・研究科	学科・専攻	対象者数	受検者数	受検率 (%)
外国語学部	英語コミュニケーション専攻	348	325	93.4
	英語・英米文化専攻	439	408	92.9
	中国語専攻	77	75	97.4
	ドイツ語・ドイツ文化専攻	120	113	94.2
	国際交流・国際協力専攻	170	158	92.9
	日本語・国際コミュニケーション専攻	185	169	91.4
	日本語・日本文化専攻	3	2	66.7
小計		1342	1250	93.1
経済学部	経済学科	411	335	81.5
	経営学科	386	348	90.2
	経済専攻	97	95	97.9
	経営専攻	145	143	98.6
	グローバル人材育成専攻	71	70	98.6
	会計ファイナンス専攻	18	18	100
小計		1128	1009	89.5
言語教育研究科	比較文明文化専攻(D)	3	1	33.3
	比較文明文化専攻 (M)	9	8	88.9
	英語教育専攻 (M)	3	2	66.7
	日本語教育学専攻(D)	10	5	50.0
	日本語教育学専攻 (M)	12	11	91.7
小計		37	27	73.0
経済研究科	経済・経営学専攻 (D)	5	2	40.0
	経済学専攻	3	3	100
	経営学専攻	18	17	94.4
小計		26	22	84.6
別科日本語研修課程		49	49	100
合計		2582	2357	91.3

※未受検者 225 名の内訳：退学 13 名、除籍 20 名、休学 31 名、卒業 9 名、 留学（1 年間）11 名、健康診断書提出者 42 名、未受検者 99 名。

② 健康支援センターの診療利用状況

a. 学部・学科別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
外国語学部	22	45	75	25	4	19	15	2	1	2	3	0	213
経済学部	4	29	75	25	3	29	2	4	3	6	3	0	183
大学院	0	0	0	0	0	3	1	1	0	0	0	0	5
別科等	4	5	9	5	1	1	2	1	0	1	1	0	30
合計	30	79	159	55	8	52	20	8	4	9	7	0	431

b. 疾患別

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
血液疾患	7	14	25	4	1	3	0	0	0	0	1	0	55
内分泌・代謝系疾患	3	30	71	36	2	35	17	2	1	5	4	0	206
精神系疾患	3	0	5	0	0	0	1	0	0	0	0	0	9
耳鼻咽喉科系疾患	1	4	10	0	1	4	0	1	0	0	1	0	22
循環器系疾患	0	17	21	11	1	3	0	0	0	2	1	0	56
呼吸器系疾患	2	5	1	1	0	1	2	1	0	1	0	0	14
消化器系疾患	4	14	37	8	0	7	8	3	2	3	3	0	89
皮膚科系疾患	3	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5
腎・泌尿器系疾患	0	26	58	17	3	12	7	2	0	0	1	0	126
外科・整形外科系疾患	8	0	1	1	0	1	0	1	1	0	0	0	13
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	32	111	229	78	8	66	35	10	4	12	11	0	596

※一患者（学生）が複数の疾患を有する場合がありますので、a・bとでは合計が一致しない。

5-2-3 課題及び改善・向上方策

- (1) 学内SNSサイト「Green Community ひいらぎCafe」の新システムへの移行に向け、具体的な後継システムの検討を行った。今後は、必要な機能の見直しを行い、掲示版機能を「学生ポータルサイト」へ移行するなど29年度内の本格稼働に向けた調整を行う。
- (2) 「学生カルテシステム」の運用について、父母懇談会や高校訪問時の活用を目的として担当する学生以外の情報収集や面談結果記録が必要な際の対応策として、「学校法人廣池学園個人情報保護に関する規則」および「麗澤大学個人情報取扱細則」に基づき、全ての専任(常勤正規)教員に閲覧・編集権限を付与し利便性を図った。今後は、新教務基幹システム内での運用可能性について検討を行う。
- (3) 後援会の学生表彰の対象について学生の活動促進を目的に学外での活動だけでなく学内での活動も表彰の対象とするため「麗澤大学後援会学生表彰内規」を見直し次年度以降の運用ができるよう検討を行った。

5-3 寮生活支援

5-3-1 目的・目標

本学学生寮は、建学の精神である「知徳一体」の教育を実現し、学生の社会的訓練と人格形成の場として設けられた教育施設である。寮教育の目的である「自我没却神意実現の自治制」を達成するために、学務部学生支援グループが寮生に対する指導と助言を行っている。

寮生活支援の目標は次の通りである。

- (1) ユニット・リーダー会が企画・運営するイベントやプログラムに、教職員も積極的に参画していくことにより寮教育の更なる充実を図る。
- (2) ユニット単位（集団または個人）の面談を、寮教育プロジェクトの委員及び担当職員で年2回（1学期・2学期）実施し、寮生活の実態を把握するとともに、寮生との交流を深めて寮教育の充実を図る。
- (3) 寮生寮のグローバル化に対応するために英語・中国語・韓国語版のガイドブックを作成し、多様化する留学生の受け入れ体制や生活支援の改善を図る。
- (4) 充実した施設・設備とサービスを提供することによって、寮生の快適な生活環境を実現する。

5-3-2 本年度の活動

寮生活支援に関して、次の行事等を実施した。

- ① 「学生寮ガイドブック」（28年度）を作成し配布した。
- ② 新入寮生対象の寮生活オリエンテーションを開催した（3月29日）。
- ③ 全寮生対象の寮生活オリエンテーションを開催した（4月8日、9月16日）。

- ④新入寮生外国人留学生のためのオリエンテーションを開催した（3月29日、9月9日）。
- ⑤ユニット・リーダー会議を年9回開催した（4月、5月、6月、7月、9月、10月、11月、12月、1月）。
- ⑥ユニット・リーダーセミナーPart 1を本学で開催した（29年2月10日）。
- ⑦ユニット・リーダーセミナーPart 2を谷川セミナーハウスで開催した（29年3月16日～18日）。
- ⑧ユニット・リーダー会主催行事（花見会、ボーリング大会、バーベキュー等）に対する支援を行った。
- ⑨火災、地震等の緊急時の対応を研修するため、寮生対象の避難訓練を行った（7月9日）。
- ⑩昨年度より実施したユニット単位（集団又は個人）の面接を、年2回（1学期・2学期）実施予定であったが、2学期はとくに課題のあるユニットのみの面談に変更し、実施した。
- ⑪ワークショップ型の留学生交流会（7月、10月）、他大学の学生寮に関わる教職員とリーダー学生との交流会（9月：お茶の水女子大学、中央大学、一橋大学、12月：青森県立保健大学、神奈川工科大学）、アフリカ出身学生との交流会（12月）を、寮事務室が中心に企画し、実施した。
- ⑫留学生と日本人学生による「ガイドブック多言語化プロジェクト」を立ち上げ、新入生、留学生にわかりやすくなるよう改訂を行った。また、生活に関わるルール等は、英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語に翻訳を行い、新年度のオリエンテーションで配布した。
- ⑬28年度の学生寮入寮状況は、次表の通りである。

分類	学年	男子寮		女子寮		合計	
		1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
外国語学部	1年	11 (5)	12 (4)	38 (3)	36 (3)	49 (8)	48 (7)
	2年	11 (2)	7 (2)	29 (5)	25 (5)	40 (7)	32 (7)
	3年	7 (3)	6 (2)	17 (7)	21 (7)	24 (10)	27 (9)
	4年	9 (4)	9 (4)	23 (2)	22 (2)	32 (6)	31 (6)
	小計	38 (14)	34 (12)	107 (17)	104 (17)	145 (31)	138 (29)
経済学部	1年	24 (9)	20 (5)	10 (7)	9 (6)	34 (16)	29 (11)
	2年	21 (12)	22 (13)	3 (1)	3 (1)	24 (13)	25 (14)
	3年	8 (2)	7 (2)	7 (4)	7 (4)	15 (6)	14 (6)
	4年	12 (4)	11 (4)	3 (1)	3 (1)	15 (5)	14 (5)
	小計	65 (27)	60 (24)	23 (13)	22 (12)	88 (40)	82 (36)
大学院生		6 (5)	6 (5)	2 (2)	2 (2)	8 (7)	8 (7)
研究生		0 (0)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)
別科生		14 (14)	17 (17)	23 (23)	30 (30)	37 (37)	47 (47)
淡江大学留学生		5 (5)	7 (7)	15 (15)	14 (14)	20 (20)	21 (21)
特別聴講生（淡江大生除く） 科目等履修生		11 (11)	7 (7)	19 (19)	21 (21)	30 (30)	28 (28)
合計		139 (76)	134 (75)	189 (89)	194 (97)	328 (165)	328 (172)

※（ ）内の数字は、外国籍で内数。出身国・地域（五十音順）は、アメリカ、イギリス、韓国、ケニア、コンゴ、シンガポール、スウェーデン、タイ、台湾、タンザニア、中国、ドイツ、フィンランド、ブータン、ブルキナファソ、ベトナム、ボツワナ、香港、マレーシア、南スーダン、モザンビーク、モロッコ、ラオスである。

※収容可能数は男子142人、女子192人、計334人である。

### 5-3-3 課題及び改善・向上方策

- 寮教育の充実を図るため、ユニット・リーダー会主催の企画・運営に教職員が参画するプログラムの実施に向けて、検討を行う。
- 国際交流センターと連携し、留学生の受入れ体制や生活支援を強化する。また留学生の生活上のトラブル防止に対処するために、英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語に翻訳を行ったが、さらに内容を充実させる方策を検討する。
- 寮内外の美化意識を向上させ、特に寮内の掃除方法、ゴミの分別の指導を強化すると同時に、ユニット・リーダー会を中心に方策を検討する。また退寮時のゴミの処理方法については、引き続き検討する必要がある。

- (4) 学生寮の電力消費量の増加に伴い、節電意識の向上を高めるために、ユニット・リーダー会を中心に検討する必要がある。
- (5) 寮生自身による寮規則の遵守がなされるよう指導の強化を図る。
- (6) 入寮希望者の増加に伴い、本学生寮の理念を理解し、寮活動に積極的に参加できる寮生を確保するため定員枠の設置や基準などを検討する。
- (7) 留学生を多く受入れる体制に伴い、学生寮の収容人数に限りがあるために入寮出来ない学生への対応策として、外部民間の運営する学生会館等へ委託する方策を検討する。
- (8) 安全で快適な寮生活が送れるよう、特に D 棟の経年劣化等による施設・設備の改修や、不足している備品等の整備を行う。
- (9) 寮生の防犯意識を向上させるための対策や方策への取り組みを行う。
- (10) 有事の際の緊急連絡網の周知徹底を図り、ユニット・リーダーをはじめとする寮生の緊急時に対応する研修を行う。
- (11) 学生寮を持つ他大学との交流を深め、本学の寮教育や寮運営への方策を検討する。
- (12) 国際寮（グローバル・ドミトリー）に伴う、多言語化の対応や体制を強化する。
- (13) 学生寮の地域と連携した学びの交流や地域貢献の方策を検討する。

## 5-4 学生相談

### 5-4-1 目的・目標

学生相談は、Student Personnel Services（略称 SPS）の一環として行われる修学支援と発達援助の教育活動である。本学では、この学生相談の理念と建学の精神を踏まえ、全人的成長を実現するための援助を提供するために、昭和 60 年に「学生相談室」を設置した。その後、18 年度の「学生相談センター」への改組を経て、現在は、大学生生活への適応や年齢に応じた心理的発達の促進を目指し、専門家によるカウンセリングを通じた心理的援助を中心に、居場所や交流の機会の提供、教育的活動、保護者や教職員への助言、学内の支援体制への提言等を行っている。学生の多様化により、心理面だけでなく、学業面や生活面を含め、総合的な支援を必要とする学生が増加している。そのため教職員や保護者との連携が増え、センターの役割が多様化し、ますます重要性が増している。

### 5-4-2 本年度の活動

#### (1) 学生支援の諸活動

- ①学生カウンセリング：学生からの相談に対し、面接、電話でカウンセリングを行った。これらの手段が困難な場合に限り、メールでカウンセリングを行った。
- ②月 1 回 3 時間（春夏休みは除く）、精神科医による学生の健康相談および家族カウンセリングを行なった。（4 月 18 日、5 月 16 日、6 月 20 日、7 月 11 日、10 月 24 日、11 月 7 日、12 月 5 日、1 月 23 日）
- ③家族カウンセリング：学生の家族や保証人に対し、学生への関わり方についてのアドバイスや情報提供を行った。後援会総会時に開催される「キャンパスライフ相談会」にて相談を受けた（4/30…3 名）
- ④教職員コンサルテーション・連携：教職員に対し、学生対応に関する助言や情報交換、支援の依頼を行った。
- ⑤他機関との連携等：医療機関や外部支援機関等の案内や資料を掲示し、必要に応じて紹介を行った。紹介先と情報交換などの連携支援を行うこともあった。
- ⑥心理検査：性格や心身の状態を知るための検査を実施した。
- ⑦ランチアワー・イベントの開催：学生同士や教職員との交流促進のため、週 2 回ランチをしながら語る会（毎週水・金曜日 12:10～13:00）を行った。また、イベント（5 月・11 月シャボン玉、12 月クリスマスパーティー）を行った。
- ⑧グループ活動：実体験型グループ活動「植物を育てる会」を開催し、植栽を行なった。
- ⑨こころの休憩室の開室：センター内の一室を学生に開放し、学生の居場所や憩いの場として活用した。

- ⑩書籍の貸出：学生、教職員への書籍の貸し出しを行った。
- ⑪入学時調査・特別面接：学部、大学院、編入生、別科・特別聴講生オリエンテーションにおいて学生の状態を知るための調査を行った。結果から抽出した学生に手紙で呼びかけ、聞き取りを行った。
- ⑫広報・啓発：学生や教職員への周知・啓発のため、以下の活動を行った。
- a.学生・家族に向けて…「学生相談センターパンフレット2016」「学生相談センターだより」(年2回・31～32号)の発行、新入生や寮生を対象としたオリエンテーションと見学会(4月)、Webや掲示板での広報。
  - b.教職員に向けて…「学生相談センターニュース」(年2回・29～30号)、『学生相談センター年報』(27年度・第16号)の発行、協議会・教授会・研究科委員会への報告。
- ⑬学内からの依頼を受け、授業やセミナー等で学生対象の講話を行った(導入授業、基礎ゼミ、留学事前セミナー、リーダーセミナー、ユニット・リーダーセミナー、オリエンテーションキャンプスタッフ研修会)
- ⑭岩田淳子先生 成蹊大学専任カウンセラー(文学部教授、臨床心理士)を招聘し、職員対象の講演会「発達障害学生支援の課題～合理的配慮と学生間理解による共生社会の構築を目指して～」を開催した。(日時：12月15日(木)17:00-18:30、参加者：31名)
- ⑮国際交流グループからの依頼により、留学事前アンケートの結果から、教職員と学生との面談時の参考資料を作成した。
- (2) 会議・運営委員会等
- ①学生相談センター運営委員会：6月2日、9月22日、11月17日、29年2月14日。メンバーは、運営委員及び事務局(学生支援グループ課長、専任カウンセラー、事務担当者)
  - ②学生相談センター定例打ち合わせ会：月1回。メンバーはセンター長、副センター長、学生支援グループ課長、専任カウンセラー、事務担当者。
  - ③学生相談センタースタッフ会議：8月29日、29年2月27日。メンバーはセンター長、副センター長、学務部副部長、学生支援グループ課長、カウンセラー5名、精神科医(8月29日のみ)、事務担当者。
  - ④学生相談センターカウンセラー会議：8月29日、29年2月27日。メンバーはカウンセラー5名、精神科医(8月29日のみ)。
  - ⑤学生支援グループ朝礼：毎週水曜日。メンバーは学生支援グループスタッフ、専任カウンセラー。
- (3) スタッフの諸活動(学会・研修会等への参加、学会活動)
- ①学会・研修への参加
    - a.日本学生相談学会第34大会ワークショップ(5月21日、成蹊大学)
    - b.日本学生相談学会第34大会(5月22～23日、成蹊大学)
    - c.関東地区学生相談研究会第89回例会(7月2日、東京経済大学)
    - d.和洋女子大学国際シンポジウム(7月23日、和洋女子大学)
    - e.日本学生相談学会第43回学生相談セミナー(8月6～7日、クロスウェーブ船橋)
    - f.日本心理臨床学会第35回秋季大会(9月4～7日、パシフィコ横浜)
    - g.日本学生相談学会1dayセミナー(9月17日、東北大学)
    - h.関東地区学生相談研究会第90回例会(10月30日、昭和女子大学)
    - i.第54回全国学生相談研修会(11月24～26日、東京国際フォーラム)
    - j.第50回全国学生相談研究会議(29年1月22～24日、ソラージュ大分)
    - k.関東地区学生相談研究会第91回例会(29年2月18～19日、IPC生産性国際交流センター)
    - l.日本学生相談学会第42回学生相談セミナー(29年3月3日～4日、立教大学)
  - ②学会等での活動
    - ・阿部：日本学生相談学会理事／第54回全国学生相談研修会準備委員・運営委員・講師・司会
    - ・吉原：関東地区学生相談研究会幹事

(4) 学生相談センター利用統計

28年度の利用者総数は延べ3,441件、前年度比99.4%となった。“学生カウンセリング”は実数144名、延べ数1,444件で、過去最多であった。また、“家族カウンセリング”は68件(前年度比144.7%)、“コンサルテーション・連携”が311件(前年度比127.5%)と増加した。一方で、“こころの休憩室”の延べ利用者が501件(前年度比48.0%)、休憩室利用者へのスタッフからの声かけが主となる“日常的な関わり”が172件(前年度比71.7%)と減少した。また、“グループ”の利用者も今年度は0人であった。

①学生相談センターの10年間の利用者延べ数(上段:延べ利用者数(件)、下段:前年度比(%))

活動内容	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19
学生 カウンセリング	1444 132.7	1088 135.5	844 109.3	772 100.9	765 104.8	730 102.4	713 126.6	563 142.2	396 134.2	295 93.4
家族 カウンセリング	68 144.7	47 123.7	44 62.9	70 102.9	68 138.8	49 119.5	41 120.6	34 68.0	50 178.6	28 84.8
コンサルテ ーション・連 携	311 127.5	244 113.5	223 60.6	368 148.4	248 91.9	270 163.6	165 136.3	121 159.2	76 205.4	37 78.7
心理検査	4 22.2	18 600.0	3 20.0	15 138.8	9 69.2	13 118.2	11 91.7	12 400.0	3 -	0 -
グループ	0 0.0	20 125.0	16 106.7	15 51.7	29 100.0	29 103.6	28 233.3	12 200.0	6 200.0	3 7.3
ランチアワ ー	107 93.9	114 60.4	182 96.3	189 154.9	122 329.7	37 132.1	28 155.6	18 64.2	28 233.3	12 -
イベント	104 106.1	98 67.6	158 169.9	93 67.9	137 135.6	101 99.0	102 425.0	24 -	-	-
こころの 休憩室	501 48.0	1043 121.7	857 124.2	690 138.0	500 131.2	381 158.8	240 98.0	245 597.6	41 58.6	70 -
日常的関 わり	172 71.7	240 173.9	141 128.2	110 98.2	112 107.7	104 56.8	183 92.9	197* 1515.4	13 68.4	19 -
連絡	604 138.5	436 156.8	301 129.7	232 93.9	247 103.3	239 79.9	299 -	- -	- -	- -
図書貸出	26 108.3	24 85.7	29 164.7	17 48.6	35 350.0	10 29.4	34 91.9	37 68.5	54 110.2	49 119.5
入学時 特別面接	69 86.3	80 140.4	57 71.3	80 95.2	84 118.3	72 104.3	69 106.2	65 175.7	37 102.8	36 85.7
ワー クショップ 講演会	31 310.0	10 12.2	82 215.8	38 131.0	29 263.6	11 52.4	21 140.0	15 50.0	30 -	-
利用総 数	3441 99.4	3462 117.9	2937 109.2	2689 112.7	2385 116.6	2045 105.7	1934 144.0	1343 183.0	734 133.7	549 105.6

\*連絡も含む/学生、家族、教職員が同席の場合は内容に応じて分類、網掛は実施せず、-は集計せず

②学生相談センターの10年間の利用者実数(上段:延べ利用者数(件)、下段:前年度比(%))

活動内容	H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19
学生 カ ウン セ リ ン グ	144 105.1	137 118.1	117 102.6	114 91.9	124 106.0	117 107.3	101 99.0	102 121.4	84 118.3	71 95.9
家族 カ ウン セ リ ン グ	25 108.7	23 88.5	26 83.4	31 96.9	32 145.5	22 115.7	19 105.6	18 100.0	18 163.6	11 122.2
こころの 休 憩 室	88 122.2	71 104.4	68 113.3	60 78.9	76 108.6	70 97.2	72 144.0	50 454.5	11 157.1	7 -
日 常 的 関 わ り	61 93.8	65 103.2	63 170.2	37 66.1	56 105.7	53 63.1	84 215.4	39 354.5	11 84.6	13 -
ラ ン チ ア ワ ー	27 225.0	12 46.2	26 123.8	21 80.8	26 185.7	14 93.3	15 250.0	6 66.7	9 150.0	6 -



③学生カウンセリングー10年間の利用者実数と全学生に占める率

来談学生\年度		H28	H27	H26	H25	H24	H23	H22	H21	H20	H19
実数	全体(人)	144	137	117	114	124	117	101	102	84	71
	内正規学生(人)	138	126	114	102	114	102	94	99	76	65
正規学生来談率(%)		5.4	5.0	4.4	3.9	4.3	3.6	3.4	3.5	2.7	2.3

④学生カウンセリングー主な相談内容（相談者実数）

	勉学・進路	学業	進路	留学	転部科	編入	留年	休退学	勉学進路他	心理・適応	性格	人生観	対人関係	心身の健康	性の問題	適応	心理適応他	生活その他	経済問題	住居問題	課外活動	家庭問題	トラブル	その他	合計
H28	25	6	13	2	0	1	0	2	1	111	33	3	39	28	1	4	3	8	1	0	2	1	1	3	144
H27	21	2	12	2	0	0	1	2	2	109	32	2	33	30	1	3	2	13	0	0	3	5	4	1	137
H26	18	6	7	0	0	0	1	2	2	82	18	3	22	29	0	7	3	17	0	0	3	7	4	3	117

5-4-3 課題及び改善・向上方策

28年度は学生カウンセリングの利用件数、実数ともに過去最高となり、家族カウンセリング、コンサルテーション、連絡も増加、すなわち個別ケースに関する対応が増加している。カウンセリングの増加には大きく二つの理由がある。一つ目は、利用への抵抗感を低減するために27年度から取り組んでいる、「全学生の成長や適応を応援する機関」「“悩み”の言語化が“病み”を予防する」等のメッセージが浸透した結果である。性格や対人関係といった自己成長としてのカウンセリングの利用増がそれを証している。二つ目は、初の受付事務担当専任職員の配属である。カウンセラーがカウンセリングに集中できることで心理的関わりの質が向上し、継続的なカウンセリングが中断することが減った。また、担当者が学生相談についての知見が豊かであったため（日本学生相談学会認定学生支援士資格保持者）、心理面接の展開によって生じる「他者に心を開いていくことへの不安」「中核に触れることへの恐れ」等に理解があり、休みや中断を申し出てきた学生をカウンセリングに戻す機能を担ったことも大きい。27年度に挙げた、学生相談センターが教育機関であるという認知の拡大と、受付担当者の配属の恒常化については達成されたといえよう。

他方、グループやランチアワー、休憩室の利用といった、居場所としての利用が減少している。また、休憩室利用者へのスタッフからの声かけが主となる“日常的な関わり”も減少している。これらの因果関係は特定できないが、声かけの減少は学生相談センターのコミュニティ機能の低下につながる。学生は群集の中での孤独に耐えられず休憩室に来る。したがって、そういった学生に誰も対応しない状況は、期待を裏切ることによっていっそうの孤独を与えることになりかねない。学生相談センターには居場所として学生を“抱える”役割があることをスタッフが改めて認識し、声かけの改善に取り組む必要がある。

また、28年度は留学先から、不調や相談をメールで寄せてくる学生が複数名おり、国際交流センターや学部と連携して対応するケースもあった。学生相談センターを利用したことのない学生とのメールだけのやりとりでは危機レベルの判断が難しい。留学先からSOSが届いた際、どの部署がどのようなプロセスで判断を行なうのか、責任の所在を明確にしておく必要がある。

5-5 キャリア形成支援

5-5-1 目的・目標

入学初年次からの「キャリア形成支援」、さらには卒業生との「関係強化」に関する業務を行い、学生の社会的・職業的な自立に向けたキャリア形成に寄与することを目的としている。また、「建学の精神に基づくキャリア支援体制の確立」と「麗澤大学の社会的評価を向上させる就職実績の長期安定化」を目標に、本学に在籍したすべての人が、自己の能力や適性を活かして国際社会で活躍するとともに、生涯を通じて自身のキャリアを主体的にデザインできる人材を輩出すべく、生涯教育の視点から支援することを目指している。

## 5-5-2 本年度の活動

### (1) キャリア教育活動

①「キャリア教育科目」として、次表の5科目の運営を支援した(詳細は2-1-7参照)。

科目名	開講時期	履修推奨年次	履修者数
麗澤スピリットとキャリア	第2学期	1年次	61名
ジェンダーとキャリア形成	第1学期	1～4年次	53名
キャリア形成入門	第1学期	3年次	163名
キャリア形成研究	第2学期	3年次	126名
キャリア形成演習	第2学期(冬期集中)	3年次	288名

②キャリアセンターを中心に、次のようなインターンシップとインターンシップのセミナーを行った(詳細は資料編5 表5-1参照)。

a.短期インターンシップ：5日間の期間で実施。夏期休暇を利用し、本学と協力関係にある企業で行った。

b.インターンシップのセミナー：インターンシップについての基本的なことから、企業の探し方や募集企業について解説した。

③上級生による下級生のための就職活動支援を支援した(詳細は資料編5 表5-2参照)。

a.就活サポーター：就職活動を終えた4年生が、自身の就職活動の体験をもとに下級生の就職支援や、キャリアセンターの運営サポートを行った。

### (2) 就職支援・ガイダンス関連活動

キャリアセンターを中心に、次のような就職支援活動を行った。

①就職指導・ガイダンス関連活動(資料編5 表5-3参照)

a.春季及び秋季キャリアガイダンス：対象学年等の属性において必要となる手続きや、進路に関わる情報の提供を対象年次に実施した。

b.公務員試験直前対策ガイダンス：試験直前期の学習方法や、論文・面接試験対策について解説した。

c.公務員ガイダンス：公務員の種類や試験の概要について解説し、学内で実施している「公務員試験対策講座」の説明を行った。

d.職業適性検査(キャリア・アプローチ【3年次】)：自分のパーソナリティや職業に対する興味等を客観的に把握し、就職活動へ向けてのきっかけとヒントを掴む機会の提供を行った。

e.職業適性検査解説講座：前項で受検した適性検査のフィードバックデータをどのように理解し、就職活動に活かすことができるかについて解説した。

f.セミナー・講座：外部委託しているカウンセラー(委託先：株式会社ベネッセコーポレーション)の指導により、学生の課題に合わせてテーマ別にトレーニングを行い、情報収集や採用選考に対応できる力を養う機会提供、及び求人紹介の機会を提供した。

また、集中講座として、「グループ面接対策講座」、「最終面接対策講座」、「就活ビギナー向け今から始める就活セミナー」、「夏の就活リスタート講座」、「自己PR分解セミナー」を実施した。

g.留学生向け就職支援セミナー：日本国内で就職を希望する外国人留学生のためのセミナーを実施した。

h.就活のリアルを学ぶドキュメント上映会：株式会社ダイヤモンド・ヒューマンリソースの方を講師に招いて、就職活動の実際の内容を追ったドキュメントを上映し、専門の講師から解説を受けられる講座を実施した。

i.就活総点検講座～就活1dayシミュレーション：株式会社マイナビの方を講師に招いて、1日で就活に必要なノウハウを学べる講座を実施した。

j.キャリア形成演習フォロー講座クラス別：キャリア形成演習でのクラス別にフォロー講座を実施した。

k.就活ゼミ：キャリアセンタースタッフ1名で就職に関するゼミを作り、12回実施した。

l.就活スタイル総点検講座(メイク及びスーツの着こなし)：メイクアップ講座とスーツの着こなし講座を実施した。

- m. 証明写真撮影会：外部のプロのカメラマン、スタイリストによる 就職活動用の証明写真撮影会を実施した。
  - n. 求人紹介カフェ：ハローワークのジョブサポーターによる求人紹介相談会を学内で実施した。
- ②業界・企業・職種研究関連活動(資料編 5 表 5-4 参照)
- a. 個別企業説明会：企業の採用に関する説明会及び選考会を学内で実施した。
  - b. 業界セミナー：3 年次以下を対象に、就職活動の早期に出会ってほしい優良企業 11 社を招き、業界セミナーを実施した。
  - c. 合同企業説明会：学内の会場に多数の企業が集合し、各企業の採用に関する説明会を実施した。
  - d. 航空業界座談会：在学生在が卒業生を囲んで仕事に関する体験談を聞き、航空業界で働くことへの理解を深める機会を提供した。
  - e. ホテル見学会：パークハイアット東京の社員によるホテル業界についてのセミナーと見学会を実施した。
  - f. 金融業界を知ろうセミナー：日本証券業協会の方を講師に招いて、銀行と証券の違いを中心に、金融業界を知るためのセミナーを実施した。
  - g. 三井住友銀行柏支店銀行見学会：三井住友銀行柏支店で実際の銀行業務や働き方についての座談会と見学会を実施した。
  - h. 金融業界を目指す人のためのセミナー：金融業界志望者に対して同業界について学ぶセミナーを実施した。
  - i. 証券業界セミナー&インターンシップ説明会：水戸証券株式会社の方を講師に招いて、証券業界を知るためのセミナーを実施した。
  - j. インテリア・建築資材業界セミナー：株式会社エービーシー商会の社員による、インテリア・建築資材業界についてのセミナーと見学会を実施した。
  - k. 工作機械業界セミナー：DMG 森精機株式会社の社員による、工作機械業界についてのセミナーと見学会を実施した。
  - l. 千葉県 28 大学合同就職応援セミナー：千葉県内の 28 大学が加盟する「千葉県私立大学就職指導会」主催による県内の企業を中心とした合同企業説明会への参加機会を提供した。
- ③就職試験対策関連活動 (資料編 5 表 5-5 参照)
- a. SPI 対策講座：SPI3 対策を中心に開講。10 月から 2 月にかけて、14 コマの講座と SPI の模擬試験を 2 回開催した。講座運営は ROCK が担当した。
  - b. 公務員対策講座：6 月から 2 月末にかけて、通算 26 コマの講座と模擬試験 2 回、その他テストを 2 回開催した。講座運営は ROCK が担当した。
- ④就職先開拓(企業・団体訪問)：1 年間で延べ 375 件の企業・団体を訪問した。
- ⑤特定活動ビザ取得者支援：ハローワークと協働して月 1 回の定例会で活動報告を受け、求人紹介を行う等の支援を実施した。

### (3) 進路状況

28年度卒業者の進路状況（学部のみ）は次表の通りである。 ※平成28年9月卒業者を含む。

	外国語学部			経済学部			両学部合計		総合計
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	
企業就職	74	187	261	142	47	189	216	234	450
公務員	0	3	3	6	1	7	6	4	10
教員	3	4	7	0	0	0	3	4	7
就職希望者合計	80	198	278	153	49	202	233	247	480
就職決定者合計	77	194	271	148	48	196	225	242	467
就職率*	96.3%	98.0%	97.5%	96.7%	98.0%	97.0%	96.6%	98.0%	97.3%
実就職率**	89.5%	92.8%	91.9%	89.2%	87.3%	88.7%	89.3%	91.7%	90.5%
大学院進学	2	1	3	3	0	3	5	1	6
その他進学	0	2	2	7	1	8	7	3	10
その他***	6	11	17	13	6	19	19	17	36
卒業生合計	88	212	300	176	56	232	264	268	532

\*文部科学省定義の就職率に基づく就職希望者に対する就職者の割合（平成29年4月1日現在）

\*\*就職者数÷（卒業生数－大学院進学者数）

\*\*\*自営業、外国人留学生の帰国者、結婚など

#### 5-5-3 課題及び改善・向上方策

業種への理解を深めるプログラムは充実してきたと考えられるがその反面、職種やそれに応じた仕事内容に対する理解が十分ではないと感じられる。

また、苦手とする筆記試験に対する準備が不十分な学生が散見される。29年度においてはこれらの課題に対し、正課内外を通じて施策を実施したい。

#### 5-6 外国人留学生支援

##### 5-6-1 目的・目標

創立者廣池千九郎が目指した「人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人材の育成」を踏まえ、本学における外国人留学生支援は、世界的・国際的識見を備えた有能な人材を養成することを目的としている。この目的を実現するために、次のような目標を設定している。

- (1) 国際交流センターと学部間の連携をとり、外国人留学生の成績不良等学生指導を強化する。
- (2) 国内における外国人留学生の地域連携及びインターンシップの拡大・充実を図る。

##### 5-6-2 本年度の活動

国際交流センターを中心に、次のような外国人留学生支援活動を行った。

- ①新入学特別聴講生及び別科生の空港への出迎え及び入寮のサポート。（3月28日／9月8日）
- ②新入学特別聴講生及び別科生の生活オリエンテーションの実施。（3月29日／9月14日）
- ③新入学特別聴講生の学業オリエンテーションのサポート。（4月11日／9月16日）
- ④新入学外国人留学生のための留学生歓迎懇親会の実施。（4月24日）
- ⑤新入学特別聴講生及び別科生のための修了記念パーティの実施。（8月4日）
- ⑥別科秋学期入学式及び特別聴講生開講式（9月13日）
- ⑦留学生日帰りバス旅行の実施。（10月22日／埼玉県川越市内散策）
- ⑧麗澤国際交流親睦会（RIFA）が主催する国際交流もちつき大会（12月4日開催）への活動支援
- ⑨在留管理制度に基づく各種手続きの取り次ぎ
- ⑩学部及び大学院に在籍する外国人留学生への授業料減免
- ⑪学部の留学生3名及び海外提携校から受入れている特別聴講生6名を、猿ヶ京ホテル（群馬県）、枝幸町（北海道）、石垣市（沖縄県）でのインターンシップを通じて、日本文化や日常習慣に触れて、貴重な経験をしながら学びの場となった。また本学のPRにも十分な貢献となり学生自身にも良い結果をもたらした。

### 5-6-3 課題及び改善・向上方策

本学のグローバルなキャンパス作り的一端を担っているが、本学在籍中は、退学・除籍者の抑制として、学内で長期欠席リストから必要に応じた留学生への面談を強化し、特に成績不良学生に対しては、学部と連携しながら、別途注意喚起や指導の場を設けるなどして対応しているが、今後も継続的に行う事が必要不可欠である。また日本語で他学生とのコミュニケーションが困難な留学生に対しては、母国語で対応するなど、学内サークル RIFA (麗澤国際交流親睦会) の学生にも協力を仰ぎ、異文化適応への支援活動も行った。来日したばかりの 1 年に満たない留学生は学生寮や近隣に居住できることで、安心して勉学に専念できる環境が整えられているが、今後は、学生寮への入力希望者が増加する為、受入れに関する居住確保について確立していかねばならない。また、毎月行っている「在籍確認」「授業の長期欠席者情報把握」「関係部署との連携による学生ケア」が大変重要になり、今後も、本学生が在留期間の更新が出来ない事により、帰国せざるを得なくなる事などは留意しなければならない。新年度の学生生活オリエンテーションにて注意喚起をし、在留期間延長の手続きを近日中に行わなければならない学生には、より注意を払うなど指導を徹底したい。その他、28 年度にグローバルひろばに設置した一体型電子黒板やミーティングチェアは、ひろばを利用する学生にとって価値あるものになり、様々なイベントにも頻繁に利用された。iLounge においては、27 年度私立大学等改革総合支援事業のタイプ 4 及び私立大学等教育研究活性化設備整備事業に採択された補助金を備品購入費用の一部に使用したが、購入したミーティングテーブルやチェア、ソファやポータブルワイヤレスマイクは、iLounge で開催されるイベントや他の活動において利用学生が積極的に使用し、カフェラウンジ全体における利用増加の一旦も担った事で、今後の学内グローバル施設を含む環境整備を整えたい。

## 5-7 課外活動支援

### 5-7-1 目的・目標

本学が目指す知徳一体の人間像に対する理解を深め、課外活動を通じて自己の魅力と課題を発見・再確認する機会を与え、また今後の学生生活において、学生同志や教職員との交流の機会を構築できる環境を作る。

### 5-7-2 本年度の活動

本学では、学生の自治の訓練、教養の向上、情操の純化、健康の増進を図ることを目的として学友会を設置し、学生の課外活動を支援している。

#### (1) 学友会

学友会組織図及び本部・各委員会等の主な活動は、次の通りである。

	<table border="1"> <tr> <td>学友会本部</td> <td>①総会(年2回) ②学友会予算・決算審議 ③次年度学友会会長・副会長選挙</td> </tr> <tr> <td>出版委員会</td> <td>(学友会本部に吸収)</td> </tr> <tr> <td>企画委員会</td> <td>(学友会本部に吸収) ①新入生歓迎会</td> </tr> <tr> <td>麗陵祭実行委員会</td> <td>①大学祭全般の企画・運営</td> </tr> <tr> <td>音響・照明委員会</td> <td>①入学式・学位記授与式 ②新入生歓迎会 ③麗陵祭 ④課外活動 音響サポート</td> </tr> <tr> <td>部長会</td> <td>①課外活動の運営と統括 ②新入生勧誘活動の統括</td> </tr> </table>	学友会本部	①総会(年2回) ②学友会予算・決算審議 ③次年度学友会会長・副会長選挙	出版委員会	(学友会本部に吸収)	企画委員会	(学友会本部に吸収) ①新入生歓迎会	麗陵祭実行委員会	①大学祭全般の企画・運営	音響・照明委員会	①入学式・学位記授与式 ②新入生歓迎会 ③麗陵祭 ④課外活動 音響サポート	部長会	①課外活動の運営と統括 ②新入生勧誘活動の統括
学友会本部	①総会(年2回) ②学友会予算・決算審議 ③次年度学友会会長・副会長選挙												
出版委員会	(学友会本部に吸収)												
企画委員会	(学友会本部に吸収) ①新入生歓迎会												
麗陵祭実行委員会	①大学祭全般の企画・運営												
音響・照明委員会	①入学式・学位記授与式 ②新入生歓迎会 ③麗陵祭 ④課外活動 音響サポート												
部長会	①課外活動の運営と統括 ②新入生勧誘活動の統括												

学友会本部並びに各委員会は、学生のキャンパスライフの充実・向上のために重要な役割を果たした。まず、第 58 期学友会テーマ「繋がり」のもと、5 月・12 月に学友会定期総会を開催した。学友会予算・決算審議、次年度学友会会長選挙などを行った。

第 53 回麗陵祭は、テーマ「ハレルヤ!」のもと 11 月 3 日～5 日に開催された。第 13 回ホームカミングデイとコラボレーションし、期間中の来場者は 8,400 人であった。

## (2) 部活動

学友会には次の部が所属し、活動している。部を新設する際の基準は、同好会活動3年以上であること、部としての対外的な行事・大会等に参加できる人数であること、年間の活動実績があることの3点である。

### ①運動部（15部・317名）

部名	部員数	活動内容
空手道部	10	第59回関東空手道選手権大会
弓道部	16	第46回全関東学生弓道選手権大会、秋季リーグ戦、第64回全日本学生弓道選手権大会
剣道部	18	第62回関東学生剣道選手権大会、柏市民剣道大会、千葉県学生剣道大会、柏市民大会、全日本学生剣道選手権大会、関東学生幹事会、関東学生剣道大会、千葉県新人学生剣道大会、第11回全日学生剣道オープン大会、関東学生剣道新人大会、千葉県新人大会、関東学生剣道セミナー、
ゴルフ部	7	練習
サッカー部	25	千葉県大学サッカー2部リーグ
少林寺拳法部	2	練習
卓球部	休部	
ダンス部	90	各種ダンスイベント開催
テニス部(男子/女子)	20	千葉県学生トーナメント大会、関東学生テニストーナメント大会、千葉県学生テニス対抗戦、関東学生新進テニス選手権、全日本大学対抗テニス王座決定試合、関東大学対抗テニス選手権大会、関東大学テニスリーグ、関東学生テニス選手権大会、関東学生テニス対抗戦
馬術部	13	中島トニアントール合宿
バスケットボール部(男子/女子)	38	第56回関東大学バスケットボール新人戦、関東大学女子バスケットボール新人戦大会、千葉県男子学生バスケットボール前期5部リーグ戦、千葉県女子バスケットボール大会春季・秋季リーグ戦、第66回関東大学女子バスケットボールリーグ戦、第65回関東大学バスケットボール選手権大会
バレーボール部(女子)	10	練習
武術太極拳部	7	第33回全日本武道太極拳選手権大会
野球部	33	千葉県大学野球春・秋季3部リーグ戦、千葉県大学野球新人戦
陸上競技部	28	焼津みなとマラソン、第95回関東学生陸上競技対抗選手権大会、第55回平成国際大学長距離競技会、第93回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会、ちばアクアラインマラソン2016、日本体育大学記録会、第60回平成国際大学長距離協議会、第78回奥多摩溪谷駅伝競走大会、第255回日本体育大学長距離協議会、第59回平成国際大学長距離記録会、10000m記録挑戦競技会、関東学生連合チーム合宿、第20回日本学生ハーフマラソン選手権大会、第33回柏駅伝大会、第41回千葉マリンマラソン

### ②文化部（8部・119名）

部名	部員数	活動内容
E.S.S.	25	英語スピーチコンテスト開催
英語劇グループ	36	新入生歓迎公演、1学期・2学期（麗陵祭）公演、卒業公演、外部公演
表千家茶道部	13	新入生歓迎茶会、七夕茶会、麗陵祭茶会、クリスマス茶会
きもの・お作法の会	16	第327回全日本きもの装いコンテスト関東大会、浴衣day、片平礼法きもの学院 春のつどい
軽音楽部	14	麗陵祭、リサイタル
茶道部裏千家	8	練習
箏曲部	7	練習
フィルハーモニー管弦楽団	休部	

### (3) 同好会

同好会は、学友会に所属する部とは別に、学長の許可があれば活動できるもので、15名以上の構成員で申請することができる。28年度に活動した同好会は、次表の通りである。

#### ①運動系同好会 (13 団体・474 名)

同好会名	会員数
フラッグアメリカンフットボールサークル 麗澤 ARDISIA	10
ウエイト・トレーニングサークル	35
オールラウンド	60
ダブルダッチサークル ReiB	38
バドミントン同好会	31
野球サークル	30
ビーチバレーボールサークル	46

同好会名	会員数
サッカーサークル BrezeL	57
セントフリスビッチーズ	48
カニテニスサークル	33
バスケットボールサークル	61
バレーボール同好会	休部
ハンドボールサークル	25

#### ②文化系同好会 (21 団体・494 名)

同好会名	会員数
アカペラサークル	72
劇団つどい	20
現代視覚文化研究会	2
写真サークル photo-shop	35
自校学習クルー	7
ドイツ語劇グループ	12
プアン	28
RISOVP	休部
落語研究会	5
Reivo	12
Lien	休部

同好会名	会員数
FOLK SONG 研究会	91
ロック研究会	80
Group Of TOEICers	休部
joinus	25
Refree	39
Reitaku Task Force	1
麗澤国際交流親睦会	38
フェアトレードサークル 4U	休部
韓日文化研究会	27
REITAKU PRESS 倶楽部	休部

### (4) 団体・個人の活動実績

- 陸上競技部 第 93 回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会 22 位  
第 78 回奥多摩溪谷駅伝 1 位  
経済学部経済学科 4 年 青木 章悟 ちばアクアラインマラソン 2016 3 位
- 剣道部 第 62 回関東学生剣道選手権大会 出場  
経済学部経済学科 4 年 岸本 拓真 第 64 回全日本学生剣道選手権大会 出場  
経済学部経済学科 2 年 刈谷 崇英 第 11 回全日本学生剣道オープン大会「男子 2 段以下の部」ベスト 8
- 武術太極拳部 外国語学部中国語専攻 4 年 荒谷 友碩  
2016 年全日本武術太極拳競技会男子太極拳優勝  
第 33 回全日本武術太極拳選手権大会男子太極拳優勝・男子太極剣優勝  
第 9 回アジア武術選手権大会男子太極拳銀メダル  
第 1 回武術套路ワールドカップ大会男子太極剣金メダル・男子太極拳銅メダル
- 硬式野球部 春季 3 部リーグ戦 優勝  
秋季 3 部リーグ戦 準優勝  
千葉県大学野球新人戦 ベスト 4
- きもの・お作法の会 第 327 回全日本きもの装いコンテスト関東大会 出場
- 落語研究会 第 14 回全日本学生落語選手権『策伝大賞』 出場

### 5-7-3 課題及び改善・向上方策

- (1) 課外活動の活性化を推し進めるための方策のひとつとして、現在の専任教員の顧問体制に、副顧問として職員（教員含む）も加わり、教職員一体の支援体制を目指し、課外活動の活性化を図る。
- (2) 昨年度に引き続き学友会の予算管理指導のほか、月例部長会及び月例会計会議に学生支援グループ職員が同席し、必要な助言等を行う。
- (3) 課外活動施設全般（体育館・武道館・グラウンド）及び部室棟の管理に関する業務を円滑に図る為、施設設備不備箇所においても、使用する学生からの意見を取り入れながら、現状に見合った環境整備を継続して行っている。
- (4) 施設使用調整においては、引き続き他部署（中・高、オープンカレッジ等）との連携を図りながら運用する。また、施設使用ルール、マナーについても毎月の部長会等で繰り返し注意喚起を促す。



## 6. 国際交流活動

### 6-1 目的・目標

創立者廣池千九郎が目指した「人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人材の育成」を踏まえ、本学における国際交流活動は、世界的・国際的識見を備えた有能な人材を養成することを目的としている。

この目的を実現するために、次のような目標を設定している。

- (1)海外提携校との交流の充実に取り組み、短期の訪日団を受け入れる。
- (2)国際交流機関との連携を図る。

### 6-2 本年度の活動

#### 6-2-1 海外提携校への留学

##### (1)学部

本学は、学生の海外留学を主たる目的として、海外の大学と交流している。学生が海外提携校で修得した単位は 60 単位を上限に本学での卒業必要単位として認定でき、この単位互換制度を利用して 28 年度に留学した学生は、次表の通りである。

海外留学提携校等		外国語学部		経済学部		合計
		1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	
アメリカ	レッドランズ大学	2 (2)	0	0	0	2 (2)
	フットヒル大学	1 (1)	0	0	0	1 (1)
	セント・マーチンズ大学	5 (1)	6 (1)	0	0	11 (2)
	サンノゼ州立大学	0	0	0	2	2
	セイラム州立大学	6 (6)	1	0	0	7 (6)
	マレー州立大学	0	0	0	7	7
	ミドルテネシー大学	0	0	0	0	0
	ボストン大学	0	0	0	0	0
	ハワイ大学 リーワード C.C.	0	5	0	0	5
	ポートランド州立大学	0	0	0	1	1
	リンフィールド・カレッジ	0	0	0	0	0
	南イリノイ大学	4 (2)	11 (1)	0	0	15 (3)
	ハワイ大学 マノア校	0	0	0	2	2
小 計	18 (12)	23 (2)	0	12	53 (14)	
カナダ	ランガラ・カレッジ	3	1	2	0	6
	小 計	3	1	2	0	6
イギリス	リーズ大学ランゲージセンター	1	2	0	0	3
	ロンドン大学東洋アフリカ学学院 (SOAS)	0	0	0	0	0
	小 計	1	2	0	0	3
オランダ	フォンティス応用科学大学	0	0	0	2	2
	小 計	0	0	0	2	2
ドイツ	イエーナ・フリードリヒ・シラー大学	13 (10)	18	0	0	31 (10)
	ハレ・ヴィッテンベルク・マルチン・ルター大学	3 (3)	0	0	0	3 (3)
	ロストック大学	3 (3)	4	0	0	7 (3)
	小 計	19 (16)	22	0	0	41 (16)
オーストリア	クラゲンフルト大学	2 (2)	6	0	0	8 (2)
	小 計	2 (2)	6	0	0	8 (2)
オーストラリア	オーストラリアン・カソリック大学	0	0	1	1 (1)	2 (1)
	クイーンズランド大学	4	0	1	0	5
	小 計	4	0	2	1 (1)	7 (1)
シンガポール	ナンヤン・ポリテクニク	0	0	0	0	0
	小 計	0	0	0	0	0

海外留学提携校等		外国語学部		経済学部		合計
		1学期	2学期	1学期	2学期	
タイ	ソクラーナカリン大学プーケット校	0	0	0	0	0
	サイアム大学	0	2	0	0	2
	パヤップ大学	1 (1)	0	0	0	1 (1)
	パヤオ大学	0	1	0	0	1
	小計	1 (1)	3	0	0	4 (1)
韓国	韓国外国語大学校	0	0	0	0	0
	大邱外国語大学校	0	0	0	0	0
	又石大学校	0	0	0	0	0
	釜山外国語大学校	5 (2)	7 (3)	0	0	12 (5)
	培材大学校	0	0	0	0	0
	金剛大学校	0	0	0	0	0
小計	5 (2)	7 (3)	0	0	12 (5)	
台湾	淡江大学	6 (4)	7 (1)	0	0	13 (5)
	国立屏東大学	0	0	0	0	0
	実践大学	0	0	0	0	0
	小計	6 (4)	7 (1)	0	0	13 (5)
中国	上海財経大学	0	0	0	0	0
	大連理工大学	0	1	0	0	1
	天津財経大学	1 (1)	0	0	0	1 (1)
	天津理工大学	0	6	0	0	6
	蘇州大学応用技術学院	0	0	0	1	1
	小計	1 (1)	7	0	1	9 (1)
フィリピン	パーベチュアル・ヘルプ大学	0	0	0	2	2
	小計	0	0	0	2	2
ベトナム	ホーチミン市人文社会科学大学	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0
マレーシア	マレーシア大学サラワク校	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0
ミクロネシア	カレッジ・オブ・ミクロネシア	0	1	0	0	1
	小計	0	1	0	0	1
インド	タゴール国際大学	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0
合計		60 (38)	79 (6)	4	18 (1)	154

※ ( ) の数字は、前学期から引き続き留学をしている学生の内数。

※合計は実人数

海外留学前に該当学生に対して「留学支援アンケート」調査を実施し、学生相談センターと協力して、結果から学生の困難さを掴んでいる。学生相談センターから、困難を抱えた学生について特別な配慮が必要な事柄がある際は“情報提供があった”場合には、事前に国際交流センターと海外提携校窓口になっている教員と情報共有しながら該当学生への配慮を行い、国際交流センターでは、留学に関する学生の不安に対しアドバイスを行なった。5月13日から6月13日まで本学の提携校でもあるミドルテネシー州立大学（米国）から研修団（学生9名・引率教員1名）が本学に滞在し、授業を行いながら様々なプログラムの中で日本文化や社会体験（近隣の小学校）を行った。7月7日には厦門理工学院（中国）から訪日団が来学し、本学生との交流を行った。7月23日と翌年1月21日には、留学事前セミナーを開催し、渡航学生の危機管理対応について、外務省からの情報に基づき、再度の注意喚起を行った。また文化の異なる環境に適応する為の異文化理解に関して、学生自身にも意識付けを促した。8月18日から30日にかけて中山学長はじめ犬飼教授がタゴール国際大学との共催で、タゴール訪日100周年と本学の創立者廣池千九郎生誕150周年を記念し、両国の学術・文化交流を図るために国際会議を開催した。26年度からスタートした官民協働で取り組む海外留学支

援制度の「トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム」には、本学生も派遣留学生に選ばれた。(1,805名の応募者)「新興国コース」の留学生(外国語学部外国語学科国際交流・国際協力専攻2年櫻井翔太)としてフィリピンとインドネシアに1年間の予定で留学した。留学派遣前のサポートとして、TOEFL 団体試験を年間5回(5月、7月、10月、11月、2月)実施し、合計215名が受験した。ここ数年、受験者は減少傾向であるが、本学ではTOEICでの一斉試験、単位認定、一部の留学資格の認定をしており、28年度は学内周知方法を授業の際、学生の目が触れる場所に掲示するなど工夫した。また26年度から国際交流センターが実施している留学成果「見える化アンケート」の実施を行い、傾向分析や課題の抽出、施策の立案に向け情報を蓄積しながら、留学と出口実績との分析に取り組んでいる。27年第1学期から28年度第2学期に留学を終えている学生の出発前及び帰国後の調査分に基づき、1セメスター以上の留学プログラムに参加した学部生118名を対象とし、回答者115名(外国語学部98名、経済学部17名)(回答率:97.5%)の内容に基づき分析を行った。今後の留学プログラムが充実するよう26年度に引き続きデータの蓄積を行っていく。その他、外国語学部が26年度から実施している「留学プレゼン・フェス」の開催も支援し、留学から帰国した学生に留学の成果を在学生に報告する機会を設け、留学成果を「見える化」への取り組みを行った。学生の留学派遣を促進するための学生に対する外部奨学金については、JASSOの海外留学支援制度に委ねているが、年度毎、申請内容や枠組みを変更するなどの改善をし、申請したプログラムのうち派遣に2件、受入れに1件、双方向に1件が採択された。28年度の半年から1年の長期留学者数については257名であった。また、11月3日には創立者廣池千九郎生誕150年記念事業の一環で、ミクロネシアシンポジウム「太平洋がみんなのキャンパス～若者がつくる21世紀の共生社会～」を開催し、ミクロネシア短期大学からの学生2名と本学生とのこのような学びの手法は、アクティブ・ラーニング、課題解決型学習(PBL: Project-Based Learning)にも繋がった。シンポジウムでは、太平洋を私たちの「キャンパス」に見立て、学びを紹介できる本学にとっても貴重な機会となった。ミクロネシアでの環境教育プロジェクトに指導者の立場で関わってきた外国語学部の成瀬 猛教授が基調講演を行った。新たに海外提携校として、オレゴン大学(アメリカ) 西安外国語大学(中国)と協定を締結した。

## (2)大学院

経済研究科がマレーシアのサラワク大学と連携協定を締結し、現地での研究活動を希望する学生1名を継続して留学派遣した。

海外留学提携校等		言語教育研究科		経済研究科		合計
		1学期	2学期	1学期	2学期	
マレーシア	サラワク大学	0	0	1	1	2
	小計	0	0	1	1	2
合計		0	0	1	1	2

## 6-2-2 海外提携校からの留学

協定に基づき、海外提携校から本学への28年度留学プログラム(一部29年度にかけて実施)に参加した特別聴講生は、次表の通りである。

大学名等	期間	受入れ学生数
セント・マーチンズ大学	27年度2学期～28年度1学期	1
	28年度1学期	1
ミドルテネシー州立大学	27年度2学期～28年度1学期	2
フォンティス応用科学大学	28年度2学期	2
イェーナ・フリードリヒ・シラー大学	28年度1学期～28年度2学期	3
ナンヤン・ポリテクニク	28年度2学期	2
サイアム大学	27年度2学期～28年度1学期	1
	28年度2学期～29年度1学期	1
パヤップ大学	27年度2学期～28年度1学期	1
	28年度2学期～29年度1学期	1

大学名等	期間	受入れ学生数
パヤオ大学	28年度2学期	2
釜山外国語大学校	28年度1学期～28年度2学期	3
	27年度2学期～28年度1学期	2
淡江大学	27年度2学期～28年度1学期	20 (第26次短期留学生)
	28年度2学期～29年度1学期	21 (第27次短期留学生)
国立屏東大学	27年度2学期～28年度1学期	2
	28年度2学期～29年度1学期	2
実践大学	28年度1学期	3
	28年度2学期	2
天津財経大学	28年度1学期～28年度2学期	4
天津理工大学	28年度1学期～28年度2学期	2
マレーシア大学サラワク校	28年度1学期～28年度2学期	1
ホーチミン市人文社会科学大学	27年度2学期～28年度1学期	2
	28年度2学期～29年度1学期	2
合 計		83

### 6-2-3 海外短期語学研修

海外提携校への留学プログラムが半年から1年の期間で実施するのに対して、夏期休暇及び春期休暇を利用する海外語学研修プログラムは4週間から5週間で実施する。この短期間のプログラムも単位互換を実施している。28年度の参加状況は、次表の通りである。

大学名	期間	外国語学部	経済学部	認定科目
培材サマースクール (韓国)	7月30日～8月19日	6	0	海外語学研修
リーズ・サマー・コース (イギリス)	8月5日～9月11日	5	0	海外語学研修
淡江大学夏期語学研修 (台湾)	8月7日～8月27日	7	2	海外語学研修
ラングポーツ (オーストラリア)	個別に3～6週間 8月～9月	9	0	海外語学研修
	個別に3～5週間 29年2月～3月	11	0	海外語学研修
バウハウス・サマー・アカデミー (ドイツ)	8月4日～9月4日	7	0	海外語学研修
ポートランド夏期短期研修 (アメリカ)	8月18日～9月11日	3	4	海外語学研修
ライプツィヒ大学夏期講座 (ドイツ)	9月5日～30日	4	0	海外語学研修
ザールラント大学夏期講座 (ドイツ)	9月6日～28日	6	0	海外語学研修
天津理工大学漢語短期研修 (中国)	29年2月20日～3月27日	2	0	海外語学研修
クイーンズランド大学 (オーストラリア)	29年2月10日～3月10日	17	0	海外語学研修
韓国外国語大学校 (韓国)	29年2月27日～3月29日	1	0	海外語学研修
アリカンテ大学 (スペイン)	29年3月4日～4月2日	6	0	海外語学研修
合 計		84	6	

#### 6-2-4 海外短期研修

6-2-3 に示した海外語学研修プログラムに加えて、短期海外研修として各種プログラムを用意し、このプログラムにおいても単位互換を実施している。28年度の参加状況は、次表の通りである。

研修先	期 間	外国語 学部	経済 学部	認 定 科 目
<b>■海外インターンシップ</b>				
国立公園でのインターンシップ（アメリカ） 主催：Intrax Japan（海外留学事業者）	個別に6週間 8月～9月	2	0	英語圏インターンシップ
<b>■国際ボランティアプログラム</b>				
国際ボランティア・プロジェクト（ベトナム、 エストニア、オーストラリア） 主催：国際教育交換協議会（略称：CIEE/ Council on International Educational Exchange）	随時 10日間以上 8月～9月	6	0	国際ボランティア演習
<b>■海外研修</b>				
異文化研究 F（タイ・パヤオ大学）	29年2月15日～27日	16	0	異文化研究
タイ・スタディツアー（タイ）	8月22日～31日	4	0	短期海外研修
	29年2月15日～24日	5	0	短期海外研修
<b>■海外教育実習</b>				
カピティ教育実習（ニュージーランド）	8月19日～9月11日	1	1	海外日本語教育実習
<b>■その他</b>				
サービス・ラーニング（オーストラリア）	29年2月11日～3月11日	0	7	
ミクロネシア研修（ミクロネシア）	8月21日～9月5日	7	1	自主企画ゼミ
カンボジア研修（カンボジア）	29年2月5日～18日	9	0	自主企画ゼミ
クイーンズランド大学研修フィールド演習	8月20日～9月11日	0	10	
フィンランド短期研修（フィンランド）	29年2月12日～27日	7	0	自主企画ゼミ
アメリカ・プログラム（アメリカ）	29年2月16日～3月12日	0	2	
合 計		57	20	

#### 6-2-5 海外提携校等への教員の訪問

海外提携校を訪問し、直接話し合う機会を設け、交流の深化を図った。28年度の訪問状況は、次表の通りである。

内容	日程	訪問者	訪問先
留学プログラム打合せ	7月14日～18日	山川 和彦	パヤップ大学
留学プログラム打合せ	9月12日～18日	竹内 拓史	ハレ大学、ロストック大学
タゴール訪日 100周年・廣池 千九郎生誕 150周年記念シン ポジウム	8月18日～30日	中山 理 犬飼 孝夫 竹内 啓二	タゴール国際大学
留学プログラム打合せ	8月22日～8月25日	堀内 一史	パーパチュアル・ヘルプ大学
自主企画ゼミ引率	8月28日～9月5日	成瀬 猛 内尾 太一	カレッジ・オブ・ミクロネシア
ワークショップ実施	9月9日～12日	山川 和彦 草本 晶	パヤオ大学
留学プログラム打合せ	9月10日～9月18日	堀内 一史	マレー州立大学
留学プログラム打合せ	9月12日～15日	下田 健人 陳 玉雄	西安外国語大学
留学プログラム打合せ、 研究発表	10月27日～11月1日	山川 和彦	サイアム大学、ナレースワン大学
創立者生誕 150年記念 国際シンポジウム	12月3日～12月7日	小野 宏哉 下田 健人 中野 千秋 ラウ・シンイー 堀内 一史	マレーシア大学サラワク校

内容	日程	訪問者	訪問先
留学プログラム打合せ	29年2月21日～28日	渡邊 信 山川 和彦	パヤオ大学、パヤップ大学 ナレースワン大学、サイアム大学
留学プログラム打合せ	29年3月6日～11日	佐藤 繭香	オレゴン大学
留学プログラム打合せ	29年3月8日～10日	近藤 彩	国立屏東大学
出張講義	29年3月20日～25日	正宗 鈴香 家田 章子	ホーチミン市人文社会科学大学

### 6-2-6 海外提携校等からの来訪

多くの海外提携校等の関係者を迎え、交流を図った。28年度の実績は次表の通りである。

来訪者	日程	備考
Langports English Language College (オーストラリア)	4月22日	教員1名
培材大学 (韓国)	4月21日	教職員3名
ミドルテネシー州立大学訪日団 (アメリカ)	5月13日～6月13日	教員2名、学生9名
クイーンズランド大学 (オーストラリア)	5月16日	教員1名
セント・マーチンズ大学訪日団 (アメリカ)	5月19日	教職員2名、学生5名
レッドランズ大学訪日団 (アメリカ)	5月24日	教職員2名、学生12名
オーストラリアン・カソリック大学 (オーストラリア)	5月26日	教職員2名
パヤオ大学 (タイ)	6月16日	教員1名
淡江大学 (台湾)	6月22日～25日	教員2名
フォンティス応用科学大学 (オランダ)	6月23日	教職員2名
リーズ大学 (イギリス)	7月6日	教職員1名
実践大学 (台湾)	7月11日	教員1名
淡江大学 (台湾)	9月8日	教員1名
ナンヤン・ポリテクニク訪問団 (シンガポール)	9月14日	教員2名、学生27名
セント・マーチンズ大学 (アメリカ)	10月11日～12日	教職員1名
南イリノイ大学 (アメリカ)	11月24日	教職員1名
アlicant大学 (スペイン)	12月6日	教職員1名
ヨウツェノ学院 (フィンランド)	29年2月28日	教員1名、学生数名
西安外国語大学 (中国)	3月6日	教員1名

### 6-2-7 留学説明会の開催

留学希望者及び留学希望者の父母・保証人を対象に、海外留学に関連する説明会を年107回開催した。6月に開催した留学フェアには約300名の学生が参加し、全ての説明会で延べ約1,979名を集めた。28年度に開催した説明会(留学フェアを除く)は、次表の通りである。

回	開催日	説明会	外国語	経済	計
1	4月7日	南イリノイ大学募集説明会	28		28
2	4月7日	リーワード・コミュニティカレッジ募集説明会	29		29
3	4月7日	セント・マーチンズ大学募集説明会	22		22
4	4月7日	釜山外国語大学校募集説明会	7		7
5	4月8日	外) 2015年度長期留学者帰国報告会	29		29
6	4月8日	リーズ大学募集説明会(長期、短期)	19		19
7	4月8日	イェーナ英独プログラム募集説明会	15		15
8	4月11日	バウハウス・サマースクール募集説明会	27		27
9	4月13日	タイ長期留学説明会	11		11
10	4月14日	海外ボランティア説明会 (CIEE)	60		60
11	4月18日	INTRAX アメリカ・インターンシップ説明会	4		4
12	4月25日	ラングポーツ夏期研修説明会	20		20
13	4月28日	ドイツ事前研修説明会	25		25
14	5月9日	ポートランド州立大学夏期研修説明会	20		20
15	5月10日	淡江大学夏期語学研修説明会	17		17
16	5月16日	クイーンズランド大学留学説明会		10	10
17	5月19日	海外ボランティア説明会 (CIEE)	37		37

回	開催日	説明会	外国語	経済	計
18	5月25日	アメリカビザ申請説明会	21		21
19	5月26日	リーズ大学サマープログラム渡航説明会	5		5
20	5月27日	大連理工大学留学準備説明会	1		1
21	5月30日	タイ・スタディツアー説明会	4		4
22	6月2日	セント・マーチンズ大学渡航説明会	5		5
23	6月8日	リーワード・コミュニティカレッジ渡航説明会	7		7
24	6月10日	南イリノイ大学渡航説明会	11		11
25	6月14日	淡江大学夏期語学研修渡航説明会	12		12
26	6月15日	セイラム州立大学履修・渡航説明会	4		4
27	6月17日	パウハウス渡航説明会	7		7
28	6月22日	釜山外国語大学校渡航準備説明会)	4		4
29	6月22日	日本語イマージョン・プログラム実習説明会	2		2
30	6月23日	留学フェア			300
31	6月25日	ドイツ語圏留学渡航準備説明会	70		70
32	7月2日	中国語圏留学準備説明会	7		7
33	7月2日	淡江大学渡航説明会	6		6
34	7月2日	天津理工大学渡航説明会	6		6
35	7月2日	大連理工大学渡航説明会	1		1
36	7月6日	リーズ大学留学説明会	20		20
37	7月8日	リーズ大学渡航説明会	2		2
38	7月12日	タイ長期留学渡航準備説明会	3		3
39	7月15日	パウハウス渡航最終説明会	9		9
40	7月18日	南イリノイ留学最終説明会 (第1回)	12		12
41	7月18日	リーワード・コミュニティカレッジ留学最終説明会	5		5
42	7月19日	淡江大学夏期研修最終説明会	9		9
43	7月20日	南イリノイ大学最終説明会 (第2回)	2		2
44	7月20日	淡江大学クロス留学履修説明会	8		8
45	7月20日	セント・マーチンズ大学留学直前オリエンテーション	6		6
46	7月21日	リーズ大学サマープログラム最終説明会	5		5
47	7月23日	留学事前セミナー	107	23	130
48	7月25日	ラングポーツ夏期研修渡航説明会	10		10
49	7月27日	釜山外国語大学校留学最終説明会	5		5
50	7月27日	セイラム州立大学留学最終説明会	2		2
51	7月28日	ドイツ語圏留学最終説明会	28		28
52	9月15日	リーズ大学留学最終説明会	2		2
53	9月16日	外) 帰国報告会	54		54
54	9月22日	セント・マーチンズ大学1学期留学説明会	22		22
56	9月26日	釜山外国語大学校1学期留学説明会	7		7
57	9月27日	リーズ大学1学期留学説明会	10		10
58	9月28日	南イリノイ大学1学期留学説明会	23		23
59	9月30日	春期クイーンズランド大学語学研修説明会	40		40
60	10月3日	INTRAX 説明会	4		4
61	10月4日	イエーナ大学2学期・春期語学研修説明会	17		17
62	10月10日	オーストラリア長期留学説明会		10	10
63	10月11日	ランガラ・カレッジ説明会	35	5	40
64	10月12日	セント・マーチンズ大学留学説明会	15		15
65	10月13日	ワシントン DC 説明会 (第1回)		3	3
66	10月14日	タイ・スタディツアー説明会	4		4
67	10月24日	春期淡江大学短期語学研修説明会	9		9
68	10月26日	ワシントン DC 説明会 (第2回)		5	5
69	10月27日	ラングポーツ説明会 (第1回)	16		16
70	10月27日	ラングポーツ説明会 (第2回)	6		6
71	10月28日	リーズ大学提出書類説明会	2		2
72	10月28日	春期アリカンテ大学募集説明会 (第1回)	4		4

回	開催日	説明会	外国語	経済	計
73	11月8日	アメリカ留学ビザ説明会	11		11
74	11月9日	英語留学プログラム説明会(第1回)	60		60
75	11月10日	異文化研究F 説明会(第1回)	9		9
76	11月16日	英語留学プログラム説明会(第2回)	92		92
77	11月15日	CIEE 国際ボランティアプログラム説明会	17		17
78	11月24日	南イリノイ大学留学説明会	10		10
79	11月25日	セント・マーチンズ大学渡航準備説明会	3		3
80	11月28日	リーズ大学渡航準備説明会	1		1
81	11月28日	春期韓国外国語大学校参加者説明会	1		1
82	12月1日	異文化研究F 渡航説明会	16		16
83	12月6日	春期アリカンテ大学募集説明会(第2回)	60		60
84	12月7日	南イリノイ大学渡航準備説明会	8		8
85	12月15日	釜山外国語大学校留学渡航準備説明会	5		5
86	12月15日	天津理工大学留学・短期研修渡航説明会	4		4
87	12月16日	淡江大学留学渡航準備説明会	3		3
88	12月17日	ドイツ語圏留学準備説明会	7		7
89	29年1月10日	異文化研究F 説明会	16		16
90	1月12日	中国語学習留学説明会	5		5
91	1月18日	留学プレゼン・フェス	40		40
92	1月17日	春期アリカンテ大学渡航説明会	6		6
93	1月19日	淡江大学1学期留学提出書類説明会	3		3
94	1月20日	セント・マーチンズ大学留学直前オリエンテーション	3		3
95	1月20日	ラングポーツ渡航説明会(第1回)	10		10
96	1月21日	留学事前セミナー	80		80
97	1月24日	異文化研究F 説明会	16		16
98	1月24日	ラングポーツ渡航説明会(第2回)	11		11
99	1月26日	ランガラ・カレッジ留学最終説明会	7		7
100	1月30日	春期韓国語学研修最終説明会	1		1
101	1月31日	ドイツ留学最終説明会	5		5
102	1月31日	セイラム州立大学留学募集説明会	0		0
103	2月2日	リーズ大学留学最終説明会	1		1
104	2月2日	ドイツ語圏留学説明会	40		40
105	2月2日	釜山外国語大学校最終説明会	6		6
106	2月3日	クイーンズランド春期語学研修最終説明会	17		17
107	2月18日	南イリノイ大学最終説明会	3		3
		合計	1,623	56	1,979

#### 6-2-8 地域交流 留学生の派遣

高大連携の協定校である千葉県立流山おおたかの森高等学校や柏市等と連携を図りながら、本学外国人留学生と地域の方々との交流を積極的に行った。28年度に開催した交流会は、次表の通りである。

主催	交流名称	開催日	実施場所	人数
柏市協働推進課	留学生による学校訪問	6月6日	柏市立富勢小学校	1
柏市協働推進課	留学生による学校訪問	6月18日	柏市立柏の葉小学校	1
流山おおたかの森高等学校	留学生が先生	6月27日	流山おおたかの森高等学校	9
流山市国際交流協会	流山ホームビジット	6月25日～26日	流山市	8
柏ユネスコ協会	柏ユネスコ少年団との交流会	6月19日	柏市中央公民館	2
成田国際高校	留学生との交流会	9月21日	麗澤大学	5
千葉県立白井高校	留学生が講師	10月27日	千葉県立白井高校	6
流山市立向小金小学校	留学生との交流会	11月1日	流山市向小金小学校	10
流山おおたかの森高校	グループ・トーク	11月14日	麗澤大学	10
流山市国際交流協会	流山ホームビジット	10月29日～30日	流山市	4
柏市立柏高等学校	留学生との交流会	11月17日	麗澤大学	4
茨城県国際観光課	茨城県モニターツアー	12月20日～23日	茨城県、北海道	26



主催	交流名称	開催日	実施場所	人数
千葉県立柏南高校	留学生との交流会	12月22日	千葉県立柏南高校	6
柏ユネスコ協会	柏ユネスコ少年団との交流会	29年1月15日	柏市中央公民館	2

### 6-2-9 教員交流

本学では、平成元年からイエーナ・フリードリヒ・シラー大学（ドイツ）と1対1の教員相互派遣を実施している。過去6年間の実績は次表の通りである。

実施年	本学からの派遣教員	イエーナ大学からの派遣教員
23(2011)年	前園 京子	シュツテレ, H.
24(2012)年	前園 京子	シュツテレ, H.
25(2013)年	前園 京子	シュツテレ, H.
26(2014)年	前園 京子	シュツテレ, H.
27(2015)年	前園 京子	シュツテレ, H.
28(2016)年	前園 京子	シュツテレ, H.

28年度に海外から受け入れた客員研究員は次表の通りである。

氏名	所属等	期間	受入先
董 浩 (ドン ハオ) (中国)	香港科技大学社会科学部 Ph.D. Candidate	28年1月15日 ～28年8月1日	言語教育研究科
ラエンダ クレスナ ブラ マナ (インドネシア)	Senior Lecturer, University Malaysia Sarawak	28年4月1日 ～29年3月31日	経済社会総合 研究センター
シュディプト ダス (インド)	Assistant Professor, Department of Japanese, Bhasha Bhavana, Visva-Bharati University	28年9月1日 ～29年3月31日	比較文明文化 研究センター
ピエトロ フランチェスコ オーリア (イタリア)	Master's Student, Business Administration, General Management Curriculum, Università degli studi di Sassari, Sassari	28年10月13日 ～29年1月20日	経済社会総合 研究センター

### 6-2-10 国際共同研究

28年度に本学教員が参加した国際共同研究は次表の通りである。

内 容	期 間	派遣先	氏 名	研究費
ケニア共和国における産業実態調査	5月30日～6月5日	ケニア	徳永 澄憲	個人研究費、 学術・学会旅費 JICA
上海財経大学主催の学会に参加・発表	6月9日～12日	中国	三瀧 正道	経済社会総合 研究センター
2016年環太平洋地域学会で報告	6月26日～30日	タイ	阿久根 優子	科研費
2016年環太平洋地域学会年次大会に 参加・発表	6月27日～7月1日	タイ	徳永 澄憲	個人研究費
2016 Australian Studies Conference で発表	7月1日～6日	中国	武田 淳	科研費
ISBEE World Congress 2016に参加	7月12日～14日	中国	高 巖	企業倫理 研究センター
ISBEE World Congress 2016に参加	7月12日～16日	中国	中野 千秋	科研費
ISBEE World Congress 2016に参 加・発表	7月12日～16日	中国	藤野 真也	企業倫理 研究センター
ISBEE World Congress 2016に参 加・発表	7月12日～17日	中国	梅田 徹	企業倫理 研究センター
Global Marketing Conference で発表	7月22日～24日	中国	圓丸 哲麻	重点研究助成
韓国日本文化学会に向けた研究打合 せ、韓国日本学会参加	8月7日～9月7日	韓国	金 廷珉	個人研究費

内 容	期 間	派遣先	氏 名	研究費
ミュンスター大学にて研究打合せ 等	8月8日～29日	オランダ ドイツ	草本 晶	個人研究費、 自費
ヘルシンキ大学、アールト大学、フィンランド学術計算機センター、タンペレ大学にて研究打合せ、LINC Summer School 参加	8月8日～9月4日	フィンランド イタリア イギリス	千葉 庄寿	科研費
インディアンカウンシル訪問、タゴール訪日100周年・廣池千九郎生誕150年記念シンポジウムで発表等	8月18日～30日	インド タイ	中山 理	学長室
インディアンカウンシル訪問、タゴール訪日100周年・廣池千九郎生誕150年記念シンポジウムで発表等	8月18日～30日	インド タイ	犬飼 孝夫	特別研究助成
インディアンカウンシル訪問、タゴール訪日100周年・廣池千九郎生誕150年記念シンポジウムで発表等	8月18日～30日	インド タイ	竹内 啓二	特別研究助成
「アジア地域の移動・流動する社会に関する歴史・文化的研究」の韓国現地調査	8月21日～25日	韓国	森 勇俊	特別研究助成
ICBM2016 で発表	8月25日～30日	アメリカ	近藤 明人	個人研究費、 学術・学会旅費
ICBM2016 で発表	8月25日～30日	アメリカ	吉田 健一郎	科研費
ICBM2016 で発表	8月25日～31日	アメリカ	倍 和博	企業倫理 研究センター
ICBM2016 で発表	8月26日～31日	アメリカ	連 宜萍	個人研究費
ロサンゼルスでのインタビュー調査等	8月30日～9月19日	アメリカ	ハーツハイム B.H.	特別研究助成、 個人研究費
Join East Asian Studies Conferense2016 で発表	9月6日～12日	イギリス	武田 淳	個人研究費、 学術・学会旅費
26th Annual RESER (European Association for Research on Services) Conference で口頭発表	9月7日～12日	イタリア	上元 亘	科研費
パヤオ大学でのワークショップ実施	9月9日～12日	タイ	草本 晶	特別研究助成
パヤオ大学でのワークショップ実施及び チュラロンコン大学教員との打ち合わせ	9月9日～13日	タイ	山川 和彦	特別研究助成
パヤオ大学でのワークショップ実施	9月9日～14日	タイ	齋藤 茂	特別研究助成
マレー州立大学訪問、ミズーリ大学との打合せ、品性教育の視察	9月10日～18日	アメリカ	堀内 一史	科研費、 国際交流 G 道徳科学教育 C
ミズーリ大学との打合せ、品性教育の視察	9月10日～18日	アメリカ	江島 顕一	道徳科学教育 C
The 2016 Annual Meeting of Gypsy Lore Society and Conference on Romani Studies で発表	9月12日～18日	スウェーデン	ヨネスク.M	科研費
Internationaler Arbeitskreis Historische Stadtsprachenforschung で発表	9月17日～22日	オーストリア	草本 晶	個人研究費、 学術・学会旅費
2016 Conference of the European Society of Historical Demography で講演及び討論	9月20日～26日	ベルギー	黒須 里美	戦略的研究基盤 形成支援事業
The 20th STEM-ICEM International conferenece2016 で発表	9月22日～25日	韓国	渡邊 信	個人研究費、 学術・学会旅費
SAI Conference に参加・発表	9月23日～25日	韓国	日影 尚之	特別研究助成
国際会議 (SIBOS) に参加	9月23日～10月1日	スイス	中島 真志	経済社会総合 研究センター

内 容	期 間	派遣先	氏 名	研究費
Collective Action Conference に参加	10月19日～24日	スイス	藤野 真也	企業倫理 研究センター
The 12 International Transformative Learning Conference で発表	10月19日～25日	アメリカ	山下 美樹	特別研究
韓国日本文化学会で発表、同学会誌への論文投稿に関する研究打合せ	10月20日～24日	韓国	金 廷珉	科研費
The International Conference on Design History and Design Studies で発表	10月25日～27日	台湾	佐藤 繭香	科研費
タイ日本共同国際研究集会での司会、 発表等	10月27日～11月1日	タイ	山川 和彦	国際交流 C、 個人研究費、 学術・学会旅費
Public Administration Forum for Asia で 発表	10月30日～11月3日	中国	梶田 幸雄	学術・学会旅費
淡江大学創立 66 周年記念式典出席、 講演等	11月3日～8日	台湾	中山 理	学長室
北米地域学会（NARSC）に参加	11月8日～12日	アメリカ	徳永 澄憲	戦略的イノベー ション創造プロ グラム
2016 KSMS International Conference で 発表	11月11日～13日	韓国	圓丸 哲麻	経済社会総合 研究センター
Social Science History Association 年 次大会参加・発表	11月11日～21日	アメリカ	黒須 里美	科研費
不動産における情報サービスフォーラムに 参加・発表	11月19日～22日	中国	太田 秀也	一般財団法人 日本不動産 研究所
南アフリカ自動車産業現地調査	11月26日～12月4日	南アフリカ	沖山 充	現代文化研究所
南アフリカ自動車産業現地調査	11月26日～12月4日	南アフリカ	徳永 澄憲	現代文化研究所
NZ Association of Philosophers Annual Conference で発表	11月28日～12月3日	ニュージー ランド	梅田 徹	企業倫理 研究センター
提携校 UNIMAS 訪問、創立者生誕 150 年 記念国際シンポジウム参加	12月3日～8日	マレーシア	中山 理	学長室
提携校 UNIMAS 訪問、創立者生誕 150 年 記念国際シンポジウム参加	12月3日～7日	マレーシア	小野 宏哉	特別研究助成
提携校 UNIMAS 訪問、創立者生誕 150 年 記念国際シンポジウム参加	12月3日～7日	マレーシア	中野 千秋	特別研究助成
提携校 UNIMAS 訪問、創立者生誕 150 年記念国際シンポジウム参加	12月3日～8日	マレーシア	堀内 一史	特別研究助成
提携校 UNIMAS 訪問、創立者生誕 150 年記念国際シンポジウム参加	12月3日～7日	マレーシア	下田 健人	特別研究助成
提携校 UNIMAS 訪問、創立者生誕 150 年記念国際シンポジウム参加	12月3日～7日	マレーシア	ラウ・シンイー	特別研究助成
2016 International Conference on Accounting, Auditing, and Taxation で発表	12月7日～11日	エストニア	鈴木 大介	科研費
韓国言語研究学会で発表	12月9日～11日	韓国	山川 和彦	科研費
バーミンガム大学・ジュビリーセンタ ー研究会で発表	1月4日～9日	イギリス	堀内 一史	学長室
バーミンガム大学・ジュビリーセンタ ー研究会で発表	1月4日～9日	イギリス	江島 颯一	学長室

内 容	期 間	派遣先	氏 名	研究費
バーミンガム大学・ジュビリーセンター研究会で発表	1月4日～9日	イギリス	宮下 和太	学長室
韓国日本文化学会誌への論文投稿に関する研究打合せ等	2月9日～3月1日	韓国	金 廷珉	特別研究助成
ヘルシンキ大学、エヴァスキュラ大学にて研究打合せ等	2月12日～23日	フィンランド	千葉 庄寿	科研費、自費
米国西部地域学会 (WRSA) 参加	2月14日～19日	アメリカ	徳永 澄憲	科研費
バンコクの大学関係者との ASEAN 統合に係る宗教対話と安全保障課題に関する意見交換	2月16日～19日	タイ	ラウ・シンイー	個人研究費
「協働実践に関する事例と課題」の調査	2月17日～19日	韓国	近藤 彩	科研費
Spring School on Culture, Interaction, and Society に参加	2月19日～22日	シンガポール	圓丸 哲麻	京都大学
The for Cinema and Media Studies で発表	3月8日～28日	アメリカ	ハーツハイム B.H.	個人研究費、 学術・学会旅費
韓国日本語学会春季国際学術大会及び委員会参加、研究打合せ及びデータ収集	3月15日～29日	韓国	金 廷珉	個人研究費
現地言語調査及び国際シンポジウム参加	3月16日～30日	南アフリカ ボツワナ	大野 仁美	科研費
Vietnam-India : 45 years of Diplomatic Relations and the 10 years of Strategic Partnership で発表	3月19日～28日	ベトナム	パンダ,R	個人研究費 ホーチミン国家 政治学院
北京外語大講義、日本商会講演、政府外文局 取材および打合せ	3月26日～31日	中国	三瀧 正道	経済社会総合 研究センター

### 6-3 課題及び改善・向上方策

国際交流活動において、学生基点に立った教育内容の充実やグローバル化への取り組みを強化する中で、外国人留学生受入れに関しては、現在、国外で委託している業者や事務所（ベトナム・台湾）への委託をはじめ、既に協定を結んでいる海外提携校との協定に基づいた特別聴講生の受入れなど可能な限りの施策を講じているが、留学派遣に関しては、現在、双方向で交流が出来ていない海外提携校との協定内容や留学に伴う条件の見直し必要で、海外提携校の中で双方向交流が出来ている提携校とは、更に将来的な交換留学プログラムや共同学習プロジェクトを見据えた関係を構築したい。

グローバル化推進への計画としては、両学部が掲げるグローバル戦略に基づき、継続して留学生の受け入れ、送り出しを今後も活発に行い、海外インターンシップの導入や拡充を図りながら、日頃から海外提携校との連携を強化し続ける事が重要である。今後の改善・向上方策として、留学生については積極的に受入れ、留学派遣については本学生の条件に見合う留学プログラムを充実させ、新規提携校開拓も視野に入れながら進めていく事が必要である。また学内留学希望者については、派遣前に語学力向上への指導も求められ、海外派遣に伴う留学費用に関しても経済的事由で断念する事がないよう学内外の奨学金を継続的に確保できるようにしたい。

## 7. 社会的活動

### 7-1 目的・目標

麗澤大学は、社会に開かれた大学として、大学の知的・文化的資源を活かし、広く地域社会に対して学習の機会を提供するとともに、研究成果に基づく社会貢献活動を行う。

本学の社会的活動の目的を実現するため、次のような目標を設定している。

(1)本学教員及び学外有識者を講師とする特別講演会への地域住民の参加を推進することによって、本学の教育・研究活動に対する理解を促進する（2-10 参照）。

(2)本学教員を中心に各種講座を開催することによって、地域住民に多様な生涯学習の機会を提供する（2-10 参照）。

(3)本学教員が学外審議会・委員会等に委員として参加し、その知見を活かすことを促進する。

### 7-2 本年度の活動（麗澤オープンカレッジに係るものについては2-10 参照）

本学専任教員が有識者として28年度に行った社会貢献活動は次表の通りである（本学へ依頼のあったもののみを掲載）。

\*氏名 50 音順

氏名	機関・団体名等	名称	期間
井出 元	千葉県	千葉県教育委員会委員	27年12月～30年12月
井上 優	文部科学省高等教育局	大学設置・学校法人審議会 専門委員	27年4月～28年10月
梅田 徹	千葉県	消費者行政審議会委員	24年4月～30年3月
小野 宏哉	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター	科学技術専門家ネットワーク・専門調査員	28年4月～29年3月
	柏市	第二清掃工場委員会委員長	24年6月～30年5月
籠 義樹	柏市	建築審査会委員	27年9月～29年3月
		第二清掃工場委員会委員	24年6月～30年5月
		都市計画審議会委員会	28年10月～30年9月
	流山市	空家対策協議会委員	28年11月～30年11月
上村 昌司	総務省総合通信基盤局	「モバイルサービスの提供条件・端末に関するフォローアップ会合 モバイル通信料の自己資本利益率の算定に関するワーキングチーム」構成員	28年10月～11月
	千葉県教育委員会	千葉県立市川昂高等学校「開かれた学校づくり委員会」委員	28年6月～29年3月
川久保 剛	千葉県立柏高等学校	千葉県立柏高等学校いじめ対策第三者等検討委員会委員	28年12月～29年3月
近藤 明人	流山市	行政改革審議会委員	28年8月～30年3月
佐藤 仁志	柏市	環境審議会委員	24年5月～28年5月
		開発審査会委員(会長)	26年4月～30年3月
		自転車等駐車対策協議会委員	28年8月～30年3月
下田 健人	厚生労働省千葉労働局	千葉地方最低賃金審議会委員	27年4月～29年3月
高 巖	公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	「街づくり・持続可能性」専門委員会委員	27年4月～29年3月
田中 俊弘	千葉県	通訳ボランティア養成検討会議委員	27年4月～29年3月
倍 和博	柏市	下水道事業経営委員会委員	26年10月～29年3月
長谷川 泰隆	柏市	ホテル等建築審議会委員	26年8月～28年7月
町 恵理子	文部科学省高等教育局	大学設置・学校法人審議会 専門委員	27年11月～28年10月
松田 徹	柏市立柏高等学校	学校評議員	27年4月～29年3月
望月 正道	文部科学省初等中等教育局	「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」企画評価会議委員	28年10月～29年3月
森 秀夫	柏市教育委員会	柏市通学区審議会委員	28年6月～30年5月
八木 秀次	法務省	法制審議会民法（相続関係）部会臨時委員	27年4月～審議終了まで
山下 美樹	社会福祉法人柏市社会福祉協議会	ボランティアセンター運営委員会委員	27年10月～29年9月
吉田 健一郎	柏市	産業振興会議委員	28年12月～30年11月

### 7-3 課題及び改善・向上方策

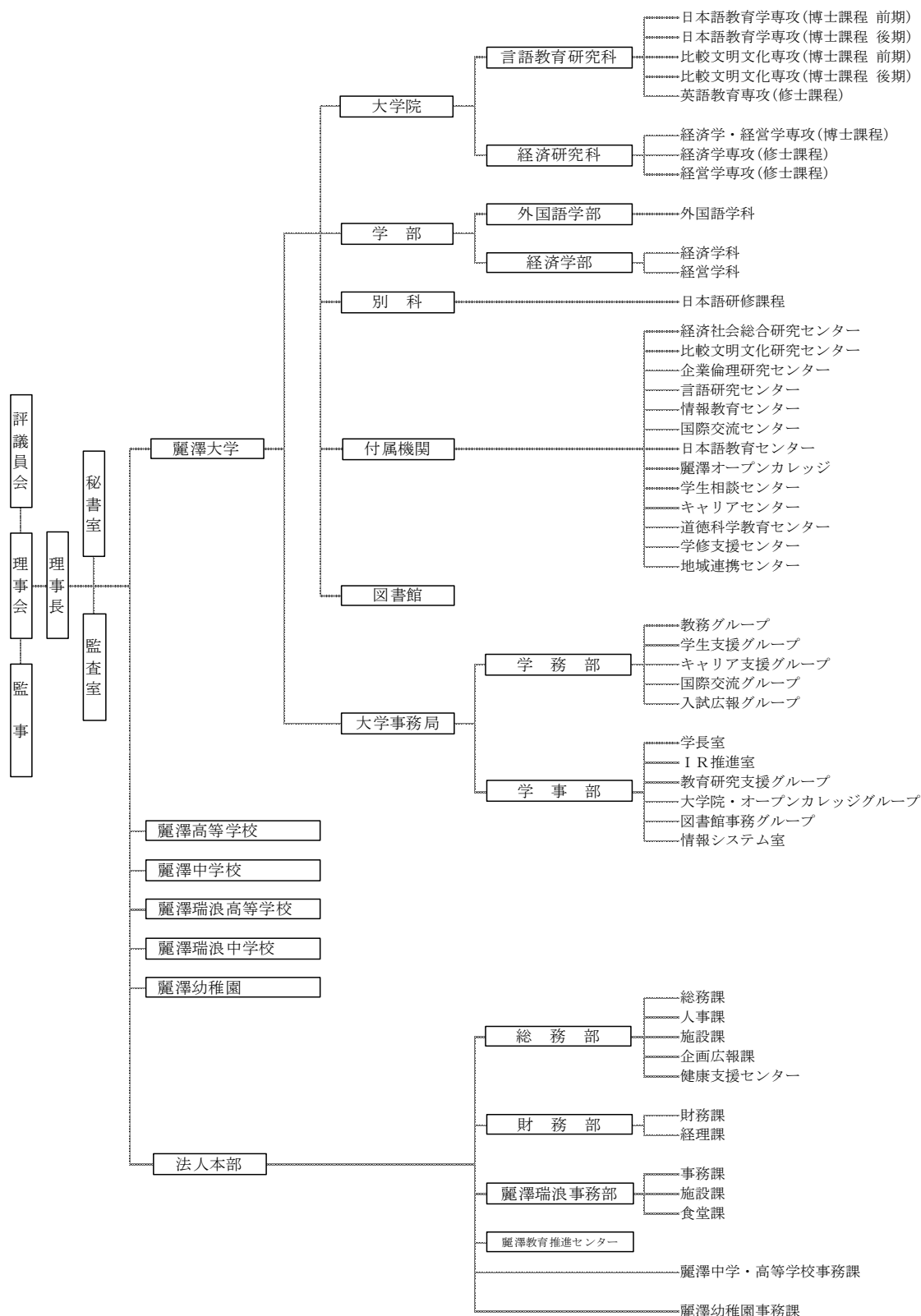
前年度に引き続き、本学教員が多くの学外審議会・委員会等に積極的に参加し、その知見を様々な分野で活かすと共に社会貢献に寄与することができた。今後も、より一層の活動促進を図りたい。

## 8. 管理運営

### 8-1 事務組織

28年度の廣池学園の組織及び役職者は、次の通りである。

#### 廣池学園組織図



役職者一覧表（法人・事務組織）

職名	氏名
理事長	廣池 幹堂
常務理事	中川 敏彰
	廣池 英行
理事	岡田 恭彦
	小野 宏哉
	蟹井 克也
	黒須 里美
	芝井 敬司
	竹政 幸雄
	中山 理
	山崎 裕二
監事	濱井 利一
	風澤 俊夫

職名	氏名
事務局長	上平 光孝
学務部長	上平 光孝
学事部長	今村 稔
法人本部長	甲良 昭彦
総務部長	高倉 孝治
財務部長	山崎 裕二
麗澤瑞浪事務部長	谷渕 篤孝

8-2 学内委員会

学内の主要な会議及び委員会の構成は、次の通りである。

8-2-1 学内管理運営機構

名称	構成メンバー	事務所管
協議会	(学長・道徳科学教育センター長) 中山 理 (副学長) 小野 宏哉、井出 元 (学長補佐) 佐藤 仁志 (外学部長) 渡邊 信 (外代表) 松田 徹、竹内 拓史 (経学部長) 下田 健人 (経代表) 倍 和博、豊嶋 建広 (言研科長) 黒須 里美 (経研科長) 中野 千秋 (図書館長) 高辻 秀興 (別科長) 正宗 鈴香 (情報教育センター長) 長谷川教佐 (国際交流センター長) 犬飼 孝夫 (日本語教育センター長) 正宗 鈴香 (麗澤オープンカレッジ長) 岩澤 知子 (地域連携センター長) 成相 修 (学生相談センター長) 中道 嘉彦 (キャリアセンター長) 中川 敏彰 (道徳科学教育センター長) 中山 理 (学修支援センター長) 籠 義樹 (事務局長) 上平 光孝 (学務部長) 上平 光孝 (学事部長) 今村 稔	教育研究 支援G
大学院委員会	(学長) 中山 理 (副学長) 小野 宏哉、井出 元 (言研科長) 黒須 里美 (言研代表) 井上 優、望月 正道 (経研科長) 中野 千秋 (経研代表) 徳永 澄憲、長谷川泰隆 (図書館長) 高辻 秀興 (事務局長) 上平 光孝 (学事部長) 今村 稔	大学院・ オープンカレッジG
研究科長・学部長会議	(学長) 中山 理 (副学長) 小野 宏哉、井出 元 (学長補佐) 佐藤 仁志 (言研科長) 黒須 里美 (経研科長) 中野 千秋 (外学部長) 渡邊 信 (経学部長) 下田 健人 (別科長) 正宗 鈴香 (事務局長) 上平 光孝 (学務部長) 上平 光孝 (学事部長) 今村 稔 (総務部長) 高倉 孝治 (財務部長) 山崎 裕二	学長室
研究戦略会議	(学長) 中山 理 (副学長) 小野 宏哉、井出 元 (言研科長) 黒須 里美 (経研科長) 中野 千秋 (外学部長) 渡邊 信 (経学部長) 下田 健人 (経総研センター長) 長谷川泰隆 (比文研センター長) 立木 教夫 (企倫研センター長) 中野 千秋 (言語研センター長) 井上 優 (図書館長) 高辻 秀興 (事務局長) 上平 光孝 (学事部長) 今村 稔 (財務部長) 山崎 裕二	教育研究 支援G



名 称	構成メンバー	事務所管
グローバル戦略 会	(学長) 中山 理 (副学長) 小野 宏哉、井出 元 (学長補佐) 佐藤 仁志 (言研科長) 黒須 里美 (経研科長) 中野 千秋 (外学部長) 渡邊 信 (経学部長) 下田 健人 (別科長) 正宗 鈴香 (国際交流センター長) 犬飼 孝夫 (国際交流副センター長) 山下 美樹 (経済学部グローバル戦略委員長) 堀内 一史 (事務局長) 上平 光孝 (学務部長) 上平 光孝 (学事部長) 今村 稔 (総務部長) 高倉 孝治 (財務部長) 山崎 裕二	国際交流G 学長室

### 8-2-2 全学委員会

\*○印は副委員長

名 称	委員長	委 員	事務所管
学 生 委 員 会	井出 元	(外) 松田 徹、日影 尚之、中道 嘉彦、堤 和彦 (経) 豊嶋 建広、大場 裕之、陳 玉雄、溝口 哲郎 (学務部長) 上平 光孝	学生支援G
自己点検委員会	中山 理 ○小野 宏哉	(学長補佐) 佐藤 仁志 (外) 渡邊 信、松田 徹、竹内 拓史 (経) 下田 健人、倍 和博、吉田健一郎 (言研) 黒須 里美 (経研) 中野 千秋 (事務局長) 上平 光孝 (学務部長) 上平 光孝 (学事部長) 今村 稔 (総務部長) 高倉 孝治 (財務部長) 山崎 裕二	教育研究支援G 学長室 IR推進室 教務G
教育課程委員会	小野 宏哉	(学長補佐) 佐藤 仁志 (外) 松田 徹、日影 尚之、川久保 剛、野林 靖彦 (経) 倍 和博、豊嶋 建広、吉田健一郎、溝口 哲郎 (学務部長) 上平 光孝	教務G
教職課程委員会	小野 宏哉	(外) 渡邊 信 (経) 下田 健人 (教職担当者) 望月 正道、齋藤 之誉、江島 顕一、森 秀夫 (教務G課長) 鷲津 泰邦	教務G
F D 委 員 会	小野 宏哉 ○佐藤 仁志	(外) 渡邊 信、松田 徹 (経) 下田 健人、吉田健一郎、籠 義樹 (言研) 黒須 里美 (経研) 中野 千秋 (学長推薦) 長谷川教佐、日影 尚之、堀内 一史 (学務部長) 上平 光孝 (学事部長) 今村 稔	教務G 大学院・ オープンカレッジG 学長室 IR推進室
入学試験委員会	中山 理 ○小野 宏哉	(外) 渡邊 信、松田 徹、竹内 拓史 (経) 下田 健人、倍 和博、豊嶋 建広 (事務局長) 上平 光孝 ★出題委員会 (委員長)小野 宏哉 ※副委員長及び委員は非公表 ★点検委員会 (委員長)小野 宏哉 ※副委員長及び委員は非公表	入試広報G
教員倫理委員会	中山 理 ○小野 宏哉	(学生担当副学長) 井出 元 (学長補佐) 佐藤 仁志 (外学部長) 渡邊 信 (経学部長) 下田 健人 (言研究科長) 黒須 里美 (経研究科長) 中野 千秋 (事務局長) 上平 光孝	教育研究支援G 学長室
紀要編集委員会	竹内 啓二	(外) 金丸 良子、櫻井 良樹、高本 香織、マクノートン, A.S. (経) 佐久間裕秋、長谷川泰隆、花枝美恵子、ラフ, P.A. (教研支援G課長) 江森 靖	教育研究支援G

### 8-2-3 臨時委員会

28年度は臨時委員会の設置無し。

## 8-2-4 プロジェクト

\*○印はサブリーダー

名 称	リーダー	メンバー	事務所管
寮 教 育 プロジェクト	堀内 一史 ○宮下 和大	(外) 草本 晶、家田 章子 (経) 豊嶋 建広、熊野留理子 (学務部長) 上平 光孝 (プロジェクトリーダー指名) 江島 顕一 (学生支援G) 森 克昭 (国際交流G) 大田 美樹 (教務G) 石井 千晃	学生支援G 国際交流G
社会的責任推進 プロジェクト	佐藤 仁志 ○生方 亨	(外) 松田 徹、宮下 和大、橋本富太郎 (経) 倍 和博、圓丸 哲麻、近藤 明人 (教務G) 吉田 保幸 (学生支援G) 米田 隆彦 (教研支援G) 岡野 正樹 (地域連携C) 横田 茂弘 (施設課) 加藤 祐彦	IR推進室 教育研究支援G 教務G
ホームカミングデー プロジェクト	中道 嘉彦 ○竹内 拓史 ○熊野留理子 ○麗大麗澤会長	(外) 橋本富太郎、森 秀夫、シュッテレ, H. (経) 大越 利之、陳 玉雄、吉田健一郎 (学務部) 藍川 仁美、濱本 隆利、今木 崇雄、三宅 哲治 (学事部) 松野 大祐、金親真理子、小生方麻里、櫻井 大士 (総務部) 鈴木麻衣子 (財務部) 小林 美香 (麗大麗澤会) (学友会長) (麗陵祭実行委員長)	教育研究支援G 麗大麗澤会
入学式・卒業式 プロジェクト	今井 昇 ○江森 靖	(外) 橋本富太郎、瀬川真由美 (経) 大越 利之、圓丸 哲麻 (学務部) 北澤 泰子、西野 遥、丸 優泰、柳原 佳弘 (学事部) 岡野 奈央、大加瀬ゆりあ、小生方麻里、矢野 孝三	教育研究支援G
環 境 美 化 プロジェクト	今井 昇 ○米田 隆彦	(外) 花田 太平、中山めぐみ (経) 大塚 秀治、井下 佳織 (学務部) 関根 那美、田中 彩音、韓 基煥、渡邊 裕樹 (学事部) 松野 大祐、齋藤 音羽、広井 美代、寺本 敬子	学生支援G

## 8-2-5 付属機関等運営委員会

\*○印は副委員長

名 称	委員長	委 員	事務所管
図書館運営委員会	高辻 秀興	(言研) 田中 俊弘 (経研) 徳永 澄憲 (外) 梅田 徹、井上 優、堤 和彦、金丸 良子、高本 香織、 竹内 拓史 (経) 大塚 秀治、籠 義樹、首藤聡一朗、竹内 啓二、 立木 教夫、花枝美恵子 (学事部) 今村 稔	図書館事務G
情報教育センター 運 営 委 員 会	長谷川 教佐 ○大塚 秀治	(言研) 千葉 庄寿 (経研) 徳永 澄憲 (外) 草本 晶、匂坂 智子 (経) 高辻 秀興、吉田健一郎 (別) 家田 章子 (図書館) 高木美代子 (学務部) 鷺津 泰邦 (情報システム室) 神田 彰信	情報システム室
国際交流センター 運 営 委 員 会	犬飼 孝夫 ○山下 美樹	(外) 渡邊 信、黒須 里美 (経) 堀内 一史、熊野留理子 (別) 正宗 鈴香 (学務部) 今井 昇	国際交流G
日本語教育センター 運 営 委 員 会	正宗 鈴香 ○倍 和博	(日セ・教務主任) 家田 章子 (言研) 黒須 里美 (経研) 中野 千秋 (外) 渡邊 信、長谷川教佐 (経) 陳 玉雄、連 宜萍 (別) 中山 めぐみ (国際交流センター長) 犬飼 孝夫 (学務部) 今井 昇 (センター教員) 堤 和彦	国際交流G
麗澤オープンカレッジ 運 営 委 員 会	岩澤 知子	(外) 近藤 彩、川久保 剛、内尾 太一 (経) ヲ・シ イ、圓丸 哲麻、山下 美樹 (学事部) 今村 稔 (カレッジ長指名) 豊嶋 建広	大学院・ オープンカレッジ G
地域連携センター 運 営 委 員 会	成相 修 ○今村 稔	(外) 松田 徹、望月 正道、山川 和彦、内尾 太一 (経) 圓丸 哲麻、山下 美樹、吉田健一郎、徳永 澄憲 (学事部) 畑野龍一郎 (学外) 柏市、協同組合光ヶ丘商店会、柏商工会議所 公益財団法人モロジー研究所	大学院・ オープンカレッジ G 学生支援G

名 称	委員長	委 員	事務所管
学生相談センター 運営委員会	中道 嘉彦 ○堀内 一史	(言研) 日影 尚之 (経研) 長谷川泰隆 (外) 岩澤 知子、金 廷珉 (経) 豊嶋 建広、溝口 哲郎 (別) 堤 和彦 (学務部) 今井 昇 (健康支援センター) 井村サ ト子	学生支援G
キャリアセンター 運営委員会	中川 敏彰 ○籠 義樹 ○渡邊 信	(外) 野林 靖彦、北原 賢一、匂坂 智子、成瀬 猛、松田 徹 (経) 大野 正英、佐藤 仁志、山下 美樹、趙 家林、上村 昌司 (学務部) 上平 光孝	キャリア支援G
道徳科学教育センター 運営委員会	中山 理 ○大野 正英 ○川久保剛	(言研) 犬飼 孝夫 (経研) 中野 千秋 (外) 宮下 和大 (経) 江島 顕一 (別) 正宗 鈴香 (センター長指名) 小野 宏哉、堀内 一史、橋本富太郎 (学務部) 上平 光孝 (学事部) 今村 稔	学長室 教務G
学修支援センター 運営委員会	籠 義樹 ○日影 尚之 ○堀内 一史	(センター員) 日影 尚之、北原 賢一、籠 義樹、堀内 一史、 熊野留理子、圓丸 哲麻 (学務部) 鷺津 泰邦	教務G 学生支援G
経済社会総合研究 センター運営委員会	長谷川 泰隆 ○佐久間裕秋	大場 裕之、小野 宏哉、櫻井 良樹、佐藤 政則、 中島 真志、宮下 和大	教育研究支援G
比較文明文化研究 センター運営委員会	立木 教夫 ○犬飼 孝夫	竹内 啓二、堀内 一史、宮下 和大	教育研究支援G
企業倫理研究 センター運営委員会	中野 千秋 ○倍 和博	梅田 徹、大野 正英、梶田 幸雄、高 巖、徳永 澄憲	教育研究支援G
言語研究センター 運営委員会	井上 優 ○千葉 庄寿	北原 賢一、望月 正道	教育研究支援G

#### 8-2-6 外国語学部委員会

\*○印は副委員長

名 称	委員長	委 員 ※五十音順	事務所管
運 営 会 議	渡邊 信	松田 徹、日影 尚之、竹内 拓史、佐藤 繭香、梅田 徹、 草本 晶、ストラック A.N.、野林 靖彦、正宗 鈴香	教育研究支援 G 教務 G
教員人事委員会	渡邊 信	運営会議メンバーと同じ	教育研究支援 G 人事課
F D 委 員 会	渡邊 信	運営会議メンバーと同じ	教務 G
留学・国際交流委員会 (グローバル戦略会 議)	犬飼 孝夫	渡邊 信、梶田 幸雄、櫻井 良樹、長谷川 教佐、日影 尚之、 正宗 鈴香、山川 和彦、マノートン、A.S.、森 勇俊、内尾 太一	国際交流 G
麗澤グローバルひろば 委 員 会	成瀬 猛	梅田 徹、近藤 彩、マクヴェイ、P.C.、山川和彦、草本晶 ヨネスク M.、内尾 太一、小浦方 理恵	国際交流 G
I-Lounge 委員会	ストラック、A.N.	黒須里美、ウォーカー R.、ハーツハイム B.H.、高本香織	国際交流 G
入 学 試 験 委 員 会	◎渡邊 信 ○森 勇俊 ○竹内拓史	★入学試験検討小委員会 委員長：竹内 拓史 委 員：学部長、教務(副)主任 ★入学試験問題作成小委員会 (別途委嘱) ★入学試験問題点検小委員会 (別途委嘱) ★入学試験実施小委員会 (別途委嘱)	教務 G
教務・カリキュラム 検 討 委 員 会	松田 徹	櫻井 良樹、田中 俊弘、日影 尚之、家田 章子、川久保 剛、 金 廷珉、瀬川 真由美、北原 賢一、千葉 庄寿、宮下 和大、 高本 香織、花田 太平	教務 G
オリエンテーション委員会	北原 賢一	杉浦滋子、松田徹、内尾 太一、川久保 剛、佐藤 繭香、 宮下和大、武田淳、家田 章子 (オブザーバー)、 シュツテレ.H	学生支援 G 教務 G
情報 FD 委員会 (CALL 教室運営)	千葉 庄寿	家田 章子、草本 晶、匂坂 智子、鈴木 誠、武田 淳、長谷 川 教佐、ウォーカー R.、ヨネスク M.	情報システム室

### 8-2-7 経済学部委員会

名称	委員長	委員 (50音順)	事務所管
人事・運営委員会	下田 健人	教務主任 (倍 和博、豊嶋 建広)、 上村 昌司、佐藤 政則、佐藤 仁志、高 巖、高辻 秀興、 徳永 澄憲、中島 真志、中野 千秋、堀内 一史 (オブザーバー：小野 宏哉)	教育研究支援G 教務G
カリキュラム委員会	倍 和博	学部長 (下田 健人)、 教務主任 (倍 和博、豊嶋 建広)、 教務副主任 (溝口 哲郎、吉田健一郎)、 大野 正英、齋藤 之誉、首藤聡一朗、長谷川泰隆、山下 美樹	教務G
入試委員会	下田 健人	教務主任 (倍 和博、豊嶋 建広)、 教務副主任 (溝口 哲郎、吉田健一郎)、 出題委員会・正委員長・副委員長 点検委員会・正委員長・副委員長	入試広報G
入試制度検討委員会	豊嶋 建広	学部長 (下田 健人)、 教務主任 (倍 和博、豊嶋 建広)、 教務副主任 (溝口 哲郎、吉田健一郎)、 圓丸哲麻、熊野留理子、佐久間裕秋、佐藤 仁志	入試広報G
グローバル戦略委員会	堀内 一史	阿久根優子、小野 宏哉、大場 裕之、熊野留理子、 篠藤 涼子、下田 健人、陳 玉雄、徳永 澄憲、 中野 千秋、溝口 哲郎、山下 美樹、オブザーバー P.P.、ラフ P.A.	国際交流G
情報FD委員会	大塚 秀治	上村 昌司、首藤聡一朗、高辻 秀興、吉田健一郎	情報システム室

### 8-2-8 言語教育研究科委員会

名称	委員長	委員 (50音順)	事務所管
運営委員会	黒須 里美	井上 優、岩澤 知子、望月 正道	大学院・ オープンカレッジ <sup>®</sup> G
人事委員会 (博士後期課程)	黒須 里美	井上 優、岩澤 知子、櫻井 良樹、杉浦 滋子	
人事委員会 (博士前期・修士課程)	黒須 里美	井上 優、岩澤 知子、櫻井 良樹、杉浦 滋子、望月 正道、 渡邊 信	
『言語と文明』 編集委員会	大野 仁美	梅田 徹、金丸 良子、金 廷珉、中道 嘉彦、マクヴェイ、P.C.	
広報委員会	近藤 彩	井上 優、岩澤 知子、黒須 里美、マクヴェイ、P.C.、望月 正道	
FD委員会	黒須 里美	瀬川 真由美、高本 香織	
カリキュラム委員会	黒須 里美	井上 優、梶田 幸雄、櫻井 良樹、千葉 庄寿、望月 正道	

### 8-2-9 経済研究科委員会

名称	委員長	委員 (50音順)	事務所管
運営委員会	中野 千秋	徳永 澄憲、長谷川 泰隆	大学院・ オープンカレッジ <sup>®</sup> G
人事委員会	中野 千秋	大場 裕之、小野 宏哉、籠 義樹、佐藤 政則、下田 健人、高 巖、 高辻 秀興、徳永 澄憲、永井 四郎、成相 修、長谷川 泰隆、 花枝 美恵子、倍 和博、真殿 達、ラウ・シン イー	
FD検討会	中野 千秋	阿久根 優子、大塚 秀治、大場 裕之、小野 宏哉、籠 義樹、 上村 昌司、佐久間裕秋、佐藤 仁志、佐藤 政則、下田 健人、 首藤 聡一朗、高 巖、高辻 秀興、竹内 啓二、立木 教夫、 趙 家林、徳永 澄憲、中島 真志、永井 四郎、成相 修、 長谷川 泰隆、花枝 美恵子、倍 和博、堀内 一史、真殿 達、 水野 時孝、溝口 哲郎、ラウ・シン イー、ラフ ピーターA	

8-3 財務

28年度の大学の事業活動収支計算書及び資金収支計算書、並びに(学)廣池学園の事業活動収支計算書、資金収支計算書及び貸借対照表は、表1~3の通りである。表4~5には、24~28年度の財務比率を示した。なお、表示金額は単位未満を四捨五入しており、内訳金額の合計と合計欄の金額が一致しない場合がある。

表1 事業活動収支計算書

(麗澤大学)				(単位：千円)			
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,950,254	教育活動外収入	受取利息・配当金	139,185	
		手数料	49,104		その他の教育活動外収入	0	
		寄付金	142,433		教育活動外収入計	139,185	
		経常費等補助金	354,820		借入金等利息	0	
		付随事業収入	213,443		その他の教育活動外支出	0	
		雑収入	26,919		教育活動外支出計	0	
		教育活動収入計	3,736,973		教育活動外収支差額	139,185	
	事業活動支出の部	人件費	2,119,217	経常収支差額	69,193		
		教育研究経費	1,307,029	事業収入の部	資産売却差額	0	
		(うち減価償却額)	540,238	その他の特別収入	23,863		
		管理経費	380,619	特別収入計	23,863		
		(うち減価償却額)	60,441	事業支出の部	資産処分差額	4,771	
		徴収不能額等	100	その他の特別支出	536		
		教育活動支出計	3,806,965	特別支出計	5,307		
教育活動収支差額	△ 69,992	特別収支差額	18,557				
		基本金組入前当年度収支差額	87,750				
		基本金組入額合計	△ 55,388				
		当年度収支差額	32,361				
(廣池学園)				(単位：千円)			
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	4,164,413	教育活動外収入	受取利息・配当金	272,600	
		手数料	87,581		その他の教育活動外収入	0	
		寄付金	472,145		教育活動外収入計	272,600	
		経常費等補助金	1,198,885		借入金等利息	0	
		付随事業収入	872,737		その他の教育活動外支出	0	
		雑収入	236,250		教育活動外支出計	0	
		教育活動収入計	7,032,010		教育活動外収支差額	272,600	
	事業活動支出の部	人件費	4,008,615	経常収支差額	△ 330,114		
		教育研究経費	2,385,372	事業収入の部	資産売却差額	2,355	
		(うち減価償却額)	1,005,281	その他の特別収入	73,942		
		管理経費	1,240,637	特別収入計	76,297		
		(うち減価償却額)	150,190	事業支出の部	資産処分差額	112,829	
		徴収不能額等	100	その他の特別支出	2,214		
		教育活動支出計	7,634,725	特別支出計	115,042		
教育活動収支差額	△ 602,715	特別収支差額	△ 38,745				
		基本金組入前当年度収支差額	△ 368,860				
		基本金組入額合計	△ 472,356				
		当年度収支差額	△ 841,216				
		前年度繰越収支差額	△ 3,320,669				
		基本金取崩額	85,983				
		翌年度繰越収支差額	△ 4,075,902				

表2 資金収支計算書

(麗澤大学)

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
学生生徒等納付金収入	2,950,254	人件費支出	2,144,149
手数料収入	49,104	教育研究経費支出	766,791
寄付金収入	142,433	管理経費支出	319,390
補助金収入	375,112	借入金等利息支出	0
資産売却収入	0	借入金等返済支出	0
付随事業・収益事業収入	213,443	施設関係支出	100,694
受取利息・配当金収入	139,185	設備関係支出	98,064
雑収入	28,402		
借入金等収入	0		
収入の部合計	3,897,933	支出の部合計	3,429,088

(廣池学園)

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
学生生徒等納付金収入	4,162,763	人件費支出	4,025,505
手数料収入	87,581	教育研究経費支出	1,380,021
寄付金収入	484,978	管理経費支出	1,089,226
補助金収入	1,251,968	借入金等利息支出	0
資産売却収入	2,355	借入金等返済支出	0
付随事業・収益事業収入	872,737	施設関係支出	824,182
受取利息・配当金収入	272,600	設備関係支出	154,085
雑収入	240,872	資産運用支出	2,727,695
借入金等収入	0	その他の支出	246,504
前受金収入	1,803,749		
その他の収入	3,859,090		
資金収入調整勘定	△ 1,796,894	資金支出調整勘定	△ 97,778
前年度繰越支払資金	2,306,155	翌年度繰越支払資金	3,198,514
収入の部合計	13,547,954	支出の部合計	13,547,954

表3 貸借対照表(廣池学園)

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
固定資産	55,916,616	固定負債	2,647,553
有形固定資産	28,240,880	流動負債	2,265,362
特定資産	27,322,074	負債の部合計	4,912,915
その他の固定資産	353,662	純資産の部	
流動資産	3,331,392	基本金	58,410,995
現金預金	3,198,514	第1号基本金	47,234,674
その他の流動資産	132,878	第2号基本金	496,320
		第3号基本金	10,210,000
		第4号基本金	470,000
		繰越収支差額	△ 4,075,902
		純資産の部合計	54,335,093
資産の部合計	59,248,008	負債及び純資産の部合計	59,248,008

表4 事業活動収支計算書関係比率（麗澤大学）

		(単位：%)				
比率	算式(×100)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人件費比率	人件費/経常収入(*1)	51.7	52.6	53.1	55.6	54.7
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	68.7	69.9	71.3	72.9	71.8
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	34.4	38.2	35.4	35.8	33.7
管理経費比率	管理経費/経常収入	9.9	8.4	9.7	10.1	9.8
借入金等利息比率	借入金等利息/経常収入	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額/事業活動収入	4.7	△ 7.2	1.9	△ 1.3	2.3
基本金組入後収支比率	事業活動支出/(事業活動収入-基本金組入額)	102.9	110.5	101.1	108.4	99.2
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	75.3	75.2	74.5	76.2	76.1
寄付金比率	寄付金/事業活動収入	4.1	4.1	4.3	3.8	3.7
経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金/経常収入	4.1	4.0	4.2	3.7	3.7
補助金比率	補助金/事業活動収入	11.6	10.8	11.2	9.8	9.6
経常補助金比率	教育活動収支の補助金/経常収入	10.9	10.8	11.3	9.8	9.2
基本金組入率	基本金組入額/事業活動収入	7.4	3.0	2.9	6.5	1.4
減価償却額比率	減価償却額/経常支出(*2)	13.5	16.9	16.1	16.0	15.8
経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	4.0	0.7	1.8	△ 1.5	1.8
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額/教育活動収入計	0.1	△ 3.6	△ 2.0	△ 5.1	△ 1.9

(\*1)経常収入=教育活動収入計+教育活動外収入計

(\*2)経常支出=教育活動支出計+教育活動外支出計

表5 貸借対照表関係比率（廣池学園）

		(単位：%)				
比率	算式(×100)	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
固定資産構成比率	固定資産/総資産	96.5	96.0	95.3	95.7	94.4
有形固定資産構成比率	有形固定資産/総資産	49.2	48.0	48.0	47.8	47.7
特定資産構成比率	特定資産/総資産	46.5	47.3	46.7	47.3	46.1
流動資産構成比率	流動資産/総資産	3.5	4.0	4.7	4.3	5.6
固定負債構成比率	固定負債/(総負債+純資産)	4.2	4.4	5.1	4.7	4.5
流動負債構成比率	流動負債/(総負債+純資産)	3.1	3.3	3.4	3.6	3.8
内部留保資産比率	(運用資産(*1)-総負債)/総資金	42.6	43.5	42.8	42.8	43.2
運用資産余裕比率(*2)	(運用資産-外部負債(*3))/経常支出	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9
純資産構成比率	純資産/(総負債+純資産)	92.8	92.3	91.6	91.7	91.7
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額/(総負債+純資産)	1.2	1.6	△ 3.2	△ 5.6	△ 6.9
固定比率	固定資産/純資産	104.1	104.1	104.1	104.4	102.9
固定長期適合率	固定資産/(純資産+固定負債)	99.6	99.3	98.7	99.3	98.1
流動比率	流動資産/流動負債	113.5	119.5	137.5	120.0	147.1
総負債比率	総負債/総資産	7.2	7.7	8.4	8.3	8.3
負債比率	総負債/純資産	7.8	8.4	9.2	9.1	9.0
前受金保有率	現金預金/前受金	118.8	134.1	162.8	134.0	177.3
退職給与引当特定資産保有率	(*4)	100.0	100.0	100.0	100.0	102.0
基本金比率	基本金/基本金要組入額	99.9	99.8	98.9	99.2	99.3
減価償却比率	(*5)	46.7	48.0	48.8	50.3	51.8
積立率	運用資産/要積立額(*6)	93.6	94.8	95.2	91.6	90.1

(\*1)運用資産=現金預金+特定資産+有価証券

(\*2)運用資産余裕比率の単位は%ではなく「年」

(\*3)外部負債=総負債-(退職給与引当金+前受金)

(\*4)退職給与引当特定資産保有率=退職給与引当特定資産/退職給与引当金

(\*5)減価償却比率=減価償却累計額/減価償却資産取得価額(図書を除く)

(\*6)要積立額=減価償却累計額+退職給与引当金+第2号基本金+第3号基本金

# 資 料 編



# 1. 教員の構成

表1-1 専任教員数

平成28年5月1日現在

学部・大学院	学科等	設置 基準数	在 職 者 数										
			教授		准教授		助教		講師		合計		
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
外国語学部	外国語学科	28	21	6	7	7	3	1	2		33	14	47
	共通科目		2	2	3	2	2	1		1	7	6	13
	小計	28	23	8	10	9	5	2	2	1	40	20	60
経済学部	経済学科	35	18		3	1		1			21	2	23
	経営学科		8	1	5		1	1			14	2	16
	共通科目		7		1	3	1				9	3	12
	小計	35	33	1	9	4	2	2			44	7	51
言語教育研究科			(16)	(6)	(0)	(4)							
経済研究科			2	(26)	(1)	(2)	(1)				2		2
合 計		63	58	9	19	13	7	4	2	1	86	27	113

※設置基準数の大学全体の収容定員に応じた専任教員数は、両学部半数ずつを振り分け。

※両研究科の( )は学部からの兼任教員数。

※専任教員一人当たりの学生数

外国語学部 ~ 専任教員数 60人：在籍学生数 1,334人=22.2人

経済学部 ~ 専任教員数 51人：在籍学生数 1,114人=21.8人

言語教育研究科 ~ 専任教員数 26人(兼任教員を含む)：在籍学生数 37人=1.4人

経済研究科 ~ 専任教員数 32人(兼任教員を含む)：在籍学生数 26人=0.8人

表1-2 専任教員数と非常勤教員数との比率の推移

<学部>

平成28年5月1日現在

区分	H24	H25	H26	H27	H28
専任教員					
外国語学部	60	57	61	61	60
経済学部	49	52	51	49	51
小 計	109	109	112	110	111
構成比率	42.9%	41.0%	41.8%	41.4%	40.5%
非常勤教員					
外国語学部	95	107	107	111	119
経済学部	50	50	49	45	44
小 計	145	157	156	156	163
構成比率	57.1%	59.0%	58.2%	58.6%	59.5%
合 計	254	266	268	266	274

<大学院>

平成28年5月1日現在

区分	H24	H25	H26	H27	H28
専任教員					
言語教育研究科	28	29	29	26	26
経済研究科	31	30	35	34	32
小 計	59	59	64	60	58
構成比率	85.5%	83.1%	87.7%	84.5%	82.9%
非常勤教員					
言語教育研究科	6	7	5	5	6
経済研究科	4	5	4	6	6
小 計	10	12	9	11	12
構成比率	14.5%	16.9%	12.3%	15.5%	17.1%
合 計	69	71	73	71	70

※専任教員に学部からの兼任教員を含む

表1-3 兼任・専任教員数（付属機関）

付属機関名	兼任教員数					兼任教員数
	教授	准教授	助教	講師	計	
経済社会総合研究センター	24	7	3	0	34	2
比較文明文化研究センター	7	1	1	0	9	16
企業倫理研究センター	8	4	1	0	13	0
言語研究センター	5	4	0	0	9	2
情報教育センター	4	1	1	0	6	0
国際交流センター	1	1	0	1	3	0
日本語教育センター	2	1	0	0	3	13
麗澤オープンカレッジ	1	0	0	0	1	0
学生相談センター	2	0	0	0	2	0
キャリアセンター	3	0	0	0	3	0
道徳科学教育センター	12	3	4	0	19	8
学修支援センター	3	3	0	0	6	0
地域連携センター	1	0	0	0	1	0
合計	73	25	10	1	109	41

表1-4 専任教員年齢構成

平成28年5月1日現在

学部・大学院	学科等	30～39歳		40～49歳		50～59歳		60～69歳		70～79歳		計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
外国語学部	外国語学科	5	4	9	2	12	7	6	1	1	0	47
	共通科目	0	1	4	2	2	3	1	0	0	0	13
	小計	5	5	13	4	14	10	7	1	1	0	60
経済学部	経済学科	1	0	4	2	7	0	9	0	0	0	23
	経営学科	4	1	3	0	1	0	6	1	0	0	16
	共通科目	1	1	1	2	0	0	7	0	0	0	12
	小計	6	2	8	4	8	0	22	1	0	0	51
言語教育研究科		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経済研究科		0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
合計		11	7	21	8	23	10	30	2	1	0	113

表1-5 新任教員

所属	職位	氏名
外国語学部	教授	森 秀夫
	助教	花田 太平
	客員教授	三浦 正道
	非常勤講師	内田 加奈美
		氏川 雅典
		尾形 大
		葛西 ジャネット
		岸下 卓史
		工藤 育子
		坂本 真一
		竹村 和子
		チジャック, O
		野上 文子
		房 賢嬉
		福田 大治
		ブルナ, L
		三浦 純子
		牟田 有紀子
		米井 由美
		ロ・ディコ M.

所属	職位	氏名
経済学部	特任教授	太田 秀也
		バンダ, R.
	准教授	大越 利之
		近藤 明人
		井下 佳織
	客員教授	坂元 利弥
	非常勤講師	加藤 朗
		大塚 哲也
		大塚 祐一
		櫻井 一宏*1
		佐々木 愛梨
		西澤 美穂子
		樋口 有記*1
宮崎 達郎*1		
言語教育研究科	非常勤講師	川口 義一
		松金 公正
経済研究科	客員教授	沼波 正
	非常勤講師	コミサロフ A. M.
日本語教育センター	非常勤講師	土屋 真理子

\*1 9月20日付

表1-6 名誉教授

今年度は名誉教授の称号授与なし。

表1-7 昇任（28年4月1日付）

氏名	所属学部	昇任後の職名
野林 靖彦	外国語学部	教授
北原 賢一	外国語学部	准教授
大野 正英	経済学部	教授

表1-8 客員教授

外国語学部	赤坂 清隆、奥野 保明、鈴木 小百合、三瀨 正道
経済学部	古倉 宗治、清水 千弘、坂元 利弥、関 孝哉
経済研究科	沼波 正、清水 千弘、樋口 晴彦
経済社会総合研究センター	内田 要、金 正年、目黒 昭一郎
比較文明文化研究センター	伊東 俊太郎、大澤 真幸、欠端 實、川勝 平太、川窪 啓資、木曾 功、近藤 誠一、染谷 臣道、所 功、南淵 明宏、服部 英二、パントック、G.、保坂 俊司、松本 亮三、安田 喜憲、吉澤 五郎
言語研究センター	梅田 博之、藤本 幸夫
道徳科学教育センター	岩佐 信道、小山 高正、北川 治男、高橋 史朗、竹原 茂、トウケケン M.、所 功、森田 健作、柳沼 良太

表1-9 退任・解嘱教員

所属	職位	氏名
外国語学部	教授	金丸 良子
		副島 昭夫*1
		長谷川 教佐
	准教授	竹内 拓史
		助教
	講師	前園 京子
	客員教授	奥野 保明
	非常勤講師	氏川 雅典
		ウッド N.
		内田 加奈美
		葛西 ジャネット
		金田 拓
		邱 瑋琪
		グレイス, R.K.
		清水 潤
		ジェムズ, M.G. *2
		周 啓虹
		諏訪内 敬司
		田辺 龍
		チジャック, O
藤原 あさひ		
牟田 有紀子		
横田 太郎		
ロ・ディコ M. *3		

\*1 11月11日付

\*2 2月3日付

\*3 9月19日付

所属	職位	氏名
経済学部	教授	永井 四郎 ブラビエ P.P.
	准教授	溝口 哲郎
	助教	連 宜萍
	客員教授	古倉 宗治
		関 孝哉
	非常勤講師	佐々木 愛梨*1
		高橋 秀樹
		永田 雅啓
松井 賢治		
言語教育研究科	非常勤講師	川口 義一
		松金 公正
		三上 直光
		安田 喜憲
経済研究科	非常勤講師	小川 純生
		コミサロフ A. M.
		藤瀬 裕司
日本語教育センター	非常勤講師	中村 かおり
		森沢 小百合

\*1 9月19日付

表1-10 叙勲・表彰

氏名	年月	内容
田中 駿平	28年4月	瑞宝小綬章
小田川 方子	28年11月	瑞宝小綬章
水野 治太郎	28年11月	瑞宝中綬章
竹内 啓二	28年12月	第47回千葉県私学教育功労者
豊嶋 建広	28年12月	第47回千葉県私学教育功労者
今村 稔	28年12月	第47回千葉県私学教育功労者
甲良 昭彦	28年12月	第47回千葉県私学教育功労者

2. 学生の構成

2-1 学部及び別科

表2-1-1 学生定員及び在籍学生数

( ) は女子内数。研究生及び聴講生は含まない。平成28年5月1日現在

学部	学 科		入学定員	収容定員(A)	在 籍 学 生 数					充足率(B/A)	
					1年次	2年次	3年次	4年次	計(B)		
外国語学部	外国語学科	英語コミュニケーション専攻			76 (57)	96 (66)	85 (59)	88 (59)	345 (241)		
		英語・英米文化専攻			101 (64)	97 (59)	114(74)	125 (86)	437 (283)		
		国際交流・国際協力専攻			35 (27)	50 (37)	41 (32)	43 (27)	169 (123)		
		ドイツ語・ドイツ文化専攻			40 (31)	32 (21)	25 (19)	23 (17)	120 (88)		
		中国語専攻			19 (14)	16 (13)	15 (14)	26 (19)	76 (60)		
		日本語・日本文化専攻			0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)	3 (2)		
	日本語・国際コミュニケーション専攻			53 (36)	53 (33)	39 (28)	39(27)	184 (124)			
外国語学部計			300	1,200	324 (229)	344 (229)	319(226)	347 (237)	1,334 (921)	1.11	
経済学部	経済学科		170	680	0(0)	127 (21)	114 (16)	138 (20)	379 (57)	0.80	
	経営学科		130	520	1(0)	153 (41)	126 (48)	124 (39)	404 (128)	1.09	
	経済学科	経済専攻				97(12)	0(0)	0(0)	0(0)	97(12)	
		グローバル人材育成専攻				71(27)	0(0)	0(0)	0(0)	71(27)	
	経営学科	経営専攻				145(33)	0(0)	0(0)	0(0)	145(33)	
	会計ファイナンス専攻				18(11)	0(0)	0(0)	0(0)	18(11)		
経済学部計			300	1,200	332 (83)	280 (62)	240 (64)	262 (59)	1,114 (268)	0.92	
学部合計			600	2,400	656 (312)	624 (291)	559 (290)	609 (296)	2,448(1,189)	1.02	
別科日本語研修課程			60	60	43 (27)				43 (27)	0.71	

表2-1-2 外国人留学生数

( ) 内は女子内数。平成28年5月1日現在

学部	学科	計	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次
外国語学部	英語コミュニケーション専攻	1 (1)	0	0	1 (1)	0
	英語・英米文化専攻	1 (0)	0	0	0	1 (0)
	国際交流・国際協力専攻	0	0	0	0	0
	ドイツ語・ドイツ文化専攻	0	0	0	0	0
	中国語専攻	0	0	0	0	0
	日本語・日本文化専攻*	62 (36)	13 (6)	18 (11)	17 (11)	14 (8)
小 計		64 (37)	13 (6)	18 (11)	18 (12)	15 (8)
経済学部	経済学科	35 (13)	9 (6)	8 (2)	13 (4)	5 (1)
	経営学科	130 (39)	42 (15)	38 (11)	27 (9)	23 (4)
小 計		165 (52)	51 (21)	46 (13)	40 (13)	28 (5)
別科日本語研修課程		41 (26)	37 (23)	4 (3)	—	—
合 計		270 (115)	101 (50)	68 (27)	58 (25)	43 (13)

休学者含む。\*日本語学科、日本語・国際コミュニケーション専攻を含む。

表2-1-3 特別聴講生（提携校・交換留学生）

（ ）内は女子内数

提携校名	学 部			別科			合計
	1学期	2学期	1年間	1学期	2学期	1年間	
セント・マーチンズ大学(アメリカ)	1 (0)	1	0	0	0	0	2 (0)
ミドルテネシー州立大学(アメリカ)	2 (0)	0	0	0	0	0	2 (0)
フロンティス応用科学大学(オランダ)	0	2 (1)	0	0	0	0	2 (1)
イエーナ・フリードリヒ・シラー大学(ドイツ)	0	0	3 (2)	0	0	0	3 (2)
ナンヤン・ポリテクニク(シンガポール)	0	2 (2)	0	0	0	0	2 (2)
サイアム大学(タイ)	1 (1)	1 (0)	0	0	0	0	2 (1)
パヤップ大学(タイ)	1 (0)	1 (1)	0	0	0	0	2 (1)
パヤオ大学(タイ)	0	2 (2)	0	0	0	0	2 (2)
ホーチミン市人文社会科学大学 (ベトナム)	2 (1)	2 (2)	0	0	0	0	4 (3)
釜山外国語大学校(韓国)	2 (2)	0	3 (2)	2 (1)	1 (0)	0	8 (5)
淡江大学(台湾)	20 (15)	21 (14)	0	0	0	0	41 (29)
国立屏東大学(台湾)	2 (2)	2 (2)	0	0	0	0	4 (4)
実践大学(台湾)	3 (2)	2 (1)	0	0	0	0	5 (3)
天津財経大学(中国)	0	0	4 (4)	0	0	0	4 (4)
天津理工大学(中国)	0	0	2 (2)	0	0	0	2 (2)
マレーシア大学サラワク校(マレーシア)	0	0	1 (0)	0	0	0	1 (0)
ブータン特別聴講生	1 (0)	1 (0)	0	0	0	0	2 (0)
麗澤交流基金RFA(アメリカ)	1 (1)	0 (0)	0	0	0	0	1 (1)
合 計	36 (24)	37 (25)	13 (10)	2 (1)	1 (0)	0	89 (60)

表2-1-4 出身国・地域別留学生数

①学部・別科計 ( )内は女子内数。平成28年5月1日現在

国・地域名	学 部	別 科	特別聴講生	合 計
中 国	156 (59)	3 (2)	6 (6)	165 (67)
韓 国	31 (10)	3 (1)	5 (4)	39 (15)
台 湾	5 (3)	24 (15)	23 (18)	52 (36)
タイ	7 (6)		2 (1)	9 (7)
マレーシア	8 (3)		1 (0)	9 (3)
ドイツ	1 (0)		3 (2)	4 (2)
ベトナム	10 (6)	4 (4)	2 (1)	16 (11)
モンゴル	1 (1)	1 (0)		2 (1)
アメリカ		1 (0)	5 (1)	6 (1)
中国 (香港)	3 (0)	1 (1)	1 (0)	5 (1)
ミャンマー	2 (0)			2 (0)
インドネシア	2 (0)			2 (0)
中国 (マカオ)	1 (0)			1 (0)
ブータン			1 (0)	1 (0)
スウェーデン	1 (0)			1 (0)
トルコ	1 (1)			1 (1)
シンガポール		1 (1)	1 (1)	2 (2)
英国		1 (0)		1 (0)
フィンランド		1 (1)		1 (1)
ラオス		1 (1)		1 (1)
合 計	229 (89)	41 (26)	50 (34)	320 (149)

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

②外国語学部外国語学科 ( ) 内は女子内数。平成28年5月1日現在

国・地域名	1年	2年	3年	4年	合計
中国	5 (2)	8 (6)	9 (7)	9 (5)	31 (20)
韓国	4 (1)	4 (2)	3 (1)	4 (2)	15 (6)
台湾			1 (1)	2 (1)	3 (2)
タイ			2 (2)		2 (2)
マレーシア		3 (2)	2 (1)		5 (3)
中国(香港)		2 (0)			2 (0)
ベトナム	2 (2)	1 (1)			3 (3)
中国(マカオ)			1 (0)		1 (0)
スウェーデン	1 (0)				1 (0)
トルコ	1 (1)				1 (1)
合計	13 (6)	18 (11)	18 (12)	15 (8)	64 (37)

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

③経済学部経済学科 ( ) 内は女子内数。平成28年5月1日現在

国・地域名	1年	2年	3年	4年	合計
中国	6 (4)	5 (2)	7 (1)	4 (1)	22 (8)
韓国	2 (2)	2 (0)		1 (0)	5 (2)
タイ			3 (3)		3 (3)
マレーシア		1 (0)			1 (0)
ベトナム	1 (0)		1 (0)		2 (0)
ミャンマー			1 (0)		1 (0)
ドイツ			1 (0)		1 (0)
合計	9 (6)	8 (2)	13 (4)	5 (1)	35 (13)

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

④経済学部経営学科 ( ) 内は女子内数。平成28年5月1日現在

国・地域名	1年	2年	3年	4年	合計
中国	31 (10)	28 (10)	23 (7)	21 (4)	103 (31)
韓国	6 (2)	5 (0)			11 (2)
台湾	1 (1)			1 (0)	2 (1)
タイ	1 (0)		1 (1)		2 (1)
マレーシア		2 (0)			2 (0)
ベトナム	2 (2)	3 (1)			5 (3)
ミャンマー			1 (0)		1 (0)
モンゴル			1 (1)		1 (1)
中国(香港)				1 (0)	1 (0)
インドネシア	1 (0)		1 (0)		2 (0)
合計	42 (15)	38 (11)	27 (9)	23 (4)	130 (39)

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。

表2-1-5 卒業・修了者数

<学部> ( ) は卒業者のうち、平成25年度に入学した者。編入学者を除く。平成29年3月31日現在

学 部	学 科 等	卒業者数	9月卒業等	合 計	平成25年度入学者
外国語学部	外国語学科英語コミュニケーション専攻	72 (64)	7	79 (64)	79
	外国語学科英語・英米文化専攻	100 (90)	5	105 (90)	110
	外国語学科国際交流・国際協力専攻	35 (29)	0	35 (29)	42
	外国語学科ドイツ語・ドイツ文化専攻	21 (21)	0	21 (21)	25
	外国語学科中国語専攻	21 (19)	1	22 (19)	23
	外国語学科日本語・日本文化専攻	1 (0)	0	1 (0)	0
	外国語学科日本語・国際コミュニケーション専攻	37 (32)	0	37 (32)	40
	計	287 (255)	13	300 (255)	319
経済学部	経済学科	123 (118)	1	124 (118)	144
	経営学科	104 (99)	4	108(99)	122
	計	227 (217)	5	232 (217)	266
学部合計		514 (472)	18	532 (472)	585

<別科>

平成29年3月31日現在

課 程	修了者数	9月修了等	合計	平成28年度入学者
別科日本語研修課程	31	8	39	24

表2-1-6 卒業延期

理 由	外国語学部			経済学部			学部計
	卒業予定時期			卒業予定時期			
	28年1学期	28年2学期	小計	28年1学期	28年2学期	小計	
就職活動の継続	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0

表2-1-7 卒業者の進路状況

平成29年4月1日現在

区分	外国語学部			経済学部			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
a.就職希望者	80	198	278	153	49	202	233	247	480
b.就職決定者	77	194	271	148	48	196	225	242	467
内 訳	企業就職	74	187	261	142	47	189	216	450
	公務員	0	3	3	6	1	7	6	10
	教員	3	4	7	0	0	0	3	4
就職率(b/a)	96.3%	98.0%	97.5%	96.7%	98.0%	97.0%	96.6%	98.0%	97.3%
大学院進学	2	1	3	3	0	3	5	1	6
その他進学	0	2	2	7	1	8	7	3	10
その他*	6	11	17	13	6	19	19	17	36
卒業者数	88	212	300	176	56	232	264	268	532

※平成28年9月卒業者を含む。

\*自営業、外国人留学生の帰国者、結婚など

表2-1-8 学籍異動

## ①退学

理 由	外国語学部			経済学部			学部計	別 科		
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計		1 学期	2 学期	合計
進路変更 (他教育機関)	5	9	14	8	3	11	25	1		1
進路変更 (就職)	5	2	7	2	4	6	13			
個人留学					1	1	1			
身体疾患	2		2		2	2	4			
心神衰弱	1	1	2		1	1	3			
家庭の事情	2	1	3	1	1	2	5		1	1
経済的理由		2	2	1	5	6	8			
大学院飛び入学										
学力不足	1	1	2		1	1	3			
就学意欲の低下	2	5	7	4	5	9	16			
一身上の都合	1		1				1			
在学年限超過										
合 計	19	21	40	16	23	39	79	1	1	2

## ②除籍

理 由	外国語学部			経済学部			学部計	別 科		
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計		1 学期	2 学期	合計
学費未納	10	4	14	8	12	20	34			
在留資格/査証不交付										
入学辞退	1		1				1			
入学延期										
修了単位未修得										
死亡				1	1	2	2			
合 計	11	4	15	9	13	22	37	0	0	0

## ③休学

理 由	外国語学部			経済学部			学部計	別 科		
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計		1 学期	2 学期	合計
進路変更 (他教育機関)	1	1	2	2	2	4	6			
進路変更 (就職)	1		1			0	1			
個人留学	13	19	32	3	2	5	37			
身体疾患	2	1	3	1	1	2	5		1	1
心神衰弱	2	1	3	3	4	7	10			
家庭の事情	2	1	3	1	1	2	5			
経済的理由	1	1	2	3	3	6	8			
学力不足	1		1	2	1	3	4			
就学意欲の低下	2	2	4	1		1	5			
一身上の都合			0			0	0			
兵役のため	1	1	2	3	3	6	8			
合 計	26	27	53	19	17	36	89	0	1	1

## ④再入学

	外国語学部			経済学部			学部計
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計	
合 計	0	1	1	0	0	0	1

## ⑤復籍

	外国語学部			経済学部			学部計
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計	
合 計	1	1	2	3	6	9	11



⑥転部・転科・転専攻

転出学部・学科	転入学部・学科	人数
		0

⑦編入学

	外国語学部 (2年次)					外国語学部 (3年次)				経済学部 (3年次)	学部計	
	外国語学科					外国語学科				経営学科	小計	
	英語 コミュニケーション	英語・ 英米文化	国際交流・ 国際協力	日本語・国際 コミュニケーション	小計	英語 コミュニケーション	英語・ 英米文化	日本語・国際 コミュニケーション	小計			
合計	1	1	2	3	7	2	1	2	5	1	1	13

表2-1-9 科目等履修生・聴講生数 ( )内は高校生(内数)

学部	科目等履修生	科目等履修生		小計	聴講生		小計	合計
		1学期	2学期		1学期	2学期		
外国語学部	延べ人数	6 (0)	15 (0)	15 (0)	19	12	31	46 (0)
	実人数	6 (0)	9 (0)	9 (0)	14	10	24	33 (0)
経済学部	延べ人数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6	3	9	9 (0)
	実人数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5	3	8	8 (0)

※延べ人数とは学部単位に履修・聴講された科目における人数をそのまま合計した数、実人数とは学部単位の実際の頭数である。

2-2 大学院

表2-2-1 学生定員及び在籍学生数

( )内は女子内数。研究生及び聴講生は含まない。平成28年5月1日現在

研究科	専攻	入学定員	収容定員(A)	在籍学生数				充足率(B/A)
				1年次	2年次	3年次	計(B)	
言語教育研究科	日本語教育学専攻D	3	9	2 (1)	0	8 (6)	10 (7)	1.11
	比較文明文化専攻D	3	9	0	1 (1)	2 (1)	3 (2)	0.33
	日本語教育学専攻M	6	12	5 (4)	7 (6)		12 (10)	1.00
	比較文明文化専攻M	6	12	4 (2)	5 (3)		9 (5)	0.75
	英語教育専攻M	6	12	2 (0)	1 (1)		3 (1)	0.25
	計	24	54	13 (7)	14 (11)	10 (7)	37 (25)	0.69
経済研究科	経済学・経営学専攻D	3	9	0	0	5 (3)	5 (3)	0.56
	経済学専攻M	5	10	2 (0)	1 (0)		3 (0)	0.30
	経営学専攻M	10	20	8 (2)	10 (5)		18 (7)	0.90
	計	18	39	10 (2)	11 (5)	5 (3)	26 (10)	0.67
大学院合計		42	93	23 (9)	25 (16)	15 (10)	63 (35)	0.68

表2-2-2 出身国・地域別留学生数

( ) 内は女子内数。平成28年5月1日現在

国・地域名	大学院	研究生	合計
中国	29 (21)	6 (3)	35 (24)
タイ	2 (1)		2 (1)
韓国	1 (0)		1 (0)
アメリカ	1 (1)		1 (1)
マレーシア	1 (1)		1 (1)
イタリア	1 (0)		1 (0)
ケニア	1 (0)		1 (0)
タンザニア	1 (0)		1 (0)
モロッコ	1 (0)		1 (0)
モザンビーク	1 (0)		1 (0)
ネパール		3 (0)	3 (0)
ベトナム		1 (1)	1 (1)
小計	39 (24)	10 (4)	49 (28)

※「留学」の在留資格を得ている者のみを記載している。9月入学者数は含まない。

表2-2-3 学位授与数等

平成29年3月31日現在

研究科	専攻	課程	学位	学位授与数	単位取得退学	計
言語教育研究科	日本語教育学専攻	博士課程前期	修士 (文学)	5*	1	5
		博士課程後期	博士 (文学)			1
	比較文明文化専攻	博士課程前期	修士 (文学)	4	1	4
		博士課程後期	博士 (文学)			1
英語教育専攻	修士課程	修士 (文学)			0	
計				9	2	11
経済研究科	経済学専攻	修士課程	修士 (経済学)	1		1
	経営学専攻	修士課程	修士 (経営学)	9		9
	経済学・経営学専攻	博士課程	博士 (経済学) (経営学)	2*		2*
	計				12	0
大学院合計				21	2	23

※平成28年9月授与者を含む。

表2-2-4 修了者の進路状況

平成29年4月1日現在

区分	言語教育研究科			経済研究科			合計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
a.就職希望者	2	4	6	5	7	12	7	11	18
b.就職決定者		4	4	4	6	10	4	10	14
内訳	企業就職	4	4	3	5	8	3	9	12
	公務員			1		1	1		1
	教員				1	1		1	1
就職率(b/a)	0.0%	100.0%	66.7%	80.0%	85.7%	83.3%	57.1%	90.9%	77.8%
大学院進学 その他進学 その他*		3	3					3	3
修了者数	2	7	9	5	7	12	7	14	21

※平成28年9月修了者を含む。

\*自営業、外国人留学生の帰国者、結婚など

表2-2-5 学籍異動

## ①単位修得退学

言語教育研究科	経済研究科	合 計
2	0	2

## ②退学

理 由	言語教育研究科			経済研究科			合 計
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計	
経済的理由	0	0	0	0	0	0	0
健康上の理由	0	0	0	0	0	0	0
進路変更	0	0	0	0	0	0	0
一身上の都合	0	0	0	0	0	0	0
懲戒退学	0	0	0	0	0	0	0
在学期間満了	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0

## ③除籍

理 由	言語教育研究科			経済研究科			合 計
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計	
学費未納	1	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0

## ④休学

理 由	言語教育研究科			経済研究科			1 学期	2 学期	合計
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計			
一身上の都合	5	3	8	0	0	0	5	3	8
健康上の理由	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学	0	0	0	1	1	2	1	1	2
震災理由	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主学習・就職活動	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	5	3	8	1	1	2	6	4	10

## ⑤再入学

退学時の理由	言語教育研究科			経済研究科			合 計
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計	
一身上の都合	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0

## ⑥復籍

除籍時の理由	言語教育研究科			経済研究科			合 計
	1 学期	2 学期	小計	1 学期	2 学期	小計	
学費未納	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0

表2-2-6 研究生・科目等履修生・聴講生数

研 究 科	課 程	研究生	科目等履修生			聴 講 生			合 計
			1学期	2学期	小 計	1学期	2学期	小 計	
言語教育 研究科	博士前期課程・修士課程 実人数	2	6	3	9	2	1	3	14
	博士後期課程 実人数	1	0	0	0	1	0	1	2
経済 研究科	修士課程 実人数	13	7	7	14	1	1	2	29
	博士課程 実人数	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		16	13	10	23	4	2	6	45

※実人数とは、研究科単位の実際の頭数のことである。研究生は半期在籍者も含む。科目等履修生は本学部生を含む。

### 3. 施設・設備

表 3-1 用途別校地面積一覧

用途区分	面積 (㎡)	所在地	権利の所属
校舎敷地	68,475.08	千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1	自己所有
	44.38	東京都新宿区西新宿 6-5-1	〃
運動場用地	24,773.00	千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1	〃
その他	41,514.00	〃	〃
合計	134,806.46		

表 3-2 校舎等面積一覧

建物区分	面積 (㎡)	室数	構造	用途
校舎かえで	10,144.84	教室 30	鉄筋コンクリート造アルミニウム板葺 6階建	講義室・事務室
校舎あすなろ	5,975.88	教室 33 研究室 2	鉄筋コンクリート造陸屋根 5階建	講義室・研究室 ・事務室
校舎あすなろ守衛所	9.17		鉄筋コンクリート陸屋根平屋	守衛所
生涯教育プラザ	6,243.26	研究室 28 教室 27	鉄筋コンクリート・鉄骨造陸屋根 5階建	講義室・研究室 ・事務室
生涯教育プラザ守衛所	18.53	—	鉄筋コンクリート陸屋根平家建	守衛室
学生会館ひらぎ	1,888.95	—	鉄骨造アルミニウム板葺 2階建	食堂
Active Learning Sport Commons	2,119.28	研究室 47	鉄筋コンクリート造陸屋根 4階建	研究室・事務室
研究室 B 棟	4,183.44	研究室 84	鉄筋コンクリート造陸屋根 5階建	研究室・事務室
図書館	6,228.15	席数 258	鉄筋コンクリート造地下 2階地上 4階建	図書館
東京研究センター	268.30	教室 2	鉄骨鉄筋コンクリート 41階建の 4階一部	研究室・演習室 ・事務室
体育館	3,378.15	—	鉄筋コンクリート造 2階建	体育館
武道館 (高校と共用)	1,764.25	—	鉄骨鉄筋コンクリート鉄板葺 3階建	武道館
学生寮 A 棟	2,019.37	寮室数 48	鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき 3階建	寄宿舎
学生寮 B 棟	1,964.81	寮室数 72	鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき 3階建	寄宿舎
学生寮 C 棟	2,604.18	寮室数 96	鉄筋コンクリート造合金メッキ鋼板ぶき 4階建	寄宿舎
学生寮 D 棟	3,671.77	寮室数 114	鉄筋コンクリート造陸屋根 5階建	寄宿舎
スチューデントプラザ はなみずき (学生ホール)	577.73	—	鉄骨造合金メッキ鋼板ぶき平家建	食堂
スチューデントプラザ はなみずき (ゴミ置場)	6.25	—	鉄筋コンクリート造亜鉛メッキ鋼板ぶき平家建	食堂
合計	53,066.31			

表 3-3 コンピュータ設備

表 3-3-1 校舎かえで

教室・施設名	台数
1301 教室	PC 74
1302 教室	PC 34
1303 教室	PC 60
1304 教室	PC 1
1307 教室	PC 34
1308 教室	PC 74
1403 教室	PC 1
1404 教室	PC 1
1405 教室	PC 1
1406 教室	PC 1

表 3-3-4 校舎あすなろ

教室・施設名	台数
学生総合インフォメーション	PC 1
カフェラウンジ	PC 5
2503 教室	PC 1
2504 教室	PC 1
2505 教室	PC 1
2508 教室	PC 1
日本語教育センター	PC 6
道徳科学教育センター	PC 1
iLounge	PC 2
教員控室	PC 1

1407 教室	PC	1
1408 教室	PC	1
1409 教室	PC	1
1410 教室	PC	1
1412 教室	PC	1
1413 教室	PC	1
1501 教室	PC	1
1502 教室	PC	1
1503 教室	PC	1
1504 教室	PC	1
1505 教室	PC	1
1601 教室	PC	1
1602 教室	PC	1
1603 教室	PC	1
印刷専用端末	PC	6
学長室・副学長室・学部長室	PC	9
教員控室	PC	3
情報教育センター・ヘルプデスク	PC	20
貸出用ノート	PC	22

表 3-3-2 研究室 A 棟・B 棟

教室・施設名	台数
A 棟・B 棟 共同研究室等	PC 93 Mac 19
B 棟 IMC 演習室	PC 20
B 棟 REPPL 演習室	PC 2

表 3-3-3 図書館

教室・施設名	台数
3 階コンピュータ実習室	PC 42
3 階 CALL 教室	PC 53
3 階グループ学習室 A	PC 1
3 階グループ学習室 B	PC 1
3 階グループ学習室 C	PC 1
3 階 AV ホール	PC 1
4 階コンピュータ教室	PC 50
4 階ラウンジ	PC 33
検索用端末	PC 13
図書館長室	PC 1
PC : 計 786 台	サーバ : 計 38 台

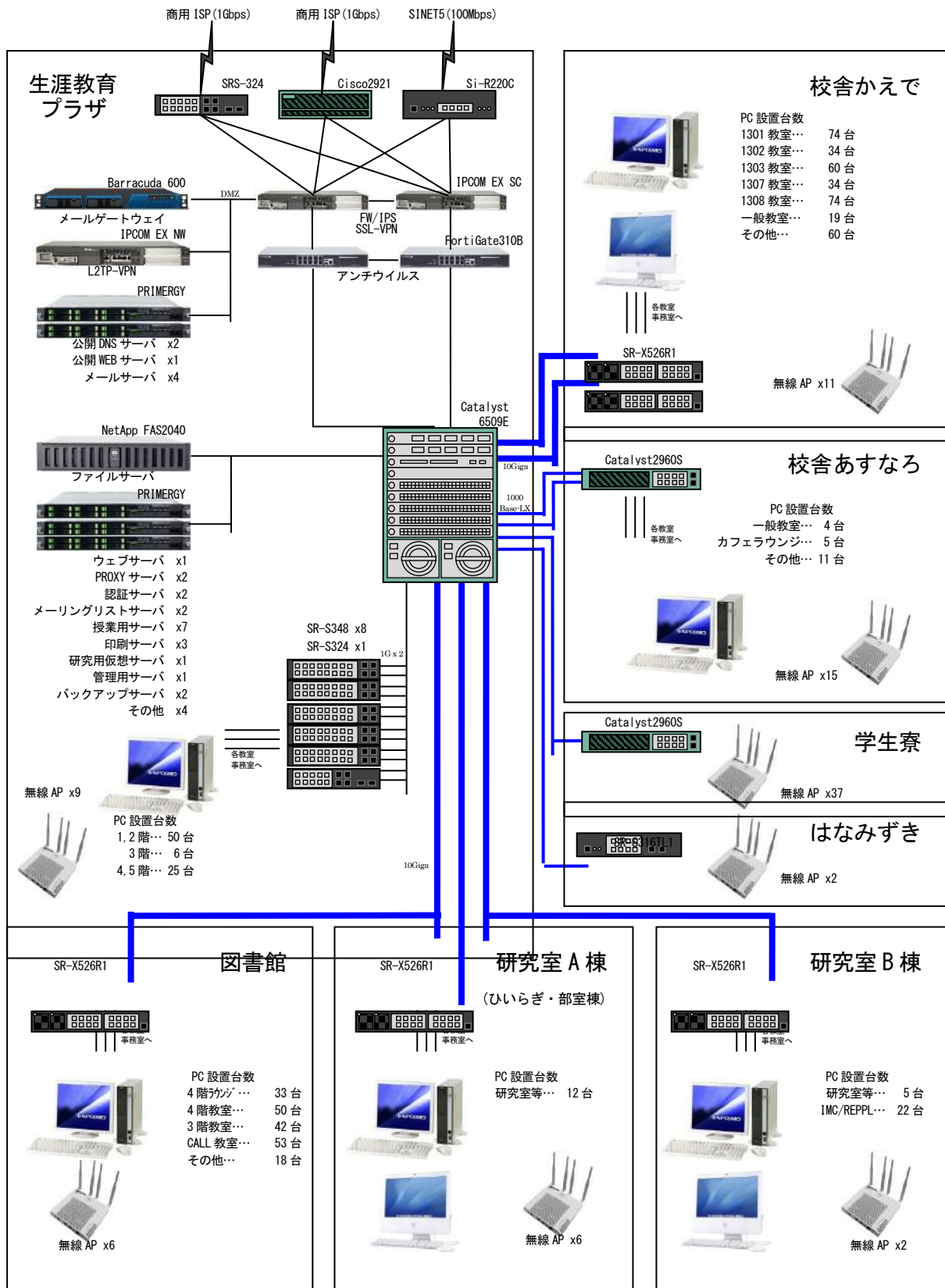
表 3-3-5 生涯教育プラザ

教室・施設名	台数
1 階 PC ルーム	PC 29
2 階 PC サロン	PC 21
4・5 階ブラウジング	PC 12
共同研究室等	PC 13
情報教育センター	PC 6

表 3-3-6 共同利用資源

共同利用資源名	台数
教員用 Web サーバ	サーバ 1
学生用 Web サーバ	サーバ 1
教員用 PROXY サーバ	サーバ 1
学生用 PROXY サーバ	サーバ 1
教員用メールサーバ	サーバ 2
Gmail 連携サーバ	サーバ 2
メーリングリストサーバ	サーバ 2
DNS サーバ	サーバ 2
ActiveDirectory サーバ	サーバ 2
ファイルサーバ	サーバ 1
管理用サーバ	サーバ 1
汎用サーバ	サーバ 1
データベースサーバ	サーバ 1
バックアップサーバ	サーバ 2
ネットワークカメラサーバ	サーバ 1
資源配布サーバ	サーバ 1
TypeQuick サーバ	サーバ 1
アプリケーションサーバ	サーバ 2
WebClass サーバ	サーバ 1
利用状況監視サーバ	サーバ 1
プリンタサーバ	サーバ 3
ファイアウォール/侵入防止	サーバ 2
メールゲートウェイ	サーバ 1
Web アンチウイルス	サーバ 2
L2TP-VPN サーバ	サーバ 1
NetAcademy サーバ	サーバ 1
Amivoice サーバ	サーバ 1
サーバ : 計 38 台	プリンタ : 計 54 台

# 情報ネットワーク構成図



### コンピュータ利用状況

登録ユーザ数	4,928
総ファイル数	14,870,708
総ファイル容量[MB]	4,503,176

### プリンタ印刷枚数

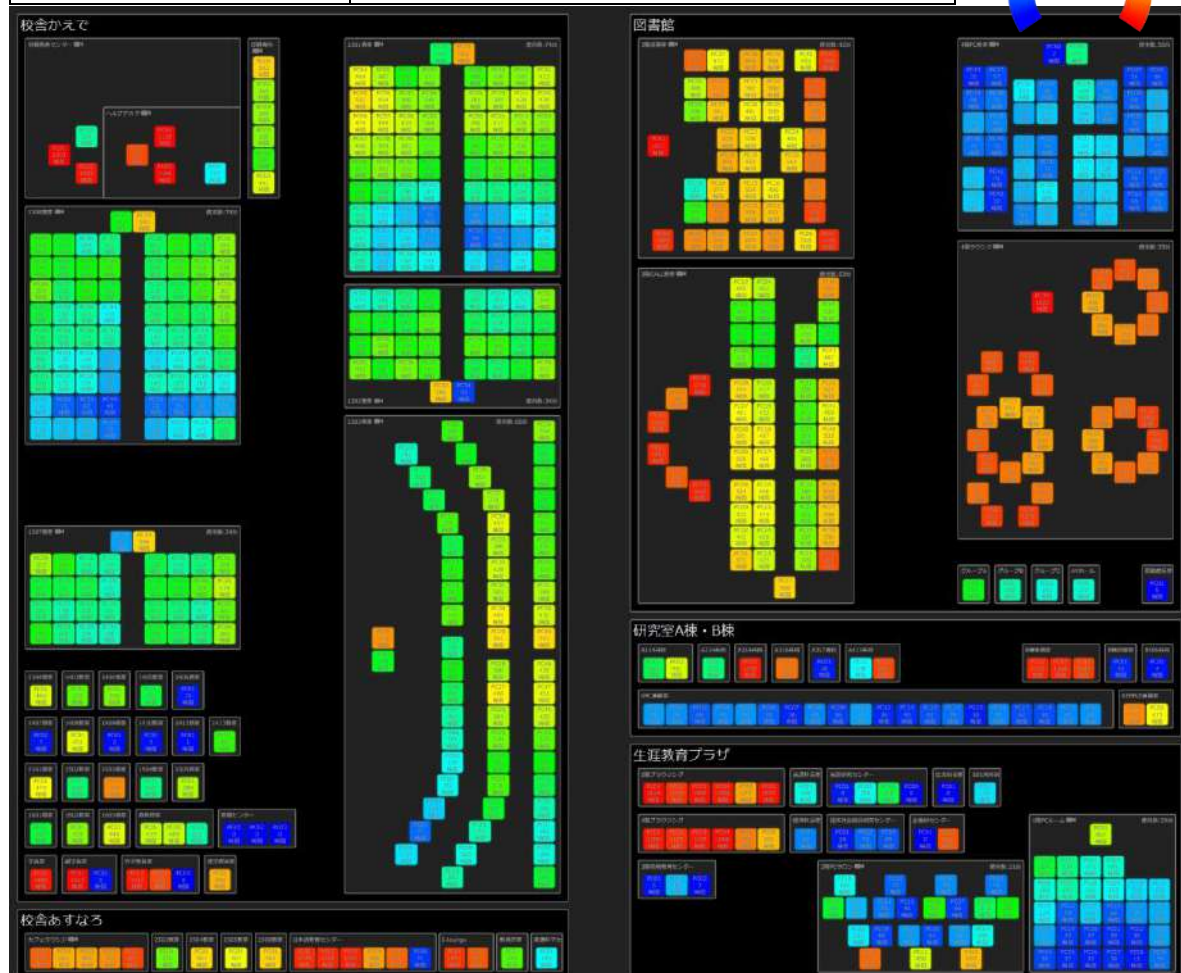
4月	5月	6月	7月	8月	9月	
150,458	148,543	176,992	184,233	57,264	115,031	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
164,796	142,804	119,644	203,950	68,657	52,170	1,584,542

### ヘルプデスク利用件数

申請	相談	整備	忘れ物	障害	その他	合計
2,004	2,244	557	272	7	14	5,098

### PC 利用統計およびヒートマップ

PC 合計利用時間※	234,259 [時間]	※研究用 PC を除く 636 台の利用時間
PC 平均利用時間	368 [時間/台]	



PC教室 通常授業数ヒートマップ

1301 教室

時限 曜日	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
月	0	15	15	30	30
火	30	30	30	10	0
水	30	30	15	30	30
木	15	30	30	0	0
金	0	30	0	0	15
土	0	0	0	0	0

1302 教室

時限 曜日	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
月	15	0	15	30	30
火	0	30	15	30	30
水	0	0	30	30	30
木	30	30	30	0	0
金	18	15	15	30	30
土	0	0	0	0	0

1303 教室

時限 曜日	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
月	0	30	0	30	30
火	30	15	30	30	30
水	0	15	0	30	30
木	30	30	30	0	30
金	0	30	30	0	15
土	0	0	0	0	0

1307 教室

時限 曜日	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
月	30	30	30	30	15
火	15	0	15	30	30
水	30	30	0	15	3
木	0	30	30	30	0
金	15	15	15	0	0
土	4	4	4	3	0

1308 教室

時限 曜日	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
月	0	30	30	30	15
火	30	15	15	30	30
水	30	0	0	8	30
木	15	30	30	0	0
金	0	30	2	17	2
土	2	2	2	2	1

CALL 教室

時限 曜日	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
月	30	30	30	30	0
火	30	30	0	15	15
水	30	30	0	0	0
木	0	30	30	0	0
金	0	0	0	30	0
土	0	0	0	0	0

図書館 PC 教室

時限 曜日	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
月	30	30	30	30	15
火	4	0	0	0	30
水	0	0	0	30	30
木	0	0	30	0	0
金	0	0	0	0	30
土	0	0	0	0	0

IMC 演習室

時限 曜日	1 限	2 限	3 限	4 限	5 限
月	0	0	0	0	0
火	30	30	30	0	0
水	30	30	30	30	0
木	15	30	30	0	0
金	0	30	0	0	0
土	0	0	0	0	0



4. 平成 29 年度入試結果及び入学状況

表4-1 外国語学部

入試区分	専攻名	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	補欠者数	入学者数
A O入試	英語コミュニケーション	約25	3 (2)	3 (2)	3 (2)	1.0	—	3 (2)
	英語・リベラルアーツ		27 (13)	26 (12)	24 (12)	1.1	—	24 (12)
	国際交流・国際協力		8 (7)	8 (7)	7 (6)	1.1	—	7 (6)
	ドイツ語・ドイツ文化		7 (5)	7 (5)	7 (5)	1.0	—	7 (5)
	中国語		8 (3)	8 (3)	8 (3)	1.0	—	8 (3)
	日本語・国際コミュニケーション		5 (2)	4 (1)	4 (1)	1.0	—	4 (1)
	<b>小計</b>		<b>約25</b>	<b>58 (32)</b>	<b>56 (30)</b>	<b>53 (29)</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>
公募推薦入試	英語コミュニケーション	約30	13 (8)	13 (8)	12 (8)	1.1	—	12 (8)
	英語・リベラルアーツ		13 (7)	13 (7)	12 (6)	1.1	—	12 (6)
	国際交流・国際協力		5 (3)	5 (3)	4 (3)	1.3	—	4 (3)
	ドイツ語・ドイツ文化		5 (4)	5 (4)	5 (4)	1.0	—	5 (4)
	中国語		2 (2)	2 (2)	2 (2)	1.0	—	2 (2)
	日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	<b>小計</b>		<b>約30</b>	<b>38 (24)</b>	<b>38 (24)</b>	<b>35 (23)</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>
公募推薦入試	英語コミュニケーション	専 公 募 推 薦 入 試 に 含 む	17 (13)	17 (13)	12 (11)	1.4	—	8 (7)
	英語・リベラルアーツ		9 (7)	9 (7)	8 (6)	1.1	—	4 (2)
	国際交流・国際協力		4 (3)	4 (3)	4 (3)	1.0	—	4 (3)
	ドイツ語・ドイツ文化		2 (0)	2 (0)	1 (0)	2.0	—	0 (0)
	中国語		2 (2)	2 (2)	2 (2)	1.0	—	1 (1)
	日本語・国際コミュニケーション		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	0
	<b>小計</b>		<b>約30</b>	<b>35 (26)</b>	<b>35 (26)</b>	<b>28 (23)</b>	<b>1.3</b>	<b>—</b>
指定校推薦入試	英語コミュニケーション	約30	52 (30)	52 (30)	52 (30)	1.0	—	52 (30)
	英語・リベラルアーツ		41 (25)	41 (25)	41 (25)	1.0	—	41 (25)
	国際交流・国際協力		13 (10)	13 (10)	13 (10)	1.0	—	13 (10)
	ドイツ語・ドイツ文化		2 (2)	2 (2)	2 (2)	1.0	—	2 (2)
	中国語		5 (5)	5 (5)	5 (5)	1.0	—	5 (5)
	日本語・国際コミュニケーション		8 (6)	8 (6)	8 (6)	1.0	—	7 (5)
	<b>小計</b>		<b>約30</b>	<b>121 (78)</b>	<b>121 (78)</b>	<b>121 (78)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>
指定校推薦入試／Ⅱ期 (麗高・瑞高のみ)	英語コミュニケーション	—	0	0	0	—	—	0
	英語・リベラルアーツ		0	0	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	0
	日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	<b>小計</b>		<b>—</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
指定校推薦入試／Ⅲ期 (麗高・瑞高のみ)	英語コミュニケーション	—	0	0	0	—	—	0
	英語・リベラルアーツ		0	0	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	0
	日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	<b>小計</b>		<b>—</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>—</b>	<b>—</b>
麗澤会員子女等推薦入試	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
	英語・リベラルアーツ		0	0	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	0
	日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	<b>小計</b>		<b>若干名</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>—</b>	<b>—</b>

表4-1 外国語学部 (続き)

維持員子女等推薦入試	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
	英語・リベラルアーツ		0	0	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	0
	日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	<b>小 計</b>	<b>若干名</b>	<b>0 ( )</b>	<b>0 ( )</b>	<b>0 ( )</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 ( )</b>
帰国子女入試	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
	英語・リベラルアーツ		0	0	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	0
	日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	<b>小 計</b>	<b>若干名</b>	<b>0 ( )</b>	<b>0 ( )</b>	<b>0 ( )</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 ( )</b>
外国人留学生11月入試	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
	英語・リベラルアーツ		0	0	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	0
	日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	国内受験	約10	2 ( )	2 ( )	1 ( )	2.0	—	1 ( )
	国外受験	若干名	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
	<b>小 計</b>	<b>約10</b>	<b>3 (1)</b>	<b>書類審査のみ</b>	<b>2 (1)</b>	<b>1.5</b>	<b>—</b>	<b>1 ( )</b>
	※ 募集人員には別科推薦・指定校推薦(国内)を含む			<b>6 (2)</b>	<b>6 (2)</b>	<b>4 (2)</b>	<b>1.5</b>	<b>—</b>
外国人留学生入試 別科推薦【Ⅰ期】	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
	英語・リベラルアーツ		0	0	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	0
	日本語・国際コミュニケーション		約5	0	0	0	—	—
	<b>小 計</b>	<b>※</b>	<b>0 ( )</b>	<b>0 ( )</b>	<b>0 ( )</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 ( )</b>
外国人留学生入試 別科推薦【Ⅱ期】	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
	英語・リベラルアーツ		0	0	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	0
	日本語・国際コミュニケーション		約5※	0	0	0	—	—
	<b>小 計</b>	<b>※</b>	<b>0 ( )</b>	<b>0 ( )</b>	<b>0 ( )</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 ( )</b>
外国人留学生 指定校推薦入試 (国内Ⅰ期)	日本語・国際コミュニケーション	※	2 (2)	2 (2)	2 (2)	1.0	—	1 (1)
外国人留学生 指定校推薦入試 (国内Ⅱ期)	日本語・国際コミュニケーション	※	0	0	0	—	—	0
外国人留学生 指定校推薦入試 (国外Ⅰ期)	日本語・国際コミュニケーション	※	0	0	0	—	—	0
外国人留学生 指定校推薦入試 (国外Ⅱ期)	日本語・国際コミュニケーション	※	0	0	0	—	—	0
外国人留学生2月入試	日本語・国際コミュニケーション(漢字圏)	約10	7 (6)	6 (5)	5 (4)	1.2	—	5 (4)
	日本語・国際コミュニケーション(非漢字圏)		1 ( )	1 ( )	1 ( )	1.0	—	1 ( )
	国外受験	若干名	6 (3)	書類審査のみ	5 (3)	1.2	—	2 ( )
	<b>小 計</b>	<b>約10</b>	<b>14 (9)</b>	<b>13 (8)</b>	<b>11 (7)</b>	<b>1.2</b>	<b>—</b>	<b>8 (4)</b>
大学入試センター 試験利用入試／Ⅰ期	英語コミュニケーション	約10	95 (57)	本学での個別学力審査等は課さない	33 (24)	2.9	—	1 (1)
	英語・リベラルアーツ	約10	73 (44)		32 (22)	2.3	—	2 (1)
	国際交流・国際協力	約5	48 (31)		22 (18)	2.2	—	2 (2)
	ドイツ語・ドイツ文化	約5	20 (13)		9 (5)	2.2	—	1 (1)
	中国語	約5	18 (13)		9 (7)	2.0	—	2 (2)
	日本語・国際コミュニケーション	約5	26 (18)		8 (6)	3.3	—	0
	<b>小 計</b>	<b>約40</b>	<b>280 (176)</b>		<b>113 (82)</b>	<b>2.5</b>	<b>0 ( )</b>	<b>8 (7)</b>

表4-1 外国語学部 (続き)

大学入試センター 試験利用入試Ⅰ期	3科目型	英語コミュニケーション	2 科目型 に 含む	64 (37)	本学での個 別学力審査 等は課さない	15 (9)	4.3	—	0
		英語・リベラルアーツ		42 (27)		11 (7)	3.8	—	0
		国際交流・国際協力		38 (29)		14 (10)	2.7	—	2 (1)
		ドイツ語・ドイツ文化		14 (9)		8 (6)	1.8	—	2 (2)
		中国語		18 (12)		11 (6)	1.6	—	0
		日本語・国際コミュニケーション		13 (10)		6 (4)	2.2	—	0 (0)
	<b>小 計</b>	<b>189 (124)</b>		<b>65 (42)</b>		<b>2.9</b>	<b>0 (0)</b>	<b>4 (3)</b>	
大学入試センター 試験利用入試Ⅰ期	4科目型	英語コミュニケーション	2 科目型 に 含む	2 (2)	本学での個 別学力審査 等は課さない	1 (1)	2.0	—	0
		英語・リベラルアーツ		2 (2)		1 (1)	2.0	—	0 (0)
		国際交流・国際協力		4 (4)		3 (3)	1.3	—	0
		ドイツ語・ドイツ文化		5 (3)		2 (1)	2.5	—	0
		中国語		3 (3)		2 (2)	1.5	—	0
		日本語・国際コミュニケーション		1 (1)		1 (1)	1.0	—	0
	<b>小 計</b>	<b>17 (15)</b>		<b>10 (9)</b>		<b>1.7</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	
一般2月入試【A日程】 (本学・サライト)	2科目型	英語コミュニケーション	約30	149 (86)	145 (82)	29 (16)	5.0	—	14 (7)
		英語・リベラルアーツ	約40	90 (51)	90 (51)	25 (13)	3.6	—	5 (3)
		国際交流・国際協力	約20	54 (33)	54 (33)	17 (10)	3.2	—	4 (3)
		ドイツ語・ドイツ文化	約20	26 (16)	26 (16)	7 (2)	3.7	—	3 (0)
		中国語	約20	15 (12)	15 (12)	3 (3)	5.0	—	1 (1)
		日本語・国際コミュニケーション	約15	28 (19)	28 (19)	11 (8)	2.5	—	3 (2)
	<b>小 計</b>	<b>約145</b>	<b>362 (217)</b>	<b>358 (213)</b>	<b>92 (52)</b>	<b>3.9</b>	<b>0 (0)</b>	<b>30 (16)</b>	
一般2月入試【A日程】 (本学・サライト)	3科目型	英語コミュニケーション	2 科目型 に 含む	45 (26)	44 (25)	14 (9)	3.1	—	7 (5)
		英語・リベラルアーツ		36 (20)	35 (19)	15 (9)	2.3	—	4 (2)
		国際交流・国際協力		19 (11)	19 (11)	13 (8)	1.5	—	5 (5)
		ドイツ語・ドイツ文化		12 (6)	12 (6)	3 (1)	4.0	—	1 (0)
		中国語		7 (5)	7 (5)	3 (1)	2.3	—	1 (0)
		日本語・国際コミュニケーション		12 (6)	12 (6)	7 (3)	1.7	—	3 (0)
	<b>小 計</b>	<b>131 (74)</b>		<b>129 (72)</b>	<b>55 (31)</b>	<b>2.3</b>	<b>0 (0)</b>	<b>21 (12)</b>	
一般2月入試【B日程】 (本学)	2科目型	英語コミュニケーション	A 日程 に 含む	58 (34)	56 (34)	9 (5)	6.2	—	1 (0)
		英語・リベラルアーツ		43 (23)	42 (23)	14 (10)	3.0	—	3 (2)
		国際交流・国際協力		31 (16)	31 (16)	10 (5)	3.1	—	3 (1)
		ドイツ語・ドイツ文化		13 (7)	13 (7)	8 (3)	1.6	—	4 (2)
		中国語		9 (7)	9 (7)	3 (3)	3.0	—	0
		日本語・国際コミュニケーション		21 (13)	21 (13)	5 (3)	4.2	—	2 (2)
	<b>小 計</b>	<b>175 (100)</b>		<b>172 (100)</b>	<b>49 (29)</b>	<b>3.5</b>	<b>0 (0)</b>	<b>13 (7)</b>	
一般2月入試【B日程】 (本学)	3科目型	英語コミュニケーション	A 日程 に 含む	19 (11)	19 (11)	4 (2)	4.8	—	0
		英語・リベラルアーツ		14 (8)	14 (8)	5 (3)	2.8	—	2 (1)
		国際交流・国際協力		14 (10)	14 (10)	5 (5)	2.8	—	3 (3)
		ドイツ語・ドイツ文化		7 (2)	7 (2)	4 (1)	1.8	—	1 (0)
		中国語		4 (1)	4 (1)	2 (1)	2.0	—	1 (0)
		日本語・国際コミュニケーション		6 (5)	6 (5)	3 (3)	2.0	—	1 (1)
	<b>小 計</b>	<b>64 (37)</b>		<b>64 (37)</b>	<b>23 (15)</b>	<b>2.8</b>	<b>0 (0)</b>	<b>8 (5)</b>	
大学入試センター 試験利用入試Ⅱ期	約10	英語コミュニケーション	約10	9 (4)	本学での個 別学力審査 等は課さない	3 (2)	3.0	—	0
		英語・リベラルアーツ		5 (3)		2 (0)	2.5	—	0
		国際交流・国際協力		6 (3)		4 (2)	1.5	—	2 (1)
		ドイツ語・ドイツ文化		3 (2)		2 (1)	1.5	—	1 (1)
		中国語		2 (1)		0	—	—	0
		日本語・国際コミュニケーション		3 (2)		2 (2)	1.5	—	0
	<b>小 計</b>	<b>約10</b>		<b>28 (15)</b>		<b>13 (7)</b>	<b>2.2</b>	<b>0 (0)</b>	<b>3 (2)</b>
一般3月入試【A日程】	センター Ⅱ期 に 含む	英語コミュニケーション	セ ン タ ー Ⅱ 期 に 含 む	6 (4)	6 (4)	3 (3)	2.0	—	2 (2)
		英語・リベラルアーツ		22 (18)	21 (17)	13 (12)	1.6	—	8 (7)
		国際交流・国際協力		18 (13)	17 (12)	12 (10)	1.4	—	2 (1)
		ドイツ語・ドイツ文化		10 (6)	10 (6)	8 (6)	1.3	—	5 (4)
		中国語		8 (5)	8 (5)	5 (5)	1.6	—	1 (1)
		日本語・国際コミュニケーション		9 (6)	8 (5)	6 (4)	1.3	—	3 (2)
	<b>小 計</b>	<b>73 (52)</b>		<b>70 (49)</b>	<b>47 (40)</b>	<b>1.5</b>	<b>0 (0)</b>	<b>21 (17)</b>	

表4-1 外国語学部 (続き)

一般3月入試【B日程】	英語コミュニケーション		2 (1)	2 (1)	2 (1)	1.0	—	2 (1)
	英語・リハビリアート	センターⅡ期を含む	1 (1)	1 (1)	0	—	—	0
	国際交流・国際協力		6 (4)	6 (4)	3 (3)	2.0	—	3 (3)
	ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
	中国語		0	0	0	—	—	1 (1)
					1 (1)	—	—	
					2 (1)	1.0	—	
	日本語・国際コミュニケーション			2 (1)	2 (1)	1 (0)	—	3 (1)
<b>小 計</b>			<b>11 (7)</b>	<b>11 (7)</b>	<b>9 (6)</b>	<b>1.2</b>	<b>0 (0)</b>	<b>9 (6)</b>
全入試合計	英語コミュニケーション	40	534 (315)	527 (310)	192 (123)	2.7	— (0)	102 (63)
	英語・リハビリアート	100	418 (249)	414 (246)	203 (126)	2.0	— (0)	105 (61)
	国際交流・国際協力	40	268 (177)	267 (176)	131 (96)	2.0	— (0)	54 (42)
	ドイツ語・ドイツ文化	40	126 (75)	126 (75)	66 (37)	1.9	— (0)	32 (21)
	中国語	40	101 (71)	101 (71)	56 (41)	1.8	— (0)	23 (16)
	日本語・国際コミュニケーション	20	135 (90)	133 (88)	65 (43)	2.0	— (0)	26 (14)
	日本語・国際コミュニケーション(外国人)	20	22 (13)	21 (12)	17 (11)	1.2	— (0)	12 (6)
	<b>合 計</b>	<b>300</b>	<b>1604 (990)</b>	<b>1589 (978)</b>	<b>730 (477)</b>	<b>2.2</b>	<b>0 (0)</b>	<b>354 (223)</b>

( ) 内は女子内数

※一般3月入試B日程の合格者数欄は、上段＝第1志望専攻についての合格者数、中段＝第2志望専攻についての合格者数、下段＝第3志望専攻についての合格者数

表4-2 外国語学部編入学試験

編入学試験区分		専攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	補欠者数	入学者数
I 期	2 年次	英語コミュニケーション	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	—	2 (0)
		英語・英米文化	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
		<b>小 計</b>	<b>若干名</b>	<b>3 (0)</b>	<b>3 (0)</b>	<b>3 (0)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>3 (0)</b>
	3 年次	英語コミュニケーション	若干名	2 (2)	2 (2)	1 (1)	2.0	—	1 (1)
		英語・英米文化		1 (1)	1 (1)	0	—	—	0
		<b>小 計</b>	<b>若干名</b>	<b>3 (3)</b>	<b>3 (3)</b>	<b>1 (1)</b>	<b>3.0</b>	<b>—</b>	<b>1 (1)</b>
II 期	2 年次	日本語・国際コミュニケーション (外国人)	若干名	0	0	0	—	—	0
	3 年次	日本語・国際コミュニケーション (外国人)	若干名	1 (1)	0	0	—	—	0
【指定校枠】 (I 期)	2 年次	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
		英語・英米文化		0	0	0	—	—	0
		国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
		ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
		中国語		0	0	0	—	—	0
		日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	2 年次 (日本語を第一言語としない者)	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
		英語・英米文化		0	0	0	—	—	0
		国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
		ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
		中国語		0	0	0	—	—	0
		日本語・国際コミュニケーション (国内)		0	0	0	—	—	0
		日本語・国際コミュニケーション (国外)		0	0	0	—	—	0
	<b>小 計 (I 期)</b>		<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 (0)</b>	
	3 年次	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
		英語・英米文化		0	0	0	—	—	0
		国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
		ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
		中国語		0	0	0	—	—	0
		日本語・国際コミュニケーション		0	0	0	—	—	0
	3 年次 (日本語を第一言語としない者)	英語コミュニケーション	若干名	0	0	0	—	—	0
		英語・英米文化		0	0	0	—	—	0
		国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0
		ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0
		中国語		0	0	0	—	—	0
		日本語・国際コミュニケーション (国内)		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
		日本語・国際コミュニケーション (国外・ダブルディグリー)		2 (1)	2 (1)	2 (1)	1.0	—	2 (1)
	<b>小 計 (I 期)</b>		<b>4 (2)</b>	<b>3 (1)</b>	<b>3 (1)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>3 (1)</b>	

表4-2 外国語学部編入学試験（続き）

編入学試験区分	専攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	補欠者数	入学者数	
Ⅲ期	2年次	英語コミュニケーション	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	—	2 (0)	
		英語・英米文化	0	0	0	—	—	0	
		国際交流・国際協力	3 (0)	3 (0)	2 (0)	1.5	—	2 (0)	
		ドイツ語・ドイツ文化	0	0	0	—	—	0	
		中国語	0	0	0	—	—	0	
		日本語・国際コミュニケーション (日本人)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)	
		日本語・国際コミュニケーション (留学生)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)	
	3年次	英語コミュニケーション	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	—	2 (0)	
		英語・英米文化	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)	
		国際交流・国際協力	6 (1)	6 (1)	2 (0)	3.0	—	2 (0)	
		ドイツ語・ドイツ文化	0	0	0	—	—	0	
		中国語	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)	
		日本語・国際コミュニケーション (日本人)	0	0	0	—	—	0	
		日本語・国際コミュニケーション (留学生)	0	0	0	—	—	0	
【指定校枠】 (Ⅱ期)	2年次	英語コミュニケーション	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)	
		英語・英米文化	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)	
		国際交流・国際協力	2 (2)	2 (2)	2 (2)	1.0	—	2 (2)	
		ドイツ語・ドイツ文化	0	0	0	—	—	0	
		中国語	0	0	0	—	—	0	
		日本語・国際コミュニケーション (日本人)	0	0	0	—	—	0	
	2年次 (日本語を第一言語としな い者)	英語コミュニケーション	0	0	0	—	—	0	
		英語・英米文化	0	0	0	—	—	0	
		国際交流・国際協力	0	0	0	—	—	0	
		ドイツ語・ドイツ文化	0	0	0	—	—	0	
		中国語	0	0	0	—	—	0	
		日本語・国際コミュニケーション (国内)	0	0	0	—	—	0	
	日本語・国際コミュニケーション (国外)	0	0	0	—	—	0		
	<b>小 計 (Ⅱ期)</b>		若干名	<b>4 (3)</b>	<b>4 (3)</b>	<b>4 (3)</b>	<b>1.0</b>	—	<b>4 (3)</b>
	3年次	英語コミュニケーション	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	—	2 (0)	
		英語・英米文化	1 (0)	1 (0)	0	—	—	0	
		国際交流・国際協力	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)	
		ドイツ語・ドイツ文化	0	0	0	—	—	0	
		中国語	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)	
		日本語・国際コミュニケーション	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)	
	3年次 (日本語を第一言語としな い者)	英語コミュニケーション	0	0	0	—	—	0	
英語・英米文化		0	0	0	—	—	0		
国際交流・国際協力		0	0	0	—	—	0		
ドイツ語・ドイツ文化		0	0	0	—	—	0		
中国語		0	0	0	—	—	0		
日本語・国際コミュニケーション (国内)		0	0	0	—	—	0		
日本語・国際コミュニケーション (国外・ダブル学位 枠)	0	0	0	—	—	0			
<b>小 計 (Ⅱ期)</b>		若干名	<b>6 (3)</b>	<b>6 (3)</b>	<b>5 (3)</b>	<b>1.2</b>	—	<b>5 (3)</b>	

表4-2 外国語学部編入学試験（続き）

総合計	2年次	英語コミュニケーション	若干名	5	(1)	5	(1)	5	(1)	1.0	—	5	(1)
		英語・英米文化		2	(0)	2	(0)	2	(0)	1.0	—	2	(0)
		国際交流・国際協力		5	(2)	5	(2)	4	(2)	1.3	—	4	(2)
		ドイツ語・ドイツ文化		0	(0)	0	(0)	0	(0)	—	—	0	(0)
		中国語		0	(0)	0	(0)	0	(0)	—	—	0	(0)
		日本語・国際コミュニケーション (日本人)		1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0	—	1	(0)
		日本語・国際コミュニケーション (外国人)		1	(0)	1	(0)	1	(0)	1.0	—	1	(0)
	<b>合計</b>	<b>若干名</b>	<b>14</b>	<b>(3)</b>	<b>14</b>	<b>(3)</b>	<b>13</b>	<b>(3)</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>	<b>13</b>	<b>(3)</b>	
	3年次	英語コミュニケーション	若干名	6	(2)	6	(2)	5	(1)	1.2	—	5	(1)
		英語・英米文化		3	(2)	3	(2)	1	(1)	3.0	—	1	(1)
		国際交流・国際協力		7	(2)	7	(2)	3	(1)	2.3	—	3	(1)
		ドイツ語・ドイツ文化		0	(0)	0	(0)	0	(0)	—	—	0	(0)
		中国語		2	(2)	2	(2)	2	(2)	1.0	—	2	(2)
		日本語・国際コミュニケーション (日本人)		1	(1)	1	(1)	1	(1)	1.0	—	1	(1)
		日本語・国際コミュニケーション (外国人)		4	(2)	3	(1)	3	(1)	1.0	—	3	(1)
<b>合計</b>	<b>若干名</b>	<b>23</b>	<b>(11)</b>	<b>22</b>	<b>(10)</b>	<b>15</b>	<b>(7)</b>	<b>1.5</b>	<b>—</b>	<b>15</b>	<b>(7)</b>		

( )内は女子内数

表4-3 経済学部

入試区分	学科名	専攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	補欠者数	入学者数	
A〇入試／Ⅰ期	課題型	経済学科	経済専攻	約30	7 (2)	7 (2)	7 (2)	1.0	—	6 (2)
			グローバル人材育成専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
		経営学科	経営専攻	約20	2 (1)	2 (1)	2 (1)	1.0	—	2 (1)
		会計ファイナンス専攻	2 (0)		2 (0)	1 (0)	2.0	—	1 (0)	
		<b>小計</b>		<b>約50</b>	<b>12 (4)</b>	<b>12 (4)</b>	<b>11 (4)</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>	<b>10 (4)</b>
	資格型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		4 (2)	4 (2)	4 (2)	1.0	—	4 (2)
		経営学科	経営専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
			会計ファイナンス専攻	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)	
		<b>小計</b>		<b>6 (4)</b>	<b>6 (4)</b>	<b>6 (4)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>6 (4)</b>	
	スポーツ型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	—	2 (0)
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
経営学科		経営専攻	9 (1)		9 (1)	9 (1)	1.0	—	7 (0)	
		会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0		
	<b>小計</b>		<b>11 (1)</b>	<b>11 (1)</b>	<b>11 (1)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>9 (0)</b>		
A〇入試／Ⅱ期	課題型	経済学科	経済専攻	I期に含む	3 (0)	3 (0)	3 (0)	1.0	—	3 (0)
			グローバル人材育成専攻		2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	—	2 (0)
		経営学科	経営専攻	I期に含む	4 (0)	4 (0)	4 (0)	1.0	—	4 (0)
		会計ファイナンス専攻	0		0	0	—	—	0	
		<b>小計</b>		<b>9 (0)</b>	<b>9 (0)</b>	<b>9 (0)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>9 (0)</b>	
	資格型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0	
		<b>小計</b>		<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 (0)</b>	
	スポーツ型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
経営学科		経営専攻	4 (0)		4 (0)	4 (0)	1.0	—	4 (0)	
		会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0		
	<b>小計</b>		<b>4 (0)</b>	<b>4 (0)</b>	<b>4 (0)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>4 (0)</b>		
A〇入試／Ⅲ期	課題型	経済学科	経済専攻	I期に含む	6 (0)	6 (0)	6 (0)	1.0	—	5 (0)
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻	I期に含む	4 (1)	4 (1)	4 (1)	1.0	—	4 (1)
		会計ファイナンス専攻	0		0	0	—	—	0	
		<b>小計</b>		<b>10 (1)</b>	<b>10 (1)</b>	<b>10 (1)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>9 (1)</b>	
	資格型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0	
		<b>小計</b>		<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 (0)</b>	
	スポーツ型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
経営学科		経営専攻	8 (0)		8 (0)	8 (0)	1.0	—	7 (0)	
		会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0		
	<b>小計</b>		<b>8 (0)</b>	<b>8 (0)</b>	<b>8 (0)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>7 (0)</b>		
A〇入試／Ⅳ期	課題型	経済学科	経済専攻	I期に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻	I期に含む	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
		会計ファイナンス専攻	0		0	0	—	—	0	
		<b>小計</b>		<b>1 (0)</b>	<b>1 (0)</b>	<b>1 (0)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>1 (0)</b>	
	資格型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0	
		<b>小計</b>		<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 (0)</b>	
	スポーツ型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
経営学科		経営専攻	0		0	0	—	—	0	
		会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0		
	<b>小計</b>		<b>1 (0)</b>	<b>1 (0)</b>	<b>1 (0)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>1 (0)</b>		
A〇入試／Ⅴ期	課題型	経済学科	経済専攻	I期に含む	2 (0)	2 (0)	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		1 (0)	1 (0)	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻	I期に含む	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
		会計ファイナンス専攻	0		0	0	—	—	0	
		<b>小計</b>		<b>4 (1)</b>	<b>4 (1)</b>	<b>1 (1)</b>	<b>4.0</b>	<b>—</b>	<b>1 (1)</b>	
	資格型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0	
		<b>小計</b>		<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>0 (0)</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 (0)</b>	
	スポーツ型	経済学科	経済専攻	課題型に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
経営学科		経営専攻	1 (0)		1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)	
		会計ファイナンス専攻	0	0	0	—	—	0		
	<b>小計</b>		<b>1 (0)</b>	<b>1 (0)</b>	<b>1 (0)</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>1 (0)</b>		



表4-3 経済学部 (続き)

公募推薦入試／Ⅰ期	専願型	経済学科	経済専攻	約5	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営専攻	約5	3 (1)	3 (1)	3 (1)	1.0	—	3 (1)	
	経営学科	会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0	
	小計			約10	4 (1)	4 (1)	4 (1)	1.0	—	4 (1)
公募推薦入試／Ⅰ期	併願型	経済学科	経済専攻	Ⅰ期 専願型 に含む	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
			グローバル人材育成専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
	小計				3 (2)	3 (2)	3 (2)	1.0	—	3 (2)
公募推薦入試／Ⅱ期		経済学科	経済専攻	Ⅰ期に含む	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
			グローバル人材育成専攻		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	0
		経営学科	経営専攻		2 (2)	2 (2)	2 (2)	1.0	—	2 (2)
			会計ファイナンス専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
	小計				5 (3)	5 (3)	5 (3)	1.0	—	4 (3)
公募推薦入試／Ⅲ期		経済学科	経済専攻	Ⅰ期に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計				0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)
公募推薦入試／Ⅳ期		経済学科	経済専攻	Ⅰ期に含む	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
	小計				2 (1)	2 (1)	2 (1)	1.0	—	2 (1)
指定校推薦入試		経済学科	経済専攻	約30	37 (7)	37 (7)	37 (7)	1.0	—	37 (7)
			グローバル人材育成専攻		28 (14)	28 (14)	28 (14)	1.0	—	27 (14)
		経営学科	経営専攻	約20	27 (13)	27 (13)	27 (13)	1.0	—	27 (13)
			会計ファイナンス専攻		11 (4)	11 (4)	11 (4)	1.0	—	11 (4)
	小計			約50	103 (38)	103 (38)	103 (38)	1.0	—	102 (38)
指定校推薦入試／Ⅱ期 (麗高・瑞高・明徳・開星のみ)		経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計				1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
指定校推薦入試／Ⅲ期 (麗高・瑞高・明徳・開星のみ)		経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計				1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
麗澤会員子女等推薦入試／Ⅰ期		経済学科	経済専攻	若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計			若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)
麗澤会員子女等推薦入試／Ⅱ期		経済学科	経済専攻	若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計			若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)
麗澤会員子女等推薦入試／Ⅲ期		経済学科	経済専攻	若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計			若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)
麗澤会員子女等推薦入試／Ⅳ期		経済学科	経済専攻	若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計			若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)
維持員子女等推薦入試／Ⅰ期		経済学科	経済専攻	若干名	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計			若干名	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
維持員子女等推薦入試／Ⅱ期		経済学科	経済専攻	若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計			若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)
維持員子女等推薦入試／Ⅲ期		経済学科	経済専攻	若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計			若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)
維持員子女等推薦入試／Ⅳ期		経済学科	経済専攻	若干名	0	0	0	—	—	0
			グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
		経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	小計			若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	—	—	0 (0)

表4-3 経済学部 (続き)

帰国子女入試	経済学科	経済専攻	若干名	0	0	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>			<b>若干名</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0</b>
外国人留学生11月入試【国内】 ※募集人員には別科推薦・ 特別指定校入試を含む	経済学科	経済専攻	約10	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		10 (5)	10 (5)	10 (5)	1.0	—	9 (4)
		会計ファイナンス専攻		4 (4)	3 (3)	3 (3)	1.0	—	2 (2)
<b>小 計</b>			<b>約20</b>	<b>15</b>	<b>14</b>	<b>14</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>12</b>
外国人留学生11月入試【国外】	経済学科	経済専攻	国内に 含める	0	0	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	—	1 (0)
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>				<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>1</b>
外国人留学生2月入試【国内】	経済学科	経済専攻	11月入試 に含める	2 (1)	1 (0)	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		5 (1)	5 (1)	5 (1)	1.0	—	2 (0)
		会計ファイナンス専攻		4 (3)	4 (3)	4 (3)	1.0	—	4 (3)
<b>小 計</b>				<b>11</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>	<b>6</b>
外国人留学生2月入試【国外】	経済学科	経済専攻	国内に 含める	4 (0)	4 (0)	4 (0)	1.0	—	1 (0)
		グローバル人材育成専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	0
	経営学科	経営専攻		3 (1)	3 (1)	3 (1)	1.0	—	0
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>				<b>8</b>	<b>8</b>	<b>8</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>1</b>
外国人留学生入試 別科推薦 【Ⅰ期】	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	0	0	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>				<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>1</b>
外国人留学生入試 別科推薦 【Ⅱ期】	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	0	0	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
	経営学科	経営専攻		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>				<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>2</b>
外国人留学生入試 別科推薦 【Ⅲ期】	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	0	0	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>				<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0</b>
外国人留学生 特別指定校入試/Ⅰ期 (明德・特別指定校)	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		9 (3)	9 (3)	9 (3)	1.0	—	9 (3)
		会計ファイナンス専攻		2 (1)	2 (1)	2 (1)	1.0	—	2 (1)
<b>小 計</b>				<b>12</b>	<b>12</b>	<b>12</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>12</b>
外国人留学生 特別指定校入試/Ⅰ期 (日本国外校:遼寧、韓国)	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		0	0	0	—	—	0
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>				<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>1</b>
外国人留学生 特別指定校入試/Ⅱ期 (明德、国内日本語学校)	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0	—	2 (0)
		グローバル人材育成専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
	経営学科	経営専攻		7 (4)	7 (4)	7 (4)	1.0	—	7 (4)
		会計ファイナンス専攻		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
<b>小 計</b>				<b>11</b>	<b>11</b>	<b>11</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>11</b>
外国人留学生 特別指定校入試/Ⅱ期 (日本国外校:遼寧、韓国)	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	0	0	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		5 (4)	5 (4)	5 (4)	1.0	—	5 (2)
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>				<b>5</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>5</b>
外国人留学生 特別指定校入試/Ⅲ期 (国内日本語学校)	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	0	0	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	1 (1)
	経営学科	経営専攻		3 (1)	3 (1)	3 (1)	1.0	—	3 (1)
		会計ファイナンス専攻		1 (1)	1 (1)	1 (1)	1.0	—	0
<b>小 計</b>				<b>5</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>4</b>
外国人留学生 特別指定校入試/Ⅲ期 (日本国外校:遼寧、韓国)	経済学科	経済専攻	2学科で 若干名	0	0	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1.0	—	1 (0)
	経営学科	経営専攻		4 (1)	4 (1)	4 (1)	1.0	—	4 (1)
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
<b>小 計</b>				<b>5</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>5</b>

表 4-3 経済学部 (続き)

大学入試センター 試験利用入試 / I 期	2科目型	経済学科	経済専攻	約15	62 (11)	本学での個別学力 検査等は課さない。	58 (11)	1.1	—	7 (0)
			グローバル人材育成専攻	約15	39 (14)		36 (13)	1.1	—	4 (2)
		経営学科	経営専攻	約15	60 (19)		52 (18)	1.2	—	7 (2)
			会計ファイナンス専攻	約15	21 (9)		18 (8)	1.2	—	3 (2)
		<b>小 計</b>	<b>約60</b>	<b>182 (53)</b>	<b>164 (50)</b>		<b>1.1</b>	<b>—</b>	<b>21 (6)</b>	
大学入試センター 試験利用入試 / I 期	3科目型	経済学科	経済専攻	43 (11)	2科目型 に含む	本学での個別学力 検査等は課さない。	35 (10)	1.2	—	8 (3)
			グローバル人材育成専攻	17 (6)			15 (6)	1.1	—	2 (1)
		経営学科	経営専攻	31 (11)			26 (11)	1.2	—	1 (0)
			会計ファイナンス専攻	11 (3)			10 (3)	1.1	—	2 (1)
		<b>小 計</b>	<b>102 (31)</b>	<b>86 (30)</b>			<b>1.2</b>	<b>—</b>	<b>13 (5)</b>	
大学入試センター 試験利用入試 / I 期	4科目型	経済学科	経済専攻	1 (1)	2科目型 に含む	本学での個別学力 検査等は課さない。	1 (1)	1.0	—	1 (1)
			グローバル人材育成専攻	0			0	—	—	0
		経営学科	経営専攻	0			0	—	—	0
			会計ファイナンス専攻	0			0	—	—	0
		<b>小 計</b>	<b>1 (1)</b>	<b>1 (1)</b>			<b>1.0</b>	<b>—</b>	<b>1 (1)</b>	
一般2月入試【A日程】 (本学・サテライト)	2科目型	経済学科	経済専攻	約25	46 (4)	42 (4)	38 (3)	1.1	—	11 (1)
			グローバル人材育成専攻	約25	40 (16)	40 (16)	38 (15)	1.1	—	13 (4)
		経営学科	経営専攻	約20	31 (5)	29 (5)	27 (5)	1.1	—	2 (0)
			会計ファイナンス専攻	約15	13 (3)	12 (3)	12 (3)	1.0	—	2 (0)
		<b>小 計</b>	<b>約85</b>	<b>130 (28)</b>	<b>123 (28)</b>	<b>115 (26)</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>	<b>28 (5)</b>	
一般2月入試【A日程】 (本学・サテライト)	3科目型	経済学科	経済専攻	16 (4)	15 (3)	13 (3)	13 (3)	1.2	—	7 (1)
			グローバル人材育成専攻	6 (4)	5 (3)	4 (3)	4 (3)	1.3	—	1 (1)
		経営学科	経営専攻	11 (4)	10 (3)	9 (3)	9 (3)	1.1	—	3 (1)
			会計ファイナンス専攻	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	1.0	—	0
		<b>小 計</b>	<b>36 (13)</b>	<b>33 (10)</b>	<b>29 (10)</b>	<b>29 (10)</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>	<b>11 (3)</b>	
一般2月入試【B日程】 (本学)	2科目型	経済学科	経済専攻	20 (2)	16 (2)	14 (2)	14 (2)	1.1	—	5 (0)
			グローバル人材育成専攻	21 (9)	19 (9)	18 (9)	18 (9)	1.1	—	6 (3)
		経営学科	経営専攻	17 (5)	13 (5)	12 (5)	12 (5)	1.1	—	2 (0)
			会計ファイナンス専攻	6 (1)	4 (1)	4 (1)	4 (1)	1.0	—	1 (1)
		<b>小 計</b>	<b>64 (17)</b>	<b>52 (17)</b>	<b>48 (17)</b>	<b>48 (17)</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>	<b>14 (4)</b>	
一般2月入試【B日程】 (本学)	3科目型	経済学科	経済専攻	21 (4)	21 (4)	17 (4)	17 (4)	1.2	—	4 (1)
			グローバル人材育成専攻	11 (2)	11 (2)	9 (2)	9 (2)	1.2	—	3 (0)
		経営学科	経営専攻	18 (4)	17 (4)	14 (4)	14 (4)	1.2	—	4 (1)
			会計ファイナンス専攻	4 (0)	4 (0)	3 (0)	3 (0)	1.3	—	0
		<b>小 計</b>	<b>54 (10)</b>	<b>53 (10)</b>	<b>43 (10)</b>	<b>43 (10)</b>	<b>1.2</b>	<b>—</b>	<b>11 (2)</b>	
大学入試センター 試験利用入試 / II 期	2科目型	経済学科	経済専攻	約15	26 (4)	本学での個別学力 検査等は課さない。	20 (3)	1.3	—	3 (0)
			グローバル人材育成専攻	9 (3)	7 (2)		1.3	—	1 (0)	
		経営学科	経営専攻	約10	21 (4)		17 (3)	1.2	—	3 (0)
			会計ファイナンス専攻	約10	19 (4)		15 (3)	1.3	—	4 (0)
		<b>小 計</b>	<b>約25</b>	<b>75 (15)</b>	<b>59 (11)</b>		<b>1.3</b>	<b>—</b>	<b>11 (0)</b>	
一般3月入試	2科目型	経済学科	経済専攻	37 (5)	32 (5)	30 (5)	30 (5)	1.1	—	13 (1)
			グローバル人材育成専攻	17 (5)	13 (5)	13 (5)	13 (5)	1.0	—	9 (3)
		経営学科	経営専攻	28 (6)	27 (6)	25 (6)	25 (6)	1.1	—	6 (2)
			会計ファイナンス専攻	17 (5)	16 (5)	15 (5)	15 (5)	1.1	—	2 (1)
		<b>小 計</b>	<b>99 (21)</b>	<b>88 (21)</b>	<b>83 (21)</b>	<b>83 (21)</b>	<b>1.1</b>	<b>—</b>	<b>30 (7)</b>	
大学入試センター 試験利用入試 / III 期	2科目型	経済学科	経済専攻	11 (3)	センター試験 / II 期に 含む	本学での個別学力 検査等は課さない。	5 (0)	2.2	—	3 (0)
			グローバル人材育成専攻	6 (2)			3 (1)	2.0	—	3 (1)
		経営学科	経営専攻	4 (2)			2 (1)	2.0	—	1 (0)
			会計ファイナンス専攻	1 (0)			0	—	—	0
		<b>小 計</b>	<b>22 (7)</b>	<b>10 (2)</b>			<b>2.2</b>	<b>—</b>	<b>7 (1)</b>	
<b>全入試合計</b>	経済学科	経済専攻	約170	356 (61)	341 (59)	300 (53)	1.1	—	126 (19)	
		グローバル人材育成専攻	約170	210 (84)	203 (83)	186 (79)	1.1	—	82 (37)	
		経営学科	経営専攻	約130	340 (102)	331 (101)	303 (98)	1.1	—	137 (42)
			会計ファイナンス専攻	約130	124 (41)	119 (40)	107 (38)	1.1	—	39 (17)
		<b>合 計</b>	<b>約300</b>	<b>1030 (288)</b>	<b>994 (283)</b>	<b>896 (268)</b>	<b>1.1</b>	<b>0</b>	<b>384 (115)</b>	

※ ( ) 内は女子内数

表 4-4 経済学部 (スカラシップ入試)  
外国人留学生入試 (志願者数は外国人留学生入試の内数)

入試区分	学 科 名	専 攻	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	補欠者数	入学者数
スカラシップ入試 (外国人留学生入試)	経済学科	経済専攻	3名	1 (0)	1 (0)	0	—	—	0
		グローバル人材育成専攻		0	0	0	—	—	0
	経営学科	経営専攻		5 (2)	5 (2)	2 (0)	2.5	—	2 (0)
		会計ファイナンス専攻		0	0	0	—	—	0
	<b>小 計</b>	<b>3名</b>		<b>6 (2)</b>	<b>6 (2)</b>	<b>2 (0)</b>	<b>3.0</b>	<b>—</b>	<b>2 (0)</b>

※ ( ) 内は女子内数

表4-5 経済学部編入学試験

編入学試験区分	学科名	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	合格倍率	補欠者数	入学予定者数
2年次	経済学科	若干名	1 0	1 0	0	—	—	0
	経営学科	若干名	1 0	1 0	1 0	1.0	—	0
	<b>小 計</b>	<b>若干名</b>	<b>2 0</b>	<b>2 0</b>	<b>1 0</b>	<b>2.0</b>	<b>—</b>	<b>0 0</b>
3年次	経済学科	若干名	0	0	0	—	—	0
	経営学科	若干名	0	0	0	—	—	0
	<b>小 計</b>	<b>若干名</b>	<b>0 0</b>	<b>0 0</b>	<b>0 0</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 0</b>
指定校 (2年次)	経済学科	若干名	0	0	0	—	—	0
	経営学科	若干名	0	0	0	—	—	0
	<b>小 計</b>	<b>若干名</b>	<b>0 0</b>	<b>0 0</b>	<b>0 0</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 0</b>
指定校 (3年次)	経済学科	若干名	0	0	0	—	—	0
	経営学科	若干名	0	0	0	—	—	0
	<b>小 計</b>	<b>若干名</b>	<b>0 0</b>	<b>0 0</b>	<b>0 0</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>0 0</b>

※ ( ) 内は女子内数

表4-6 別科日本語研修課程入学試験合格・入学状況

出身国・地域	平成29年度春入学	
	合格者数	入学者数
台湾	17	17
韓国	9	9
中国	1	1
中国(香港)	1	1
ベトナム	3	3
フィンランド	1	1
日本	1	1
英国	1	1
インド	1	1
フランス	1	1
ベルギー	1	0
合 計	37	36

表4-7 言語教育研究科

①博士後期課程

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
日本語教育学 専攻	一般選抜	約3名	本院出身者	0	—	—	—
			その他	0	—	—	—
	社会人選抜	若干名	本院出身者	0	—	—	—
			その他	0	—	—	—
	外国人留学生選抜	若干名	本院出身者	0	—	—	—
			その他	0	—	—	—
<b>小 計</b>	<b>3名</b>		<b>0</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	
比較文明文化 専攻	一般選抜	約3名	本院出身者	0	—	—	—
			その他	0	—	—	—
	社会人選抜	若干名	本院出身者	0	—	—	—
			その他	0	—	—	—
	外国人留学生選抜	若干名	本院出身者	0	—	—	—
			その他	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
<b>小 計</b>	<b>3名</b>		<b>1 (1)</b>	<b>1 (1)</b>	<b>1 (1)</b>	<b>1 (1)</b>	
<b>合 計</b>	<b>6名</b>		<b>1 (1)</b>	<b>1 (1)</b>	<b>1 (1)</b>	<b>1 (1)</b>	

※ ( ) 内は女子内数

②博士前期課程・修士課程Ⅰ期

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
日本語教育学 専攻	一般選抜	約6名	本学出身者	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)
			その他	0 -	- -	- -	- -
	社会人選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	外国人留学生選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
学内推薦選抜	本学出身者	6 (3)	6 (3)	2 (1)	2 (1)		
<b>小計</b>				<b>8 (3)</b>	<b>8 (3)</b>	<b>3 (1)</b>	<b>3 (1)</b>
比較文明文化 専攻	一般選抜	約6名	本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	社会人選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	外国人留学生選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
学内推薦選抜	本学出身者	2 (1)	2 (1)	1 (0)	0 -		
<b>小計</b>				<b>2 (1)</b>	<b>2 (1)</b>	<b>1 (0)</b>	<b>0 -</b>
英語教育専攻	一般選抜	約3名	本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	社会人選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	外国人留学生選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
学内推薦選抜	本学出身者	3 (2)	3 (2)	1 (1)	1 (1)		
<b>小計</b>				<b>3 (2)</b>	<b>3 (2)</b>	<b>1 (1)</b>	<b>1 (1)</b>
<b>合計</b>		<b>約15名</b>		<b>13 (6)</b>	<b>13 (6)</b>	<b>5 (2)</b>	<b>4 (2)</b>

※ ( ) 内は女子内数

③博士前期課程・修士課程Ⅱ期

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
日本語教育学 専攻	一般選抜	若干名	本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	社会人選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	2 (2)	2 (2)	2 (2)	2 (2)
	外国人留学生選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
学内推薦選抜	本学出身者	12 (9)	10 (7)	3 (2)	3 (2)		
<b>小計</b>				<b>15 (11)</b>	<b>13 (9)</b>	<b>6 (4)</b>	<b>6 (4)</b>
比較文明文化 専攻	一般選抜	若干名	本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	社会人選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	外国人留学生選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
学内推薦選抜	本学出身者	5 (1)	4 (1)	3 (1)	2 (1)		
<b>小計</b>				<b>6 (2)</b>	<b>5 (2)</b>	<b>4 (2)</b>	<b>3 (2)</b>
英語教育専攻	一般選抜	約3名	本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	社会人選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
			その他	0 -	- -	- -	- -
	外国人留学生選抜		本学出身者	0 -	- -	- -	- -
学内推薦選抜	本学出身者	2 (2)	2 (2)	2 (2)	1 (1)		
<b>小計</b>				<b>2 (2)</b>	<b>2 (2)</b>	<b>2 (2)</b>	<b>1 (1)</b>
<b>合計</b>		<b>約3名</b>		<b>23 (15)</b>	<b>20 (13)</b>	<b>12 (8)</b>	<b>10 (7)</b>

※ ( ) 内は女子内数

表4-8 経済研究科

①博士課程

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
経済学・経営学 専攻	一般選抜	約3名	本院出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	社会人選抜	若干名	本院出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜	若干名	本院出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	特別推薦選抜	若干名	本院出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	海外提携校推薦選抜	若干名	その他	0	-	-	-
	<b>合計</b>	<b>3名</b>		<b>0</b>	-	-	-

※（ ）内は女子内数

②修士課程（I期）

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
経済学専攻	一般選抜	約3名	本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
<b>小計</b>			<b>0</b>	-	-	-	
経営学専攻	一般選抜	約7名	本学出身者	0	-	-	-
			その他	1	( )	1	( )
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	1	(1)	1	(1)
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
<b>小計</b>			<b>2</b>	(1)	<b>2</b>	(1)	
<b>合計</b>	<b>約10名</b>		<b>2</b>	(1)	<b>2</b>	(1)	

※（ ）内は女子内数

### ③修士課程（Ⅱ期）

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数		
経済学専攻	一般選抜	約2名	本学出身者	0	-	-	-	-	
			その他	0	-	-	-	-	
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-	-	
			その他	0	-	-	-	-	
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-	-	
			その他	1	( )	1	( )	1	( )
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-	-	
			その他	0	-	-	-	-	
<b>小 計</b>				<b>1</b>	<b>( )</b>	<b>1</b>	<b>( )</b>		
経営学専攻	一般選抜	約3名	本学出身者	0	-	-	-	-	
			その他	0	-	-	-	-	
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-	-	
			その他	0	-	-	-	-	
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-	-	
			その他	3	(2)	1	( )	1	( )
	特別推薦選抜		本学出身者	3	( )	3	( )	3	( )
			その他	0	-	-	-	-	-
<b>小 計</b>				<b>6</b>	<b>(2)</b>	<b>4</b>	<b>( )</b>		
<b>合 計</b>		<b>約5名</b>		<b>7</b>	<b>(2)</b>	<b>5</b>	<b>( )</b>		

※（ ）内は女子内数

### ④修士課程 International Program (4月入学)【平成28年10月実施分】

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
経済学専攻	一般選抜	若干名	本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	1	( )	1	( )
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
<b>小 計</b>				<b>1</b>	<b>( )</b>	<b>1</b>	<b>( )</b>
経営学専攻	一般選抜	若干名	本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	1	( )	1	( )
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
<b>小 計</b>				<b>1</b>	<b>( )</b>	<b>1</b>	<b>( )</b>
<b>合 計</b>				<b>2</b>	<b>( )</b>	<b>2</b>	<b>( )</b>

※（ ）内は女子内数

⑤修士課程 International Program (4月入学)【平成29年3月実施分】

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
経済学専攻	一般選抜	若干名	本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	1	(1)	1	(1)
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-
その他	3	(1)	3	(1)	3	(1)	
小計				4	(2)	4	(2)
経営学専攻	一般選抜	若干名	本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-
その他	1	( )	1	( )	1	( )	
小計				1	( )	1	( )
合計				5	(2)	5	(2)

※ ( ) 内は女子内数

⑥修士課程 International Program (9月入学)

専攻名	選抜区分	募集人員	出身区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
経済学専攻	一般選抜	若干名	本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	1	(1)	1	(1)
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-
その他	0	-	-	-	-		
小計				1	(1)	1	(1)
経営学専攻	一般選抜	若干名	本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	社会人選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	外国人留学生選抜		本学出身者	0	-	-	-
			その他	0	-	-	-
	特別推薦選抜		本学出身者	0	-	-	-
その他	0	-	-	-	-		
小計				0	-	-	-
合計				1	(1)	1	(1)

※ ( ) 内は女子内数

※修士課程International Programでは、平成28年度中に平成28年度9月入学のための募集受付期間を設け、入学試験を実施した。また、平成29年度に入ってから平成29年度9月入学のための募集受付および入試を実施する予定である。(入試結果は「年報2017」に掲載予定)。



表4-9 入学者数の推移

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
外国語学部	319	332	347	325	354
経済学部	266	258	282	331	384
学部合計	585	590	629	656	738
言語教育研究科 博士後期	6	2	1	2	1
博士前期	17	15	10	11	14
経済研究科 博士課程	4	4	0	0	0
修士課程	14	12	10	10	14
大学院合計	41	33	21	23	29

## 5. 就職支援

表5-1 インターンシップ

①短期インターンシップ 受入企業 (企業名 50 音順)

	受入企業名	受入期間(括弧内は実働日数)	受入人数
1	SMBC 日興証券株式会社	8 月 22 日～8 月 26 日 (各 5 日間)	2 名
2	株式会社三井住友銀行	8 月 9 日～8 月 13 日 (各 5 日間)	1 名
3	株式会社三井住友銀行	8 月 16 日～8 月 20 日 (各 5 日間)	1 名

②インターンシップ関連セミナー

内 容	対象年次	開催・実施日	参加者数
インターンシップ対策講座	3 年次	6 月 23 日	49 名
インターンシップセミナー	3 年次以下	11 月 10 日	15 名

表5-2 就活サポーター（学生）による支援活動

内 容	対象年次	開催・実施日	参加者数
就活大相談会・質問会	3 年次	12 月 7 日	14 名
内定者（航空会社）による質問会	3 年次	2 月 7 日	6 名
内定者（証券会社）による質問会	3 年次	2 月 9 日	4 名

表5-3 就職指導・ガイダンス関連活動

内 容	対象年次	開催・実施日	参加者数
春季キャリアガイダンス（外国語学部）	1 年次	4 月 3 日	318 名
春季キャリアガイダンス（経済学部）	1 年次	4 月 8 日	272 名
春季キャリアガイダンス（外国語学部）	3 年次	4 月 8 日	246 名
春季キャリアガイダンス（経済学部）	3 年次	4 月 7 日	139 名
春季キャリアガイダンス（外国語学部）	4 年次	4 月 8 日	208 名
春季キャリアガイダンス（経済学部）	4 年次	4 月 7 日	120 名
秋季キャリアガイダンス（外国語学部）	3 年次	9 月 16 日	187 名
秋季キャリアガイダンス（経済学部）	3 年次	9 月 16 日	103 名
公務員試験直前対策ガイダンス	4 年次	4 月 15 日	8 名
公務員ガイダンス	3 年次以下	4 月 6 日	44 名
職業適性検査（キャリア・アプローチ）	3 年次	9 月 18 日	289 名
職業適性検査（キャリア・アプローチ）フォローアップセミナー（解説講座）	3 年次	10 月 27 日	144 名
グループ面接対策講座①	4 年次	5 月 31 日	5 名
グループ面接対策講座②	4 年次	6 月 1 日	4 名
グループ面接対策講座③	4 年次	6 月 3 日	4 名
最終面接対策講座①	4 年次	6 月 7 日	6 名

内 容	対象年次	開催・実施日	参加者数
最終面接対策講座②	4年次	6月8日	3名
最終面接対策講座③	4年次	6月10日	4名
就活ビギナー向け今から始める就活セミナー①	4年次	7月15日	3名
就活ビギナー向け今から始める就活セミナー②	4年次	7月19日	2名
就活ビギナー向け今から始める就活セミナー③	4年次	7月20日	1名
夏の就活リスタート講座①	4年次	7月15日	5名
夏の就活リスタート講座②	4年次	7月19日	3名
夏の就活リスタート講座③	4年次	7月20日	7名
自己PR分解セミナー①	3年次	3月27日	11名
自己PR分解セミナー②	3年次	3月28日	15名
自己PR分解セミナー③	3年次	3月29日	14名
留学生向け就職支援セミナー①	4年次	8月29日	3名
留学生向け就職支援セミナー②	3年次以下	12月15日	15名
就活のリアルを学ぶドキュメント上映会①	3年次	11月22日	18名
就活のリアルを学ぶドキュメント上映会②	3年次	11月24日	16名
就活総点検講座～就活1day シミュレーション①	3年次	2月23日	138名
就活総点検講座～就活1day シミュレーション②	3年次	2月24日	14名
キャリア形成演習フォロー講座1クラス	3年次	2月24日	8名
キャリア形成演習フォロー講座2クラス	3年次	2月17日	15名
キャリア形成演習フォロー講座3クラス	3年次	2月7日	8名
キャリア形成演習フォロー講座4クラス	3年次	2月16日	7名
キャリア形成演習フォロー講座5クラス	3年次	2月27日	6名
キャリア形成演習フォロー講座6クラス	3年次	2月28日	7名
キャリア形成演習フォロー講座7クラス	3年次	2月20日	2名
キャリア形成演習フォロー講座8クラス	3年次	2月22日	9名
キャリア形成演習フォロー講座9クラス	3年次	2月24日	6名
就活ゼミ (長谷川クラス)	3年次	10月3,10,17,31日、 11月7,21,28日、12月5,12,19日、 1月16,23日	10名
就活スタイル総点検講座、メイク及びスーツの着こなし講座	3年次	12月17日	79名
【就活用】証明写真撮影会①	3年次	12月20日	65名
【就活用】証明写真撮影会②	3年次	12月21日	49名
【就活用】証明写真撮影会③	3年次	12月22日	61名
求人紹介カフェ	4年次	11月18日	12名

表5-4 業界・企業・職種研究関連活動

内 容	対象年次	開催・実施日	参加者数	参加企業数
個別企業説明会[1]	4年次	4月19日	47名	1社
個別企業説明会[2]	4年次	5月13日	7名	1社
個別企業説明会[3]	4年次	5月17日	10名	1社
個別企業説明会[4]	4年次	5月20日	2名	1社
個別企業説明会[5]	4年次	6月2日	4名	1社
個別企業説明会[6]	4年次	6月3日	11名	1社
個別企業説明会[7]	4年次	6月7日	7名	1社
個別企業説明会[8]	4年次	6月8日	1名	1社
個別企業説明会[9]	4年次	6月13日	6名	1社
個別企業説明会[10]	4年次	6月16日	4名	1社
個別企業説明会[11]	4年次	6月17日	4名	1社
個別企業説明会[12]	4年次	6月21日	3名	1社
個別企業説明会[13]	4年次	6月22日	4名	1社
個別企業説明会[14]	4年次	6月24日	3名	1社
個別企業説明会[15]	4年次	6月29日	6名	1社

内 容	対象年次	開催・実施日	参加者数	参加企業数
個別企業説明会[16]	4年次	6月30日	1名	1社
個別企業説明会[17]	4年次	7月4日	8名	1社
個別企業説明会[18]	4年次	7月5日	2名	1社
個別企業説明会[19]	4年次	7月6日	5名	1社
個別企業説明会[20]	4年次	7月7日	3名	1社
個別企業説明会[21]	4年次	7月8日	2名	1社
個別企業説明会[22]	4年次	7月11日	2名	1社
個別企業説明会[23]	4年次	7月14日	0名	1社
個別企業説明会[24]	4年次	7月15日	0名	1社
個別企業説明会[25]	4年次	7月21日	5名	1社
個別企業説明会[26]	4年次	8月24日	5名	1社
個別企業説明会[27]	4年次	9月9日	5名	1社
個別企業説明会[28]	4年次	9月21日	7名	2社
個別企業説明会[29]	4年次	10月5日	5名	1社
個別企業説明会[30]	4年次	10月7日	5名	1社
個別企業説明会[31]	4年次	10月17日	5名	1社
個別企業説明会[32]	4年次	11月10日	1名	1社
個別企業説明会[33]	4年次	11月15日	1名	1社
個別企業説明会[34]	4年次	11月17日	0名	1社
個別企業説明会[35]	4年次	11月18日	1名	2社
個別企業説明会[36]	4年次	11月24日	1名	1社
個別企業説明会[37]	4年次	11月25日	0名	1社
個別企業説明会[38]	4年次	12月13日	2名	1社
業界セミナー[1]	3年次以下	11月28日	112名	1社
業界セミナー[2]	3年次以下	11月29日	130名	1社
業界セミナー[3]	3年次以下	11月30日	110名	1社
業界セミナー[4]	3年次以下	12月1日	137名	1社
業界セミナー[5]	3年次以下	12月2日	152名	1社
業界セミナー[6]	3年次以下	12月5日	94名	1社
業界セミナー[7]	3年次以下	12月6日	158名	1社
業界セミナー[8]	3年次以下	12月7日	105名	1社
業界セミナー[9]	3年次以下	12月8日	152名	1社
業界セミナー[10]	3年次以下	12月9日	137名	1社
業界セミナー[11]	3年次以下	12月12日	133名	1社
合同企業説明会[1]	3年次	3月6日	302名	36社
合同企業説明会[2]	3年次	3月7日	273名	34社
合同企業説明会[3]	3年次	3月8日	261名	35社
合同企業説明会[4]	3年次	3月9日	245名	34社
合同企業説明会[5]	3年次	3月10日	241名	36社
航空業界座談会	全学年	4月14日	25名	2社
ホテル見学会	4年次	4月21日	21名	1社
金融業界を知ろうセミナー	全学年	4月27日	17名	1社
三井住友銀行柏支店銀行見学会①	4年次	5月9日	7名	1社
三井住友銀行柏支店銀行見学会②	3年次	3月21日	18名	1社
金融業界を目指す人のためのセミナー①	3年次	1月26日	14名	1社
金融業界を目指す人のためのセミナー②	3年次	1月30日	15名	1社
証券業界セミナー&インターンシップ説明会	3年次	1月12日	24名	1社
インテリア・建築資材業界セミナー	3年次	1月19日	10名	1社
工作機械業界セミナー	3年次	2月14日	10名	1社
千葉県28大学合同就活応援セミナー	3年次	3月3日	8名	88社

表5-5 就職試験対策関連活動

内容	対象年次	開催・実施日	参加者数
SPI 対策講座	全学年	10月13,20,27日,11月10,17,24日,12月1,8,15,22日, 1月12,19日,2月2日,9日	89名
		模擬試験 10月6日、2月16日	※92名
公務員対策講座	全学年	6月9日～2月16日	25名
		模擬試験 7月21日、2月23日	※35名

※は、両日の合計

表5-6 主な就職先

(業種別五十音順)

- [建設・工事・不動産]** 一条工務店、ANAスカイビルサービス、共立メンテナンス、スターツグループ、積水ハウス、タカラレーベン、日立ビルシステム、ポラス
- [製造]** アマダホールディングス、石田大成社、酒井重工業、坂口電熱、三甲、サンコーテクノ、スーパーバッグ、ストラパック、千代田インテグレ、ニチベイ、パンチ工業、帆風、日立化成、富士フィルム(中国)、山櫻
- [情報・通信]** アイエックス・ナレッジ、旭情報サービス、ぐるなび、シンカーミクセル、東計電算、東邦システムサイエンス、東日本電信電話(NTT東日本)、マイナビ
- [運輸]** 朝日航洋、ANAエアポートサービス、エバーグリーン・ SHIPPING・エージェンシー・ジャパン、近鉄エクスプレス、シンガポール航空、セイノスーパーエクスプレス、全日本空輸(ANA)、立山黒部貫光、DHLジャパン、内外日東、日新、日本梱包運輸倉庫、日本航空(JAL)東日本旅客鉄道(JR東日本)、日立建機ロジテック
- [卸売(商社)]** アルフレッサ、大塚商会、カネボウ化粧品販売、川和、北沢産業、ケルヒージャパン、資生堂ジャパン、新光商事、立花エレテック、東京産業、日伝、星医療酸器、三井食品、モリタ、ヤマタネ、ユアサ・フナショク、リコージャパン、リョーサン
- [小売(百貨店・スーパー・専門店・飲食)]** エフ・ディ・シー・フレンズ(4℃)、カスミ、ケーヨー、ザ・ギンザ、ジェイアイエヌ(JINS)、島忠、ジョイフル本田、スタートトゥデイ(ZOZOTOWN)、タリーズコーヒージャパン、ニチエイ・カーマックス、ニトリ、日本瓦斯(ニチガス)、ネッツトヨタ千葉、ライトオン
- [金融(銀行・証券・保険)]** 朝日信用金庫、茨城県信用組合、共栄火災海上保険、さわやか信用金庫、佐原信用金庫、常陽銀行、住信SBIネット銀行、西武信用金庫、第一生命保険、大和証券、千葉銀行、千葉興業銀行、東京シティ信用金庫、東和銀行、栃木銀行、丸三証券、みずほ銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、水戸証券、ゆうちょ銀行
- [旅行・ホテル]** エイチ・アイ・エス、クラブツーリズム、グランドハイアット東京、東京ベイ舞浜ホテル、パークハイアット東京、フォーシーズンズホテル丸の内東京、ホテル ザ・マンハッタン、リゾートトラスト
- [その他サービス・他]** NTT東日本-南関東、しのはらプレスサービス、スタジオアリス、セントラル警備保障、総合警備保障(ALSOK)、高見(TAKAMI BRIDAL)、テンプスタッフ、西尾レントオール、日本郵政グループ、ベルリッツ・ジャパン、夢相続
- [公務員・団体]** 茨城県警察本部、柏市役所、京都府警察本部、警視庁、埼玉医科大学、下関農業協同組合、青年海外協力協会(青年海外協力隊)、千葉県警察本部、とうかつ中央農業協同組合、取手市役所、防衛省、水資源機構、竜ヶ崎農業協同組合、
- [教員]** キノシタ学園日本語学校、敬愛大学八日市場高等学校、埼玉県教員、千葉県教員、麗澤中学・高等学校

## 6. 学内会議記録（会議名の後のカッコ内は事務所管）

### 6-1 全学関係

#### ①協議会（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
283	28年4月14日 15:00～15:58	人事関係（議事録記名人、非常勤講師採用候補者の推薦、客員研究員の受入れ、全学委員会委員の委嘱、専任教員（グローバル経営、経済学、マーケティング、人事管理）公募要領）、入試関係（一般3月入試(B日程)・指定校推薦入試Ⅲ期選考、大学入試センター試験利用入試Ⅲ期・指定校推薦入試Ⅲ期・維持員子女等推薦入試Ⅳ期・公募推薦入試Ⅳ期・AO入試Ⅴ期選考、入試大綱、編入学試験大綱）、教務関係（学籍異動、卒業認定（追加）、その他（学生処分、事業報告、後援名義使用）
284	5月26日 15:00～16:04	人事関係（嘱託専任教員（英語）公募要領、嘱託専任教員（中国語）学内推薦要領、嘱託専任教員（ドイツ語）公募要領、全学プロジェクトの委員等メンバー交替、客員研究員候補者推薦、シンポジウムの実施及びプロジェクトメンバー委嘱）、入試関係（指定校・別科推薦入試、外国人留学生入試における指定校制度、指定校編入学試験（短期大学・専門学校）、外国人留学生指定校編入学試験（国内・国外）、入試大綱、外国人留学生特別指定校、別科志願者選考）、教務関係（学籍異動、卒業認定（追加）、その他（調印、協定締結、規程改定、後援名義使用、学会開催、記念事業追加、特別講演会企画、学生処分解除）
285	6月23日 15:00～15:57	人事関係（専任教員採用人事、全学委員会・附属機関等運営委員会の委嘱（追加）、海外出張）、入試関係（別科日本語研修課程志願者（秋入学第2回）選考）、その他（プロジェクト設置、研究科増設）
286	7月21日 15:00～16:13	人事関係（専任教員（英語）募集要領、研究休暇候補者、非常勤講師採用候補者推薦、客員教授候補者推薦）、教務関係（学籍異動）、その他（私立大学研究ブランディング事業、私立大学研究ブランディングの研究支援体制、地域の課題解決を目的とした研究、アクティブラーニング教室設備整備、地域及び産業界等との意見交換会の実施、SDの実施方針策定、学会開催、共催名義使用、規程改定）
287	9月9日 15:00～15:46	人事関係（非常勤講師解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、非常勤講師委嘱取消）、入試関係（外国人留学生指定校（1年次）追加、外国人留学生特別指定校追加、別科日本語研修課程志願者（春学期第1回）選考、教務関係（第1学期卒業認定、第1学期別科日本語研修課程修了認定、逝去学生への「修了証」授与、学籍異動）、その他（休学期間在籍料免除、学校教育専攻開設準備プロジェクト、次年度授業日程、共催名義使用、規程改定）
288	10月14日 15:00～16:49	英語コミュニケーションセンター設置、人事関係（専任教員退職、客員教授候補者推薦、客員教授解嘱、専任教員採用候補者推薦、専任教員（英語）公募要領、海外出張）、入試関係（AO入試及び編入学試験Ⅰ期志願者選考、AO入試Ⅰ期志願者選考）、教務関係（学籍異動、別科修業年限延長辞退及び修了）、その他（連携協定締結、新専攻設置、シラバス記載内容追加、第2学期教員間授業公開実施、協賛名義使用）
289	11月25日 10:40～12:10	人事関係（専任教員退職、専任教員採用候補者推薦）、入試関係（推薦・外国人留学生11月入試志願者選考、編入学試験（Ⅱ期・指定校Ⅰ期）志願者選考、推薦・外国人留学生11月入試志願者選考、次年度入試日程、別科日本語研修課程志願者（春学期第2回）選考）、教務関係（学籍異動）、その他（教職センター設置、協定締結、共催名義使用）
290	12月15日 16:00～16:55	人事関係（客員教授解嘱、非常勤講師解嘱、次年度大学役職者人事、専任教員採用候補者推薦、非常勤講師採用候補者推薦、客員教授採用候補者推薦、研究休暇候補者選出、専任教員昇任候補者の推薦、専任教員（日本語教育センター講師）採用手続き開始）、入試関係（AO入試Ⅲ期・公募推薦Ⅱ期入試志願者選考、別科日本語研修課程志願者（第3回）選考）、その他（協賛名義使用、規程制定、次年度重点目標）
291	29年1月26日 15:00～16:22	人事関係（大学役職者人事（追加）、客員講師解嘱、客員教授の解嘱、非常勤講師解嘱、専任教員採用候補者推薦、客員教授採用候補者推薦、非常勤講師採用候補者推薦、全学委員会・プロジェクト及び附属機関等運営委員会 委員長等委嘱）、教務関係（学籍異動）、その他（学生表彰、重点目標、学生処分、株式会社ANA総合研究所への業務委託、廣池学事振興基金予算、麗澤国際交流基金予算、規程改定、規程廃止）
292	2月9日 16:00～17:00	人事関係（大学役職者人事、専任教員退職、専任教員採用候補者推薦、非常勤講師解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、ハラスメント相談員委嘱）、入試関係（大学入試センター試験利用入試Ⅰ期・一般2月入試・外国人留学生入試（指定校Ⅱ期・2月）選考、大学入試センター試験利用入試Ⅰ期・一般2月入試選考、スカラシップ入試選考、外国人留学生入試（特別指定校Ⅱ期・2月）選考、編入学試験（指定校・Ⅲ期）選考、編入学試験（Ⅱ期）選考、転部・転専攻選考、指定校（外国人留学生特別指定校推薦入試（国外））追加、別科日本語研修課程志願者（春学期第4回）選考）、教務関係（学籍異動、別科修業年限延長、別科修業年限延長辞退）、その他（協定書、海外大学との協定締結、事業計画、規程改定）
293	3月6日 16:00～16:55	人事関係（専任教員採用候補者推薦、名誉教授候補者推薦、非常勤講師解嘱、経済学部教務主任変更、教授会構成員）、入試関係（大学入試センター試験利用入試Ⅱ期・一般3月入試選考、指定校推薦入試Ⅱ期選考、外国人留学生特別指定校入試Ⅲ期選考、AO入試Ⅳ期選考、別科日本語研修課程志願者（春学期第5回）選考、入試大綱、編入学試験大綱、別科募集日程）、教務関係（学籍異動、卒業・修了認定（早期卒業含む））、その他（教職センター英語表記、協定締結、学生処分、卒業認定・学位授与方針、教育課程編成・実施方針、入学者受入れ方針、学則改定、規程改定）

②大学院委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
220	28年4月14日 14:00～14:20	教務関係（博士学位論文(課程博士)審査委員の委嘱、科目等履修生の選考）
221	5月26日 14:00～14:55	教務関係（科目等履修生(学部学生)受入れ、学生の海外渡航、学籍異動〔留学〕）、入試関係（International Program 9月入学試験選考、International Program 9月入学研究生（併願）選考）、その他（諸規程改定）
222	6月23日 14:00～14:33	教務関係（博士学位論文(課程博士)審査委員の変更）、入試関係（研究生募集大綱、ABE イニシアティブ第3バッチ第4次選考合格者に対する28年度9月入学研究生としての受入選考）、その他（研究科の増設、諸規程改定）
223	7月21日 14:00～14:33	教務関係（学籍異動〔除籍〕）入試関係（博士課程9月入学研究生選考）
224	9月9日 14:00～14:20	教務関係（博士課程（前期）最終試験・修了認定、博士学位論文（課程博士）の審査判定、科目等履修生の選考）
225	10月14日 14:00～14:34	入試関係（博士前期課程・修士課程I期/International Program（4月入学）入試選考、博士前期課程・修士課程研究生（I期）選考）、教務関係（学籍異動〔単位修得退学〕、科目等履修生〔学部学生〕受入れ）
226	11月25日 9:31～10:21	人事関係（教員資格審査、教員人事の審査に伴う審査委員の選定）、入試関係（30年度9月入学入試日程（案）、30年度入試日程（案））、教務関係（博士学位論文(課程博士)審査委員の委嘱、特別奨学生の推薦、学籍異動〔退学〕）
227	12月15日 14:01～14:33	人事関係（教員資格審査、教員人事の審査に伴う審査委員の選定（案））、入試関係（博士前期課程研究生の選考）
228	29年1月26日 14:00～14:51	人事関係（非常勤講師の解職、教員資格審査）、入試関係（International Program 入学試験の追加実施（案）、30年度入試大綱（案））、教務関係（事業計画（案）、教職課程科目の見直し、学籍異動〔除籍・単位修得退学〕）
229	2月9日 15:00～15:55	人事関係（研究科新設に伴う教員人事）、教務関係（学校教育研究科のカリキュラム、事業計画（案）、アドミッション・ポリシー（案）、その他（学則改定、諸規程改定、新設に伴う規程改定）
230	3月6日 15:00～15:52	人事関係（ポスト・ドクター採用、ティーチング・アシスタントの推薦）、入試関係（入試選考、第Ⅱ期研究生選考）、教務関係（学位論文（課程博士）審査判定、博士課程〔前期〕・修士課程最終試験判定・修了認定、博士学位論文(課程博士)予備論文審査委員会の設置、学籍異動〔休学〕）、その他（日本学生支援機構奨学金返還免除者の選考、学則改定、規定改定）

③研究科長・学部長会議（学長室）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月24日(木) 12:15～13:55	（1）大学院における新教育形態設置構想への対応（2）27年度経常費補助金最終結果及び改革総合支援事業への対応（3）中央教育審議会大学分科会 大学教育部会(3/9)報告（4）2016年度オープンキャンパス開催変更・施策の提案（5）学長裁量経費（教育改革推進取組関連）（6）「学生カルテシステム」における教員閲覧範囲の改訂（7）別科修了式（秋学期入学者） （経）-（1）外国語学部と経済学部の協力による基礎ゼミの教科書作成（2）観光ビジネス関係の外国語学部と経済学部の戦略（3）ラインの学内伝達ツールとしての活用
2	4月21日(木) 14:20～14:55	（1）「学生募集戦略説明会」「高校訪問キックオフミーティング」（2）職員研修の義務化に関する法令改正（3）今後の大学施設整備（4）「学生カルテシステム」における教員閲覧範囲の改訂（5）スカラシップの選抜方法、（外）-（1）観光に関するプログラムの検討
3	6月2日(木) 14:20～15:50	（1）我孫子高校との連携協定、 （1）大学院の新教育形態への対応（2）3つのポリシー策定作業（3）スカラシップ制度（4）28年度教育改革推進取組経費の選考（5）施設整備に関する学内の意見（6）28年度学長賞 選考スケジュール（7）29年度大学入試資格審査、（経）-（1）学生カルテの閲覧
4	6月30日(木) 13:15～14:50	（1）新大学院開設準備（2）28年度私立大学等改革総合支援事業への対応（3）「28年度私立大学等改革総合支援事業」に係る設備・施設関係の補助金（4）英語の「学び方」「指導法」を高校生と英語教諭に提供するイベント開催（5）DP・CP・AP 策定作業状況報告（6）汎用的能力 学生自己評価 専攻別の集計結果、（経）-（1）経済学部新コース設置
5	7月28日(木) 14:05～14:30	（1）29年度の事業計画の策定スケジュール（2）29年度授業日程（3）大学ポータル掲載情報の見直し（4）教育活動懇談会報告（5）退学抑制

回	開催日時	主な協議事項
6	9月29日(木) 15:00~17:30	(1) 教職課程センター (2) 退学者抑制の検討 (3) ANA 総合研究所との業務委託契約 (4) 学部における「観光」に関するカリキュラム (5) 3つのポリシー策定基本方針 (6) 麗澤大学および競合校の合格者推移 (7) 柏駅周辺のまちづくりへの参画依頼 (8) 研究室 A 棟改修計画案、(外) - (1) 外国語学部英語コミュニケーションセンター (CEC)
7	10月20日(木) 13:15~15:00	(緊急) - (1) 一般財団法人 日本グローバル・イニシアティブ協会との連携協定、(1) 中長期ビジョン・中期計画に基づく平成 29 年度重点目標 (2) 「障害者差別解消法」施行に伴う法人の対応 (3) 教職員対象の講演会等の企画 (4) 3つのポリシー：CP 作成 (5) 学位の英語表記、(6) 課外活動特別奨学生制度の運用
8	11月18日(金) 13:15~15:30	(1) 麗澤大学ビジョン 2026 の具体化 (2) 特任教授の職務の確認 (3) 准教授の資格における非常勤講師の教歴の取扱い (4) 道徳大学院の施設整備 (5) 教職センター (6) 学校法人運営調査 (11/9) の実施 (7) 3つのポリシー (8) 大学全体に係る懇親会費や年報等の印刷予算 (9) Universiti Sains Islam Malaysia (USIM) との協定書案 (10) 29 年度 行事予定 (案)、(外) - (1) 大学院・学部連携科目
9	12月22日(木) 14:15~16:00	(緊急) - (1) 29 年度重点目標 (案)、(1) 29 年度学事基金・国際交流基金予算案 (2) 28 年度学生表彰 (3) 3つのポリシーの見直し (4) 29 年度以降のホームカミングデイのあり方 (5) 柏駅周辺のまちづくりへの参画 (6) ラグビー場の建設
10	29年2月2日(木) 13:15~14:45	(1) 学生の“その気”スイッチ探しプロジェクト答申 (2) 29 年度事業計画 (案) (3) スカラシップ入学者に対する教育特典の対応 (4) 柏レイソルとの教育協定 (5) ICCR との共同シンポジウムの企画、(言研) - (1) 学部・大学院連携科目 (2) 麗澤大学大学院科目等履修生の推薦
11	2月10日(金) 14:45~15:00	(1) 研究室 A 棟の改修概要及びの名称の変更 (2) 特別奨学生制度の取り扱い (3) 3つのポリシーの見直し

#### ④研究戦略会議（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月21日 12:10~12:55	28 年度研究センター客員研究員及び特別研究員の委嘱、研究センター構成員の追加、不正防止計画の見直し、28 年度科研費学内説明会の開催、28 年度廣池学事振興基金（特別研究助成）の 2 次募集、28 年度廣池学事振興基金（重点研究助成）募集、中期計画の実行に係る事項
2	6月2日 12:10~12:50	28 年度廣池学事振興基金（特別研究助成）の辞退、28 年度廣池学事振興基金（特別研究助成・図書出版助成）(2 次) の支給案、28 年度廣池学事振興基金（重点研究助成）の支給案、29 年度研究センタープロジェクトの募集、中期計画の実行に係る事項、28 年度研究センター特別研究員の委嘱
臨時	7月11日 メール会議	28 年度廣池学事振興基金（特別研究助成）の辞退
臨時	7月21日 13:30~13:50	28 年度研究センター客員研究員の辞退及び委嘱、私立大学研究ブランディング事業、私立大学研究ブランディングの研究支援体制、28 年度廣池学事振興基金（特別研究助成）の追加
3	9月1日 13:00~14:10	29 年度以降の本学の研究倫理研修の実施体制、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく学部学生の研究倫理研修、中期計画の施策に関する各研究センターからの意見・提案
臨時	9月21日 メール会議	28 年度研究センター客員教授の委嘱（追加）
4	11月24日 12:10~13:10	28 年度廣池学事振興基金（特別研究助成）の追加、28 年度廣池学事振興基金（重点研究助成）の辞退、29 年度各研究センタープロジェクト予算、科研費間接経費の本学の使用ルール、受託研究の受入、29 年度研究戦略会議の開催予定
5	29年2月10日 10:30~11:45	29 年度研究センター客員教授、客員研究員、特別研究員の委嘱、29 年度各研究センターの構成員、29 年度特別研究助成・図書出版助成の支給、29 年度科研費説明会の企画、受託研究の受入、29 年度研究センタープロジェクトの追加、29 年度「人を対象とする研究」の倫理審査スケジュール、28 年度図書出版助成の印刷部数の変更、麗澤大学紀要規程の改定、2026 年までの各研究センターの目標、29 年度各研究センターの事業計画
臨時	3月6日 メール会議	29 年度研究支援者の推薦

⑤グローバル戦略会議（国際交流G、学長室）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月21日 13:15～14:15	グローバル化ビジョンの数値目標、グローバル戦略の推進、留学生受入れの数値目標、イスラム教の学生対応、大学の世界展開力強化事業への申請
2	6月2日 13:15～14:15	留学生受入れの数値目標、別科生の過去数年間の進路先、学生の海外留学促進に関する具体策
3	7月28日 13:00～14:00	29年度廣池学事振興基金海外留学奨学金予算策定、29年度麗澤国際交流基金予算策定、留学生斡旋事業者との契約、18歳人口の減少
4	9月29日 13:15～14:45	18歳人口減少に伴う留学生の受け入れ数値目標の設定と実現のための具体策、タイにおける学生募集活動の組織化
5	10月20日 12:15～13:15	東南アジア戦略、一般財団法人国際協力推進協会からの依頼、一般社団法人日本グローバル・イニシアティブ協会との連携協定、経済学部ダブルディグリー、学生寮（D棟）収容体制
6	12月22日 13:15～13:58	海外用の本学PRビデオの作成、イスラム教の学生受け入れ対応、日本学生支援機構の海外留学支援制度の申請
7	29年2月10日 13:00～14:00	国別外国籍学生数の所属別経年比較、海外提携校先 派遣・受入人数の推移、H29年度「別科」本学学部進学者獲得、留学提携、留学生の招聘支援及び出口支援、留学生情報サイト（在学生向け）のリニューアル

⑥全学委員会関係

1) 学生委員会（学生支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月12日 12:15～12:57	学生処分、一般支給奨学金申請
2	5月24日 12:15～13:13	学生処分解除、自主活動支援申請、指定部有償コーチ推薦、職員の課外活動副顧問、1学期新設同好会
3	6月9日 12:15～12:58	学生処分
4	6月21日 13:30～14:10	学生処分、一般支給奨学金申請
5	7月26日 12:15～13:17	学生のセクハラ、空手部有償コーチ、課外活動副顧問に伴う規程改定、28年度みまもりの会
6	8月3日～ 8月5日	自主活動支援申請（持ち回り審議）
7	10月7日 12:15～12:50	大規模災害に伴う学費減免申請、特別奨学金推薦、サッカー部コーチの有償、課外活動副顧問推薦
8	10月28日～ 11月1日	上半期後援会表彰推薦（持ち回り審議）
9	11月18日 12:15～12:53	ラグビー女子同好会申請
10	12月20日 12:15～13:05	課外活動特別奨学金の推薦、学長特別賞推薦、Suica（定期）不正使用、課外渡航における出国届扱い
11	29年1月31日 12:15～13:05	課外活動特別奨学金の推薦、学長特別賞推薦、Suica（定期）不正使用、課外渡航における出国届扱い
10	29年2月28日 10:00～10:46	学生処分、自主活動支援申請、下半期後援会表彰推薦

2) 自己点検委員会（教育研究支援G、学長室、IR推進室、教務G）

今年度は会議開催せず。

3) 教育課程委員会（教務G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年10月13日 12:15～13:00	観光系科目に関する両学部の情報共有について
2	12月21日 電子会議方式	カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの作成について



#### 4) 教職課程委員会（教務G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月26日 12:15~12:50	29年度以降の教職科目担当者について、教員採用試験対策講座の実施について
2	5月24日 12:15~13:00	教職シンポジウムの開催について、教員採用試験対策講座の詳細について
3	6月14日 12:15~13:00	教職シンポジウムの開催について、教職課程委員会の開催日程変更について
4	7月19日 12:15~12:50	教職シンポジウムの開催について
5	9月15日 13:30~14:50	学部の教職に関する科目等履修生志願者について、28年度教職課程変更届に対する文科省の指摘事項及び改善案について
6	10月11日 12:15~13:05	教員採用試験対策講座の正課科目化について、教育実習の集中講義日程と麗澤中学・高等学校への授業見学について
7	11月22日 12:15~12:55	教職センターの設置について、教育職員免許法改正について、教員免許状更新講習の講習名変更について
8	12月14日 12:15~13:00	29年度教職センター専任講師の候補者推薦について、教職センター規程制定の件
9	29年1月17日 12:15~13:00	29年度非常勤講師採用候補者の推薦について、29年度教職センターの体制について、カリキュラム・ポリシーの策定について
10	2月28日 13:30~15:20	本学の教員養成に対する理念・構想について、教職センターの英語表記について、教職センターの業務と業務分担について
11	3月21日 電子会議方式	学部の教職に関する科目等履修生志願者

#### 5) FD委員会（教務G、大学院・オープンカレッジG、学長室、IR推進室）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月15日 12:15~13:05	FD委員会への諮問事項、学長裁量経費による取組事業の報告会、教員間授業公開、学生による授業評価実施、新任専任教員研修会、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッション・ポリシー、退学抑制策、GPA制度の検討課題、研究発表会・研修セミナー、年間スケジュール
2	6月3日 12:15~13:00	学生の学習時間調査の実施内容、学長裁量経費による取組事業の報告会、第1学期学生による授業評価実施、ディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッション・ポリシー、退学抑制策、GPA制度の検討課題
3	7月1日 12:15~13:15	退学抑制策、新任・昇任専任教員研修会、大学院の学生による授業評価実施、FD活動の報告、シラバス記載項目及び書き方について、第2学期開講科目シラバス修正、第1学期教員間授業公開実施結果
4	10月9日 12:15~13:10	アクティブ・ラーニング推進のための現状把握、シラバスの記載内容追加、第2学期教員間授業公開における職員の見学、新任・昇任専任教員研修会報告
5	12月4日 12:15~13:05	アクティブ・ラーニング推進のための現状把握、授業評価アンケート結果が学生に伝わる工夫、学習時間調査の結果、教員間授業公開の見学メモ、第2学期学生による授業評価実施科目、アクティブ・ラーニング教室整備、FD・SD研修会、新任教員研修の日程、学習時間の多い学生の汎用的能力の自己評価結果の特徴
6	29年3月1日 メール回議	事業計画、アクティブ・ラーニング対応教室整備後の使用アンケート、教員間授業公開実施、学生による授業評価実施、新任専任教員研修会、会議開催予定

#### 6) 入学試験委員会（入試広報G）

##### ー1. 出題委員会

各種入学試験問題を定められた日程によって作成した（日程等は非公表）。

##### ー2. 点検委員会

出題委員会によって作成された入試問題原稿を定められた日程によって点検した（日程等は非公表）。

### －3. 実施委員会

回	開催日時	主な協議事項
1	28年5月10日 12:10～13:10	29年度一般2月入試(A日程・B日程)における出題科目事前登録制について、29年度スカラシップ制度対象者得点について
2	7月21日 13:15～13:40	平成30年度入試日程(案)について、アドミッション・オフィスの設置について、
3	29年3月1日 13:00～14:00	プラスワン入試(仮称)について、外国人留学生3月入試について、全学出題・点検委員の委嘱について
4	3月28日 13:30～13:50	出題・点検委員会委員委嘱の原則について(案)、センタープラス入試実施に関するシステム対応について、外国人留学生3月入試(国外受験)の中止について

#### 7) 教員倫理委員会 (教育研究支援G、学長室)

今年度は会議開催せず。

#### 8) 紀要編集委員会 (教育研究支援G)

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月12日 12:15～13:00	学長から委員会への諮問事項、「麗澤大学紀要規程」及び「麗澤大学紀要査読要領」、発行予算、委員会指名の投稿、創立者生誕150年記念に関連した企画、第100巻の発行スケジュール、第100巻原稿募集案内、発行部数及び学外送付
2	4月25日 メール会議	第100巻原稿募集案内、投稿申込書及び提出方法
3	5月30日 12:15～13:10	特別寄稿、投稿キャンセルの対応、次号優先の対応、非常勤講師等の研究倫理教育
4	10月17日 12:15～12:50	発行スケジュール、掲載原稿及び査読者の決定、編集後記の執筆依頼
5	11月21日 12:15～13:00	発行スケジュール、査読結果、目次、本学大学院生からの投稿希望、冊子媒体の廃止
6	29年1月11日 12:15～13:02	再査読結果、査読結果が分かれた場合の対応及び通知方法、既刊総目録、電子媒体への移行に伴う対応、規程改定、発行スケジュール及び目次

#### ⑦プロジェクト関係

##### 1) 寮教育プロジェクト (学生支援G、国際交流G)

回	開催日時	主な協議事項
1	28年5月19日 12:10～13:20	28年度寮教育プロジェクトの事業計画、学生寮ガイドブックの多言語化、全寮生(ユニット単位)の面談について
2	28年9月26日 12:10～13:20	来年度以降の留学生の受け入れについて
3	28年12月2日 12:10～13:20	2学期ユニット面談、寮費の値上げ、D棟2段ベッド導入、外部委託学生会館(共立メンテナンス)導入検討、29年度学生寮事業計画
4	29年2月2日 15:00～16:00	留学生の受入体制に関するその他の検討事項(まとめ)、学生寮Wi-Fi化、29年度学生寮事業計画(修正)、入寮にあたり継続(更新)寮生の条件、語学に特化した寮の試み

##### 2) 社会的責任推進プロジェクト (IR推進室、教育研究支援G、教務G)

今年度は会議開催せず。

### 3) ホームカミングデイ・プロジェクト（教育研究支援G、麗大麗澤会）

回	開催日時	主な検討事項
1	28年5月19日 12:15～13:00	基本方針、実施概要、メインイベント、班構成及び今後のスケジュール、開催場所、予算
2	7月14日 12:15～12:50	新規・継続販売グッズ、受付・グッズ販売・フィナーレの開催場所、フィナーレの内容、展示内容案、受付やフィナーレ開始時間、他イベントとの相互的な連携、同窓会開催団体への支援方法、キャリア BAR 担当、広報
3	9月12日 13:30～13:55	新規・継続販売グッズ、受付・グッズ販売・フィナーレの開催場所、フィナーレの内容、展示内容案、受付やフィナーレの開始時間、同窓会、キャリア BAR 要員、広報、今後のスケジュール
4	10月19日 13:30～13:55	グッズデザイン・販売価格、当日の販売体系や担当者、フィナーレ内容、展示内容、メインイベント、麗澤会主催イベント開催内容、麗陵祭1日目スケジュール、同窓会、キャリア BAR、教員への協力依頼、広報
5	11月30日 12:15～13:00	開催報告、反省、収支報告、次年度の開催案、次年度の予算案
6	29年2月13日 14:00～15:00	29年度以降のホームカミングデイのあり方

### 4) 入学式・卒業式プロジェクト（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年7月28日 12:15～13:10	検討課題、企画担当者案、別科修了・特別聴講生閉講記念パーティ/別科入学式・特別聴講生開講式、学生メンバー募集、今後の進め方、目的・共通認識の確認、活用ツール、前年度活動報告
2	10月28日 12:15～13:00	第7期プロジェクトメンバー、各チームの活動内容紹介と課題共有、今後の進め方
3	12月21日 16:00～17:10	卒業式・入学式設営の学生ボランティア、各チームの進捗状況報告と課題、当日までのスケジュール
4	29年4月25日 16:30～17:35	平成28年度卒業・修了記念パーティ・平成29年度入学式終了後のイベント振り返り、「4年後の自分へ」の運用、卒業・修了記念パーティに関する学生の意向確認、29年度プロジェクトメンバー

### 5) 環境美化プロジェクト（学生支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年7月15日 15:00～16:30	28年度の活動目的・方針、今後のスケジュール
2	8月4日 15:30～16:50	28年度活動計画案
3	9月13日 15:30～16:45	28年度活動具体案
4	10月11日 13:30～14:30	Campus Clean-UP & 5mins Workout の実施について

## 6-2 外国語学部関係

### ①教授会（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月31日 10:03～12:33	人事関係（協議会出席者、教授会議長代行者、教授会議事録記名人（代行者含む）、専任教員委嘱期間延長（助教・講師）、専任教員昇任候補者推薦（准教授）、非常勤講師解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、海外出張、教務・カリキュラム委員会メンバー追加委嘱、28年度「外国語・情報教育プロジェクト」メンバー委嘱、「英語・リベラルアーツ専攻カリキュラム検討タスクフォース」メンバー委嘱）、入試関係（一般3月入試(B日程)・入試大綱、編入学試験大綱）、教務関係（学籍異動、卒業認定、単位認定、編入学生の既修得単位の取り扱いと卒業必要単位数、科目等履修願、国際交流・国際協力専攻カリキュラム改革）
2	5月12日 15:02～16:37	人事関係（嘱託専任教員（英語）公募要領、嘱託専任教員（中国語）学内推薦要領、嘱託専任教員（ドイツ語）公募要領、海外出張、教務・カリキュラム検討委員会委員追加委嘱、「英語・リベラルアーツ専攻カリキュラム検討タスクフォース」メンバー追加委嘱）、入試関係（指定校、外国人留学生入試における指定校制度、指定校編入学試験、外国人留学生指定校編入学試験（国内・国外））、別科日本語研修課程志願者（秋入学）選考、教務関係（学籍異動、科目等履修願（新規・追加）、単位認定、特別聴講生受け入れ、教育実習生受け入れ、授業補助員採用、特別講義、公欠）、ANA エアラインスクール提携
3	6月9日 15:02～16:55	人事関係（専任教員採用候補者推薦、海外出張）、別科日本語研修課程志願者（秋入学）選考、教務関係（学籍異動、単位認定、特別聴講生受け入れ（追加）、「海外語学研修」参加者、「英語圏インターンシップ」参加者、石垣島インターンシップ参加、特別講義、公欠）
4	7月7日 15:01～16:13	人事関係（海外出張、編入学試験（I期）、AO入試のための英語能力審査試験監督委嘱、期末試験監督補助者）、教務関係（学籍異動、単位認定、海外語学研修参加者、国際ボランティア演習参加者、タイ・スタディツアー参加者、海外日本語教育実習参加者、沖縄県立八重山商工高校観光コースでのボランティア参加、特別聴講生受入取り消し、公欠）
5	9月8日 10:02～12:15	人事関係（専任教員（中国語）採用候補者推薦、非常勤講師解嘱、海外出張、AO・編入学試験I期担当者委嘱、大学入試センター試験の試験監督委嘱）、入試関係（AO入試における選考の原則、編入学試験における選考の原則、外国人留学生指定校（1年次）追加）、別科日本語研修課程志願者選考、教務関係（卒業・修了認定、休学期間の在籍料免除、学籍異動、単位認定、特別聴講生辞退、別科生修業年限延長、エアフルト大学（ドイツ）留学、「国際ボランティア演習」参加、科目等履修願、MLEX 審査、「専門ゼミナール」開講クラスと募集日程、特別講義、自主企画ゼミナール審査、ホスピタリ Tee プロジェクト経常化及び予算措置）
6	10月13日 15:10～16:47	外国語学部英語コミュニケーションセンター設置、人事関係（専任教員（英語講師）の公募要領・採用スケジュール、専任教員（英語ネイティブ）採用候補者推薦、海外出張、海外出張中止、AO入試 PREP チューター）、入試関係（AO入試志願者選考、編入学試験I期志願者選考）、教務関係（学籍異動、単位認定、別科修業年限延長者の延長取消し及び修了認定、授業補助員採用、特別講義、公欠）、連携協定締結
7	11月10日 15:03～16:28	人事関係（海外出張）、入試関係（自己推薦・帰国子女・外国人留学生11月入試における選考の原則）、別科日本語研修課程志願者選考、教務関係（学籍異動、単位認定、特別講義、公欠、特別聴講生受け入れ、教育実習生受け入れ）
8	11月24日 16:04～16:32	人事関係（専任教員退職）入試関係（推薦・外国人留学生11月入試志願者選考、編入学試験（II期・指定校I期）志願者選考、入試日程）、教務関係（留学単位認定、公欠）
9	12月1日 15:05～16:43	人事関係（専任教員（ドイツ語）採用候補者推薦、客員教授・非常勤講師解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、客員教授採用候補者推薦、教務主任・教務副主任・専攻コーディネータ（学部執行部体制）、専任教員（日本語教育センター講師）採用手続き開始、海外出張、サテライト会場担当者委嘱）、別科日本語研修課程志願者選考、教務関係（学籍異動、春期海外語学研修参加者、単位認定、公欠、「授業科目及び担当者」と「授業時間割」、新規留学先、新カリキュラム案（ドイツ語）、単位認定資格追加）
10	29年1月12日 15:03～17:03	人事関係（専任教員（日本語教育センター講師）採用候補者推薦、客員教授採用候補者、客員講師解嘱、非常勤講師解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、海外出張、2月入試、3月入試委嘱、外国語学部拡充計画検討プロジェクト設置）、入試関係（入試大綱、一般入試(センター利用I期・2月)、外国人留学生2月入試選考の原則、一般入試(センター利用II期・3月)選考の原則）、教務関係（学籍異動、単位認定、インターンシップ参加、スカラシップ制度入学者の語学検定等受験料支援、株式会社 ANA 総合研究所業務委託、異文化研究 F (タイ) 参加の件、海外語学研修参加、放送大学開講科目及び認定区分、「授業科目及び担当者」と「授業時間割」、学生処分、公欠）、規程改定

回	開催日時	主な協議事項
11	2月9日 10:03～12:16	人事関係（専任教員退職、嘱託専任教員（CEC）採用候補者推薦、非常勤講師解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、ハラスメント相談員の推薦、海外出張）、入試関係（大学入試センター試験利用入試Ⅰ期・一般2月入試・外国人留学生入試（指定校Ⅱ期・2月）選考、編入学試験（指定校・Ⅲ期）、転専攻選考）、別科日本語研修課程志願者選考、教務関係（学籍異動、単位認定、ヨウツェノ学院 Joutsenon Opisto フィンランド語研修、フィンランド語学研修参加者、「自主企画ゼミナール」審査、「麗澤海外開発協会タイ・スタディツアー」参加、別科修業年限延長、別科生修業年限延長辞退、インターンシップ参加、「フィンランド語Ⅰ・Ⅱ」開設、大学院・学部連携科目設置、PBL体験型科目「麗澤・地域連携実習」開講）、覚書、協定、規程改定
12	3月6日 10:03～11:29	人事関係（嘱託専任教員（CEC）採用候補者推薦、名誉教授候補者推薦、非常勤講師解嘱外国語学部教授会構成員、海外出張、入学試験問題作成小委員会・入学試験問題点検小委員会委員委嘱、運営体制委嘱、学部委員会委員委嘱）、入試関係（大学入試センター試験利用入試Ⅱ期・一般3月入試選考、入試大綱、編入学試験大綱）、教務関係（単位認定、学籍異動、別科生修業年限延長辞退、卒業・修了認定、「別科日本語研修課程志願者選考、別科募集日程」卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針、学則改定、規程改定

## ②運営会議（FD委員会）（教育研究支援G、教務G）

回	開催日	時間	回	開催日	時間
1	28年3月24日	10:00～12:00	7	10月12日	18:10～21:30
2	5月6日	18:10～20:30	8	11月7日	18:10～21:30
3	6月2日	16:00～18:30	9	11月22日	18:10～21:30
4	6月30日	15:00～17:00	10	29年1月10日	18:10～21:00
5	8月4日	15:00～18:00	11	2月8日	13:30～16:00
6	9月1日	10:00～12:00	12	3月4日	10:00～12:00

## ③運営会議〔奨学生選考委員会〕（学生支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年5月6日	文科省外国人留学生学習奨励費推薦者 選考、オリエンタルモーター奨学財団奨学生 選考
2	6月2日	日本学生支援機構奨学生 選考、海外留学・海外研修奨学生 選考
3	6月30日	外国人奨学生（別科）選考、海外研修奨学生（短期）選考
4	9月1日	日本学生支援機構追加採用奨学生 選考
5	10月12日	文科省外国人留学生学習奨励費推薦者（追加）選考、平和中島財団奨学生 選考
6	11月7日	特別奨学生 選考、外国人留学生奨学金受給者 選考、坂口国際育英奨学財団奨学生 選考、海外留学・海外研修奨学生 選考
7	11月22日	日本学生支援機構臨時採用奨学生 選考、海外研修奨学生（短期）選考
8	1月6日	日本学生支援機構臨時採用奨学生（追加枠）選考、外国人奨学生 採用取消

## ④教員人事委員会（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月24日 10:00～10:40	協議会出席者、教授会議長代行者、教授会議事録記名人（代行者）、専任教員昇任候補者推薦（准教授）、嘱託専任教員委嘱期間延長（助教・講師）、非常勤講師解嘱・採用候補者推薦
2	5月6日 18:10～19:00	嘱託専任教員（英語ネイティブ）公募要領、嘱託専任教員（中国語）学内推薦要領、嘱託専任教員（ドイツ語）公募要領、校務軽減措置、教務・カリキュラム検討委員会委員追加、IEC公募人事
3	6月2日 16:00～17:10	専任教員候補者推薦、講師委嘱満了に伴う解嘱、教員公募における「模擬授業」の扱い、29年度以降の海外留学・研究休暇希望、授業期間中の専任教員の海外渡航・国内出張
4	6月30日 15:00～15:20	嘱託専任教員（中国語）学内推薦状況確認
5	8月4日 16:00～16:10	嘱託専任教員（英語ネイティブ）公募状況確認
6	9月1日 18:10～19:10	嘱託専任教員（中国語）採用候補者推薦、非常勤講師解嘱
7	10月12日 18:10～19:10	嘱託専任教員（英語講師）公募要領・採用スケジュール、嘱託専任教員（英語ネイティブ）採用候補者推薦、嘱託専任教員（ドイツ語）公募状況確認、専任教員昇任候補者確認、嘱託専任教員委嘱期間延長対象者確認（助教・講師）、2学期人事スケジュール確認
8	11月7日 18:10～18:40	非常勤講師解嘱確認、国際交流基金による客員研究員招へい、2学期人事スケジュール確認

回	開催日時	主な協議事項
9	11月22日 18:10～19:00	専任教員退職、嘱託専任教員（ドイツ語）採用候補者推薦、非常勤講師採用候補者推薦・解嘱、客員教授採用候補者推薦、名誉教授候補者、学部執行部体制、日本語教育センター講師採用の要望、2学期人事スケジュール確認
10	29年1月10日 18:10～19:20	嘱託専任教員（日本語教育センター講師）採用候補者推薦、客員教授採用候補者推薦、客員講師・非常勤講師解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、学部主専攻メンバー、学部委員会委員、2学期人事スケジュール確認
11	2月8日 13:00～14:45	専任教員退職、嘱託専任教員（CEC）採用候補者推薦、非常勤講師解嘱・採用候補者推薦、学部主専攻メンバー、学部委員会委員、学部教授会構成員、ハラスメント相談員
12	3月4日 10:00～10:40	専任教員昇任候補者確認（准教授）、嘱託専任教員委嘱期間延長対象者確認、嘱託専任教員（CEC）採用候補者推薦、名誉教授候補者推薦、非常勤講師解嘱、学部教授会構成員、学部委員会委員、全学委員会委員、2学期人事スケジュール

#### ⑤入学試験委員会（入試広報G）

##### 1) 入学試験検討小委員会

回	開催日時	主な協議事項
1	28年5月6日 18:00～19:00	29年度指定校、外国人留学生入試における指定校、指定校編入学試験(短大・専門学校)、外国人留学生指定校(国内・国外)編入学試験について、29年度入試大綱について
2	6月30日 15:00～15:20	29年度編入学試験Ⅲ期「英語」試験時間について
3	9月1日 10:00～11:00	29年度AO入試における選考の原則、29年度AO入試プレゼンテーション・面接、29年度AO入試PREP、29年度編入学試験における選考の原則、29年度外国人留学生指定校（国内）追加について
4	11月7日 18:10～19:00	29年度公募推薦・帰国子女・外国人留学生11月入試における選考の原則、29年度推薦・帰国子女・外国人留学生面接、29年度編入学指定校推薦入試（国内）の面接、29年度日本語・国際コミュニケーション専攻外国人留学生11月入試(国外受験)における採点方法、29年度自己推薦入試における調査書採点、29年度帰国子女・外国人留学生11月入試TOEFL・TOEIC換算表、29年度帰国子女入試中国系検定試験換算表、29年度日本語・国際コミュニケーション専攻外国人留学生11月・2月「日本語」試験換算表、30年度入試日程について
5	11月22日 18:10～18:20	30年度入試日程について
6	29年1月6日 18:10～19:00	30年度入試大綱の件、30年度編入学試験大綱の件、29年度2月実施入試における選考の原則等、29年度日本語・国際コミュニケーション専攻外国人留学生2月、指定校推薦/Ⅱ期の面接、29年度転部・転専攻試験（1年次）の面接、29年度3月実施入試における選考の原則等、29年一般入試（センター利用Ⅱ期・3月）選考の原則、29年度一般3月入試面接の件
7	3月4日 10:00～10:50	30年度入試大綱について、30年度編入学試験大綱について

##### 2). 入学試験問題作成小委員会

各種入学試験問題を定められた日程によって作成した（日程等は非公表）。

##### 3) 入学試験問題点検小委員会

入学試験問題作成小委員会によって作成された入試問題原稿を定められた日程によって点検した（日程等は非公表）。

##### 4) 入学試験実施小委員会

今年度は開催せず。

⑥教務・カリキュラム検討委員会（教務G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月23日 15:00～17:00	留学者修得単位認定の件、27年度 留学者修得単位認定訂正の件、自主企画ゼミナール 審査基準と運用について、ANAビジネスソリューション株式会社との連携協定について、「グローバルCAI A・B・C・D」の科目区分について、培材大学（韓国）サマースクール単位認定について、語学検定の単位認定の件（国籍と同じ言語の申請）、学期途中で早期帰国した留学生の成績について、学生の汎用的能力の養成について、2016年度第1学期 外国語科目および基礎ゼミナールクラス分け結果報告
2	5月19日 15:00～17:00	留学者修得単位認定の件、2017年度 外国語学部・時間割の検討（教室稼働状況を踏まえて）、2016年度 授業評価アンケート実施科目について（科目の検討）、2016年度 第2学期「英語科教育法Ⅰ」の時間割について、IEC専攻 カリキュラム改定案について、「学生の汎用的能力の養成」について、2016年度「基礎ゼミナールA・B」について
3	6月16日 15:00～17:00	2016年度第2学期「海外日本語教育実習（ニュージーランド）」開講について、留学単位認定の基準について（再検討事項）、留学者修得単位認定の件、2017年度 外国語学部・時間割の検討（教室稼働状況を踏まえて）、2017年度 「道徳科学A・B」の時間割について、成績不振者、留年者への対応について、「台湾大学生訪日研修団」受入れ行事参加学生の公欠扱いについて、培材大学サマースクール参加者の対応について、外国語学部 中期計画について、2017年度「専門ゼミナール」担当者について、2016年度第2学期「教養ゼミナールB-5」（宮下）時間割変更について
4	7月14日 15:00～17:00	2016年度 第2学期「自主企画ゼミナール」審査の件、2017年度 新規科目について（淡江生用科目）、留学者修得単位認定の件、2017年度 「道徳科学A・B」の時間割について、ドイツ エアフルト大学による留学受け入れについて、IEC専攻2017年度カリキュラムについて、2017年度 英語・リベラルアーツ専攻のカリキュラムについて、国籍と同じ言語の「外国語科目」の履修について
5	9月1日 電子会議方式	MLEX審査の件、留学者修得単位認定の件、ドイツ エアフルト大学による留学受け入れについて、カリキュラムの異なる科目の履修について、2016年度第2学期 担当者変更について
6	10月6日 15:00～17:00	留学単位認定について、他専攻の専攻専門科目の履修について、「英語の基礎A～D」の担当者と今後の運用について、国籍と同じ言語での検定による単位認定申請について、（株）ANA総合研究所との業務委託契約について、スカラシップ入学者の資格取得支援制度について、IECカリキュラム改訂に関して、「観光系・ホスピタリティ系科目」における両学部での調整について、JIC専攻、日本語教員養成課程科目追加の件、専門ゼミナール移動について、留学単位認定の基準と認定までの流れ（改訂）、MLEXの対象言語について（「中国語」を除く）
7	11月17日 16:00～18:00	28年度 非常勤講師採用候補者推薦の件、IEC専攻 海外留学単位認定に関する内規について、スカラシップ制度入学者の語学検定等受験料支援について、ドイツ語専攻 新規留学先について、ドイツ語専攻 新カリキュラム案について、情報系科目の変更点について、「フィンランド語Ⅰ」の開講について、ヨウツェノ学院 語学研修について、2016年度「時間割」検討
8	12月8日 15:00～17:00	28年度 非常勤講師採用候補者推薦の件、外国語学部 カリキュラムポリシーについて、2017年度「時間割」検討、情報系の資格取得支援について、「フィンランド語」の開講について（再検討事項）、カリキュラム改定に伴う「編入学生既修得単位等の認定に関する規程」について、「教養ゼミナール」のクラス減について、「基礎教養演習A・B」の外国語学部「共通科目」への乗り入れについて、「外国語学部の授業科目の履修及び単位認定に関する規程」について、JIC専攻 留学生の学力保証制度について、ドイツ語専攻 非常勤講師採用について、「日本語教員養成課程に関する規程」について、大学院科目・学部合併科目の設置について、経済学部 インド研修について、「専門ゼミナール」の選考について（中間報告）、経済学部における「自主企画ゼミナール」の開設について
9	1月19日 16:00～18:00	29年度 非常勤講師採用候補者推薦の件、留学単位認定の件（釜山外国語大学）、フィンランド語開講の件（再検討事項）、規定改定の件、タイ、ベトナムからの特別聴講生へのインターンシップ科目開講等の対応についての検討、「外国語科目」（韓国語）の先行履修の件、ゼミ担当教員の突然の退職等に伴う担当者変更の際の対応について、「スペイン語Ⅲ・Ⅳ」クラス増についての検討、経済学部 ビジネス系科目の相乗りについて、大学院・学部連携科目の設置について、「専門ゼミナール」の選考について（中間報告）、「道徳科学A・B」クラス配当手順について、汎用的能力 自己評価実施について、IEC専攻 カリキュラム新旧対照表、ドイツ語専攻 カリキュラム新旧対照表、2017年度休講となる科目、「フィールドワークA・B・C・D」の運用について
10	2月1日 電子会議方式	29年度 非常勤講師採用候補者推薦の件、29年度第1学期「自主企画ゼミナール」審査の件
11	3月21日 電子会議方式	29年度 非常勤講師採用候補者推薦の件、留学単位認定の件、新規 短期語学留学プログラムについて

⑦留学・国際交流委員会（国際交流G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月12日 12:15～13:05	ミクロネシア大学の留学募集、海外研修等の実施に関する留意点
2	6月28日 12:15～13:05	ベトナム日本留学説明会、海外研修等の実施に関する確認事項
3	9月29日 12:15～13:10	実践大学とのダブルディグリー、日本語・国際コミュニケーション専攻と REDBOOK 社（ベトナム）との学生募集の提携、別科と REDBOOK 社（ベトナム）との留学生斡旋契約、オレゴン大学付属集中英語コース、タゴール国際大学との交流、危機管理
4	11月30日 12:20～13:05	タゴール国際大学との交流、危機管理、ドイツ留学新規派遣先、ヨウツェノ学院 Joutsenon Opisto でのフィンランド語研修
5	29年1月25日 12:15～12:50	ナレースワン大学との覚書、大邱外国語大学校との日本語教育実習に関する協定廃止、レーゲンスブルク大学言語コミュニケーションセンターとの協定、オレゴン大学との協定
6	3月7日 メール回覧審議	セントマーチンズ大学（SMU）との新たな MOU
7	3月16日 メール回覧審議	新規の短期語学留学プログラム（ピサヤ大学附設英語学校）

⑧i-Lounge委員会（国際交流G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年7月25日 12:15～13:00	Current program / events / initiatives、Policy for using the I-Lounge for class activities、Committee member roles, SAs' tasks
2	10月6日 9:15～10:00	Events and activities in the 2 <sup>nd</sup> semester

⑨麗澤グローバルひろば委員会（国際交流G）

今年度は会議開催せず。

⑩オリエンテーション委員会（学生支援G、教務G）

回	開催日時	主な協議・報告事項
1	28年5月31日 12:15～13:10	28年度各種オリエンテーション実施報告、28年度オリエンテーションキャンプ実施報告、29年度オリエンテーションキャンプに向けて
2	11月28日 12:20～12:57	29年度オリエンテーション日程、29年度オリエンテーションキャンプ

⑪情報FD委員会（情報システム室）

回	開催日時	主な協議事項
1	29年10月27日 16:30～18:00	本年度予算の執行状況、プロジェクト等の進捗状況・今後の活動、退職教員のリースの処理、来年度予算の策定スケジュール、情報システム更新への対応、情報教材研究室の移動、教育情報化と著作権フォーラム(10月21日開催)の内容



### 6-3 経済学部関係

#### ①教授会（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月31日 13:30～15:33	人事関係（協議会出席者、議長代行、議事録記名人、学部委員会委員の委嘱、専任教員（グローバル経営、経済学、マーケティング、人事管理）公募要領、海外出張）、入試関係（大学入試センター試験利用入試/Ⅲ期・指定校推薦入試Ⅲ期・維持員子女等推薦入試Ⅳ期・公募推薦入試Ⅳ期・AO入試Ⅴ期選考、入試大綱、編入学試験大綱、大学入試センター試験実施）、教務関係（授業補助員採用変更・追加、授業補助員採用、編入学生既修得単位及び卒業要件、外国人留学生・帰国子女日本語科目履修内規、学籍異動）
2	5月19日 15:00～16:28	人事関係（海外出張）、入試関係（指定校・別科推薦入試、外国人留学生特別指定校、経済学部指定校編入学試験、入試大綱）、教務関係（授業補助員採用変更・追加、特別講義、授業補助員採用、国際ビジネス・IMC・中国MC・税理士・公務員・企業実習・スポーツマネジメントコース参加学生、検定試験単位認定、インターンシップ単位認定、科目担当者変更、単位認定方法の変更、資格取得支援制度の変更、聴講願、公欠、学籍異動、卒業認定追加）
3	6月16日 15:00～16:34	人事関係（海外出張）、教務関係（公欠、早期卒業対象者、単位認定、夏期海外語学研修参加者、海外留学プログラム、科目担当者変更、特別講義講師変更、内規変更、新コース設立、学生処分解除、学籍異動）
4	7月14日 15:00～16:15	人事関係（専任教員募集要領（英語）、非常勤講師採用候補者推薦、研究休暇候補者選出、海外出張、海外出張中止）、教務関係（税理士関連コース参加学生、授業補助員内視改定、夏期海外語学研修参加者、グローバル経済経営フィールド演習（初級）参加者、ミクロネシア研修参加者、フィールドワークA参加者、編入学生の既修得単位認定、科目担当者変更、自主プロジェクト審査、学籍異動）、その他（新コース設置変更）
5	9月8日 15:00～17:14	人事関係（専任教員（経済学）採用候補者推薦、専任教員（マーケティング）採用候補者推薦、専任教員（グローバル経営）、専任教員（人事管理）採用候補者推薦、専任教員（英語）学内推薦状況確認、非常勤講師の解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、非常勤講師委嘱取消、海外出張）、入試関係（外国人留学生特別指定校追加）、その他（専攻科改編）、教務関係（卒業認定、授業補助員採用追加、特別講義講師変更、特別講義、キャリア教育関連科目特別講義、寄付講座、留学単位認定、留学単位認定変更、既修得単位認定、資格取得支援制度対象資格追加、クラス追加、インターンシップ参加者、科目担当者変更中止、科目担当者変更、学籍異動）
6	10月13日 15:00～16:22	人事関係（専任教員退職、専任教員学内推薦（英語）採用候補者推薦、専任教員（特任教授）採用候補者推薦、客員教授解嘱、海外出張）、入試関係（AO入試Ⅰ期志願者選考）、教務関係（授業補助員採用、公欠、留学単位認定、検定試験単位認定、入学前既修得単位認定、海外語学研修単位認定、クラス追加、寄付講座、入学者対象入学前教育、科目担当者変更、キャリア教育関連科目特別講義日程変更、学籍異動）、その他（新専攻設置）
7	11月17日 15:00～16:15	人事関係（海外出張）教務関係（聴講願、授業補助員の採用追加、特別講義追加、公欠、学籍異動）、その他（経済学部スポーツマネジメントコース指定部の追加）
8	11月24日 15:00～15:21	人事関係（海外出張）、入試関係（推薦・外国人留学生11月入試志願者選考、入試日程）
9	12月8日 15:00～15:59	人事関係（専任教員昇任、専任教員（特任教授）採用候補者推薦、教務主任・教務主任・専攻コーディネータ（学務執行部体制、研究休暇候補者、海外出張）、教務関係（特別講義日程変更、カリキュラム修正・科目追加、入学前教育授業補助員採用、学籍異動）
10	12月15日 15:00～15:15	入試の件（AO入試Ⅲ期・公募推薦Ⅱ期入試志願者選考）、教務関係（カリキュラム修正・科目追加）
11	29年1月19日 15:00～16:20	人事関係（客員教授解嘱、非常勤講師解嘱、非常勤講師採用候補者推薦、海外出張）、教務関係（自主企画ゼミナール開講内規制定、留学単位認定、科目担当者と時間割、学籍異動）、入試関係（一般入試（センター利用Ⅰ期・2月）入試選考原則、入試大綱）、その他（規程改定、スポーツマネジメントコース指定部追加）
12	2月9日 13:00～14:17	人事関係（経済学部専攻コーディネータ変更、ハラスメント相談員推薦、海外出張）、入試関係（大学入試センター試験利用入試Ⅰ期・一般2月入試選考、スカラシップ入試選考、外国人留学生入試（特別指定校Ⅱ期・2月）選考、編入学試験（Ⅱ期）選考、転部・転専攻選考、指定校（外国人留学生特別指定校推薦入試（国外）追加、入試大綱）、教務関係（放送大学開講科目及び認定区分、入学式関連スケジュール、カリキュラム修正・科目追加、自主企画ゼミナール審査、中国MCコース内規、科目担当者変更、資格取得支援科目履修、科目担当者と時間割、学籍異動）

回	開催日時	主な協議事項
13	3月6日 13:00~14:25	人事関係(専任教員採用候補者推薦、名誉教授候補者推薦、経済学部教務主任変更、教授会構成員、海外出張)、入試関係(大学入試センター試験利用入試Ⅱ期・一般3月入試選考、指定校推薦入試Ⅱ期選考、外国人留学生特別指定校入試Ⅲ期選考、AO入試Ⅳ期選考、入試大綱、編入学試験大綱)、教務関係(卒業認定(早期卒業含む))、クラス追加、授業補助員採用、歓迎の集い・専攻別オリエンテーション、外国人留学生・帰国子女日本語履修内規改定、インターンシップ参加、科目担当変更、科目及びコースコーディネーター変更、学籍異動)、その他(学生処分、卒業認定・学位授与方針、教育課程編成・実施方針、入学者受入れ方針、学則改定、規程改定)

②人事・運営委員会(教育研究支援G)

回	開催日	時間
1	28年3月24日	15:00~16:30
2	5月12日	15:00~16:20
3	6月9日	15:00~16:40
4	7月7日	15:00~16:30
5	9月1日	15:00~17:05
6	10月12日	18:10~19:20
7	11月10日	15:00~16:30

回	開催日	時間
8	11月22日	18:10~19:00
9	12月1日	15:00~16:30
10	12月13日	18:10~18:25
11	29年1月12日	15:00~16:05
12	2月8日	15:00~16:40
13	3月4日	10:00~11:15

③人事・運営委員会[奨学生選考委員会](学生支援G)

回	開催日時	主な協議事項
1	28年5月12日	文科省外国人留学生学習奨励費推薦者 選考、オリエンタルモーター奨学財団奨学生 選考、海外留学奨学金 支給候補者 選考
2	6月9日	日本学生支援機構奨学生 選考
3	7月7日	海外研修奨学生(短期) 選考
4	10月12日	文科省外国人留学生学習奨励費推薦者(追加) 選考
5	11月10日	特別奨学生 選考、外国人留学生奨学金受給者 選考
6	12月1日	日本学生支援機構臨時採用奨学生 選考、清和国际留学生奨学会推薦者 選考
7	1月12日	日本学生支援機構臨時採用奨学生(追加枠) 選考

④カリキュラム委員会(教務G)

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月17日 電子会議方式	科目等履修願、導入授業授業補助員採用追加・変更、基礎ゼミナールA授業補助員採用、3年次編入学生の既修得単位認定案、外国人留学生及び帰国子女の日本語履修に関する内規改定
2	4月28日 12:15~13:00	1学期特別講義、基礎ゼミナールA授業補助員採用追加、1学期授業補助員採用、特別コース参加学生、検定試験による単位認定、グローバルインターンシップの単位認定、1学期クラス追加、1学期科目担当者変更、履修規程改定、資格取得支援制度変更、公欠、聴講願
3	6月2日 12:15~13:00	公欠、早期卒業対象者、春期海外語学研修単位認定、夏期海外語学研修の参加者、留学単位認定、海外留学プログラム、2学期担当者変更、特別講義内規改定
4	6月30日 12:15~13:00	税理士コース参加者、授業補助員使用基準改定、留学単位認定、夏期海外語学研修参加者、編入生の既修得単位認定の規程、1学期科目担当者変更、2学期「自主プロジェクト」審査、中期計画
5	8月25日 電子会議方式	科目等履修願、1学期特別講義講師変更、2学期特別講義、寄付講座、留学単位認定、入学前既修得単位認定、資格支援制度対象資格追加
6	10月6日 12:15~13:15	2学期授業補助員採用、公欠、留学単位認定、検定試験による単位認定、入学前既修得単位認定、夏期海外語学研修単位認定、2学期クラス追加、寄付講座、H29年度入学者入学前教育、H29年度科目担当者変更、キャリア科目特別講義講師変更、新専攻科目
7	11月3日 電子会議方式	聴講願、2学期授業補助員採用追加、2学期特別講義追加、公欠、夏期海外語学研修単位認定、時間割ポリシー、資格取得支援制度内規改定
8	12月1日 12:15~13:15	特別講義日程変更、カリキュラム修正・科目追加、入学前教育授業補助員採用、カリキュラムポリシー
9	12月22日 電子会議方式	自主企画ゼミナール内規、留学単位認定

回	開催日時	主な協議事項
10	2月2日 12:15～13:15	H29年度放送大学開講科目及び認定区分、H29年度入学式関連スケジュール、カリキュラム修正・科目追加、H29年度1学期「自主企画ゼミナール」審査、中国MCコース内規改定、H29年度科目担当者変更、留学生の資格取得支援制度科目履修、H29年度科目担当者・時間割、H29年度科目・コースコーディネータ（FD責任者）変更
11	2月23日 12:15～13:15	H29年度導入授業授業補助員採用、H29年度歓迎の集い・専攻別オリエンテーション、外国人留学生及び帰国子女の日本語の履修に関する内規改定、インターンシップ参加者、H29年度科目担当者変更、H29年度科目・コースコーディネータ（FD責任者）変更

⑤入試委員会（入試広報G）

29年度入試を定められた日程によって準備し、実施した（準備日程等は非公表）。

⑥入試制度検討委員会（入試広報G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月28日 17:00～18:00	29年度AO入試自己マニフェストテーマ改訂について 29年度一般指定校、編入学指定校、外国人留学生特別指定校について
2	10月27日 13:30～15:00	30年度入試大綱・入試日程について
3	12月15日 12:15～13:30	30年度入試大綱について

⑦グローバル戦略委員会（国際交流G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月25日 12:15～13:17	28年度経済学部留学プログラム各種奨学金、27年度経済学部留学プログラム（夏期出発）奨学金、「グローバル経済経営フィールド演習」短期海外研修、パーパチュアル・ヘルプ大学とのMOA
2	8月1日 12:15～13:26	海外留学先での単位取得状況と奨学金、提携校訪問
3	10月17日 12:15～13:15	ダブルディグリー（マレー州立大学）、西安外国語大学（中国）との協定、JASSO奨学金、ミドルテネシー州立大学との協定更新
4	11月28日 12:15～12:50	29年 春期出発プログラム（ランガラ）希望者、29年 春期出発プログラム（ランガラ）希望者奨学金、西安外国語大学 日本文化経済学院（中国）との協定、金剛大学校（韓国）との覚書、ダブルディグリー（ソクラーナカリン大学）、マレーシア・イスラム科学大学との連携
5	29年2月6日 13:00～14:32	29年度 夏期出発留学プログラム希望者の決定、ダブルディグリー（ソクラーナカリン大学）、提携校担当者、29年度提携校訪問、グローバル経済経営フィールド演習（上級）、出国届
6	3月6日 14:40～15:20	留学生の帰国、フォンティス応用科学大学留学条件引き下げ、JASSO奨学金

⑧情報FD委員会（情報システム室）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年7月4日 18:10～17:10	情報教育に関する進め方と組織、本学におけるe-ポートフォリオ
2	28年11月30日 12:15～13:00	今年度予算の執行、ソフトウェア調査、来年度予算

## 6-4 言語教育研究科関係

### ①研究科委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月31日 14:02～14:47	人事関係（研究科内委員会委員委嘱）、教務関係（科目等履修生の選考、既修得単位認定、構想発表会の実施、学生の海外渡航）、その他（新入生宣誓、規程改定）
2	5月12日 13:33～14:04	教務関係（科目等履修生（学部学生）の受入れ）、その他（奨学生推薦）
3	6月9日 13:31～13:56	教務関係（研究生募集大綱、学生の海外渡航）、その他（奨学生推薦、規程改定）
4	7月7日 13:32～13:45	入試関係（実施概要）、教務関係（修士論文最終試験）
5	9月8日 15:02～15:44	入試関係（入学資格審査）、教務関係（修士論文最終試験判定・修了認定、科目等履修生の選考、学生の海外渡航）
6	10月13日 10:42～11:05	入試関係（博士前期・修士課程Ⅰ期入学試験選考）、教務関係（科目等履修生（学部学生）の受入れ、学生の海外渡航）、その他（奨学生推薦）
7	11月10日 13:32～14:08	人事関係（新規採用候補者の資格審査）、入試関係（入試日程）、教務関係（教育課程表、修士論文審査日程、学生の海外渡航）、その他（『言語と文明』投稿内規および執筆要領の改定、奨学生推薦）
8	12月1日 13:32～13:56	入試関係（研究生の選考）、人事関係（非常勤講師新規採用候補者の資格審査）、教務関係（教育課程表）、その他（奨学生選考、行事予定）
9	29年1月19日 15:02～15:54	人事関係（非常勤講師の解嘱）、入試関係（入試大綱、アドミッション・ポリシー）、教務関係（教育課程表、教職課程科目の見直し、修士論文最終試験、学籍異動（除籍））、その他（麗大麗澤会賞の推薦、期別代表世話人の推薦、学生の海外渡航）
10	2月9日 13:03～13:37	入試関係（入学資格審査、アドミッション・ポリシー）、教務関係（事業計画、学部・大学院連携科目、学生の海外渡航）、その他（『言語と文明』査読委員、奨学生推薦、学則改定、諸規程改定）
11	3月6日 13:44～14:17	人事関係（研究科内委員会委員選出）、入試関係（博士課程（前期）・修士課程Ⅱ期入学試験選考、博士課程（前期）・修士課程研究生Ⅱ期選考）、教務関係（単位認定、修士論文最終試験判定・修了認定、ティーチング・アシスタントの推薦、奨学生推薦、成績優秀賞等選考）、その他（学則改定、規程改定）

### ②後期課程委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月31日 14:51～15:07	教務関係（語学試験、学籍異動（休学）、学生の海外渡航）
2	5月12日 14:06～14:10	※報告事項のみ
3	6月9日 13:58～14:03	教務関係（語学試験判定、博士学位論文提出予定者の認定、研究生出願要項）
4	7月7日 13:48～13:55	入試関係（9月入学研究生選考）、教務関係（学籍異動（除籍）、学生の海外渡航）
5	9月8日 15:48～15:51	教務関係（学生の海外渡航）
6	10月13日 11:09～11:15	教務関係（学籍異動（単位修得退学）、学生の海外渡航）
7	11月10日 14:13～14:20	人事関係（新規採用候補者の資格審査、研究指導担当者の資格審査）入試関係（入試日程）、教務関係（語学試験判定、教育課程表）
8	12月1日 13:58～14:00	※報告事項のみ
9	29年1月19日 15:57～16:05	入試関係（入試大綱）、教務関係（学籍異動（単位修得退学）、学生の海外渡航）
10	2月9日 13:44～14:04	入試関係（入試大綱）、教務関係（学生の海外渡航）
11	3月6日 14:21～14:53	入試関係（博士課程（後期）入学試験選考、入試大綱）、教務関係（博士学位論文（課程博士）予備論文審査委員会の設置、学籍異動（休学）、単位認定、在学期間延長要件確認）

③運営委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日	時間
1	28年3月29日	16:30～18:00
2	4月28日	13:30～15:00
3	6月2日	16:00～17:30
4	6月30日	15:00～16:30
5	9月5日	13:30～15:00
6	10月6日	16:50～18:30

回	開催日	時間
7	10月27日	13:30～15:00
8	11月24日	13:30～15:00
9	29年1月12日	13:30～15:00
10	2月2日	15:00～16:30
11	3月1日	13:30～15:00

④人事委員会（博士後期課程）（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年11月7日 12:15～13:00	資格審査

⑤人事委員会（博士前期・修士課程）（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年10月21日 16:00～16:30	資格審査
2	11月15日 回議	資格審査

⑥『言語と文明』編集委員会（大学院・オープンカレッジG）

今年度は逐次委員間で編集・発行に伴う事項を協議し、会議は開催せず。

⑦広報委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月28日 14:30～15:30	志願者確保の方策について

⑧FD委員会（大学院・オープンカレッジG）

今年度は会議開催せず。

⑨カリキュラム委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年10月21日 16:30～17:30	29年度カリキュラム改定案

6-5 経済研究科関係

①研究科委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月31日 10:30～11:20	教務関係（新入生の指導教員、既修得単位認定）、その他（研究科委員会の議長代行者について）
2	5月19日 13:32～13:53	教務関係（科目等履修生選考）、入試関係（International Program 入試選考、International Program 研究生選考）、奨学生選考関係（奨学生選考）
3	6月16日 13:32～13:49	入試関係（ABE イニシアティブ研究生選考、研究生募集大綱）、奨学生選考関係（奨学生選考）
4	7月14日 13:30～14:06	入試関係（修士課程Ⅰ期入試・International Program 入試）
5	9月8日 13:01～13:20	教務関係（科目担当者及び開講学期の変更について）、学生の海外渡航
6	10月13日 13:31～13:59	教務関係（既修得単位認定、学生の海外渡航）、入試関係（修士課程Ⅰ期入試選考）、奨学生選考関係（奨学生選考）
7	11月17日 13:32～14:13	人事関係（教員人事審査委員選定、非常勤講師新規採用の資格審査）、入試関係（入試日程、研究生Ⅱ期入学資格審査）、教務関係（教育課程表、学籍異動（退学）、論文審査日程、指導教員の変更）、奨学生選考関係（奨学生選考）

回	開催日時	主な協議事項
8	12月8日 13:33~14:20	人事関係（非常勤講師の資格審査、新規採用者の資格審査）、教務関係（修士論文審査、教育課程表、行事予定、学費未納者状況、学生の訓戒について、学生の海外渡航）、奨学生選考関係（奨学生選考）、その他（廣池千九郎奨励賞の推薦）
9	29年1月19日 13:31~14:41	人事関係（非常勤講師の解嘱、新規採用候補者の資格審査、非常勤講師新規採用候補者の資格審査）、入試関係（International Program 入学試験の追加実施について、入試大綱）、教務関係（修士論文最終試験、教育課程表、学籍異動（除籍）行事予定、学生の海外渡航）、奨学生選考関係（奨学生選考）、その他（アドミッション・ポリシーについて、麗大麗澤会賞の推薦、期別代表世話人）
10	2月9日 10:01~10:51	入試関係（修士課程Ⅱ期入試入学資格審査）、教務関係（教育課程表、学生の海外渡航）、その他（事業計画、アドミッション・ポリシー、諸規程改定）
11	3月7日 10:03~10:32	入試関係（修士課程Ⅱ期入試選考、研究生Ⅲ期選考）、教務関係（単位認定、修士論文最終試験判定・修了認定、TAの推薦、指導教員の変更、奨学生選考関係（奨学生選考）、その他（学則改定、規程改定、全学委員会の選出）

## ②博士課程委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年3月31日 11:23~12:02	人事関係（博士学位論文〔課程博士〕審査委員の委嘱）、教務関係（学生の海外渡航）、その他（規程改定）
2	5月19日 14:00~14:08	教務関係（英語原典講読Ⅲテキスト、学籍異動（留学））
3	6月16日 14:02~14:07	入試関係（研究生募集大綱）、教務関係（博士学位論文〔課程博士〕提出予定者の認定）
4	7月14日 14:12~14:53	教務関係（博士学位論文〔課程博士〕の審査委員の変更、博士学位論文〔論文博士〕審査判定）
5	9月8日 13:25~13:31	教務関係（学生の海外渡航）
6	10月13日 14:06~14:12	教務関係（語学試験）
7	11月17日 14:20~14:25	人事関係（博士学位論文〔課程博士〕審査委員の委嘱）、入試関係（入試日程）、教務関係（教育課程表）
8	12月8日	協議事項がないため、開催せず。
9	29年1月19日 14:45~14:47	入試関係（入試大綱）
10	2月9日 10:01~10:51	教務関係（博士学位論文審査判定）
11	3月7日 10:37~10:58	人事関係（ポスト・ドクター採用〔継続・新規〕）、（単位認定、学籍異動〔休学〕、在学期間延長要件確認）

## ③運営委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日	時間	回	開催日	時間
1	28年3月24日	10:00~12:00	7	11月10日	10:00~12:00
2	5月12日	10:00~12:30	8	12月1日	10:00~12:30
3	6月9日	10:00~12:00	9	1月12日	10:00~12:00
4	7月7日	10:00~12:30	10	2月2日	10:00~12:00
5	9月1日	10:00~12:00	11	2月23日	10:00~12:20
6	9月29日	10:00~11:50			

## ④人事委員会（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年10月31日 12:15~13:00	修士課程 教員人事の審査に伴う審査委員の選定について、博士課程 非常勤講師新規採用候補者の資格審査について
2	11月21日 12:15~13:15	修士課程 新規採用候補者の資格審査、修士課程 非常勤講師新規採用候補者の資格審査について、修士課程 教員人事の審査に伴う審査委員の選定について
3	12月15日 13:00~13:50	新規非常勤講師資格審査

⑤FD 検討会（大学院・オープンカレッジ G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年7月5日 12:15～14:00	日本語ライティング支援、学生による授業評価アンケート、博士課程 語学試験 の在り方について、International Program 入試（海外から直接の志願者）、研究生指導（特別指導相当）、博士論文 審査手続、日本語学校訪問大学院生に対する研究倫理の指導
2	10月31日 12:10～13:00	日本語ライティング支援、International Program の募集戦略、研究生指導（特別研究指導相当）、大学院生に対する研究倫理の指導、学生による授業評価アンケート（経済研究科バージョン）

⑥FD ワーキンググループ（大学院・オープンカレッジ G）

今年度は開催せず。

6-6 センター等運営委員会関係

①図書館（図書館事務G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月20日 12:15～13:00	28年度構成員、事業計画、予算申請、27年度利用状況
2	10月18日 12:15～12:45	29年度雑誌・電子ジャーナル等の契約について、館内飲用解禁の提案について

②経済社会総合研究センター（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月14日 12:15～13:15	28年度客員研究員追加、28年度プロジェクト研究分担者追加、28年度研究センタープロジェクト辞退、運営委員会開催日程確認、研究センター成果冊子印刷（研修事業）、27年度『年報』原稿
2	5月26日 12:15～13:00	29年度研究センタープロジェクト募集案、29年度以降の研究センター計画
3	6月28日 12:15～13:00	28年度特別研究員追加、中期計画の施策に関する意見・提案
4	7月8日 メール会議	28年度客員研究員辞退
5	9月9日 メール会議	28年度客員教授追加
6	10月27日 12:15～14:10	29年度研究センタープロジェクト応募選考、29年度事業計画及び予算
7	11月30日 12:15～13:05	29年度事業計画、29年度センター予算、29年度構成員、センターの10年後の目標（ビジョン）設定、新研究科の設置に伴う生涯教育プラザの転用
8	29年2月2日 12:15～12:55	29年度事業計画、29年度構成員、客員研究員追加、29年度研究センタープロジェクト追加

③比較文明文化研究センター（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月18日 12:10～12:54	28年度の運営委員会のセンター構成員、28年度事業計画、28年度センター予算、27年度年報、27年度事業報告書、日程確認、比文研セミナー筆耕、「地球システム・倫理学会第12回学術大会」
2	5月25日 12:15～12:40	比文研セミナーの筆耕、「比文研ニューズレター」の発行
臨時	6月27日 12:15～13:17	中期計画の施策に関する意見・提案
3	10月26日 12:15～13:17	29年度の事業計画、29年度の予算、日程確認、「地球システム・倫理学会第12回学術大会」、『比較文明研究』原稿状況及び著作権申請
4	11月15日 12:15～13:10	29年度事業計画、29年度予算、29年センター構成員、29年度研究セミナー日程、『比較文明研究』22号
5	29年1月25日 12:15～12:37	客員研究員の受入、客員教授の受入れ、29年度センター構成員、29年度センター事業計画及び日程確認

④企業倫理研究センター（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月11日 12:15～13:00	28年度構成員・事業計画・予算・プロジェクトの確認、運営委員会日程案、27年度麗澤大学年報、公開研究会企画、27年度プロジェクト予算執行実績、27年度事業報告、図書出版報告
2	5月23日 メール会議	研究センタープロジェクトの募集案、公開研究会企画案
3	7月4日 12:15～13:10	中期計画の施策に関する意見・提案、公開研究会企画案、客員研究員受入れ取消し、受託研究受入れ
4	7月8日 メール会議	客員研究員追加
5	10月3日 12:20～13:15	29年度事業計画案・予算案、「腐敗防止に関する研究会」予算措置、特別研究員の国際会議出席に伴う旅費補助、センター及びプロジェクト予算の執行状況、第1回公開研究会、Working Paper No.16 発行、ISBEE 参加報告
6	11月14日 12:15～13:30	29年度事業計画案・予算案、29年度構成員、受託研究受入れ、センタープロジェクト応募状況、第2回・第3回公開研究会、新研究科設置に伴う施設転用
7	29年1月16日 12:15～12:45	29年度事業計画案、特別研究員受入れ、29年度構成員、第3回公開研究会
8	2月6日 15:00～15:45	新研究科設置に伴うセンター運用方法、29年度運営委員会日程案、研究プロジェクト執行状況

⑤言語研究センター（教育研究支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月12日 18:10～19:05	研究員及び運営委員の追加、運営委員会・セミナー等の開催日程及び内容、27年度『年報』原稿
2	5月23日 18:10～19:00	29年度研究プロジェクトの募集内容、研究セミナー・シンポジウムの開催内容
3	10月24日 18:10～18:50	29年度事業計画及び予算、研究セミナー及びシンポジウムの開催日程及び内容、29年度プロジェクトの応募状況
4	11月14日 18:10～19:10	29年度事業計画及び予算、29年度構成員、研究セミナー及びシンポジウムの開催日程及び内容、新研究科の設置に伴う生涯教育プラザの転用
5	29年1月23日 18:10～18:45	29年度事業計画、29年度客員研究員受入れ、29年度構成員

⑥情報教育センター（情報システム室）

1) 運営委員会

回	開催日時	主な協議事項
1	28年7月27日 12:10～13:00	麗澤大学情報教育センター規程の改定
2	28年11月28日 12:10～13:00	麗澤大学情報教育システム整備計画の日程
3	29年2月1日 12:10～13:00	29年度情報教育・研究支援に関する事業計画、学校法人廣池学園情報システム運用規程

2) センター会議

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月11日 18:30～21:00	今後取り組むべき課題、Office365の利用、情報系科目以外の科目でPC教室を使用する時のTA、CALLのTA講習会実施、TA採用面接およびTA顔合わせ会
2	28年5月16日 18:30～20:30	代表メールアドレス作成、麗澤大学アップローダ、学内Mac Proをサーバとして外部からアクセスする件、メーリングリスト統合、授業TAの管理
3	28年6月13日 18:30～20:50	教室におけるPC配置、中期計画の進捗報告提出、Windows10へのバージョンアップに関する周知、学内からスパムメールが送信された件
4	28年7月11日 18:30～20:30	情報教育センターの事業内容変更、次回運営委員会の議題・報告事項、ファイル交換ソフト利用禁止の周知
5	28年9月26日 18:30～21:00	教室PCのWindows10更新調査実施、サーバールームUPS電源追加工事、アルバイト時間単価改訂及び資格保有TA単価UP、MOS試験、中期計画の進捗報告、PCスキルアップセミナー、TAネームプレートデザイン



回	開催日時	主な協議事項
6	28年10月24日 18:30~20:30	教室PCのWindows10更新調査実施、MOS試験、無線lan環境の調査、コンピュータプログラミングのTA
7	28年11月21日 18:30~20:30	来年度の予算編成、学内で実施する情報系の外部試験の実施主体、汎用的能力用の共有アカウントの作成、懲戒解雇者のユーザIDおよびメールアドレス停止
8	28年12月19日 18:30~20:30	来年度事業計画、図書館内の飲食解禁、学校法人廣池学園情報システム運用規程
9	29年1月16日 18:30~20:30	来年度事業計画、学校法人廣池学園情報システム運用規程、大学ICT推進協議会から（文科省からの委託）のアンケート回答
10	29年2月13日 12:15~14:00	ヘルプデスク年間カレンダー、PC追加設置の要望、TA勤怠管理、29年度麗澤大学教員マニュアル、さくらインターネット継続、卒論発表会の副賞
11	29年3月13日 12:15~14:00	情報システム教員用利用マニュアル改訂、来年度のユーザID通知書、メールアドレスの文字数、Windows Vistaの扱い、および利用期限の周知、28年度事業報告、28年度大学年報

#### ⑦国際交流センター（国際交流G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年6月20日 12:15~13:00	28年度外国人留学生の授業料減免、私立大学等経常費補助金特別補助
2	11月15日 12:15~13:05	西安外国語大学との協定、マレー州立大学とのダブルディグリー協定、実践大学とのダブルディグリー協定

#### ⑧日本語教育センター（国際交流G）

回	開催日時	主な協議事項
1	27年6月9日 12:15~13:13	特別聴講生教科無料書配布の見直しについて、特別聴講生基本コース受入れ方針について、特別聴講生向け日本語コース説明書類について、特別聴講生来日前履修希望コース申請書について
2	11月5日 12:15~13:15	28年度日本語教育センター事業計画（案）について

#### ⑨麗澤オープンカレッジ（大学院・オープンカレッジG）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月21日 16:30~17:30	新年度を迎えての確認事項、28年度運営委員会のメンバー、28年度事業計画・予算、27年度関連収支報告、28年度新規講師の資格審査、28年度生涯学習講座(夏期集中)、28年度2学期特別講演会の講演候補者、ROCK開校10周年記念事業
2	7月28日 16:30~17:30	28年度新規講師の資格審査、28年度講座担当講師の交替、28年度生涯学習講座(2学期)の企画、28年度2学期特別講演会の総合テーマ・講演テーマ、29年度1学期特別講演会の講演者と総合テーマ、創立者生誕150年記念・ROCK開校10周年記念特別講演会、28年度フィールドスタディ申請
3	10月27日 16:30~17:30	28年度新規採用講師の資格審査、28年度生涯学習講座（春期集中）の募集スケジュール、28年度行事予定案、28年度事業計画及び予算、29年度1学期特別講演会の講演候補者・総合テーマ、28年度フィールドスタディ申請
4	29年3月3日 17:30~18:30	29年度新規採用講師の資格審査、29年度生涯学習講座(通年・1学期)の企画、29年度1学期特別講演会の総合テーマ・講演候補者・テーマ、29年度2学期特別講演会の総合テーマ・講演候補者、28年度フィールドスタディ申請

#### ⑩学生相談センター（学生支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年6月2日 12:10~13:00	28年度学生相談センター活動予定、28年度教授会・協議会議題について、学生相談センター主催講演会/ワークショップについて、28年度学生相談センターの体制について、27年度学生相談センター利用者報告、28年度4月~5月学生相談センター利用者報告、28年度入学時調査および特別面接について、文部科学省所管事業分野における障害を理由とする、差別の解消の推進に関する対応指針の紹介、学生の動向
2	9月22日 12:10~13:00	28年度学生相談センター2学期活動予定、学生相談センター主催講演会日程について、危機対応について配慮が必要な障害学生について、28年度学生相談センター1学期活動報告、28年度4月~8月学生相談センター利用者報告、学生相談センター年報第16号（27年度）の発行、学生の動向
3	11月17日 12:15~13:00	29年度学生相談センター予算について、29年度事業計画について、28年度学生相談センター予定、学生相談センター主催講演会について、27年度学生相談センター年報について、28年度2学期配慮願発行者について、学生の動向
4	29年2月14日 13:30~14:30	精神科医の雇用継続について、29年度教授会・協議会議題について、29年度学生相談センター発行物について、29年度事業計画について、29年度予算案について、29年度学生相談センター体制について、28年度学生相談センター予定、28年度学生相談センター活動報告、28年度4~1月の利用者報告、学生の動向

⑪キャリアセンター（キャリア支援G）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年11月10日 12:15～13:10	次年度キャリア形成演習及び筆記試験対策の予算について、未内定学生の状況把握についての施策の検討
2	29年1月25日 12:15～13:10	未内定学生の状況把握についての施策の検討、2018年3月卒業予定者の就職支援について

⑫道徳科学教育センター（学長室、教務G）

回	開催日	主な協議事項
1	28年4月19日(火) 12:15～13:00	28年度事業計画（確認）、客員教授の委嘱、客員研究員の委嘱、Kevin M. Doak 教授の来園、「道徳科学」新テキストの作成、『日本道徳教育の歴史』（ミネルヴァ書房）の発刊記念研究会、武道教学推進センター第1回講演会の共催依頼、
2	5月17日(火) 12:15～13:05	28年度新カリキュラムにおける道徳教育の授業運営支援、教員免許状更新講習、公益財団法人 モラロジー研究所主催の教育者研究会への講師派遣、大学のCOC活動の一環とした道徳教育の推進活動、海外大学等との連携による教育・学術交流の推進と道徳・倫理教育の展開、創立者生誕150年記念事業によるシンポジウム開催への支援と講演者派遣、道徳教育大学院構想、
3	6月21日(火) 12:20～13:00	「道徳科学」新テキスト作成の進捗状況、モラロジー研究所道徳教育推進部からの打診、28年度 柏市大学連携講座（道徳教育研修）、第4回 高校教員のための「道徳教育講座」、『日本道徳教育の歴史』（ミネルヴァ書房）の発刊記念研究会開催報告、武道教学推進センター講演会開催報告、2015年開催共同シンポジウム「ベトナムと日本の文化：融合および発展」の論文出版、ジュビリーセンター年次会議（2017年1月、Oxford 大学）への参加と発表、
4	7月12日(火) 12:15～13:00	客員教授の候補者の推薦、私立大学研究ブランディング事業、「道徳科学」新テキスト作成の進捗状況、日本道徳教育学会第87回大会参加報告
5	9月27日(火) 12:15～13:00	道徳科学教育センター客員教授の推薦、「道徳科学」新テキスト作成の進捗状況、「道徳教育分野におけるCMSEスタッフ（専任・客員）の見える化」、『廣池千九郎—道徳科学とは何ぞや』（橋本富太郎著）刊行記念研究会、私立大学研究ブランディング事業への申請、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業、ミズーリ大学とのMプロジェクト打合せ（海外出張報告）、ASPIRE Reitaku Center（通称：ARC）のCMSEセンター室使用、Kristjan Kristlansson 博士著書の「Aristotelian Character Education」邦訳
6	10月25日(火) 13:15～13:00	「道徳科学」新テキスト作成の進捗状況、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業、「道徳教育の今後の展望」勉強会、日本道徳教育学会の大会受け入れ、『廣池千九郎—道徳科学とは何ぞや』刊行記念研究会、『廣池千九郎—道徳科学とは何ぞや』（橋本著、ミネルヴァ書房）の献本、28年度 道徳科学教育センター関連事業等、
7	11月29日(火) 12:15～13:00	「道徳科学」新テキスト作成の進捗状況、『麗澤「道徳教育学」ライブラリー』シリーズの刊行、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業、私立大学研究ブランディング事業への申請結果、『廣池千九郎—道徳科学とは何ぞや』刊行記念研究会、『私立大学の多様で特色ある取り組み』（日本私立大学団体連合会）、ベトナム出張報告
8	29年1月24日(火)	「道徳科学」新テキスト作成の進捗状況、道徳シンポジウム開催報告、イギリス出張報告、ホーチミン市人文社会科学大学・道徳研究センター所長の交代、第2回「考え、議論する道徳フォーラム」参加報告、29年度 教育者研究会
9	2月28日(火) 15:00～15:50	「道徳科学」新テキスト、28年度実施事業報告、29年度事業計画、柏市教職員研修講座、高校教員のための道徳教育講座、29年度 道徳科学教育センターセンター員、

1) 「道徳科学」授業担当者会議

回	開催日	主な協議事項
1	28年4月27日 (水) 10:40～12:10	29年度「道徳科学」新テキスト、28年度「道徳科学担当者会議」日程
2	28年5月11日 (水) 10:40～12:10	29年度「道徳科学」新テキスト内容確認
3	28年6月15日 (水) 10:40～12:10	29年度「道徳科学」新テキスト各項目の推敲、29年度「道徳科学A・B」（2年次）時間割配置（確定）

回	開催日	主な協議事項
4	28年7月6日 (水) 10:40~12:10	29年度「道徳科学A・B」(2年次)時間割調整、29年度「道徳科学」新テキスト各項目の推敲、教員免許状更新講習「道徳教育の現状と課題」開催概要、「高校教員のための道徳教育講座」開催概要
5	28年9月8日 (木) 12:10~13:10	29年度「道徳科学A・B」時間割調整、「道徳科学」新テキスト学生ヒアリングについての意見交換、「道徳科学」担当者割振り、29年度「道徳科学A・B」の展開検討
6	28年10月19日 (水) 10:40~12:10	29年度「道徳科学A・B」クラス数・担当教員割り振り等
7	28年11月16日 (水) 10:40~12:10	2年次の汎用的能力の自己評価、29年度「道徳科学A・B」の展開検討、クリーンキャンペーンの実施、「マナー教育」、シラバス内容検討、テキストの進捗状況確認、29年度の「道徳科学担当者会議」の日程調整
8	28年12月6日 (火) 12:15~13:00	29年「道徳科学」新テキスト進捗状況確認、29年度「道徳科学担当者会議」開催日程(確定)、新年度へ向けた新規担当者のための情報提供依頼
9	29年1月12日 (火) 12:15~13:00	29年度「道徳科学A・B」内容検討(環境美化プロジェクト「KBP」とのコラボレーション企画)
10	29年2月16日 (木) 10:00~11:30	29年度「道徳科学A・B」の内容確認(シラバス文言、環境美化プロジェクト「KBP」とのコラボレーション、マナー教育の導入へむけて)

### ⑬学修支援センター(教務G)

回	開催日時	主な協議事項
1	28年9月26日 12:15~13:10	学生の“その気”スイッチ探しプロジェクト

### ⑭地域連携センター(地域連携センター)

回	開催日時	主な協議事項
1	28年6月9日 12:15~13:00	活動進捗共有、年間スケジュール、RCRC活動報告書の制作について、境町との連携事業、シンポジウムの企画案等
2	7月28日 12:15~13:00	境町との具体策、主なプロジェクトの進捗共有、RCRC活動報告制作について
3	10月6日 12:15~13:00	主なプロジェクトの進捗共有、H29年度事業計画・予算、境町との連携具体策、学内インターン成果報告
4	1月31日 15:00~16:30	主なプロジェクトの進捗共有、H29年度事業計画・予算、外部委員との意見交換「大学に期待すること」

## 6-7 法人関係(大学関係分のみ)

### ①理事会(総務課)

回	開催日時	主な審議事項
381	28年4月22日 13:30~14:30	麗澤中学・高等学校食堂改築工事建設業者選定
382	5月28日 13:30~14:05	27年度事業報告、27年度資金収支及び事業活動収支決算、27年度収益事業損益決算、監査報告
383	5月28日 16:30~17:10	寄附行為の改定、28年度資金収支及び事業活動収支補正予算、麗澤中学・高等学校食堂厨房設備納入業者の選定、規程の改定
384	6月24日 13:30~14:45	大学院研究科の増設、28年度公益財団法人モラロジー研究所学校教育助成金対象事業に要する部門別経費並びに助成額、規程の改定
385	7月22日 13:30~14:50	28年度廣池学園教職員の賞与支給率、私立大学研究ブランディング事業、規程の改定
386	9月16日 13:30~14:20	顧問の委嘱、規程の改定

回	開催日時	主な審議事項
387	10月21日 13:30～15:50	麗澤中学・高等学校、麗澤幼稚園のビジョン、道德教育大学院の構想
388	11月26日 15:10～16:20	道德教育大学院の設置、不動産の処分（麗澤大学学生寮の北側隣接地建物解体）、28年度資金収支及び事業活動収支補正予算
389	12月16日 13:30～15:00	理事の選任、麗澤瑞浪中学・高等学校給配水設備更新工事業者選定、規程の改定
390	29年1月27日 13:30～15:00	29年度モロロジー研究所への学校教育助成金申請、29年度教職員の昇給、麗澤中学・高等学校ラグビー場の建設、規程の改定
391	2月24日 13:30～15:20	29年度以降の新会議体、麗澤中学・高等学校 ICT 教育環境整備における業者選定、規程の制定・改定
392	3月18日 16:20～17:20	寄附行為の改定、第2号基本金の組入計画の変更、基本財産・運用財産の処分、28年度資金収支・事業活動収支補正予算、29年度事業計画、29年度資金収支・事業活動収支予算、29年度収益事業部門損益予算、麗澤中学・高等学校ラグビー場建設の業者選定、麗澤中学・高等学校 ICT 教育環境整備（無線 AP、タブレット）における業者選定、評議員の選任、規程の制定・改定

### ②評議員会（総務課）

回	開催日時	主な諮問事項
194	28年5月28日 14:15～16:20	寄附行為の改定、28年度資金収支及び事業活動収支補正予算
195	年11月26日 13:30～15:00	道德教育大学院の設置、不動産の処分（麗澤大学学生寮の北側隣接地建物解体）、28年度資金収支及び事業活動収支補正予算
196	29年3月18日 13:30～16:10	寄付行為の改定、第2号基本金の組入計画の変更、基本財産・運用財産の処分、28年度資金収支・事業活動収支補正予算、29年度事業計画、29年度資金収支・事業活動収支予算、29年度収益事業部門損益予算

### ③大学教員人事委員会（人事課）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月15日 15:30～16:30	委員会の役割と審議方法、採用方針、大学教員の昇任・委嘱期間延長・兼業、専任教員の採用・公募要領、海外留学者数
2	7月8日 15:30～17:05	大学教員の採用・解嘱・兼業、専任教員の採用・公募要領、海外留学・研究休暇候補者
3	7月28日 16:00～16:30	大学教員の委嘱・兼業、海外留学・研究休暇候補者、
臨時	9月28日 15:00～16:35	大学教員の委嘱・解嘱・兼業、CEC ネイティブ講師の採用・公募要領
4	10月27日 15:30～16:50	大学教員の退職・採用・委嘱・解嘱・兼業、昇任人事計画
5	11月25日 16:30～17:25	大学教員の退職・採用・委嘱・解嘱・兼業、特任教授の職務、研究休暇の追加申請
6	12月16日 16:00～17:00	大学教員の採用・委嘱・解嘱・昇任・兼業、専任教員の昇任、学部執行部体制
7	29年2月10日 16:00～17:00	大学教員の採用・委嘱・解嘱・兼業、学校教育研究科新設に伴う人事、大学役職者の人事
8	3月10日 15:00～16:00	大学教員の採用・委嘱・解嘱・兼業、名誉教授の称号授与

④規程委員会（総務課）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年4月13日 13:30～14:45	改定4件
2	5月23日 15:00～16:05	改定2件
臨時	5月26日 15:02～15:56	改定1件
3	6月16日 13:00～13:49	改定6件
4	7月15日 13:30～14:00	改定1件
5	9月7日 13:30～14:00	改定5件
6	12月12日 15:30～17:41	制定1件、改定15件
7	29年1月23日 15:30～16:55	改定10件
8	2月6日 15:30～17:00	制定3件、改定4件、組織改組に伴う改定158件
9	2月27日 15:30～16:30	改定12件、組織改組に伴う改定158件
10	3月10日 10:00～10:16	改定3件

⑤廣池基金運用委員会（総務課・経理課）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年12月1日 13:00～14:30	27年度麗澤各校の奨学金実績、27年度麗澤大学研究助成金実績、27年度麗澤国際交流基金対象事業に係る実績報告、廣池基金運用収入の今後、29年度廣池学事振興基金の部門別配分、29年度麗澤国際交流基金の部門別配分
2	29年2月8日 10:00～11:00	29年度廣池学事振興基金予算、29年度麗澤国際交流基金予算
3	年3月16日 10:00～11:00	麗澤中高 特別奨学生制度の改正案

⑥危機管理委員会（総務課）

今年度は会議開催せず。

⑦衛生委員会（総務課）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年5月1日 10:00～11:30	熱中症の予防・治療には何を飲めばよいか、世界禁煙デー、衛生委員会の開催方針、廣池学園診療所でのジェネリック医薬品の取り組み、ストレスチェックの運用、今年度の朝型勤務の概要、長時間労働者の面接結果報告（27年度）、中学・高校の労働時間の報告（2・3月）、シリーズ「動画で学ぼうパワーハラスメント」、職場復帰支援、今年度の職員健康診断、
2	6月23日 10:00～11:30	職場復帰支援、動画で学ぼうパワーハラスメント、中高教員の長時間労働、職員の長時間労働、キャンパス内全面禁煙、健康診断を終えて
3	9月28日 10:00～11:30	油断大敵「麻疹対策」、今年のインフルエンザ対策、ストレスチェック実施対策、「構内前面禁煙を考える」2年目の朝型勤務を終えて、職員の長時間労働者、柏・瑞浪中学・高校教員の長時間労働、職場復帰支援、職場巡視結果報告
4	10月27日 10:00～11:30	「病院、学校を全面禁煙、職場復帰支援、電通新入社員の自殺を考える、心室細動最も危険な不整脈、職員の長時間労働、柏・瑞浪中学・高校教員の長時間労働、ストレスチェック実施報告、今年度の教職員健康診断結果、職場巡視報告
5	12月15日 10:00～11:30	インフルエンザの対応措置、シリーズ「動画で学ぼうパワーハラスメント」、職場復帰支援の報告、長時間労働者対策の動向、瑞浪・柏中高校教員の長時間労働、職員の長時間労働、ストレスチェック実施報告、NSXプロジェクト経過報告、職場巡視報告

回	開催日時	主な協議事項
6	29年2月23日 10:00～11:30	今年度の衛生委員会を振り返って、2016/2017キャンパス内インフルエンザ感染報告、初回ストレスチェック報告、職場復帰支援報告、3回目を迎える「次年度朝型勤務」の対応、学生及び教職員の喫煙者の実態、長時間労働者の面接結果報告（11・12・1月）

⑧保健委員会（総務課）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年6月22日 10:00～11:00	麗澤各校の健康管理（健康診断、新入学生の有疾患状況、アレルギー疾患の報告）、学習障害支援、スポーツ活動中の熱中症予防、キャンパス内前面禁煙を考える
2	29年1月13日 13:00～14:35	学校において予防すべき冬の感染症、学園における「障害学生の支援」、一学期・二学期を振り返って、キャンパス内禁煙を考える

⑨個人情報保護委員会（総務課）

今年度は会議開催せず。

⑩防災管理委員会（総務課）

回	開催日時	主な協議事項
1	28年8月31日 10:00～11:00	28年度防災訓練、自衛消防隊本部隊編成確認、自衛消防隊本部隊員の災害時の集合

⑪ハラスメント防止委員会（人事課）

今年度は会議開催せず。

⑫麗澤大学施設整備検討委員会（教育研究支援G）

回	開催日時	主な検討事項
1	28年5月18日 12:15～13:10	本委員会での検討内容、今後の大学施設整備（案）、他大学施設（参考情報）、研究室A棟の改修（大学からの要望後の変更点の確認）
2	11月25日 12:00～13:30	学生が利用する施設整備のコンセプト策定の中間報告、既存施設の改修案（ラーニングコモンズ等）の中間報告、今後の進め方

## 麗澤大学自己点検委員会 名簿

### 2016（平成 28）年度

委員長	中山 理	(学長)
副委員長	小野 宏哉	(副学長)
委員	佐藤 仁志	(学長補佐)
	渡邊 信	(外国語学部長)
	松田 徹	(外国語学部教務主任)
	竹内 拓史	(外国語学部教務副主任)
	下田 健人	(経済学部長)
	倍 和博	(経済学部教務主任)
	吉田健一郎	(経済学部教務副主任)
	黒須 里美	(言語教育研究科長)
	中野 千秋	(経済研究科長)
	上平 光孝	(事務局長・学務部長)
	今村 稔	(学事部長)
	高倉 孝治	(総務部長)
	山崎 裕二	(財務部長)
事務局	江森 靖	(学事部教育研究支援グループ課長)
	生方 亨	(学事部学長室長)
	小出 裕三	(学事部 IR 推進室長)
	鷺津 泰邦	(学務部教務グループ課長)
	三村 隆介	(学事部教育研究支援グループ主任)

### 2017（平成 29）年度

委員長	中山 理	(学長)
副委員長	小野 宏哉	(副学長)
委員	佐藤 仁志	(学長補佐)
	渡邊 信	(外国語学部長)
	松田 徹	(外国語学部教務主任)
	北原 賢一	(外国語学部教務副主任)
	下田 健人	(経済学部長)
	倍 和博	(経済学部教務主任)
	大越 利之	(経済学部教務副主任)
	黒須 里美	(言語教育研究科長)
	中野 千秋	(経済研究科長)
	上平 光孝	(事務局長)
	江森 靖	(大学事務局副部長)
	鷺津 泰邦	(大学事務局副部長)
事務局	小出 裕三	(IR 推進室長)

麗澤大学年報  
平成 28 年度

---

平成 29 年 8 月 30 日発行

編 集 麗澤大学自己点検委員会  
発 行 麗澤大学  
〒277-8686 千葉県柏市光ヶ丘 2-1-1  
TEL : 04-7173-3601 (代表)

---

250